

やまなみ

第 11 号



御殿山頂から
のスケッチ

岳人みびこ



GAKUJINABIKO GAKUJINABIKO GAKUJINABIKO GAKUJINABIKO

岳人あびこ 岳人あびこ 岳人あびこ 岳人あびこ 岳人あびこ 岳人あびこ 岳人あびこ 岳人あびこ

やまなみ

第 11 号



手賀沼

やまなみ 第11号 目次

やまなみ第11号発刊に寄せて

平成22年度会長 小川誠二郎

No.	山名	山域	月日	執筆者	頁
-----	----	----	----	-----	---

平成21年(2009年)3月～平成22年(2010年)2月

621	小出俣山	谷川	3/14-15	武内勇二	1
622	元清澄山(新人歓迎山行)	房総	3/29	やまたん	4
623	真名井沢北稜	奥多摩	4/5	小谷直行	9
624	高見石～天狗岳	八ヶ岳	4/18-19	坂巻 明	11
625	大山	丹沢	4/26	品田千恵子	14
626	堂平山～笠山	奥武蔵	5/9	高橋芳恵	16
627	石割山	道志	5/17	矢野裕子	18
628	大峰山・大台ヶ原	紀伊山地	5/24-28	大串秀雄	20
629	袈裟丸山～小法師岳	足尾山塊	5/30-31	外崎 蓮	26
630	湯の丸山・四阿山(市民登山)	上信越	6/7-8	青山寿子 矢野貞子	29
631	三本槍岳～流石山～大倉山	那須	6/27-28	高橋芳恵	38
632	三頭山	奥多摩	6/28	田村光子	41
633	奥入瀬渓谷・八甲田山・姫神山	八甲田	7/2-4	細野清子	43
634	水根沢谷	奥多摩	7/5	坂巻 明	46
635	磐梯山	会津	7/12	小松庸信	48
636	東黒沢・ヒッゴー沢	谷川	7/18-20	小谷直行	50
637	浄土山(立山)～五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	7/24夜-28	清家三保子	53
638	木曽駒ヶ岳～宝剣岳～三ノ沢岳	中央アルプス	7/30-31	新谷直恵	57
639	越後駒ヶ岳	越後	8/6夜-8	本田愛子	60
640	切込湖～刈込湖	日光	8/9	細野清子	62
641	編笠山～権現岳～赤岳	八ヶ岳	8/14-15	田村光子	64
642	摺古木山～安平路山～越百山	中央アルプス	8/21-24	清家三保子	66
643	笛子川大鹿沢平つ沢	中央沿線	8/22	千葉有子	70
644	仙丈ヶ岳～アサヨ峰	南アルプス	8/28-30	外崎蓮	72

NO.	山名	山域	月日	執筆者	頁
645	雨引山（ウイズハイク）	茨城	9/5	早川不二子	76
646	岩山	前日光	9/13	矢野貞子	80
647	佐武流山	上越	9/26-27	高橋重	82
648	棒の折山～高水2山	奥多摩	10/10	原田和昭	85
649	甑山・神室山	秋田・山形県境	10/16-18	原田君子	87
				佐藤明子	88
650	大菩薩嶺	大菩薩	10/24-25	斎田紀代美	90
651	鍋割山～丹沢山～蛭ヶ岳	丹沢	10/31-11/1	村松敏彦	93
652	三ノ宿山	日光	11/1	中村育子	95
653	難台山～吾国山	茨城	11/7	箕輪カオル	98
654	表妙義山トレッキング	西上州	11/8	高橋芳恵	100
655	川苔山	奥多摩	11/15	榎原文子	102
656	武川岳	奥秩父	11/21	瀬田映子	104
657	馬頭刈山・戸倉三山	奥多摩	11/28-29	高橋英雄	106
658	手賀沼一周	東葛	11/29	箕輪カオル	108
659	雪入山～浅間山（忘年山行）	茨城	12/6	小松庸信	110
660	足和田山～紅葉台	富士周辺	12/12	矢野裕子	114
661	天地山～鋸山	奥多摩	12/13	小川誠二郎	116
662	徳並山	中央沿線	1/17	藤倉貞江	118
663	吾妻耶山・今倉山	谷川	1/23-24	斎田紀代美	120
664	房総ロングハイク	房総	1/30-31	小川洋子	123
665	笹尾根（小樋峠～生藤山）	中央沿線	2/6	千葉有子	125
666	九鬼山	中央沿線	2/7	坂巻明	127
667	鍋割山～塔ノ岳～丹沢山	丹沢	2/20-21	末永三江子	129
668	鶴島御前山	中央沿線	2/21	中村八重子	132
669	伊豆ヶ岳	奥武蔵	2/28	矢野裕子	134
670	日ノ出山～麻生山	奥多摩	2/28	高橋英雄	136

表紙イラスト 箕輪完二氏 房総御殿山山頂からのスケッチ

「やまなみ」第 11 号発刊によせて

平成 22 年度 会長 小川誠二郎

「やまなみ」第 11 号ができました。

その内容の山行に参加された方々、各山行の内容を執筆された方々、そして、編集をされた方々のご尽力を思い、感謝し、共に喜び合いたいと存じます。

山に登るのは、自然の中に入ることですが、それができるのは、多くの場合、登山道が整備されているからであり、地図や情報や装備など、先人の尽力と知恵の積み重ねを利用するからで、誠にありがたいことと思います。



山の動物たちは地図も装備もなく、けものみちを自由に行き来して生活しているのでしょうか、彼らなりに、それぞれの縄張りの中の情報を蓄積伝承していることでしょう。

我らは先人のお蔭で、縄張りの制限もなく、各地の山の山行を計画し、実行し、さらなる経験を積み上げています。

「やまなみ」も、その積み上げる経験の情報の一環として、伝承に役立つことでしょう。

先人より受けたことをさらに豊富にして、のちの山行に寄与する、また喜ばしからずやの感慨を覚えます。

各ページを開いて、自分が参加した山行も、しなかった山行も、ゆっくり味わいましょう。そして、また、山行に参加しましょう。

平成21年度

平成21年3月～平成22年2月

<621>

小出俣山 (1749m)

武内勇二

白きたおやかな峰

第1日目

雨の降りしきる中を白樺小屋に到着。当初は川古温泉に直行し、2時間ほど歩いて千曲平でテント設営後ルート偵察を行う予定だった。しかし雨の中を歩く気にならないとのリーダー判断に皆が同調して、白樺小屋で様子を見ることにしたもののである。昼頃に前線が関東地方を通過、今日の水上の天気は雨のち曇、明日は曇のち晴の予報だったので、少なくとも明日は大丈夫との確信の下での決断だった。

小屋にはリーダーの高橋重さんの友人、Yさんら3人の先客があり、ストーブには火が入って小屋は快適に温まっていた。とても気さくな人たちで、大勢（6名）での飛び入りにもかかわらず温かく迎えてくれた。山渓や岳人に掲載されているYさんの山スキーの写真や渓流釣りの話に花が咲き、秋に採つて冷凍保存していたキノコ汁をご馳走になった。

予報通り、昼頃には雨が小止みとなったので、取り敢えず川古温泉までいってみようと重い腰を上げた。小屋から川古温泉までは30分程で着いた。殆んど雨が上がった様子なので、林道ゲート手前の駐車場に車を止め千曲平へ向かう。ゲート付近は殆ど雪が無かつたが10分も歩かないうちに雪が出てきた。3~4日前の降雪が今日の雨で溶け、一部はシャーベット状になって地肌が見え隠れする。

中間点の小さなダム湖付近まで来ると積雪は本格的なものになったが、有難いことに先行者の踏み跡がある。この林道を行く人は小出俣山を目指す登山者しか考えないので、明日のラッセルは避けられるかも知れないと淡い期待を持つ。

2時間もかかるで千曲平に到着。地図には「センゲンダイラ」とルビがふつてあるが、沢にかかる橋には「ちくまばし」と書かれていた。林道横の橋の手前付近の林の中に程よい空き地があるのでテントとした。雪を踏み固め2張り分のスペースを造った。雪は雨で重くなっているので作業は楽だった。以前、1月の富士山5合目付近ではさらさら雪で固めるのに苦労したことがあったことが思い起こされる。テント設営が終わっ

たところで2班に別れ、1班は夕食準備、もう1班は尾根の登り口付近まで偵察に出かけた。橋を越え林道の踏み跡を辿って5分ほど行ったところで、赤テープが認められた。踏み跡もそこで林道を離れ左の杉林に切り込んでいたので、ここがオゼノ尾根の取付き点と知れた。林の中の平坦地を山裾に沿うように戻ると前方に急斜面があり踏み跡が直登していた。予想通り小出俣山を目指す先行者がいた。トレースがあることに一安心してテントに戻った。

雪粒がパラパラとテントに当たる音をたて、時折強風がテントを揺らしてはいるが、飲みながら食べながらの楽しい語らい、外はどんなに寒くともテントの中は別天地である。



2日目朝、千曲平のテント出発

概念図



第2日目

標高差約900mの小出俣山（おいづまたやま）往復という本日の予定を考えるとできるだけ早発ちが望ましいことはいうまでも無い。往復約8時間とみて出発は5時半を目標とした。4時に起床、好天を期待したがパラパラと雪が舞う生憎の空模様で、やんぬるかな、夜中の雪で昨日つけたトレースがすっかり雪に埋もれてしまい、どこが踏み跡か全く見極めがつかない。道なき道を辿り昨日偵察したオゼノ尾根の急斜面に到達した。地形図で見るとこの尾根は標高840mの等高線地点からスタートし標高1500mまでは等高線が混み合いながら磁北線に沿って一気に突き上げている。1500mを過ぎ小出俣山の山頂1749mまで、やや西北方面に向きを変える辺りから僅かに等高線の間隔が開いているので、多少なりとも緩やかになると思われる。スタート地点の積雪量は優に1mもあり、高度を増すごとに積雪量は増えるだろうし、出発時間も目標より遅れていたので、果たして頂上まで辿り着けるだろうか。

登頂目標タイムを11時30分と定め、場合によつては登頂断念もあるとの覚悟を持って尾根に取り付いた。まず先頭はリーダーの高橋重さん。武内が2番手につけ、その後は清家、外崎、佐藤明、青山と隊列を組む。さらさら雪は20cm程でその下の雪は昨日の雨でやや締まっているので、ワカンなしで歩むことができた。ただ、灌木の枝の上に積もった雪の上に載るとゴボッと足が入り込むので油断はできない。先に行く人の足跡を忠実になぞりながら黙々と歩む。尾根にはそれほど太いものは無いがブナの木が多く、灌木は雪の下に隠れているので見通しが利き、赤や青のテープが要所々に認められるので登るのに不安はない。頻繁にトップ交代しながら着実に高度を稼いだ。標高1200m辺りでは、一旦膝で雪を崩し押え固めた上でなければ前に進めない程の急斜面となり、登るスピードはかなり落ちたが、もがきながらもワカンなしで乗り切った。



ブナの尾根をひたすら登る

標高1300m辺り、アスナロ？の巨木が数本あるところでワカンを持ってこなかった1名（誰だ？）を除きワカンを装着した。更にラッセルを繰り返し、標高1400m辺りの岩上にアスナロが生える岩の下で、下山中の労山船橋の男性2名に会つた。昨日朝6時に川古温泉を出発して雨の中を歩き、尾根の途中でテントを張り今日小出俣山に登ったとのこと。ここから山頂までは凡そ1時間30分から2時間位との話で、時計を見ると9時50分、登頂目標タイムの11時30分にぎりぎり間に合うと思った。天気はすっかり回復し紺碧の青空も見える。ただ、頂上付近は風が強かったとのことで、稜線で風に吹かれないと懸念は残る。



急斜面のトラバース。踏み跡を固めながら慎重に登る

出発前にリーダーが場合によつてはザイルを張らねばならないかとも心配していたのが、この岩に突き上げる沢の急斜面のトラバースだったが、山側斜面に突いたピッケルでバランスを取り、雪を踏み固めて乗り切った。更に少し進むとアスナロの木が数本生えているところに出た。ここだけが平らになっておりテント数張りは可能と思われる。暫しの休憩で元気回復し更に前進する。



山頂まであと一息



小出俣山をバックに

心持ち緩くなったと思われる稜線にでると前方真っ白な小出俣山の頂上が望まれた。風が吹きぬけるせいか、雪は硬く締まって歩きやすい。頂上直下 50m付近の小さなダケカンバの林でアイゼンに履き替えて小出俣山の山頂に立った。5 時間あまり雪と格闘しながらの登頂に感激もひとしおで、良くぞ登ったと全員が握手を交わし万歳3唱。懸念した風もそれほど強くはなく、白い峰々を存分に楽しんだ。近くには谷川の岩壁、遠くに至仏、武尊、更に奥に見えるのは皇海、袈裟丸あたりだろう。南方には赤城、子持など特徴のある山々の手前に大きく台形状の吾妻耶山～大峰山、やや西に眼を向けると真っ白な浅間山や四阿山、白根山らが望めた。



小出俣山山頂にて

心を残しながら小出俣山に「さよなら」を告げ下山にかかる。登るときは山頂付近の稜線は多少なだらかに感じられたが、上から見ると思つ以上に急な下りである。しかし、雪の表面は凍っているのでアイゼンの爪が効いて快適に下れる。喘ぎながら一歩一歩登った尾根も下りは早い。急斜面のトラバースも登ったときに踏み固めているので楽に通過できた。途中でアイゼンを脱ぎ、深い雪もものかわ、半分は歩き半分は滑りながらぐんぐん降りて、登りに5時間余り要した尾根も2時間足らずで下ってテント場に着いた。トレース

の無い深い雪をラッセルで克服し、目標の山の頂に立てた達成感一杯の凱旋だった。天気も味方してくれた。雪が降り続き風が弱まらなければ、また(僕)、おいで(小出)とばかりに撥ね返されたことだろう。リーダーへの信頼とメンバー全員の頑張りがこの喜びをもたらした。

テントを撤収して川古温泉に戻ったのは3時半。川古温泉で温めのお湯につかり帰路についた。帰途、赤谷湖越しにから見た小出俣山は「たおやか」でとても美しかった。頂上に突き上げているオゼノ尾根もそれと見極めることができた。「山とは何なのか。単なる地殻でのっぴりにすぎぬ。とはいえそれは悪くないものだ。」若いときに読んだ小説「白きたおやかな峰」の一節が頭をよぎった。

概要

山名	小出俣山		
月日	平成 21 年 3 月 14 日 (土) ~3 月 15 日 (日)		
山域	谷川連峰	地形図 1 / 2.5 万	水上
形式	テント泊	グレード	4 D
目的	積雪期に登るひっそりルート		
費用	5,000 円	交通機関	自家用車
1 日 目	我孫子 5:30 → 水上 IC 8:30 → 白樺小屋 8:40 / 11:35 → 川古温泉手前ゲート 11:50 / 12:25 ⇒ 衣 服調整 12:55 / 13:10 ⇒ 千曲平 14:00 (テント泊) 雨のち雪、のち風雪 < 行動時間 1 時間 30 分 >		
行程 2 日 目	テント場 6:15 ⇒ ワン装着 8:35 / 8:55 ⇒ 急斜面トラバース地点 (H1400m) 9:50 ⇒ 針葉樹テント可能地点 10:05 / 10:15 ⇒ アイゼン装着 (H1700m) 11:05 / 11:20 ⇒ 小出俣山 11:30 / 11:45 ⇒ アイゼン着脱 12:50 / 13:10 ⇒ テント場 13:30 / 14:20 ⇒ 川古温泉手前ゲート 15:25 / 15:40 ⇒ 川古温泉 (入浴) 15:45 / 17:00 ⇒ 高崎 → 北関東道経由太田桐生 IC → 佐野 IC → 東北道 → 我孫子 21:30 曇のち晴、風強しく < 行動時間 9 時間 10 分 >		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・川古温泉から林道歩き一時間強の千曲平で幕営。水は小出俣沢で取れる。 ・千曲橋を越えて山裾を回りこんだ杉林から戻るように入り込み尾根へ取り付く。 ・ブナの急な尾根をラッセル、ラッセルでひたすら真っ直ぐ登ると 1400m付近の岩上にアスナロが生える沢の上部にでる。(急斜面トラバース地点) ここを越え少し登ると針葉樹の生えたテントが数張り可能箇所あり。針葉樹はこの辺りまで。小さなダケカンバに変わり、吹き溜まりを越えると山頂。 		
参加者	高橋重(CL)、外崎(SL)、武内、清家、青山、佐藤明 男 2 名、女 4 名 計 6 名		

<622>新人歓迎山行

元清澄山
(344m)

やまたんより転載

1班

- ・鎌倉時代に天台宗のお寺として栄え、江戸時代には真言宗のお寺として多くの信仰を集めた清澄寺。日蓮上人が16歳のとき出家得度された名刹で、現在は日蓮宗。こんな立派なお寺に来ながら、お参りもせずトイレだけ借りて歩き始める。
- ・林道を歩いていくと、やがて左手に幹の部分から曲がって枝分かれした巨木が現れる。池ノ沢番所跡でこの木は杉の木らしい。
- ・出発から1時間強で元清澄入口に着く。正面に東大演習林のゲート、左に元清澄山登山口がある。やっと林道と別れ、山道に入る。
- ・両側が切れ落ちたヤセ尾根や、右の崖に鎖の付いた足元の厭らしい部分などを注意しながら過ぎる。
- ・三石山の分岐で三石山方面に登り始め、武内さんに止められる。
- ・誰かが、登山道脇にカンアオイの花を見つける。大きくなつた二枚の葉の下に隠れ、全く目立たない。よく見つけたものだ。
- ・元清澄山頂では登山者が4・5人で昼食休憩中。保台ダムから上がってきたという。ここで私たちも昼食にする。
- ・モミやツガの巨木が目立つ樹林帯を金山ダムへと進む。この登山道は登ったり下ったりと結構アップダウンの多い道で、しっかりした擬似木道の階段が設置され、これが却って歩きにくい。
- ・清子先生の指導の下、「小さな畑、よく耕して～」とウン十年前の園児達は、出し物の練習に精出しながら歩く。



1班
元清澄山

- ・やがて、金山ダムが右下に、左下に鴨川カントリー倶楽部のゴルフコースが見えてくる。
- ・金山ダム湖ではバイクが止まり、釣り人が竿を伸ばしていた。何が釣れるのだろう。脇に桜の咲く赤い吊橋をわたると、次は手掘りらしい古いトンネルを抜ける。
- ・全班が到着すると、バスに乗り込み、懇親会会場へと急いだ。
(千葉)

2班

- ・2班に新人3名の方々（矢野裕子さん、小谷直行さん、齊田記代美さん）に入っていただき、一緒に歩いた。清澄寺駐車場を出発する前に、全員で自己紹介を行う。
- ・房総は、同じ千葉県内でありながら、どこか明るい異質なムードがある。見渡す限り、常緑樹のマテバシイとスダジイが房総特有の山の景観をつくっているのもその一つ。
- ・登山道がよく整備されている。しかし、要所要所に「タバコの吸殻入れ」が設置されているのはどういうことなのか。理解に苦しむ。
- ・標高350mに満たないほとんど平坦な尾根歩きだが、それでも、樹林の間から眺める山々や谷は予想外に深いことに驚く。これも房総の山の特徴か。
- ・新人歓迎山行は新人の教育研修も兼ねているため、元清澄山で昼食時を利用して、「山登りのマナーと集団行動」のプリントを渡し、目を通していただく。
- ・さらに歩きながら、粘土質の坂道の歩き方も少々。元清澄山付近では、丸太の階段の昇り降りに息切れがしたが、超ベテランの小谷さんは、靴のつま先に近い部分で丸太を捕らえて、実に軽快に下った。丸太が乾いていればこそ。一歩一步下りる場合や雨等で濡れている時は、滑らないよう靴の土踏まずの部分で丸太をしっかりとらえる方が安全。
- ・小谷さんは勿論のこと、矢野さんも斎田さんも



2班
元清澄山

**3班**

- ・今年は新しい4人の仲間をお迎えし新人歓迎山行が出来、大変嬉しく思います。
- ・コースではウグイスの声やマメ桜、山桜の花々が春を感じさせてくれました。
- ・少人数の班編成がされまとまりがありよかったです。
- ・3~4班のバーベキューサイトでは炭起こしから鉄板掃除まで男性陣の活躍が特に目立ちました。美味しいおなかいっぽいいただきありがとうございます。 (中村八)

3班
元清澄山**4班**

- ・風は非常に冷たいが針葉樹林や常緑樹林の続く道は歩いていてもとても気持ち良い。木洩れ日がきれいだ。
- ・道中、休憩の3回程4班の出し物、手話風、物真似風歌「しじば～し別れ～の」と小川先生の指導で1曲練習する。
- ・三石山分岐の石標は、明治の物だそうで消えかかりの手の形が指さしており、何とも風情がある。
- ・標高344mの里山。程良いハイキングと気軽に思ってしっかりと体にインプットしてしまったのが失敗。段々のアップダウンが多くて、思った以上にキツイ歩きとなつた。
- ・十分歩いた後の懇親会は言う迄もなく楽しく、たっぷりのバーベキューと出し物で、時間が足りない程であった。新人さんを十分歓迎できたと思う。 (清家)

5班

- ・天気に恵まれ春休みなので道路が混んでいると思ったが、予定より25分早く目的地到着することができた。
- ・登山口までは1時間強の林道であったが、豆桜やきぶしなどが咲いていて、春を感じることができた。
- ・元清澄山の登山道はよく整備されているが、いたる所に階段が取り付けられている。
- ・下山は階段を何回も上ったり下りたりしてうんざりする。思ったより時間がかかってしまった。
- ・総リーダーや食担の人の努力のおかげで、おいしい鉄板焼きや余興など、楽しい新人歓迎山行ができました。 (田村)

5班
元清澄山**6班**

- ・駐車場を1~6班の順序で出発。5班に近づきすぎると後方の連絡係から「10M以上はなれて」と度々声がかかり、そのうち5班が視界から消

える。37名の大パーティーとは考えられない程、私達は単独パーティーで行動していると錯覚をしてしまう。元清澄山登山口で5班に追いつきホッとする。

- ・三石山分岐で又5班に出会い、三石山に登るが山頂には標識がなく、分岐の標識で三石山と判る。
- ・元清澄山山頂は混み合うだろうと考え、20分ほど手前の風のない陽だまりで昼食を摂る。出発から終始北風が吹いて低山とはいえ寒かったので陽だまりは嬉しい。昼食後、武内リーダーより連絡が入り1班は元清澄山山頂を通過したとの事。
- ・元清澄山山頂では君津の6人パーティーに会い、記念撮影のシャッターを押してもらう。元清澄山～金山ダム間は小さなアップダウンの繰り返しで、これでもか、これでもか、とうんざりする程の梯子の登降には閉口する。
- ・金山ダムでは余りにも私達パーティーが遅いため5班の原田和昭さんが吊橋まで迎えに来ていた。
- ・懇親会場の清和県民の森キャンプ場は2年前の忘年山行で懇親会を開催した場所で懐かしかった。食担さんのおかげでおいしいバーベキューとお酒をご馳走になり、余興も盛り上がり楽しい1日となった。

(青山)



6班
元清澄山

新入会員感想

初めての房総の山です。「里見八犬伝」「大菩薩峠」等小説の舞台で有名なところで、一度行ってみたいと思っていました。平易な丘陵地帯のイメージでしたが、実際は中々・・・。結構深い山と谷に思いを新たにしました。

そして歓迎バーベキュー、先輩方の温かい気持ちとともに楽しい山行でした。ありがとうございました、そして、今後ともよろしくお願ひいたします。

(小谷直行)

好天に恵まれ、とても気持ちの良い一日でした。さすが、岳人たちの山行ですね・・・。ひたすら歩きました。標高344mの登山にもかかわらず、狭い山道は、両側が深い谷になっており、上ったり下りたりの階段が続いたり、時々、樹林帯の切れ目から、太平洋が望むことができ、みつばつつの花にも癒されとてもバラエティに富んだ山行でした。

その後のバーベキューも最高でした。担当の方の準備のすばらしさ。また、みなさんのお出し物にも感動です。暖かい歓迎をいただき、ありがとうございました。

(齊田記代美)



よろしくお願いします

リーダー総括

- ・やや肌寒かったが天気はまずまず、歩くには申し分ない天気。
- ・清澄寺⇒元清澄入口までは林道。以降、小さなアップダウンが連続、登山道の擬似木杭による階段はえぐれしており、歩幅を決められ歩きにくかった。全コース13.5kmと距離が長いこともあり結構ハードな山行だった。
- ・展望も利かずやや单调なルートだったが、集落に出ることも無く大きな木々の中の静かな山道をこれだけ歩けるのだから房総の道も捨てたものではない。ただ、我孫子からは時間がかかりすぎるのは難点。

(武内)

概念図



概要

山名	元清澄山		
月日	平成21年3月29日(日)		
山域	南房総	地形図	1/25000 安房小湊、鴨川、坂畠
形式	日帰り	グレード	2A
目的	①新人歓迎山行（新入会者を温かく迎えよう） ②春の房総を歩く（関東ふれあいの道 モミ・ツガの道を歩く）		
費用	4,000円	交通機関	貸切バス
行程	我孫子駅北口集合 5:30 バス発 5:37(貸切バス) →市原S A6:47/7:00→清澄寺駐車場着 8:25 ⇒（以降6班に別れ、元清澄山登山）⇒金山ダムバス停発 13:38→清和県民の森着 14:00 （懇親会 14:30/16:10 県民森バス発 16:35→ 市原S A17:55/18:13→我孫子駅北口着 20:05(解散)		
	1班 清澄寺 8:20/8:35⇒池の沢番所跡 9:05⇒元清澄入口 9:40⇒元清澄山頂 10:45/11:10 (昼食)⇒金山ダムバス停 13:20		
	2班 清澄寺 8:35⇒元清澄登山口 9:45⇒三石山分岐 10:20/10:25⇒元清澄山 10:48/ 11:10⇒黒塚番所跡 11:55⇒金山ダムバス停 13:30		
	3班 清澄寺 8:35⇒元清澄登山口 9:45⇒三石山分岐 10:24/10:27⇒元清澄山 10:50/ 11:10⇒黒塚番所跡 11:55⇒金山ダム 13:05⇒ 金山ダムバス停 13:25		
	4班 清澄寺 8:36⇒三石山分岐 10:20⇒元清澄山 10:50/11:10⇒三石山分岐石標 11:56⇒ 金山ダム橋 13:15⇒金山ダムバス停 13:30		
	5班 清澄寺 8:35⇒休憩 9:35/9:40⇒元清澄登山口 9:50⇒クサリ場 10:15⇒三石山分岐 10:30⇒元清澄山 10:55/11:10(昼食)⇒休憩 11:35/11:40⇒下りのクサリ場 11:45⇒黒塚番所 12:00⇒休憩 12:15/12:20⇒湖畔道路 13:13 ⇒つり橋 13:23⇒金山湖バス停 13:30 <行動時間 4時間 55分 内、歩行時間 4時間 25分>		
	6班 清澄寺 8:35⇒元清澄登山口 9:50/55⇒三石山への分岐 10:25⇒三石山 10:30⇒昼食 10:40/11:00⇒元清澄山 11:20/25⇒金山ダム 13:25⇒金山ダムバス停 13:35		
参加者	1班 武内(総合L)、千葉(L)、細野省、細野清、 高橋英、飯沼 2班 外崎(L)、高橋重、小松、藤倉、矢野裕、 小谷、齊田 3班 中村八(L)、石垣、村松敏、箕輪完、瀬田、 本間 4班 清家(L)、柴、榎原、小川、佐藤明、坂巻 5班 田村(L)、中村隆、原田和、堀口、本田、 飯合(会友) 6班 青山(L)、佐藤健、原田君、箕輪力、桐生、 早川		
	男 16名、女 21名、計 37名		

モミ・ツガの道を歩く





新人歓迎山行懇親会 (清和県民の森)



<623>

真名井沢北稜

小谷直行

川苔山のバリエーションルート、リーダーは名にしおう青山さん。しかも真名井沢北尾根ではなくて、北稜という名前にいささか緊張しながら参加申込みをした。

ガイドブックがなく、地図を見て大体のコース概略を把握したが、バス停のある大丹波川林道から登山口と思しき所に渡る橋が無い為、？状態で上日向バス停を降りる。5分も行くと立派な真名井橋があり一安心。この橋で大丹波川を右岸に渡り林道に入る。橋際にマウンテンバイクにヘルメットをつけた若者が3～4人いた。

橋からしばらくで山際に東電の標柱と踏み跡があり、ここから杉林の急斜面を尾根に向かって登る。いきなりの急登で結構きつい。尾根にはしっかりととした踏み跡があり、所々急登はあるものの、雑木林の好ましい道である。左手には下山路である赤久奈尾根が延々と延びており、これから頂上まで行ってあそこを下るのかと思うと溜息が出そうになる。

710mPの先の鉄塔で休憩し伐採地に出て赤久奈尾根がひときわ大きく迫ってくる。真名井沢を隔てた対岸の山腹には林道が稜線まで切り開かれており見るからに痛々しく、あんな林道を造る必要があるのかと腹立たしくなってくる。



落ち葉踏みしめ急坂を登る

伐採地の手前で送電線とわかれ、時折急登を交えながらものんびりと進む。1002mPへの登り50～60mは胸突き八丁の急登、踏み跡も不鮮明となり適当にコースどりをして直登をする。

登り切ったピークは風が強く、少し先の窪地で風を避けて休憩する。その先1168mPの下では左手に巻き道があるが、私達は直登コースをとり、岩混りの急斜面を登りピークに着いた。ここから右手（北東）に急降下する踏み跡がついている。（後日入手したガイドブックで、これは獅子口小屋からの登山道と合流し大丹波川林道に出る曲ヶ谷沢右岸尾根であることを知った）

ここから頂上に向かってのんびり歩く。右側が窪地状になりテントを張って酒を飲みたくなる様な所。つつじの木が多く、5月にはシロヤシオが咲き誇るとのことである。ピークに出ると真名井沢の頭であった。小さな山名板がついていた。



真名井沢の頭で全員集合

下の登山道に3～4名のマウンテンバイクの若者が登ってきた。今朝、真名井橋で出会った人達らしい。林道経由で登って来たとのことであった。多くの人が山に登るということでは林道も役に立っているのか。山にマウンテンバイクで入ることの善し悪しは別にして。赤久奈尾根の下りに入り、青山リーダーが行ってみたかったことで、1147mPのエビ小屋山に寄る。そして、あの青山ワールド、リーダー判断でエビ小屋山から南へ派生している尾根を、入川谷へ向かって下ることとなった。この尾根は途切れ途切れに僅かな踏み跡はあるが、急斜面の連続、一本道ではあるが多少の尾根分岐がありルートファインディングと急斜面の歩行術が試されるコースである。558mPから下部は尾根に土止めと思われる柵がしてある。樹林帯に入り、踏み跡を拾って行く

と昭和石材の西側の門の所に下りた。
このコースは赤久奈尾根のコースに比べて駅まで1時間弱早く下山できると思われる。
古里の駅前で反省会をして、恐怖のバリエーション山行は無事終了となりました。

概念図



エビ小屋山でルート確認

概要

山名	真名井沢北稜		
月日	平成 21 年 4 月 5 日(日)		
山域	奥多摩	地形図	1/25000 原市場、武藏日原、武藏御岳
形式	日帰り	グレード	3 B
目的	川苔山のバリエーションコース		
費用	2, 520 円	交通機関	JR, 西東京バス
行程	我孫子駅 5:33 → 立川 7:05 → 川井駅 8:17/24 → 上日向 8:45 ⇒ 北稜取付点 8:50 ⇒ 40 号 39 号鉄塔 分岐 9:05/10 ⇒ 42 号鉄塔 9:45/50 ⇒ 1002M 地点 10:40/50 ⇒ 1168 地点 11:22 ⇒ 真名井沢の頭 11:40/55 ⇒ エビ小屋山 12:20/25 ⇒ 931M 地点 12:50 ⇒ 841 地点 13:10/15 ⇒ 採石場 14:00 ⇒ 古里駅 14:35/15:40 ⇒ 我孫子駅 18:40 曇り時々晴れ <歩行時間 : 5 時間>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 北稜取付点からは送電線巡視路になっていて踏跡はしっかりとしているが急登。 1002M 地点は北東の尾根との分岐点で南西の尾根に進む。 1168M 地点は北方向に明瞭な踏跡があるが南の尾根に進む。 エビ小屋山は赤久奈尾根からわずかに南に派生した尾根上にある。 エビ小屋山から入川谷沿いの採石地までは急坂の連続でかすかな踏跡を辿る。 		
参加者	青山(L)、村松敏、外崎、武内、中村八、小川誠、千葉、田村、坂巻、小谷 男 5 名、女 5 名 計 10 名		

<624>

高見石～天狗岳 (2646m)

坂巻 明

八ヶ岳 春山の基礎に参加して

我孫子駅に5時15分に着くと、すでに小川さんが待っていました。ずいぶん早いですねと挨拶すると、成田線の連絡が悪くこの時間になってしまうとのこと。本日のメンバーは9名です。いつも通り5時31分の上野行き快速電車に乗り山行のスタートです。桐生さんが柏で乗り込んで全員揃いました。新宿から「あづさ1号」で茅野駅に向かいます。車内は週末のためかほぼ満席状態です。長いものを持った団体さんが乗ってきました。弓道か薙刀の類と推測した。休日なので社内の雰囲気は和やかに感じます。

諏訪に近づくにつれ景色は徐々に変わっていき、車窓から外を眺めると、遠くに南アルプスの山々が見えます。あれが駒ヶ岳、こっちが何々と高橋（重）さんが丁寧に教えてくれました。景色を楽しんでいると間もなく茅野駅に到着しました。改札口を出るとジャンボタクシーが我々を待っていました。天気は快晴です。すごくあったかいです。あたりに雪はまったくありません。山々を見わたしても頂上のほうに少しあるだけです。タクシードライバーが今年は去年に比べてずっと雪が少ないとのこと。白銀の世界を想像していた私は少しがっかりです。しかし、梅や桜がいつぺんに咲き、満開で私たちを歓迎してくれました。

この地方の春は我が家とのところと違って、いろいろな楽しみ方が出来るところなんだとひとりで感心。新緑のとき、紅葉のとき、その時期ごとに人が押し寄せるところだとひとりで納得。ここから登山口の渋の湯までタクシーで行きます。車は標高700mの茅野駅から標高1900mの渋の湯まで一気に駆け上がって行きます。人家は無くなり、道路は狭くなり八ヶ岳らしい様相になってきました。倒木に苔むした様相が目にはいります。

渋の湯に到着しましたが雪はありません。アイゼンはどうかな？今年はアイゼントレーニング山行が2回つづけて空振りにおわっているし！

早速、準備体操をして出発します。ところが、登山道に入ったとたんに雪に遭遇、雪というよりも雪氷という感じです。凍っていて滑りやすいのでアイゼンを装着しました。日向に出ると雪はないし、岩だらけですごく歩きにくいです。アイゼ

ンの脱着に少し時間がかかりましたが、何とか前進し、高見石小屋の手前まで来てアルプスを眺めながら食事休憩をとった。空は一点の曇りも無く、すばらしい景色です。

高見石で集合写真を撮り、一路、黒百合ヒュッテに向けて出発しました。一歩きと思いきや、延々と続く中山峠のだらだら坂をひたすら上らねばなりませんでした。やっとのことで目的地の黒百合ヒュッテに到着、約6時間の行程でした。しかし、休憩は束の間、リーダーの号令も勇ましく雪上訓練の開始です。ヒュッテ前の急斜面を利用してピックルの操作方法、歩き方、転んだ時の対処術を学びました。小川さん、桐生さんがとても元気に訓練しているのが印象的でした。好天に恵まれ、一日目の行程を無事終了できました。黒百合ヒュッテの宿泊者は我らとカップル一組でしたのでゆっくり過ごせました。就寝後も皆さん比較的静かでしたのでゆっくり休むことが出来ました。ただ、なんとなく頭がもやもやっとしてなんだか変、高山病かな？でも、食欲が落ちなかつたので大丈夫です。



ヒュッテ到着後、急斜面の歩行とスリップストップの実地研修。行動後なのでとても疲れましたがみんな真剣！！！！

二日目行程は両天狗の登頂、そして下山です。今日も天気は快晴です。雪山の厳しさを少しだけ経験したかったが、ちょっと無理な様子です。集合時間が変更になり、私は少し遅刻し、皆に迷惑をかけた。

アイゼンを装着してスタートです。帰り道はヒュッテに戻ってくるのでサブザックにしたり、ザックの荷物を軽くしたりして出かけますヒュッテに戻るまでおおよそ3時間の行程です。東天狗岳には他の登山グループが数組いました。いつもに増して、パノラマビューを満喫しての下山です。頂上付近はだいぶ雪が残っていた。この季節の雪面下は所どころ空洞になっていて、表面から



東天狗岳へ向かう西側日陰は朝も早いので堅雪の斜面

見抜けない落とし穴状態になっている場所があちこちにあります。「落とし穴にハマってさあ大変」と聞こえて来ました。Mさんかな?

皆さん、訓練ながら真剣に取り組んでいました。昨日の訓練を復習するような状況です。又、リーダー高橋重さんの身のこなしに感心しきりです。メンバーの危険を予知し、監視しながらの行動はすばらしい。生徒のひとりとして。山行中にヒヤリハットがなく、怪我もなく、アイゼンの紐が緩んだ人もなかったことはすばらしいと武内さんが言っていたのが印象に残ります。

去年6月、この天狗に市民公開登山で来ましたが、時間の都合で西天狗に行けませんでしたが、今回は登れてよかったです。又、前回は霧に包まれて何も見えませんでしたが、今回は青空のもとで景色を楽しむことができ、遠くの木曽駒まで見ることができた。素晴らしい体験ができたことに感激です。天候に感謝し、会の皆さんに感謝します。



**「ハケ岳連峰」 天狗岳から蓼科山を望む
中腹に黒百合ヒュッテが確認できる**

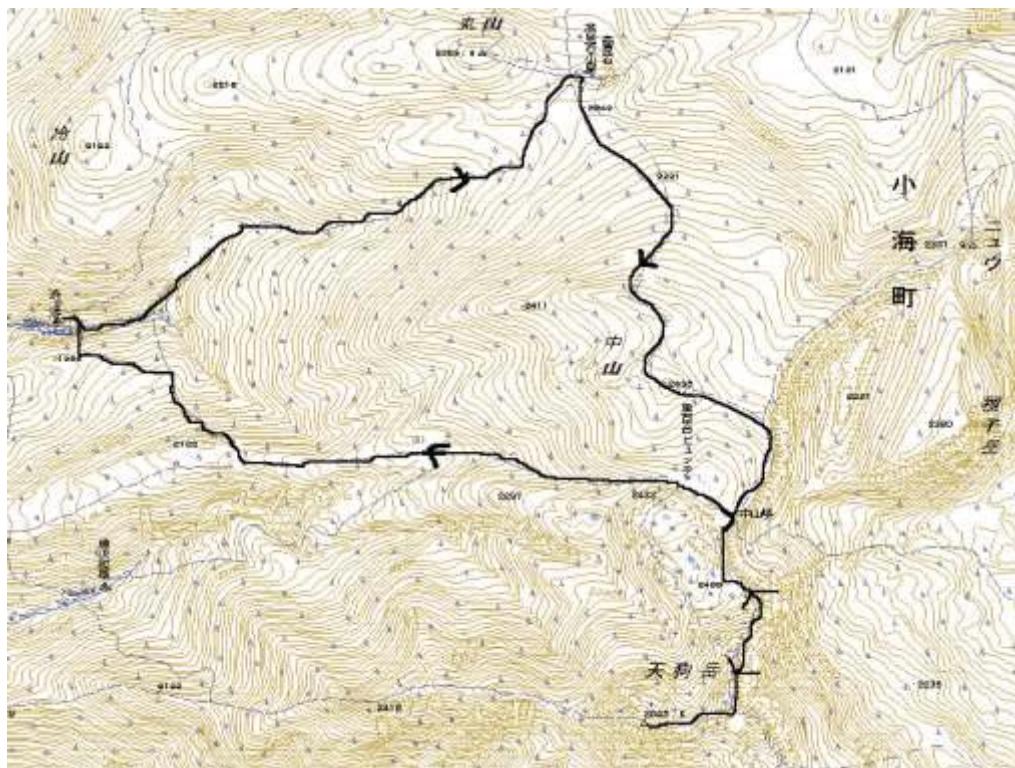
概要

山名	高見石～天狗岳		
月日	平成21年4月18日(土)～19日(日)		
山域	八ヶ岳	地形図	1/25000 蓼科山
形式	山小屋	グレード	3C
目的	北ハイで楽しむ春山基礎&ステップアップ		
費用	21,000 円(含む、反省会)	交通機関	JR、タクシー、バス
1 日 目 行 程	我孫子駅 5:31→新宿駅 6:27/7:00 (あずさ) →9:07 茅野駅 9:10(タクシー)→渋の湯 9:45/ 10:05→11:00 休憩→河原地蔵 11:45→高見石小屋 13:00/13:25→見晴台 14:40→中山山頂 14:50/14:55→黒百合ヒュッテ 15:45 <行動時間：5時間40分>		
2 日 目 ルート 状 況	黒百合ヒュッテ 6:50→中山峠 6:55→衣服調整 7:10→摺鉢池分岐 7:50/8:20 東天狗 8:45/9:05→西天狗 9:15/10:00→中山峠 10:25/10:30 黒百合ヒュッテ 11:00→分岐 11:45/12:25 渋の湯 14:57/15:50 (バス)→茅野駅 16:20 (あずさ)→新宿→神田→上野我孫子駅 19:48 <行動時間：5時間35分>		
ルート 状 況	<ul style="list-style-type: none"> 渋の湯から 2200m 付近まで、登山道は凍氷の状態でアイゼンなくしては歩けない。 中山峠から東天狗岳山頂まで東側が切れており、ルートは堅雪と岩交じり。 西天狗から摺鉢池分岐へは東天狗を登らずトラバースしたが北西斜面でクラスト雪のため滑落に注意が必要。 		
参加者	高橋重(CL)、武内(SL)、村松(指導・総括)、小川誠、高橋英、坂巻、外崎、清家、桐生男 6名 女 3名 計 9名		



摺鉢池分岐にて

概念図



昨日も今日も快晴、
北ア～南アまでぐるり見える天狗岳山頂にて

<625>

大山 (1252m)

品田千恵子

ヒメウツギが山の斜面を白い花で飾って

江戸時代に、にぎわった参道から男坂と女坂の分岐まで登り、準備体操をした後女坂を登りだす。人気が少ない山の中急な石段を汗を流しながら登り、ケーブルカーのトンネルの上を横断し男坂と合流し下社に着く。

途中シャガの群生、ムラサキケマン・タチツボスミレ・ドウダンツツジ・ワスレナグサの花々が迎えてくれた。

下社本殿左手の木戸からまた急なのぼりが続く。うぐいすの鳴き声を聞きながら、ようやく20丁目の富士見台に着く。冠雪の富士山が綺麗に見えたがすぐに雲が湧いて見えなくなりそうになる。

ヤビツ峠からの道と合流する25丁目頃になると満開のマメザクラが咲いていた。ここから10分位で山頂に着く。大勢の登山者が昼食と見晴を楽しんでいた。午後から強い風が吹き始めたが見晴がすばらしく秦野盆地の先には江ノ島、相模湾、伊豆の山々がくっきりと見渡せた。昼食を風の無いところで30分位とり見晴を満喫し下山する。

1時間位下ると見晴台がありテーブルとイスが沢山置いてあり、まだ風が強かったが休憩に最適。ベンチのそばにモリイバラが咲いており、山々の緑の中に山桜のピンクが点在してきれい。眼下には厚木市、伊勢原市が見下ろせた。

樹林帯を抜け歩道に出る。木に塩の入った缶が縛り付けてあった。なんだろうと注意深く見るとヒル除けの説明ラベルが貼ってあった。登るときにもあれなんだろうと思っていた缶である。今日は未使用で終わりホッとする。

日向薬師の手前にキャンプ場があり家族連れがバーベキューと釣を楽しんでいた。薬師を過ぎて七沢温泉に行く途中ヒメウツギが広範囲にわたり山の斜面を白い花で飾っていた。花を見ながら2時間位で源泉掛け流しの七沢温泉に着く。温泉の効能は無色透明の強いアルカリ泉で体が良く温まる子宝の湯。山行の疲れもとれ反省会の料理でお腹も満腹。豆腐はさすがにおいしい！！

この日4月26日は、低気圧と寒気の影響で北海道では33cmの積雪、青森では満開の桜の花に

積雪とめずらしい天候との事。大山も風が強く頂上と見晴台では帽子が吹き飛ばされそうでした。自然はめずらしい現象を造りだすが人の命までも脅かす怖さを知ると共に自然と賢く付き合うことの大切さ……。

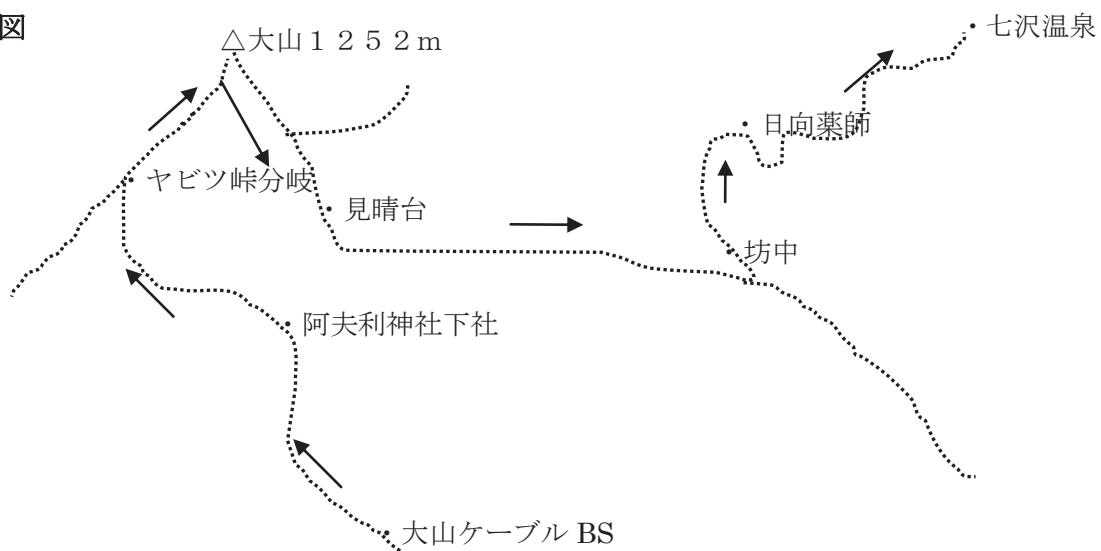


富士見台からの富士山。すぐに雲が湧いて見えなくなりそうでした

概要

山名	大山		
月日	平成21年4月26日(日)		
形式	日帰り	グレード	2A
山域	丹沢	地形図	大山、厚木 1/2.5万
目的	花たちが迎えてくれる山道を楽しむ山旅。 温泉を楽しむ。		
費用	4,000円	交通機関	JR、小田急、バス
行程	我孫子 5:30→日暮里 6:05→新宿(小田急線)6:28 /6:41→伊勢原 7:40/8:05(バス)→大山ケーブル 8:30⇒歩き始め 9:00⇒阿夫利神社 9:45/ 9:55 ⇒十二丁目 10:25/10:35⇒十六丁目 10:45⇒大 山山頂 11:35/12:05⇒見晴台 13:25/13:30⇒七沢 温泉(入浴) 15:40(バス)→厚木 18:35/ 18:46 →代々木上原 19:32/19:35→我孫子 20:32 晴<歩行時間: 5時間45分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none">ルート上に危険箇所、注意する所はない。水は、下社でもらえる。(この水は、冷たくうまい。ぜひ補給用に貰うとよい。)トイレは、下社の直ぐ下の所と山頂にある。 山頂には売店もある。富士見台からは、富士山の展望が良い。見晴台を少し進んだ所に木製のベンチとテーブルあり、休憩にはちょうど良い。		
参加者	柴(L)、原田和(SL)、小川誠(SL)、小川洋、日下、 中村美、原田君、品田、高橋芳、箕輪力、箕輪 完、藤倉、瀬田、早川、本田、矢野裕、齋田、 中村育、飯合(会友)		
	男5名 女14名 計19名		

概念図



大山頂上、奥の院前で集合写真を撮る

長い階段を登って阿夫利神社に向かう



<626>

堂平山～笠山 (837m)

高橋 芳恵

5月のさわやかな一日を奥武蔵の笠山・堂平山で過ごした。久しぶりの東武東上線に乗り小川町下車。かつて10年程前に外秩父七峰縦走に挑戦したコースであり、そのときは途中から雨天になったことと、とにかく大勢の登山者が一挙に登り、これほどの自然破壊はないのではないかという悪い印象をもってリタイアした経験のある山である。

しかし、今回は素晴らしい良い天気で総勢14名と電車回数券やジャンボタクシーもキリの良いメンバー構成であった。4月末、会員の坂口さんが遭難死されて以来の会としては初めての山行で彼女の実家のある坂戸を通った際には改めて彼女への思いをはせた。

リーダーの挨拶と坂口さんへの黙祷の後、一路堂平山を目指して登り始めた。気温はかなり上がっているが、新緑の風が清々しく、気持ちが良い。

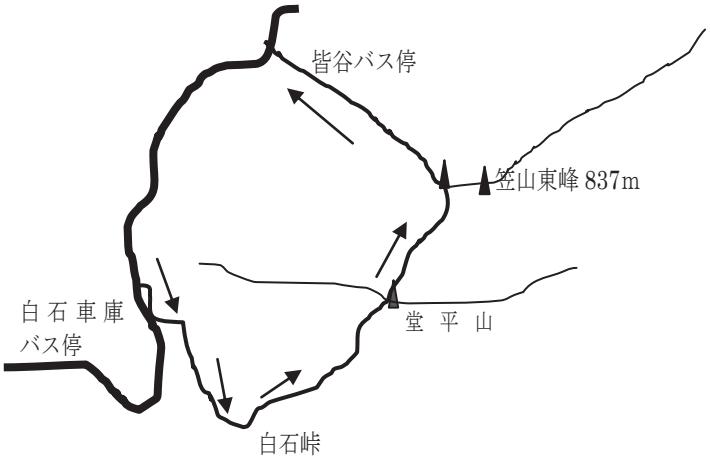
白石峠から剣が峰に上り無線中継所を下るとハングライダーの基地があり、ここが堂平山ということだが、何か変?そのまま下ったものの引き返し、直ぐ本来の堂平山頂上に到着した。何のことはない無線中継所に惑わされてしまった。

堂平山は山頂に気象庁天体観測ドームがあり、両神山、武甲山をはじめ奥武蔵の山々を望むパノラマ展望台である。天文台職員の布団干しの光景もまたのどかである。ここでゆっくり昼食をとった後、笠山に向かった。

笠山は西峰、東峰のある双耳峰で西峰からは小川町や比企丘陵を見渡し、東峰に神社が祭られている。結構人気の山と見えて登山者も多い。帰路は萩の平からショートカットの道を歩きバス停のある皆谷に下山した。運の良いことに一日に數本しかないバスをリーダーの力で止めてもらい、一同、走って乗り込み、早々に出発地小川町に到着することができた。

今年はできる限り山に登るつもりの私にとって、気の置けない仲間との会話も楽しく、「今年もやるぞー!」と気合をかけた有難い山行であった。

概念図



▼堂平山頂上からのパノラマ展望



概要

山名	堂平山～笠山		
月日	平成21年5月9日（土）		
山域	奥武藏	地形図	安戸 1/25,000
形式	日帰り	グレード	1A
目的	奥武藏の展望と新緑を楽しむ		
費用	約4000円	交通費	東武、タクシー、バス
日程・コース	我孫子駅発 5:31→日暮里駅 6:00/6:07→池袋駅着 6:20/7:00（東武東上線快速急行） →小川町駅着 8:01/8:07（タクシー）→白石バス停着 8:30/8:45⇒登山道に入る 9:15⇒衣服調整 9:20⇒休憩 9:40/9:45⇒白石峠 9:57/10:02⇒剣ヶ峰 10:20⇒道路に出る 10:28⇒笠山峠への分岐 10:35⇒ルート選定で引返す 10:50⇒登山道ルート判明 11:10⇒堂平山 11:30/12:10(昼食)⇒笠山峠 12:30⇒笠山(西峰)12:55⇒笠山神社(東峰) 13:00/13:05⇒休憩 14:00/14:05⇒荻平 14:15⇒皆谷バス停着 14:45/14:45⇒小川町駅 15:15/16:39(反省会)⇒池袋駅 17:55/18:06→日暮里駅 18:16/18:21→我孫子駅着 18:53（解散） <歩行時間 5時間>		

ルートの状況	<ul style="list-style-type: none"> 今回のコースは外秩父七峰縦走コースの一部でした。登山道は整備されていたが、前日まで雨が降っていたので急傾斜の箇所は滑り易く危険な箇所が有るので注意を要する。 白石峠からは尾根伝いに歩くが、登山道に平行して車が通る林道がある。その林道はバイクやサイクリング利用者が多かったです。 白石峠から登った所の剣ヶ峰頂上に無線中継所がある。周囲を頑丈な網で囲まれており両方の方向に踏み跡がある。ここには標識が設置されていない。この中継所の右周りルートを選択したら、下の方にある林道に出た。林道を西に進んで登山道に戻るルート探しに時間を要した。 ルート全体には外秩父七峰縦走コースの標識が設置してある。堂平山頂上の名前は、現地の案内板には気象庁天文台で案内されているので注意を要する。 堂平山からは急坂を下り笠山峠から笠山に上り返す。笠山には西峰と東峰があり、西峰まで戻ってから荻平に下山する。下山道は滑り易く転倒の危険箇所が数箇所見受けられた。
参加者	原田和(L)、高橋芳(SL)、大串恵、小川洋、榎原、中野、中村隆、原田君、箕輪力、箕輪完、小川誠、品田、本田、飯合（会友） 男4名 女10名 計14名



快晴！！ 堂平山頂上にて、集合写真を撮る

石割山 (1413m)

矢野裕子

研修だから行きましょう

週末はあやしい雲行きです。直前の定例集会後、「お天気悪そうね、どうしたいですか」「降ってたら行きたくないです」「そうね、でも今回は研修だから行きましょう！」私の参加した山行は、いつも晴天に恵まれていました。だからこの答えには、驚きと同時にとても納得のいくものがありました。先輩の教えを受けて、出発前につばのある帽子とザックカバーを購入。どうなることかと不安でいっぱい。

朝5時、小雨が降ったり止んだり。「現地に着いてみてからコースを決定します。風雨が強いようなら街の散策にします。」富士急行線からは以外に明るい空も見え、高橋重さんの天気図を囲んで、西にある寒冷前線が上空に来るまでは小康状態と予測。富士吉田駅手前で一瞬、富士山の稜線が見えました。駅からも雲の合間に大きな大きな斜面の一部。でも結局、この日の富士はこれで終わり。

タクシー移動中の中山湖は一面に白波が立ち、今日の前途を心配しているかのよう。やわらかい新緑の木立の中をくぐって別荘地をドライブし、バスを降りたらちゃんと雨でした。トンネルの中で雨具をつける。手早く一生懸命、しかし私のレインパンツは裾が靴底に引っかかって足が出てこない。君子先輩「ビニール袋を足に履かせるといいんだよ。」

さあ出発、山伏峠登山口にて地図読み研修。各自コンパスをあわせて進行方向に向く。歩き始めるといきなり山中に大勢の人の気配、「道志村トレイルレース・第一関門」。ちょうどトップとすれ違い、なんとこれから500人が降りてくるとのこと。仕方ない、どうぞ一、気をつけて一、と初めのうちこそ気持ちよく道を譲っていましたが、かなりの急登で滑りそうなぬかるみなのに、次々と降りてくるランナーに気遣って集中できない。この後、リーダーさんたちの考えは皆一致して、分岐から石割山へのルート変更。こちらはなだらかな歩きやすい道、静けさも戻って本当によかったです。ざわざわと風の音、真っ白な霧につつ

まれて濡れた若芽の色が幻想的。萌黄色というのでしょうか。それに、あったあつた、ヤマシャクヤク、ユキザサ、ミツバツツジ、ルイヨウボタン、バイケイソウ群落、ブナの大木、アケビの紫の花。

やせ尾根（覗くと真っ白の底なし）も過ぎ、頂上手前の笹と木立の中で雨をしのぎながら小休止。立ったままの食事というのも、私には初体験でした。これが行動食！こんな雨の中でも、みんなで歩くと不思議に何だか楽しい。間もなく着いた頂上は「山梨百名山」。明るく開けているが風も強くカメラのオートタイマーも無理。さて、下りの方向を決定。講師の下、地図で平野方面にコンパスを合わせて、進行方向へ向いて立ってみて下さい。あれ、一人おかしいなあ。（私）やり直して、修正。

下山開始。間もなく、石割神社。天岩戸伝説があり、社の後ろに圧倒されるような大きな大きな岩が、しめ飾りを付けてそびえ立っていました。その割れ目の隙間を3回まわると、幸せが訪れるのだそうです。せまい岩間をみんなでくるくる。下山後の平野温泉では家族連れなどで賑わう中、お風呂上りの一一杯で反省会もできました。

帰宅後、余計なことを、と思いながらパソコンを覗くとやっぱり。今日は視界ゼロだったけど、石割山頂からの絶景写真や夕日のダイヤモンド富士、中山湖などの写真がたくさんあってちょっと悔しい。しかし悪天候のなかでも、こんなに充実した山行に参加できたこと感謝いたします。



雨中の地図読み山行
コースが変更になり、目的地が御正体山から
石割山に！

概要

山名	石割山		
月日	平成21年5月17日(日)		
山域	道志山塊	地形図	御正体山 1/25000
形式	日帰り	グレード	1A
目的	地図読みの机上研修を受けたあと、実際に歩いてみる。新緑のブナ林を楽しむ。		
交通費	約6300円	交通機関	JR、私鉄、タクシー、バス
行程	<p>我孫子駅 5:33→新松戸駅 7:47/5:53→西国分寺駅 6:47/6:55→高尾駅 7:22/7:26→大月駅 8:14/8:19(富士急行線)→富士吉田駅 9:03/9:25(タクシー)→山伏峠トンネル 9:53/10:10(準備と地図読み研修)⇒トンネル上部 10:17⇒石割山・御正体山分岐 11:05/11:10 (地図読み研修)⇒石割山 12:30/12:48(地図読み研修)⇒石割神社 13:05/13:23(昼食)⇒石割の湯 14:10/15:52(入浴と休憩)→富士吉田駅 16:45/17:33→大月駅 18:17/18:24→高尾駅 19:05/19:13→西国分寺駅 19:37/19:49→新松戸駅 20:47/20:55→我孫子駅 21:08着 曇りのち小雨<歩行時間:3時間20分></p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 山伏峠登山口は、富士吉田駅方面から向かった場合、トンネルを抜けた右手に広場があり、右へ回り込む。狭い階段の脇に「御正体山・石割山」の標識がある。 ジグザグに登って行き、トンネルの上に出たところが山伏峠。 道は迷う心配はないが、あいにくの雨でぬかるみ状態。さらに山岳レースが追い討ちをかけ、登山道は泥んこの悪路。乾いた後も、道は相當に荒れると思われる。(道志村トレールレースに遭遇) 		

参加者	外崎(L)、高橋重(SL)、原田君、小川誠、桐生、矢野裕、小谷、中村育、斎田、中村八(SL)、清家、細野清、細野省、武内、原田和、本田、坂巻
	男7名 女10名 計17名

概念図



石割山頂上で集合写真

<628>

大台ヶ原山・大峰山・吉野山～四寸岩山 (1695m) (1915m) (1236m)

大串 秀雄

大和の名峰と万葉の古道

1日目<大台ヶ原山山行>

東京駅八重洲口バス停は土砂降りの雨。暫時、地下道内で雨宿りを余儀なくされ、発車時刻直前に夜行寝台バスに乗り出発。小降りにはなってきたが、雨空を心配しながら眠りにつく。一夜明けた京都は薄曇の朝で先ずは一安心。近鉄線を乗り継ぎ、橿原神宮前駅でチャーターしたマイクロバスに乗り込む。バス運転手独演の、藤原京、吉野南朝、天誅組終焉の地、壺坂靈験記の里などの観光案内に聴き入りながら、一路、大台ヶ原へ向かう。宮滝遺跡を過ぎると周囲は山ばかり。吉野川に沿った東熊野街道、国道169号線をひたすら南下する。トンネルの手前から県道大台ヶ原線に入る。そのあたりから、小雨混じりの山霧に変わり、周囲はガスの中。やはりここ大台ヶ原は1年で400日も雨の振る、日本一の多雨地域であることを改めて思い起こす。時折、ガスが切れると、数百メートル下の谷底や山側に切立った断崖が現れる。すれちがいに難儀する狭路だが、早朝のため対向車は皆無なので助かった。大台ヶ原駐車場はガスが立ち込め、周辺の山々はまったく見えない。大台荘で入館手続きをとりながら、小屋管理人に天気予報を再確認。管理人のアドバイスもあり、午後からの天候回復、大展望を期待して、計画とは逆ルートで、先ずは山下り。シオカラ谷吊橋まで、霧雨に濡れ滑りやすい岩道を200mほど下りる。新緑真っ盛りのシオカラ谷吊橋を渡り、ツクシシャクナゲ自生地の急坂を上り返す。残念ながら、シャクナゲの群落は既に盛りが過ぎ、遅咲きの数輪が残っている程度。例年であれば見頃の時期だったが、今年は少し早かったようだ。代わりに、例年よりも若干早く最盛期を迎えていた、アケボノツツジ、シロヤシオ、ヤマツツジなどが目を楽しませてくれた。

大蛇嵐への分岐で昼食。このあたりのアケボノツツジは素晴らしい、数組のカメラマン連中が撮影に余念無い。大台ヶ原随一のビューポイント、大蛇嵐を往復する。さすがに大蛇嵐(大蛇の背中のような巨大な岩の意)は迫力満点。目の前から数百メートル切れ落ちる断崖絶壁。吹き上がる谷

風。大岩下部には鉄鎖が設置されていたが、滑りやすい岩頭上では、心から絶景を楽しむ余裕などなかった。



目の前には、真下に数百メートルも切れ落ちる断崖絶壁が広がる。

〈大蛇嵐(大蛇の背中のような大岩の意)岩頭で〉

分岐からはウォーキングシューズでも歩けるような整備された道。草原の牛石ヶ原、巨大な神武天皇像、尾鷲辻分岐を通り過ぎ、お椀を伏せたような正木嶺を前にして、正木ヶ原ベンチで一服。高原一帯は立ち枯れの樹木が目立つ。伊勢湾台風の直撃被害もその一因と。半世紀前の事象ながら、自然保護・再生の困難さを改めて認識した次第。正木嶺への長い木製階段を上り、山頂の木製ベンチで、目の前の日出ヶ岳を仰ぎ見ながらもう一本。いったん大台荘への分岐まで下り、再び、長い木製階段を上り返し、大台ヶ原山最高峰の日出ヶ岳山頂に出る。



大台ヶ原山最高峰の日出ヶ岳山頂にて

五月晴れの山頂は大展望。南北に連なる大台山脈の峰々。東には尾鷲の入江から熊野灘。今日の霞空では無理だが、冬晴れの日には、富士山や南・中央・北アルプスの高峰もはっきりと見えるらしい。西側に連なる大峰山脈の峰々…山上ヶ岳～大普賢岳～行者還岳～明日の弥山・八経ヶ岳～釈迦ヶ岳を一望。最高峰の八経ヶ岳～弥山の頭部だけは雲の中。山頂の展望台に掲げられた写真と地図を照らし合わせながら、全峰を特定できた。日本



一雨の多い大台ヶ原山はなんと“本日は晴天なり”。小雨混じりの山霧が奇跡的に晴れ上がり、期待以上の好天に恵まれた。唯々感謝あるのみ。新緑一色の山並みに、一同大感激。北斜面に群生するツクシシャクナゲは盛りだが、今年の咲き振りはあまり良くないようで、やや期待はずれの感。

200mほど下り再び大台荘へ戻る。標高1500mの山荘は上高地や札幌と同気温とかで実に清々しい。ビールで喉を潤したり、風呂で汗を流したり、俄か茶話会を催したり、各自思い思いに初日の疲れを癒す。早めの夕食を済ませ、夕暮れの高原をぶらりと徘徊。明日の好天を確信しながら大広間へ戻ると、早くも安らかな寝息が聞こえ始めていた。

2日目＜大峰山山行＞

快晴の朝、爽やかな高原の空気を味わいながら深呼吸。山荘前で記念撮影を済ませ、出迎えのマイクロバスで大峰山へ向かう。大台ヶ原山から大峰山登山口までの移動手段には難点がある。タクシーかレンタカーに限られるが、タクシーは迎車費用を請求されるので費用がかなり嵩み、また、レンタカーは狭路の長時間運転負担が過重。今回は多人数山行につき小型バスをチャーターしたため、運転負担はなく、各人の負担費用も大幅に節減できた。

発車後程なくして、バスの車窓いっぱいに大峰山脈…最高峰の八経ヶ岳～弥山、特異な山容の行者還岳、未だに女人禁制を敷く山上ヶ岳などの峰々が大きく広がる。左窓に目を転じると、直下数百メートルのところで谷川が光っている。昨日はガスの中だったが、今日は快晴であるがゆえに絶壁の隘路は恐怖感少なからず。暫し正面の雄大な山容を楽しむことも忘れそうだった。

いったん国道169号線に出て、すぐに枝道に入る。ここも国道だそうだ。慎重さを求められる狭路で、運転手に話しかけるのを躊躇するほど。山脈中腹を突っ切る行者還トンネルを抜けると、そこが登山口。すでに5～6台ほどの車が駐車し

ていた。

登山口からはすぐに急登が始まる。昨日の大台ヶ原山での程よい歩きが効き、大峰奥駈道出合まで快調に登り切る。尾根道はシロヤシオ真っ盛り。幸いにも例年より若干早いようで、シロヤシオのトンネルが続く。標高1600メートルの弁天の森で一呼吸。



2日目 新緑とシロヤシオ満開の大峰奥駈道

暫くは真っ盛りの新緑や満開のシロヤシオ、ヤマツツジなどを楽しみながら平坦な尾根道を漫歩。聖宝ノ宿跡あたりからは、弥山小屋まで聖宝八丁と呼ばれる九十九折れの急登路を登る。最も厳しい修験道として有名な大峰奥駈道は、1000年もの間踏み固められたとはとても思えない隘路で、まったく油断できない。突然に前方が開け八経ヶ岳と弥山小屋が現れる。小屋まではあと一息かと思われたが、それから一汗も二汗も。

弥山小屋前で昼食。ザックをデポし、指呼の間の八経ヶ岳を往復。八経ヶ岳中腹には、国の天然記念物オオヤマレンゲ自生地の群落を保護する柵が設けられていた。例年、6月中旬から7月上旬が見頃のようだが、今年の陽気では、数輪くらいは咲き始めているかも、との事前情報だったが…。楽しみにしていたが、やはり時期的には早すぎ、残念ながら蕾の先端がわずかに白くなっていた。

る程度だった。代わって、サンカヨウの群落が満開で、可愛らしい白花たちが遠来の我々一行を大歓迎してくれたのが救い。蕾の固いオオヤマレンゲ自生地を横目に、一気に近畿最高峰、八経ヶ岳山頂へ出る。

360度の大展望で、見渡す限り新緑の山また山。弥山小屋の建物以外はすべて大自然。大和連山は想像以上に雄大で奥深い。南(熊野方向)に釈迦ヶ岳、北(吉野方向)に行者還岳～大普賢岳～山上ヶ岳…大峰山脈全山を一望。東側には大台山脈が連なる。地図磁石を駆使し、地元ハイカーにも確認したが、昨日の大台ヶ原山は残念ながら特定できず。西に広がる山並みの向こう側は高野山あたりか。



近畿最高峰の八経ヶ岳山頂で

記念撮影し、登頂祝いの勝ち闘を挙げてから下山。弥山小屋～聖宝ノ宿跡の間と大峰奥駿道出合～登山口間の急下降路は、何回かの立ち休憩で一息入れながら、慎重に慎重に…。

迎えのマイクロバスに乗り込み直ちに出発。狭くて曲りくねった国道から漸く幹線道路に出て、気分的にも落ち着く。一路北上し、大和上市のコンビニで明日の弁当を調達。夕暮れの吉野山参詣道に分け入り、中千本でマイクロバスに別れを告げる。宿坊まで5分間の急登には閉口。今夜は、静寂な古刹の宿坊を独り占め。広すぎる部屋でゆったりと休息…熟睡。

3日目＜四寸岩山山行＋大和三山ウォーク＞

今朝も6時半朝食、7時出発。青根ヶ峰登山口でタクシーを下車。先ずは目の前に聳える四寸岩山を目指す。林道を進み吉野古道入口から山道に入る。数年前に復元した吉野古道は標識・整備状況とも良好で登りやすい。連日の疲れも見せず、コースタイムを上回るペースで一気に山頂まで

登り切る。

山頂からは西側の展望が素晴らしい。大きく連なる金剛山～葛城山～二上山を同定。眼下には飛鳥奈良盆地、その遙か先には信貴山・生駒山が…。南に向かって伸びる大峰山脈の最奥には、昨日の弥山～八経ヶ岳も遠望。大和連山とのお別れを記念して、全員、にこやかに写真に納まる。山頂から穏やかな下降路をしばらく進み、一隊は左方の直進ルートを下る。地図上にはない道だが、しっかりした道標に従って下る。他ルートとの合流地点に出る。地図上に記載された茶屋跡の標識があったので、改めて地図と照合したところ明らかに地図の表記違いで、このルートが大峯奥駿道であることが判明。最近は主に吉野古道を通るようになったため、大峯奥駿道の整備状況は今ひとつ。林道上の分岐点、大峯奥駿道入口まで下り、そこで吉野古道組とも合流後、今朝のスタート地点に戻り一服。今回の奈良山行の山歩きはここまでで、これからは古道歩きとなる。

5分ほどで吉野山最高峰の青根ヶ峰に出る。観光客が吉野山の展望を楽しんでいたが、四寸岩山山頂からの大展望とは雲泥の差で感激も少ない。一瞥しただけで金峯神社まで直ちに下山。舗装された参詣道を歩くのは気が重いし、車も通り危険だ。衆議一決、タクシーで吉野駅へ下ることとする。途中、吉野水分神社・金峯山寺蔵王堂などの世界遺産を拝観。上千本展望台からは、吉野千本桜満開時に思いを馳せながら、眼下の吉野山一帯を一望。桜も山もは欲張りで、桜の頃の大峰山は未だ冬山。観桜は季節を改めて…と相成った次第。近鉄吉野駅で電車待ちを兼ねて昼食。柿の葉寿司を頬張る人、約数名。橿原神宮前駅で待合せた、飛鳥寺副住職運転の宿坊車に荷物を預け、大和三山ウォークスタート。

莊厳な橿原神宮に参拝し、社務所で確認した畠傍山登山口から登り始める。標高200メートル足らずの山だが、なかなかの山道で一汗搔かされた。神武天皇陵側の下山口から橿原考古学研究所脇を通り、踏切を渡って畠傍御陵駅に出る。さらに、ルート上の本薬師寺跡や紀寺跡などを横目で素通りし、天の香具山手前のミルクスタンドで一休み。街内の道はわかりにくい。地元の人もよく知らなかつたようだが、私道のような細道が天の香具山の登山道。山頂からは藤原宮跡と畠傍・耳成両山を望む。

山道を下り、奈良文化財研究所前を左折すると、一面原っぱの藤原宮跡に出る。藤原宮大極殿跡あたりに立ってみると、大和三山はそれなりに存在感がある。“春過ぎて…衣干すてふ天の香具山”などと古歌に詠み込まれたのも、理解できるような気がした。醍醐池畔を回ると、最後の山、耳成山

は目前。夕映えの山頂到着をもって、ついに“大和三山踏破”。大和八木駅までは一汗の距離。駅前の繁華街で夕食を済ませてから今夜の宿に向かう。

奥吉野の山道と藤原京の古道を終日歩き回り、20時直前に漸く宿坊に帰着。行動時間13時間。この結果は、標高差700mほどながら、某氏の歩数計によれば4万7千歩、距離換算で25~30kmに達し、1日歩行の自己記録を大幅に更新したこと。昨夜の喜蔵院と同様、日本最古の寺院、飛鳥寺宿坊も独り占め。風呂で汗を流し、ロングハイクの疲労をゆっくりと癒した。

4日目<奈良古刹散策>

4日目も7時に宿立ち。予報より若干早まり、残念ながら朝から雨模様。衆議一決、春日山原始林ルートを諦め、“古寺巡礼”に変更と相成った。早朝のせいか新型インフルエンザの影響か、平城京遷都1300年祭を来年に控えた奈良の町は閑散。

東大寺大仏殿、同二月堂、春日大社、興福寺の参詣道を上り下り。休憩をとることもなく一気に歩き通す。奈良駅前で暫しの散策を楽しんでから、

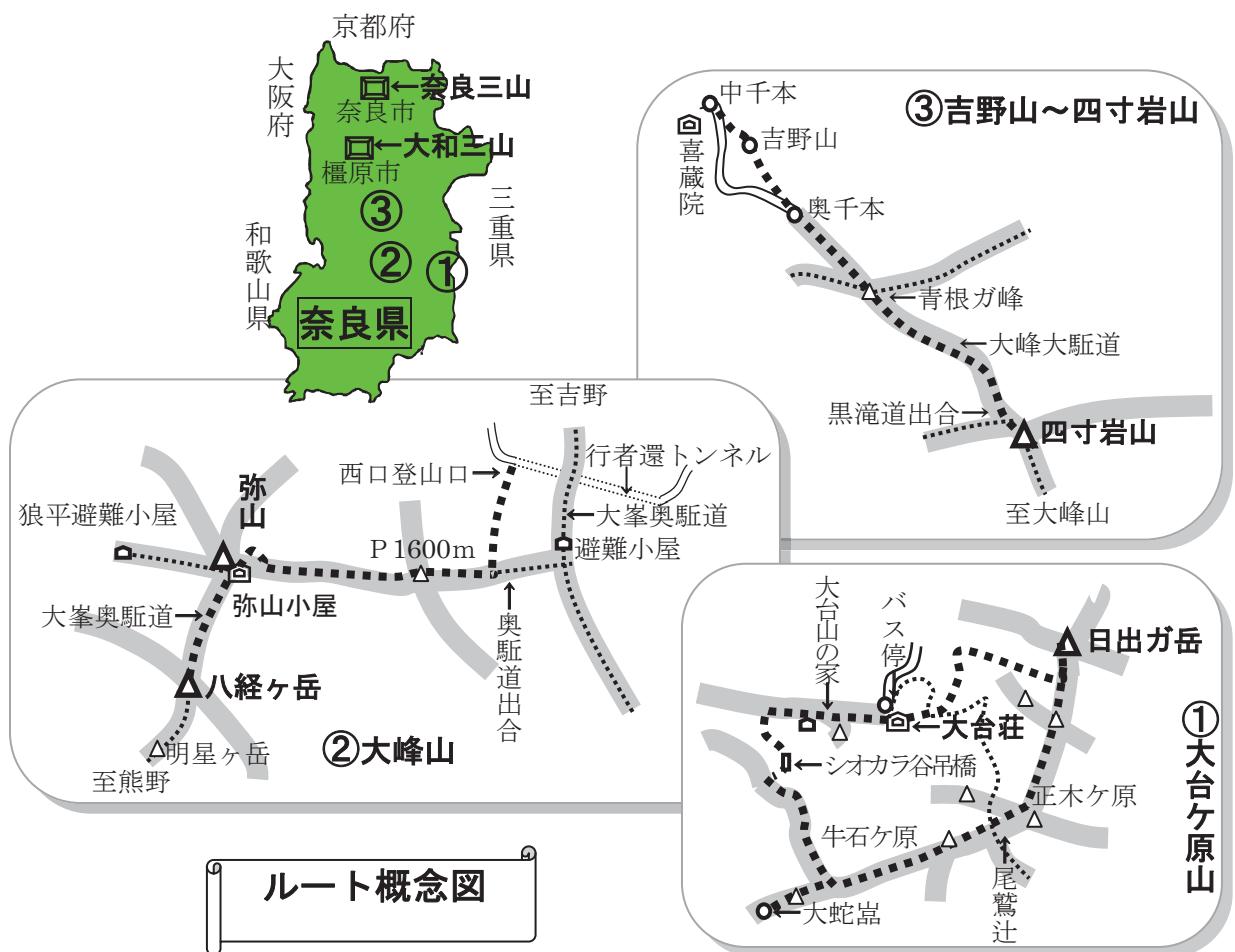
電車で薬師寺、唐招提寺へ向かう。若干の余裕時間を利用して、各自、今山行の余韻を楽しみながら、名刹を拝観。

この日も最終区間を半日歩き回り、某氏の歩数計によれば2万歩に達したとか。大和八木駅前で昼食兼反省会。定刻、同駅から近鉄特急に乗り込み、大和の地に別れを告げた。

總評

多大な人数の長期間山行だったが、事故もなく、誰ひとり体調を崩す者もなく、和気藹々、結束して行動できた。これもひとえに同行いただいた方々のおかげだ。素晴らしい山仲間と絶好の日和に恵まれ、目的どおりの山行に大満足。

今回は、多雨の山、大台ヶ原山での雨対策、この時期の近畿最高峰2000mの山、大峰山での防寒対策、急下降路の転倒滑落防止等に、万全を期していた。ところが発進直前、全く想定外の事象に対しキャンセルの可否を交渉。同時進行で、関連情報を収集し、国や自治体の対応が緩和の方向にあること、初期の過剰反応見直しや比較的軽い症状、中高年者に免疫があるやの報道など、現況を慎重に分析。加えて、参加者全員から意向の再聴取と体調不良の有無の再確認を実施。その上で、



出発の前々夜になって、計画通り出掛けることを決断した次第。うがい手洗いマスク着用の励行を申合せていたが、現地で見る限り、特に変わったこともなく(マスク着用者も散見程度)、まったく普段どおりで落ち着いた様子に一安心。やや空騒ぎ、過剰報道気味だったのかもしれない。結果論ながら、中止しなかったことで、幸いにも長年の念願だった山行ができ、達成感、満足感も一入。

大台ヶ原山・大峰山・四寸岩山では、五月晴れに映える新緑の山々と、シロヤシオ・アケボノツツジなど満開の花々を満喫。見渡す限り続く大自然…大和連山は想像以上の深山奥山だった。奈良朝以前から明治維新の間、随時に登場する大和の地。大峯奥駆道、藤原京と大和三山、吉野奈良の古刹…歴史ロマンに入り浸り、往時を偲びつつひたすら歩き回った4日間でもあった。

概要

山名	大台ヶ原山・大峰山・吉野山～四寸岩山		
月日	平成21年5月24日(日)夜～28日(木)		
山域	紀伊山地(台高山脈・大峰山脈)	地形図	1/25000 大台ヶ原山・弥山・吉野山・新子・洞川・奈良
形式	山麓泊	グレード	3B
目的	①大台ヶ原山・近畿最高峰の大峰山…歴史を秘めた名峰(いずれも百名山)に登る。 ②吉野山～吉野古道～四寸岩山・大和三山・奈良三山…万葉の山・万葉の径を往く。		
費用	約47千円 (シパンク倶楽部30%割引利用)	交通機関	高速バス・近鉄・貸切バス・タクシー・JR
前夜	我孫子駅 20:50→東京駅 21:33⇒八重洲口バス停 21:50/22:20(近鉄高速バス)→		
1日目	京都バス停 5:27⇒近鉄京都駅(朝食)5:35/6:24(近鉄京都線)→大和西大寺駅 7:02/7:11(同橿原線)→橿原神宮前駅 7:40/8:00(貸切バス)→大台莊(入館手続等)10:00/10:25⇒シオカラ谷吊橋 11:00⇒大蛇嵒分岐(昼食) 11:45/12:05⇒大蛇嵒 12:20/12:25⇒大蛇嵒分岐 12:35⇒牛石ヶ原 12:40⇒正木ヶ原 13:05/13:10⇒大杉谷国有林 13:25⇒分岐 13:45⇒大台ヶ原山(日出ガ岳) 13:55/14:15⇒分岐 14:20⇒大台莊 14:50(泊) 曇り時々小雨 <歩行時間:4時間25分>		
行程	山莊 7:35(貸切バス)→行者還トンネル西口登山口(準備)8:55/9:05⇒大峯奥駆道出合 10:15⇒弁天の森(石休ノ宿跡)10:40/10:45⇒聖宝ノ宿跡 11:14⇒弥山小屋(昼食)12:10/12:45⇒大峰山(八経ヶ岳)13:17/13:30⇒		

2日目	弥山小屋・国見八方睨 13:55/14:05⇒聖宝ノ宿跡 14:48⇒(休憩5分)⇒弁天の森 15:20⇒大峯奥駆道出合 15:40⇒(休憩3分)⇒トンネル西口登山口 16:35/16:40(貸切バス)→大和上市駅・コンビニ(弁当購入)17:53/18:10(貸切バス)→中千本バス停 18:25⇒吉野山喜蔵院宿坊 18:35(泊) <晴れ 歩行時間:7時間30分 うち休憩時間:1時間20分>
行程	宿坊 7:00(タクシー)→青根ガ峰登山口 7:15/7:25⇒吉野古道入口(分岐)⇒四寸岩山 9:00/9:15⇒新茶屋跡 9:35⇒五十丁茶屋跡 9:57⇒大峯奥駆道入口(分岐)10:10⇒吉野古道入口⇒青根ガ峰登山口 10:30/10:35⇒青根ガ峰 10:40/10:45⇒金峯神社 11:05(タクシー)→吉野水分神社・上千本花矢倉展望台-喜蔵院-金峯山寺蔵王堂経由)→吉野駅(昼食)11:50/12:38(近鉄吉野線)→橿原神宮前駅(宿坊車に荷物預け)13:29/13:35⇒橿原神宮⇒畝傍山 14:30⇒天の香具山 16:07⇒藤原宮跡⇒耳成山 17:15⇒大和八木駅(夕食)17:45/19:12(近鉄橿原線)→橿原神宮前駅 19:20/19:23(タクシー)→飛鳥寺研修会館 19:47(泊) 晴れ <歩行時間:8時間(うち古道4時間10分)>
3日目	研修会館 7:00⇒橿原神宮前駅 7:08/7:15(近鉄橿原線)→大和西大寺駅 7:58/8:03(同奈良線)→近鉄奈良駅 8:10⇒東大寺大仏殿 8:40⇒同二月堂 9:00⇒春日大社 9:30⇒浮見堂 10:10⇒興福寺 10:35⇒奈良駅前(自由行動)10:50/11:20⇒近鉄奈良駅 11:25/11:27⇒大和西大寺駅 11:32/11:37⇒西ノ京駅 11:41⇒薬師寺・唐招提寺(拝観)11:49/13:10⇒西ノ京駅着 13:20/13:31⇒大和八木駅(昼食&反省会)13:58/16:01⇒(同大阪線/名古屋線=特急)→名古屋駅 17:51/18:33⇒(新幹線ひかり482号)→東京駅 20:40/20:47⇒上野駅 20:55/21:08⇒我孫子駅 21:44(解散) 曇り時々小雨 <歩行時間:古道4時間50分>
4日目	1 登山道 ①大台ヶ原山 ・今回の一周ルートは、シオカラ谷上り下りと大蛇嵒付近を除けば、ウォーキングシューズでも歩ける、よく整備された道。 ・携帯電話は全域にわたり不可。山荘には公用電話あり。 ②大峰山 ・大峰山登山口(行者還トンネル西口)～大峯奥駆道出合間は、小石・岩や木の根で滑りやすい急坂。特に下降時は慎重な対応を要す。

ルート状況	<p>・大峯奥駆道は最も厳しい修験道と言われるとおり、とても千年以上にわたり踏み固められたとは思えない隘路。荒れた箇所も散見。標識はしっかりとしている。</p> <p>・携帯電話は全域にわたり不可。登山口から車で1時間ほどの国道169号線に出れば可。なお、弥山小屋(有人)の無線電話は1通話100円ほどで借用可。</p> <p>③吉野山～四寸岩山</p> <p>・今回は大峯奥駆道とは別ルートの、数年前に復元した吉野古道を登る。標識、登山道の整備状況とも万全で登りやすく、しかも最短距離。</p> <p>・大峯奥駆道入口(林道からの分岐)は、吉野古道入口から100メートルほど奥にあり、そこから黒滝ルート合流地点まで大きく迂回して頂上に至っている。</p> <p>なお、大峯奥駆道については地図上と実ルートが相違しているので、要注意。</p> <p>地形図…四寸岩山山頂を巻く(横駆けする)ルートのみが表記され、山頂に至るルートの表記はなし。</p> <p>昭文社地図…大峯奥駆道と吉野古道が渾然一体的に表記(例えば大峯奥駆道上の茶屋跡が吉野古道上に表記)されている。</p> <p>2花情報</p> <p>①オオヤマレンゲ(国の天然記念物)</p> <p>・八経ヶ岳中腹の自生地群落では、6月中旬から7月上旬が見頃のようで、残念ながら蕾の先端がわずかに白くなっている程度だった。</p> <p>・今年の陽気からみて、数輪は咲き始めているかも、との事前情報だったが…。</p> <p>②シロヤシオ</p> <p>・例年より若干早く、大台ヶ原・大峰山とも満開。特に大峯奥駆道弁天の森付近はシロヤシオのトンネルが続く。</p> <p>③アケボノツツジ</p> <p>・例年より若干早く、大台ヶ原・大峰山とも満開。特に大台ヶ原山1周ルート大蛇嵐分岐周辺は素晴らしい、数組のカメラマン連中が撮影に余念無い。</p> <p>④シャクナゲ(ツクシシャクナゲ)</p> <p>・シオカラ谷の自生地群落は既に盛りが過ぎ、遅咲きの数輪が残っている程度。例年であれば見頃の時期だったが、今年は早かったようだ。</p> <p>・日出ヶ岳山頂付近は盛りだが、今年の咲き振りはあまり良くないようだ。</p>
	<p>3現地移動/宿</p> <p>①大台ヶ原山と大峰山は、登山口までの移動手段に難点がある。</p> <p>・大台ヶ原山は1日2本の路線バスでなんとか対応可能だが、大台ヶ原山から大峰山へはタクシー(片道約2万円)かレンタカーに限られる。</p> <p>・大峰山は路線バスとタクシーの組合せも考えられるが、時間的制約上、タクシー(吉野から往復約4万円以上)かレンタカーでの対応となろう。</p> <p>・レンタカー利用の場合は、国道169号線(センターインあり)から1時間近く山道(舗装道)を走るが、両山道(下記参照)とも1車線の狭路で見通し悪く、しかも落石防止工事中が多い(バス運転手情報)こともあります。慎重な対応を要す。</p> <p>県道40号(大台ヶ原線)…山側は断崖、谷側は直下に数百メートルも切れ落ちる狭路(南アルプスの夜叉神峠～広河原間と酷似)で、見通しも悪い。</p> <p>国道309号線…対向車との交差にも難儀する狭路。行者還トンネル西口登山口には10台ほどの駐車スペースあり。12～3月間は冬季通行止め。</p> <p>・今回は多人数山行のため小型バスをチャーター。各人の負担費用を大幅に節減。</p> <p>②近鉄フリー切符(「奈良大和路スルーパス」=2,820円／4日間有効／京都↔名古屋／奈良橿原飛鳥吉野地域内は乗り降り自由／JTB等で購入可)の利用が便利。今回はこれにより通常切符の半額以下に節減。</p> <p>③1泊目の大台莊は食事・寝具付(浴衣なし)の山小屋(2食付7,350円)。個室もあるが、割安な大広間で十分。風呂あり。</p> <p>2泊目の吉野山喜蔵院ユースホステル(2食付6,300円)、3泊目の飛鳥寺研修会館(朝食付4,725円…10人以下は不可)は、いずれも古刹の宿坊で滞着ける宿(浴衣付・風呂あり)。安宿ながら部屋が広く、早朝出発や荷物受渡し等の当方希望も叶えてもらえ、山宿としては適當か。</p>
参加者	大串秀(L)、大串恵、斎藤、榊原文、中野、原田君、高橋芳、原田和(SL)、田村、瀬田、坂巻、中村育、大畠(会友)、長木(ゲスト)、増田(ゲスト)、山本紫(ゲスト)、榊原三(ゲスト) 男5名、女12名、計17名

<629>

袈裟丸岳～小法師岳 (1981m) (1593m)

外崎 蓮

坂口さんを偲び、寝釈迦像に合掌

1日目 (5/30)

足尾山塊の南端に位置する袈裟丸山に初めて登ったのは、19年の6月である。今は亡き坂口さんを含む4人パーティで、後袈裟丸山から南に延びる郡界尾根を下った。滴るような緑のブナ林と、高原の明るい尾根道だった。鈴なりのキイチゴを頬張ったのも、ついこの間のことのように思い出される。今回は、後袈裟丸山から北に延びる踏み跡の薄い尾根に挑む。いかにも青山さんらしい山行だが、私も嫌いな方ではないので、軽い気持ちで乗ってしまった。

出掛けまで音をたてて降っていた雨があがつた。我孫子駅で、いかにもヤブが好きそうな6人が揃う。北千住から伊勢崎線で太田駅に出、桐生線に乗り換えて相老駅に着いた。さらに、わたらせ渓谷鉄道に乗るのだが、何人かがトイレに走ってなかなか戻って来ないところへ、チョコレート色の一両だけの電車が入ってきた。その昔、我が成田線の電車もこんな色をしていた。乗りはぐれたら次は何時になるか。無人の沢入駅に下りた頃から雨が降り出す。

袈裟丸山は、どこから登ってもアプローチの長いのが難点だ。手軽に登るには、タクシーで折場登山口へ行き、弓ノ手新道をとるのが早い。私たちは集落の先の二俣を右折して、林道終点の丸木橋のある塔ノ沢登山口へ行き、沢沿いに登り出す。

小沢を何度も渡り返し、薄暗い広葉樹林の道を高度を上げていく。名所の寝釈迦像は登りが一段落した大きな岩陰にある。どうしてこのような場所に、どんな目的があつて作られたのだろう。天然のミカゲ石を彫ったもので、長さ4m、幅1.8mほどあり、右腕を頭の下にして横たわっている。2年前に来た時も寝釈迦像の足もとに立ち、4人でお祈りしたことが思い出された。あの時、坂口さんは何を祈ったのだろうか。今、同じ場所に立ち、今度は坂口さんのご冥福を祈っている。黙祷していると、それまでの風と沢音が遠くに吸い込まれていくようであった。沢の対岸には、相輪塔と呼ばれる柱のような奇岩もあり、一帯が聖域のように感じられた。小沢を渡ってほどなく避難小屋に着く。古い小屋と新しい小屋の二つが並んで

建っている。どちらにも5人ずつは泊まれそうだ。この上が賽の河原と呼ばれるところで、草木のない赤茶けた台地が広がり、点在するどの溶岩にも小石が積み上げられている。風化した石仏もあつた。そこへタイミング良く、折場口から登山者が登ってきたので、カメラのシャッターを押してもらう。

ここからは、シロヤシオとムラサキヤシオの大競演が繰り広げられた。シロヤシオばかりではつまらない。鮮やかな紫のムラサキヤシオが混じってこそ、お互いの花の色をより一層際立たせるのだ。何といい時期に登ってきたことかと皆で大いに喜び合った。小丸山のきつい登りが終ると、あとは10分ほど下って平坦地に建つ小丸小屋に到着した。

いったん止んでいた雨がまた降り出す。前回は、かまぼこ型のこの小屋を倦怠してテントを張ったが、雨に降られると小屋の方がよくなつた。床板が腐り、かび臭いが、テントマットを敷くと十分に凌げる。時間が早いので、小屋のそばで焚き火をする。簡単に焚き火と書いたが、雨に濡れた木の葉や枯れ枝から火をおこす技術は相当なものだと思う。男性陣に感謝した。まだ明るいのに、鹿があちこちから、こちらの様子をうかがいに来る。あらゆる容器を持って、鹿も飲みに来る南斜面の小沢に全員で水汲みに行った。食担は私と有子さん。荷を軽くするため質素だ。雨が本降りになつたので小屋に入る。6人がやつと。しばらくして、かまぼこ型の屋根のつなぎ目から少しづつ雨漏りがし、さらに壁全体に結露ができた。それでも誰も気にせず、9時頃にはシュラーフに潜つた。やがて男性3人の高いびきがはじまり、外ではピーピーと鹿が鳴いていた。



ファイアー！！ 焚火をしながらコーヒータイム

今日中に下山できるだろうか。不安がよぎった。

2日目（5/31）

3時、青山さんの携帯の目覚ましで飛び起る。小屋の中で簡単に食事し、4時半に出発。光の弱々しい朝日が出ている。早々にきつい登りが始まった。1時間で一等三角点のある前袈裟丸山に着く。この山は連峰中で一番低いだが、南面の眺めがいい。ここと後袈裟丸山との鞍部に、八反張のコルと呼ばれる両側が切れたガレ場がある。前回の山行では、ここに咲くユキワリソウが目的であった。そのときのことを坂口さんは、「本山行の大目玉、ユキワリソウの可憐な花が群落を作っていた。紫色の可愛い花は、まさに見ごろで一服の清涼剤」と「やまなみ」に書いた。あの時より3週間も早いのに、まさか今回も出会えるとは。きっと彼女が咲かせてくれたに違いない。

狭くて腰を落ち着ける場所もないような後袈裟丸山から、いよいよ進路を北にとる。シラビソとシャクナゲの枝が通せんぼする。尾根の東面は岩壁だ。特徴のない中袈裟丸山のピークを越え、笹と原生林の中の消え入りそうな道を進む。奥袈裟丸山の3つのピークのうち、1957m地点に三等三角点があった。袈裟丸山連峰の最高点だが、原生林に覆われていて展望がない。ガスが立ちこめているせいもあるが、この辺一帯を色で表すなら黒かグレイ。さらに奥袈裟丸山の北峰を下り、次のピークの法師岳との鞍部に出た。ここが小法師尾根の分岐点で、ここから進路を南にとる。



後袈裟丸山山頂にて

これからが本当の勝負どころ。鞍部から下るものめずらしいが、標識の矢印に従って生え放題の草と灌木の急な斜面を枝につかまって下降する。鞍部に出て尾根を外さないように進む。道らしいものがあつたりなかつたり。その度に地図と磁石を出す。雨が時折りザッとくることもあって、上下雨具だから蒸し暑いこと。アップダウンを繰り

返し、1690mを超えた鞍部から急登すると、台地のような笹の平と呼ばれるところに出た。笹は私の背丈ほどもあり、一面に茂っている。道などどこにも見当たらない。突破口の尾根を探して笹藪の中を右往左往した。ついに武内さんが尾根を発見。鞍部から少し登ると平坦になり、その先に小法師岳の標識と三角点があった。こんなに歩いたのに、まだ小法師尾根の中間点だという。それでも標識に会えたので、全員明るい気分になった。

道の右手の原っぱには蕨が生えていて、一人が摘むと皆もやりたくなる。これが失敗の元だった。右手広場の立ち木に打ち付けられた白いプレートを見落としたのだ。ここは絶対に見落としてはいけない雨降沢の頭であった。蕨と平坦地に誘われてしまったのである。あとで聞くと、高橋英さんが見ていたが、気にも留めなかったという。そのまま道のない尾根を直進して行き、深い樹林の急斜面で立ち往生となった。現在地が確認できなければ、どの尾根もあやふやになってくる。これ以上下ると、沢に下りてしまうことに気付き、英さんの見たプレートのあるところまで戻ることにした。小法師岳を出てからここへ戻ってくるまで、2時間40分のロスは本当に大きかった。すでに夕方の4時半。めずらしくはっきりした一本道を急ぐ。この下りで有子さんが青山さんに苦言を漏らした。一時険悪な雰囲気になったが、責任は全員にあるのだ。道は所々消え、少しも油断できない。カラマツ林を下って行くとT字路に出た。立ち木に見落としそうな小さな標識があった。目を凝らしてみると、巣神山とある。右手の道はよく踏まれてあるのに、ガイドブックには左折しろとある。頼りない細々とした道が続く。行けども行けども下降しない。どうなっているのだろう。今晚中に下山できるのだろうか。不安がよぎった。

杉林に入った。小谷さんが先頭だ。彼は植林された杉林だから、どこかには絶対下りられると言った。この杉林も一筋縄ではいかない。尾根が切れていき止まりになると、彼は別の尾根を探し出す。その判断は正確でものすごく速い。全員後を必死で走っていく。右に左に飛び跳ねるようにして斜面を下る。ヘッドランプは点けない。返って視野が狭くなつて危険なのだ。

下りきった所がお墓だった。なぜか墓石が倒れ、荒れ果てている。そこを横切って暗い車道に出た。人家が一軒もない。左手に坂を上がって行くと、幸いにも電気がついた建物が見えた。庚申ダムの管理事務所で、管理人が1人いた。全員で押しかけ、軒先で乾いたものに着替える。ストーブを焚いてもらい、日光から来るジャンボタクシーを待った。

さんざんお世話になって、夜の8時20分、事務

所をあとにする。JR日光駅から上野に出、11時42分の勝田行きに乗る。すでに成田線はなく、天王台から英さんの奥さんの車に乗せていただきて、深夜、無事に帰宅した。

小法師尾根は、昭和30年代に登山道が開かれたが、あまり歩く人がいないため道が荒廃したということであった。それ故に、袈裟丸連峰とともに捨て難い魅力を持った山域であった。



小法師岳にて

概念図



概要

山名	袈裟丸連峰～小法師尾根		
月日	平成21年5月30日(土)～31日(日)		
山域	足尾山塊	地形図	1/25000 袈裟丸、足尾、沢入、上野花輪
形式	避難小屋	グレード	4B
目的	赤やしお咲く小法師尾根		
費用	10,000円	交通費	JR, 東武電車、タクシー
1 日 目	我孫子駅 5:30→北千住 6:04→大田 7:39/43→相老 8:06/14→沢入駅 9:10/30⇒搭の沢登山口 10:25/30⇒寝釧迦像 12:00/10⇒搭の沢避難小屋 13:20/40⇒賽の河原 13:50/58⇒雨量観測所 14:15⇒小丸山 15:00/20⇒小丸山避難小屋 15:20 曇り時々雨<歩行時間：5時間>		
行 程	2 日 目	避難小屋 4:35⇒前袈裟 5:35/45⇒後袈裟 6:30/40⇒中袈裟 7:25⇒奥袈裟主峰 8:43/53⇒最高地点(1961m) 9:10/15⇒小法師尾根分岐 10:00/20⇒1690峰 11:35⇒笛の平 12:40⇒小法師岳 13:40/50⇒雨降沢の頭 14:10/20⇒雨降沢東尾根⇒雨降沢の頭 16:30/35⇒巣上山 17:35/45⇒庚申ダム管理事務所 18:55/20:20(ジャンボタクシー)⇒JR日光駅 20:50/21:03⇒宇都宮⇒上野 23:42⇒我孫子駅 24:20 曇り時々雨<歩行時間：13時間>	
ルート状況		<ul style="list-style-type: none"> ・小法師尾根分岐を見落とさないようにと考えていたが標識があり防止できた。 ・小法師尾根はマーキングも殆どなく、踏み跡も薄く県界尾根とは様変わりした。 ・笛の平は背丈ほどの笛に覆われ踏み跡はなく、南東方向に向かうが一直線に通過する箇所が分からず躊躇する。 ・雨降沢の頭は標識もなく赤テープが僅かにつき、分岐は離れた場所にプリキ版の方向表示標識があったが、折れ曲がり確認できなかった。結果的には直進して東尾根に迷い込んだ。 ・巣上山から東方向に進むがテープがあり確認できたが、踏み跡が薄いので注意。 ・草刈スキ一場跡からも迷いややすく、尾根を絡んでいるうちにルートを外し、庚申ダムに降り立ってしまった。 	
参加者	青山(L)、外崎、武内、高橋英、千葉、小谷 男3名 女3名 計6名		

<630>市民登山

湯の丸山・鳥帽子岳～四阿山・根子岳
(2101m) (2066m) (2354m) (2207m)

青山寿子
矢野貞子

高山植物の講習会

青山寿子

小雨の中、我孫子駅北口 5:40 出発。

9:50 に地蔵峠に到着後、軒下で雨を避け各班でストレッチをして、A,C 班は湯の丸山～鳥帽子岳。B,D 班は鳥帽子岳～湯の丸山に向けて登山開始。

A 班メンバーなのでツツジ平までの急登で一汗かくが、晴れでなくて良かった。

天然記念物に指定されている湯の丸牧場のレンゲツツジはまだ硬い蕾だった。かすかに赤く膨らんだ蕾が牧場内に数箇所あった。

1 週間後には開花するのではないかなあ～残念！！本山行目的の満開のレンゲツツジにはお目にかかるなかつたが 1 箇所だけ開花したレンゲツツジの前で記念撮影をする。

牧場ゲートを出て鐘分岐で「遭難防止の鐘」を鳴らし湯の丸山に向かう。湯の丸山までの登山道は天候が良くないにも関わらず登山者で賑わっていた。

広い岩場の湯の丸山南峰からは天候がよければ正面に鳥帽子岳が雄大な姿を現すが、ガスがかかっていて見えない。山頂で他のパーティにデジカメのシャッターを押してもらって記念撮影をしたので、お返しにデジカメのシャッターを押してあげたら「青山さん有難う」とお礼を述べられ、知人かなと思案顔の私に「名札に書いてあるよ」といわれ保育園の名札は効果抜群だった。南峰からほぼ一直線に急坂を下る。晴れていれば正面に鳥帽子岳を見ながらの下降なのだが・・・

鳥帽子岳の稜線に立つとミネズオウ、イワカガミ、コケモモ、ミツバツチグリ、ハンショウズル、ミネヤナギ、ホウチャクソウ等、高山植物が続々現れる。市民登山の楽しみは先輩達から花の名前を教えてもらうことなので目が輝いてくる。イワインチン、シャジクソウは花期が早かったのでお目にかかるなかつた。

鞍部に戻る頃には又雨が降り始め、笹原の林間コースをゆっくりと中分岐に向かう。登山道にはマイズルソウ、アマドコロ、ツバメオモト、エン

レイソウ等が咲いている。

中分岐からは白くぼ湿原には向かわず直進して湯の丸キャンプ場に向かう。

鳥帽子岳登山口の一角には移植した高山植物が設置されていて、その中にシラネアオイが咲いていた。

レンゲツツジの咲く山

矢野貞子

いつかは行ってみたい四阿山、市民登山で行けるなんてラッキー！会の山行の楽しみは、先輩のお姉さん達がたくさん参加してくれることです。山道に咲く花、一つ一つ花の名前が何処からとなく聞こえます。私は、何回聞いても忘れてしまうけど、「これなんでしたっけ」って聞くと「何々」と聞こえます。山そのものも楽しいけど、花や木、鳥の声、更には遠くに見える山の名前など登山に付随するソフトなところが楽しさを倍増してくれます。

さて、我孫子を出発する時から雨具がいる天気でした。どうぞ雨が止みますようにとの祈りもむなしく、雨合羽を着てバスを降りました。

一日目は湯の丸山と鳥帽子岳。二手に別れ、湯の丸山から鳥帽子岳に行くコースと鳥帽子岳を先に行き湯の丸に行くコースです。残念ながらレンゲツツジには少し早かつたらしく、咲いている木はちらほらしかありませんでした。鳥帽子岳への道には色あざやかなムラサキヤシオが迎えてくれました。降ったり止んだりの天気で何回か合羽を脱いだり着たりしました。

でも帰りのバスでは陽が射し、あすの四阿山の天気を約束してくれました。山で見ることができなかったレンゲツツジはバスが降り始めると満開の姿を見せてくれました。

宿は民宿。宿が直営で栽培している取立てのレタスが山盛りあり、「お代わりもどうぞ」の言葉にサービスが間に合わないくらいの食欲を見せる仲間達。頼もしい。食後各班に別れ、歌や遊戲などの余興を披露した。

翌日は6時10分に出発。晴天、今日も根子岳から四阿山行く組と四阿山から根子岳に行く組に別れ、山の途中で「こんにちわ」の予定。

四阿山の登り始めに目の覚めるような色をしたレンゲツツジが迎えてくれた。今回の山行のもう一つの目的レンゲツツジを見ることができた。

2 日間で 4 山の頂を登頂できた。怪我も事故もなく山行を終えることが出来た。ここまで準備された役員の方々の努力があつてこそ、楽しませてもらっているなど、実感しました。係りの皆様ありがとうございました。

今回は、百名山の一つだが、アクセスが悪い山で気軽に歩けない。一般市民の参加が少なくて残念でした。ツアーで行くのとは違い、花の名前や山の話など、ただ山に登るだけでなくそれに付随する楽しさがあることを一般の方々にも教えてあげたいとつくづく思いました。

概要

山名	湯の丸山・烏帽子岳～四阿山・根子岳	
月日	平成21年6月6日(土)～7日(日)	
山域	上信越高原、菅平高原	地形図 1/25000 阿山
形式	山麓泊	グレード 2A
目的	日本百名山の四阿山と花の百名山・根子岳他に遊び、レンゲツツジの群落を観賞する	
費用	約16,000円	交通機関 貸切バス
行 程 1 日 目	我孫子駅北口集合 5:30/5:40→(貸切バス)→柏 IC 6:00→高坂 SA7:23/7:35→佐久平 PA8:56/9:06→小諸 IC9:15→地蔵峠着 9:50 【A班】 地蔵峠 10:10⇒つつじ平 10:40⇒湯の丸山 11:38/11:43⇒鞍部 12:25/12:43(昼食) ⇒烏帽子岳 13:35/13:40⇒鞍部 14:25/ 14:35⇒湿原 15:15⇒地蔵峠着 15:30 【B班】 地蔵峠 9:50/10:10⇒水平道⇒鞍部 11:00/11:10(昼食) ⇒烏帽子岳 11:55/ 12:10⇒鞍部 12:45/12:50⇒湯ノ丸山南峰 13:35/ 13:50⇒北峰 13:57/14:05⇒湯ノ丸山南峰 14:13⇒鐘分岐 14:45⇒東屋 14:50/15:00⇒地蔵峠着 15:15 【C班】 地蔵峠 9:50/10:15⇒つつじ平鐘分岐 10:50⇒湯の丸山山頂 11:45(昼食) 12:10⇒湯の丸烏帽子鞍部 13:10⇒烏帽子岳山頂 13:45/ 14:10⇒湯の丸烏帽子鞍部 14:30⇒地蔵峠 15:40 【D班】 地蔵峠 10:10⇒つつじ平分岐 10:35 ⇒湯の丸分岐 11:05 ⇒烏帽子岳山頂 11:50/12:15⇒分岐 13:00⇒湯の丸南峰 13:40/13:50⇒北峰 14:05⇒地蔵峠 15:10 地蔵峠バス発 15:50⇒ふあーむロッジ 16:50	
行 程 2 日 目	ふあーむロッジ発 6:10→ダボス牧場管理事務所駐車場着 6:20 【A班】 駐車場 6:25⇒登山道入口 6:33⇒小四阿山 7:43⇒中四阿山 8:20⇒分岐 9:03⇒四阿山 9:20/9:35⇒分岐 9:50⇒十ガ原(鞍部) 10:30/10:40⇒根子岳 11:20/11:45(昼食)⇒下山ルートを間違えて引き返す 11:55⇒頂上の分岐地点に戻る 12:05⇒駐車場着 13:25 【B班】 駐車場 6:20⇒根子岳 8:10/8:20⇒十ガ原(鞍部) 8:40⇒四阿山 10:00/10:30⇒中四阿山 11:20/11:25⇒小四阿山 11:50/12:00⇒駐車場着 12:50 【C班】 駐車場 6:25⇒根子岳 8:20⇒中四阿分岐 9:55⇒四阿山 10:20/10:45(昼食)⇒分岐 10:55⇒小四阿山 12:05⇒駐車場 13:15 【D班】 駐車場 6:30⇒中四阿山 8:30⇒根子岳分岐 9:10⇒四阿山山頂 9:25/9:40⇒根子岳 11:35/11:55⇒駐車場 13:10 駐車場バス発 13:33⇒ふあーむロッジ 13:45/15:10(入浴と昼食)→上田・菅平 IC16:00→横川 SA16:40/16:55→甘楽PA 18:12/18:25→嵐山 PA19:42/19:55→柏 IC21:05→我孫子駅北口着 21:25 (解散)	



行 程 1 日 目	ルート状況	ふあーむロッジ発 6:10→ダボス牧場管理事務所駐車場着 6:20 【A班】 駐車場 6:25⇒登山道入口 6:33⇒小四阿山 7:43⇒中四阿山 8:20⇒分岐 9:03⇒四阿山 9:20/9:35⇒分岐 9:50⇒十ガ原(鞍部) 10:30/10:40⇒根子岳 11:20/11:45(昼食)⇒下山ルートを間違えて引き返す 11:55⇒頂上の分岐地点に戻る 12:05⇒駐車場着 13:25 【B班】 駐車場 6:20⇒根子岳 8:10/8:20⇒十ガ原(鞍部) 8:40⇒四阿山 10:00/10:30⇒中四阿山 11:20/11:25⇒小四阿山 11:50/12:00⇒駐車場着 12:50 【C班】 駐車場 6:25⇒根子岳 8:20⇒中四阿分岐 9:55⇒四阿山 10:20/10:45(昼食)⇒分岐 10:55⇒小四阿山 12:05⇒駐車場 13:15 【D班】 駐車場 6:30⇒中四阿山 8:30⇒根子岳分岐 9:10⇒四阿山山頂 9:25/9:40⇒根子岳 11:35/11:55⇒駐車場 13:10 駐車場バス発 13:33⇒ふあーむロッジ 13:45/15:10(入浴と昼食)→上田・菅平 IC16:00→横川 SA16:40/16:55→甘楽PA 18:12/18:25→嵐山 PA19:42/19:55→柏 IC21:05→我孫子駅北口着 21:25 (解散)
行 程 2 日 目	ルート状況	A班 清家(L)、原田和(SL)、矢野貞、榎原、品田、青山、小川誠、本田、大久保俊夫(市民) B班 外崎(L)、高橋英(SL)、佐藤健(CL)、田村、瀬田、中村育、加藤、馬越ヒサ子(市民)、石川ツユ子(市民) C班 中村隆(L)、武内(SL)、飯沼、千葉、坂巻、本間、大久保スミ子(市民)、柳日出子(市民)、戸田健(市民) D班 村松(L)、原田君(SL)、高橋重、高橋芳、藤倉、佐藤明(医療)、桐生、矢野裕、矢野妙(市民) 男12名 女25名 合計37名
	参加者	

各班リーダーのメモ

A班（リーダー：清家三保子）

- ・1日目。私達は地蔵峠よりつつじ平へと向かう。まだ柔らかなカラマツの新芽がきれいだ。つつじ平の遊歩道の中へ入るがレンゲツツジは殆どつぼみである。色の付いた木を目指しながら歩く。足元のイワカガミが色鮮やかだ。登山道に戻り湯の丸山へ向かう。新緑の中にレンゲツツジが咲いていたり、さわやかなツバメオモトやすずらんが咲いている。石の多い急登の後山頂へ、しかし濃霧の中残念ながら眺望は得られなかつた。鞍部迄戻り鳥帽子岳へ向かう。ササの間の歩き易い道から稜線へ出るが眺望は無い。ウグイスと花と共に歩き、山頂間近の岩の間の急登を過ぎると山頂だ。握手の後、下山。
- ・ふあーむロッジの食事は、その名の通り野菜が豊富で嬉しい。特に新鮮なレタスは丸ごと1個ずつ食べたい位であった。
- ・A班出し物は、会長同班恒例の手話風踊りと偽リーダー部長の叱責。一度の打ち合わせだけなのでこれでやっとである。



鳥帽子岳山頂にてA班。

- ・2日目。宿舎を出てA班はまず四阿山を目指す。本日は風はあるが晴。牧場のウシさんを見ながら歩き、山道へ入る。昨日より2時間も長い歩行時間であるので気を引き締める。



四阿山頂にて。

大久保さんは2日続けての山行は初めてと言われたが、何やら昨日より足取りが軽い様子だ。白樺の木漏れ日の道やカラマツの道、とにかく“キモチイ”道が多い。草原から稜線へそして岩場を登りはじめ、いよいよ山頂間近かと思う間もなく割とあっけなく山頂へ着く。残念ながら眺望は得られず、小休止後、根子岳に期待して出発する。



四阿山を背に根子岳を登る

- ・根子岳山頂で昼食を摂りゆっくりするが、眺望は得られない。途中浅間山や昨日登頂の湯の丸山や鳥帽子岳は見えたが、北アルプス、八ヶ岳迄は見られなかった。
- ・4山登頂に原田さん音頭で万歳三唱し、食後30分の注意を確認し合い下山にかかる。魔の30分がここで現れてしまった。リーダーをはじめ皆計画書のダボス駐車場が頭にあり、分岐の“ダボス”を確認後、下山を始めてしまった。D班の電話のお陰で20分のロスで済んだが、インパクトの強い名“ダボス”的い込みで失敗。全く申し訳ありませんでした。
- ・今日の山も、白のオオカメの木の花と赤やしおのセットに見とれ、足元のスズラン、すみれにほっとする。牧場に入るとレンゲツツジが日を浴びて輝く。そしてアズマ菊の群落も。
- ・この二日間、何と花の多い山であった事か。つつじ平のレンゲツツジを除いても十分であった。



B班（リーダー：外崎 蓮）

- ・1日目は鳥帽子岳が先のため、長い水平道歩きでウォーミングアップ。鞍部で早い昼食をとっていると、D班が追い越して行った。
- ・鳥帽子岳方面は明るい霧氷のいい道。尾根を左にトラバースしながら登っていくので大変歩きやすい。美しい緑の中にアカヤシオが彩を添えていた。
- ・あいにくの霧雨で鳥帽子岳からの展望は望めず。三角点を探したところ、標柱の姿がなく、かわりに手で持ち上げられそうな四角い石の板が置かれてあった。古い地形図には△のマークが載っているが、新しいものには2066mの数字のみ。
- ・鞍部に戻るとA班、少し遅れてC班が鳥帽子岳へ向かっていく。我がB班は湯ノ丸山へ。かなりの急登で大汗をかく。
- ・湯ノ丸山の南峰は広々とした山頂。7分程行った北峰は巨岩のみ。角間峠がわの草むらに、ちょっと三角点があった。それにも「イワインチン」とはどんな植物なのだろう。



▲湯の丸山北峰頂にてB班。

- ・翌日は雨があがっている。2日目も左回りで先に根子岳から。ダボス牧場駐車場から山頂までは、北東方面に真っ直ぐに登る。牧場のレンゲツツジはまだ蕾。
- ・根子岳の山頂は南面の展望がバツチリ。間もなくC班が到着したので、山頂のお社を明け渡す。

根子岳の直下は、右手が深く切れ落ちているため、慎重に歩を運ぶ。鞍部の十ガ原は気持ちの良い平原。

- ・鞍部から四阿山の登りは、4山の中で最もハード。針葉樹林の暗い登山道わきには残雪が見られた。平坦になっても山頂までの遠いこと。その途中で、根子岳に向かうA班とすれ違う。さらにD班とも。



▲四阿山頂にて。

- ・四阿山山頂は岩がちで、北東に細長く延びていて展望抜群。足場が悪いので北峰は省略。お天気も良いので30分も休む。
- ・四阿山の下りは、登りとはまるで違って明るいのどかな道。朝登った根子岳への尾根が右手に手に取るように見える。小四阿山を下りてくると、今日の陽気で咲いたのか、目の覚めるようなレンゲツツジの群落にドッと歓声があがった。咲いてくれてありがとう。
- ・ダボス牧場駐車場にはB班が最初に到着。6時間30分で一周してきたことになる。“B班の皆さん、お疲れさまでした”



満開のレンゲツツジの前で。

C班（リーダー：中村隆泰）

1日目

- ・出発の前に例によってご挨拶、役割分担を確認し、市民の方3人（男1、女2）のサポートとして武内さんと千葉さんを指名して道中の安全を期した。
- ・スキーのリフトに沿って登るコースはいきなり急登なので脇道へ入る。しばらく歩いてリフトの終点で合流する。そのまま「つつじ平」へに入る。期待したレンゲツツジはまだつぼみのままで、一輪くらい狂い咲きの花がないかと見回すが残念ながら見つからなかった。
- ・細かい雨が降ったり止んだり、周りの山は雲に覆われて何も見えない。近くの花に励まされながら、大きな登りと下りを重ねて、二つの山を楽しんだ。
- ・夕食前の実行委員の作戦会議で、帰路の渋滞が懸念されるので、翌朝の出発を予定より30分繰り上げることが決まった。



▲鳥帽子岳への最後の登り。

▼鳥帽子岳山頂でC班。



2日目

- ・1日目よりさらに大きな山に挑戦する。行動時間も7時間を超す長丁場となろう。駐車場の登山口から、BC班とAD班に分かれれる。

・登山口から根子岳へ向かって一直線に延びる登山道で標高差600m余を一途に登る。登りは1時間300mといわれるから約2時間の行程である。結果的に2時間弱で登頂、歩きはゆっくりでもきちっと休憩をとって着実に登ればちゃんと着けるものである。

・根子岳からの下りに時々岩稜が現れる。その岩は板を重ねたような岩である。一般参加のTさんがここは海から隆起したのだろうかという。確かに堆積岩に似ていますねと返事したが、火山地帯であることを考えるとちょっと解せない。

（後日調査結果：板状節理（ばんじょうせつり）といい、岩体が板状になった節理。安山岩質の岩石によく見られ、マグマの冷却面と平行に発達するのだそうです。それにしてもよくきれいな板ができるものだ。）

・鞍部の笹原は斜面いっぱいにじゅうたんを敷いたようできれいである。Cさん曰く笹原の雪は雪崩を起こしやすい。こんなところに迷い込んだら終わりである。雪がなくても笹漕ぎは大変だ。

・四阿山の登りにかかるとガスが発生、周りが湿っぽく、足元の根っこが濡れて滑りやすい。ガスがとれたころA班と会う。お互いに手を合わせて励ましあう。D班とも途中で会い、B班は四阿山の山頂で待っていてくれた。

・空は晴れて山座同定を試みるが確信できない。しかし昨日の湯の丸と鳥帽子が並んでいるのはよくわかった。やはり自分で歩いた山だからかな。

・帰りは少し戻って中四阿へ向かう。足元不安定なガレ場を慎重に下る。前方中四阿にB班が見えた。お互い手を振って合図を交わす。尾根上は周りに遮るものもなく、雄大な眺めを堪能しながら、高度をぐんぐんと下げ、やがて樹林の中に吸い込まれていく。

・この2日間、故障もなく怪我もなく無事踏破できたことに、わがメンバーをたたえ拍手を送りたい。なお、多くの花に出会ったが何せ花音痴故、花のことは他班に譲ることにする。



根子岳山頂で。前列が市民参加者の方達

D班（リーダー：村松敏彦）

- ・四阿（あずまや）という名前もなかなかいい。山の形があずまや（四方の柱だけで、壁がなく、四方葺きおろし屋根の小屋。）の屋根に似ているところから、その名が由来したと言われる。と日本百名山の著者深田久弥が書いている。四阿山をメインにD班の2日間の市民登山は無事何のトラブルもなく終えることが出来た。
- ・メンバーの皆さん、健脚で全て地図上のタイムより早目に歩き、リーダーとしては何の心配もなかった。
- ・メンバーの中に若き女性が加わり、一段と華やかな班となった。こうした若き人達が山登りを続けて自然の美しさ、優しさ、楽しさを体験してより多くの登山文化が発展する事を祈りたい。



▲最年少参加者の矢野さん。

- ・1日目の鳥帽子岳のルートは非常に花が多い。ズミ、レンゲツツジ、スズラン、イワカガミ、オオカメノキ、ツガザクラ、コケモモ、ミネズオウ、マイヅルソウ、その他30数種類。



▲鳥帽子岳山頂でD班。

- ・花については高橋重さんが非常に詳しい。どうすればこれだけ憶えられるのか不思議だ。お酒ばかり詳しいリーダーとは大きな違いだ。
- ・鳥帽子岳の山頂の天気は曇っていて展望は良くない。晴れていれば目の前に湯の丸山がたおやかな姿で見ることが出来、その他上信越の山々がその全貌を見せてくれるはずだが……。

・その山頂で今晚の各班の出し物の練習が高橋芳恵さん指導のもとに真剣に行われた。始めての人も最初は何が始まるのか不思議な顔をしていたが、その内に熱心に取り組み夜の本番にそなえた。

- ・湯の丸山でも曇り時々雨で展望は期待出来なかったが北峰まで足を延ばした。
- ・レンゲツツジの花には早かったが予定通りのタイムで地蔵峠の駐車場において菅平に向かうバスの車中の人となった。



湯の丸山からスキー場を下る。

・2日目も天気はあまりぱっとしない。風が強く寒い。昨晩の宴で元気を出しすぎてなんだか体が重い。しかし、菅平高原のつつじと白樺は美しい。カッコウが鳴く白樺林の中の登山道を歩いているとその美しさと優しさに身も心も洗われる。

・所々に咲くムラサキヤシオツツジ（高橋重さんの教え）の色の何と華やかな美しさだろう。どんな美術家でもこの色は作る事は出来ないだろう。

・予定タイムより早く四阿山の山頂に着くことが出来た。細長い山頂には二つの祠があった。一説によると信州の方へ向いている信州祠と上州の方へ向いている上州祠とがあり、信州祠には日本武尊、弟橘姫、イザナミノ命（みこと）を祀り、上州祠には大己貴命（おおむちのみこと）、須勢理姫命を祀るといわれている。風が強いので早々に山頂を後にする。



▲四阿山頂でD班。



・この頃になると天候も快復してきて駐車場をめざして南斜面を下ると非常に暑い。所々に咲くレンゲツツジの華やかさが慰めてくれる。牧場の新鮮な牛乳を飲んで2日間のD班の山行を締めた。なお、花については高橋重さんに40数種類の名前を聞きましたがここに記載出来ません。興味のある方は本人に尋ねて下さい。親切に教えてくれるでしょう。

市民参加者のアンケートから

△ 山の感想

①（初日）湯の丸山～鳥帽子岳について

- ・雨もぱらついていましたが、それも木や花が綺麗に見えてよかったです。
- ・雨で残念でしたが、ムラサキツツジの鮮やかさにいやされました。
- ・視界不良が残念でした。
- ・雨と霧で周りが見渡せなかつたのが残念でした。
- ・とても良かったです。
- ・雨の中、時間の割りに急な山の様に思われた。
- ・2日間の登山で、行きたいと思っていた山に充実した登山が出来ました事に感謝しています。レンゲツツジがまだ早かったのなんか問題なく楽しかったです。

②（2日目）四阿山～根子岳について

- ・楽しかったです。道が明るく開けていて気持ちよかったです。
- ・お天気が良くまわりの景色が見られて良かったです。ハードな登りもありましたが、元気に登山できました。
- ・根子→四阿と登り、四阿の頂上から晴れ出して下山中に快晴となりベストだった。
- ・今日は快晴で素晴らしい景色を堪能でき大満足です。花も咲いていて素晴らしかったです。
- ・色々な花も咲いていて楽しかったです。
- ・百名山に入っているが、意外に簡単に登ることができた。
- ・四阿山・根子岳は2度目の登山でしたが、前回は秋でしたので6月の素晴らしい景色に感動しました。

△ 岳人あびこの対応について

- ・皆さん明るく優しく話しかけていただきました。花の名前や歩き方など教わり、勉強になりました。部屋でもテント泊や食事の話も聞けてよかったです。食事も毎食美味しいだけました。夜の懇親会も楽しかったです。今後も少しづつ登りたいので、2日間で知ったことを活かしてまいります。
- ・気配りが行き届いておりました。
- ・非常に良かった。
- ・とても面倒見が良く、良かったです。
- ・とても良かったです。
- ・1日目の登山後の状況では2日目はどうなるかと思いましたが、リーダーの指導の下、完走できました。
- ・私もグループでの登山はよくしていますが、計画、実行と全く落ち度の無い対応振りに感心しますと共に、私達のこれから企画に生かしていきたいと思います。

△ 今後の市民登山としてどんな山が希望ですか

- ・会津駒ヶ岳
- ・関東一円の山
- ・今はまだ考えていません。良かったら又よろしく。
- ・尾瀬 燧ヶ岳
- ・企画して頂け、私の能力に合うところでしたら山名にはこだわりません。

△ その他のなんでも感想・要望について

- ・大変お世話になりました。お世話された方々に感謝します。
- ・段々、2日間の楽々コースを用意し、これから高齢化に備える必要大と思う。
- ・いつもお世話して頂きありがとうございました。又、機会がありましたら参加させていただきます。今回は大変ご苦労様でした。
- ・近辺の山、草や木の説明があり、良かった
- ・素晴らしい組織だと感心しています。本当にお世話になり、ありがとうございました。機会がございましたら又宜しく御願いします。

△ 今後の市民登山にまた参加したいと思いますか

全員から“思う”と回答いただきました。（質問が率直過ぎたかも？）

市民登山を振返って

市民登山実行委員長 佐藤健一

岳人あびこは東葛地区を基盤とした山好きの集まりである。会に集い、仲間を募って好きな山に行く。会員は会から、悠久の自然と向き合って好きな山を安全に歩き回る技術と、地球の環境保

全に寄与しながら自然と共生していくためのルールを学ぶ。そして山に分け入り、山を汚さず、傷めず、山がもたらす豊かな自然環境の恵みを享受し、心身共にリフレッシュされてまた日常生活に還っていく。つまり、私たちの山の会に限らず、世の山岳会の果たしている役割は少なくない。

私たち岳人あびこは、さらにこうした登山文化を自分達だけの自己満足にとどめずに、一般市民の皆様と共に山や自然の素晴らしさを共感していく機会を、毎年切らすことなく続けてきた。地域社会あっての我々であるし、支援されてこそ保障される我らの活動であるからだ。

数えて第15回目の今年の市民登山は、長野県信州の湯の丸高原と菅平高原を結んでの、一泊二日のちょっと重い縦走となった。それもターゲットは大いに欲張ってどれも2000m以上の四座、つまり初日の湯の丸山、烏帽子岳と二日目の四阿山、根子岳で、特に四阿は日本百名山、根子は花の百名山としても有名な山であった。これを決定したのが2月に開かれた第一回目の実行委員会で、遡ること4ヶ月前であった。

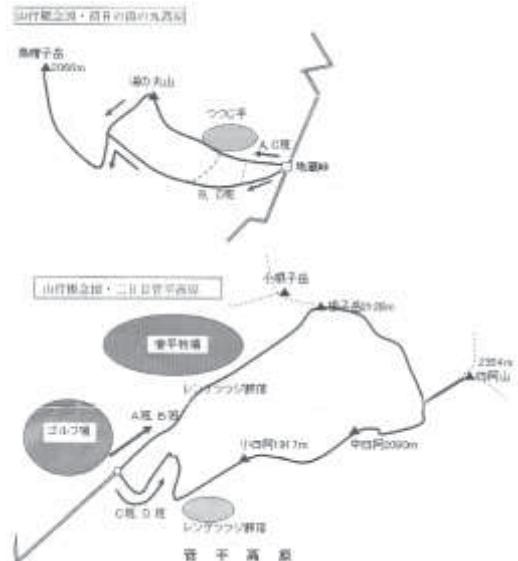
何度か会合をもち、募集やそのための広報活動、ポスター制作、下見山行、計画説明会と幾多の段取りを経て、6日～7日の決行となった。

今回も、雄大なスケールと新緑や鮮やかな朱色に彩られた豊かな自然は、私たちを裏切らなかつた。四班のチームもそれぞれ自然保護の腕章をつけた会員たちを中心に清掃登山がすすめられ、山々は参加した37名のメンバーに晴れた時の良い顔だけでなく、自然では良くある梅雨時の曇りがちの天候下の草花もみせてくれた。思い出して頂きたい、あの新芽をそろえた形容しがたい新

緑の唐松林を。

宿泊したロッジも、スタッフが用意した心づくしの料理と食い放題の高原野菜に驚かされ、懇親会でも我らが仲間のユーモア溢れる演出には腹を抱えて笑ったり感心したり、確かに寿命が何年も伸びた気がした。

あのような笑顔を見ることが出来たのも、参加された方々のご協力があったればこそと思う。会員も手弁当で頑張って、割り振られたそれぞれの役割を充分に果たしていただいた。ことに5名の実行委員には同志的な連帯感すら覚える。会でも中心的な役割を担っておられる超重量級の実行委員の皆様が発する気迫には、時として圧倒される時もあったが、これら一つ一つが私にとって勉強、貴重な体験となったことは云うまでもない。只々ありがとうございますと申し上げるばかりである。



可憐な山の花々と名の由来

ムラサキヤシオツツジ→

紫色の染料に何度も浸して染め上げたような美しいツツジの意。

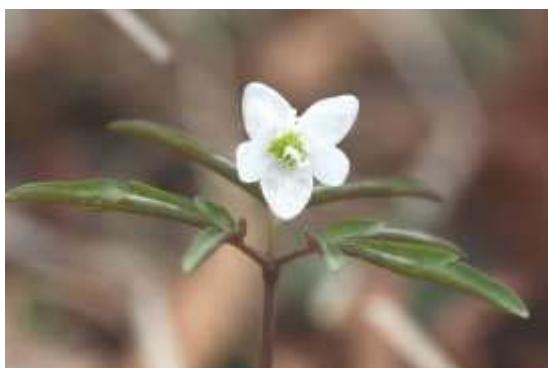
下右のアズマギクは東国、つまり関東地方から東北地方にかけて多いことから「東(あづま)」の名がある。



▲アズマギク

▲ ミネズオウ

スオウとはイチイのこと、イチイと葉が似ていることからの名という。また南国産の木にスオウ〈蘇芳〉があり、この木と花色が似ているからとの説もある。



▲ ツガザクラ

葉が針葉樹のツガに似て、桜のような色の花を咲かせることからこの名がある。

←ヒメイチゲ 「一華」はイチリンソウ属の花の一名。花が茎の先に1個だけつく。中でもチイサクテ繊細な容姿からヒメイチゲの名がついたのだろう。

<631>

三本槍岳～流石山～大倉山～三倉山 (1917m) (1822m) (1885m) (1888m)

高橋芳恵

<1日目> 温泉神社から牛首を目指す

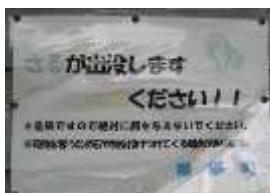
何年か前になるが那須岳から三斗小屋温泉に泊まり大峠から三本槍、北温泉の山旅をしたことがある。その時、大峠の古戦場の印象が強く是非あの峠の向こうに行ってみたいと思い続けていた。今回、那須山域通の武内リーダーが計画され早速申し込みをした。その前にリーダーに打診をしたところ返事に困られたところを見ると、リーダーとしては少し戸惑われたのかもしれない。

ともかく梅雨期の休日として好天に恵まれ、黒磯の駅前からは見事なアジサイの並木が延々と続いて目を楽しませてくれた。温泉神社から殺生石を眺めながら牛首までの登山道に入り、ひたすら上り道をスキー場まで登り、さらにジグザグの急登に喘ぎながら行くと、飯盛温泉跡の湿地帯となる。昭和天皇はこの辺りで那須の植物を採集されていたとか。途中温泉を引水する管が露出しており、まさに名だたる温泉地である。それにしてもテントの装備はないものの重いザックを久しぶりに背負った登りは苦しいことこの上ない。

さらに40分程で牛首に到着し、那須岳の荒々しい姿と活火山の様を眺めながら大休憩となつた。前方には明日縦走予定の流石山に続く山並みがどっしり控えている。この山行の目的でもある地図読みもしっかり時間をとって研修した。



那須岳避難小屋



本日泊まりの避難小屋は峰の茶屋を通り縦走路を15分程下ったところにあり、しっかりと建物で20名は泊まれる小屋であるが、トイレがないのが残念である。時々サルも宿泊することがあるらしく、看板が立てられていた。



命が延びるほど美味しい

水場（延命水）は10分ほど下った所にあり、全員でポリタンクやペットボトルを持って水汲みに出かけた。このときの水の大切さときたら…。コップフェル一杯分の水を捨てるごとに議論した程だった。サバイバルの生活をしてみてわかる水とトイレの大切さである。昔の人は偉かった。夕食は豪華な炉辺焼きや鰻玉丼、スープ等リッチなディナーとなり、虫がうるさいので小屋の中で盛り上がった。



流石山(手前中央)～三倉山(中央奥)展望

<2日目> 大縦走の充実したコースを踏破

3時起床、4時出発で始まった大縦走は文字通り那須連山を独占するものであった。昨夜、充分眠れなかつたが、体調はすこぶるよいので助かった。強風の名所の朝日岳も穏やかなで思った以上の晴天である。清水平に入ると気持ちのよい湿原に一面ウラジロヨウラクの群落がも

のすごい。その先の北温泉分岐に出会い、三本槍ヶ岳頂上となる。三本槍から大峠までは石楠花道であり、峠に近づくにつれてハクサンチドリ、ハクサンフウロ、ウサギギク、ニッコウキスゲ、ウスユキソウ、ミヤマオダマキ、サラサドウダン等々素晴らしいお花畠が続いた。大峠は眼下であり、誰か人がいるのを確認したが、「随分ゆっくり休んでいるね」と話ながら下ってみるとそこには赤い帽子のお地蔵様がにっこり笑って迎えてくれた。7月の山開きに備え笹狩りの地元の方々と出会った。大峠下には下郷から入る林道終点があり、ほとんどの登山者は車をそこに止めて上がってきているようであった。

大峠から大峠山までの急登が本日の一番の登りとか、とにかく頑張った。石楠花の花が白やピンクで美しく、励ましてくれているようだった。



大倉山山頂にて

その先の流石山、大倉山、笹原の気持ちのよい縦走路であり、三倉山には昨年建てられたばかりの立派な石碑が建てられていた。ほとんどの登山者は三倉山で折り返し大峠に帰っていくことで、そのまま音金に下るのは我がグループのみのようであった。笹を搔き分けながらさらに唐沢山に進む。にぎやかな話し声に迎えられたが、7月3週の山開きを前に地元ボランティアの皆さんのが昼食中であった。山頂からボランティアさんが「あそこが俺のうちだ」と指差すかなたには下郷町の田園風景が見渡すことができた。

「道が悪いから気をつけていきなさい」の言葉通り、最後の下りは急傾斜と悪路の連続で上の坪集落に出る手前で足がよろける始末であったが、それでも山道は以前に比べれば格段に楽になったとか、笹を刈っていただいたおかげで何とか歩けたとボランティアの皆さんに感謝した。さすがに体力の限界を感じた最終番であったが、何とかリーダーが予定されていた時間通りに稻荷神社に

到着した。

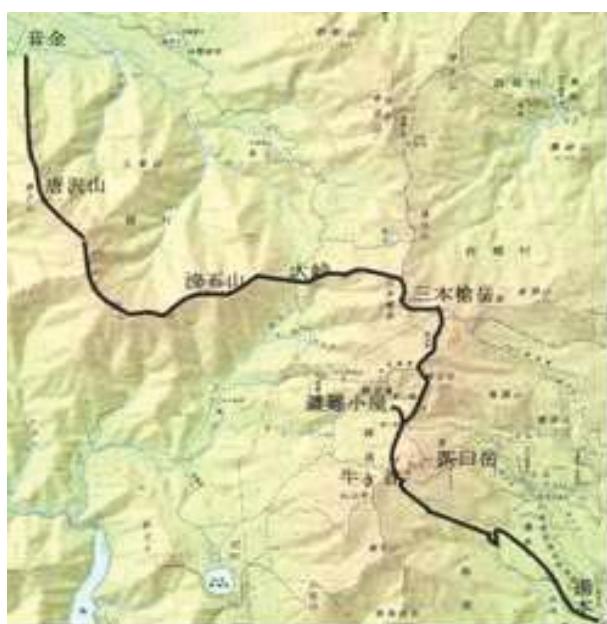
帰路は村人から聞いた弥五島温泉で気持ちよく入浴し、美味しいそばを味わい（1人分だけ残っていた。他の方々はラーメン、こちらも有名だという）満足して充実した二日間の山行を終えた。梅雨真只中のこの時期に好天の二日間であったことも有難かった。

今回の山行は自分自身への挑戦という意味で取り組んだつもりだったが、快くお引き受けいただいた武内リーダーや先輩諸氏のご指導をいただいたことに心から感謝している。皆様大変お世話になりました。ありがとうございました。



唐沢山(登山道整備の下郷町の皆さんと)

概念図



概要

山名	三本槍岳～流石山～大倉山～ 三倉山		
月日	平成 21 年 6 月 27 日(土)～28 日(日)		
山域	那須	地形図	1/25000 那須岳、甲子山
形式	避難小屋泊	グレード	3B
目的	① 那須連峰の展望を楽しむ ② 草原と花畠を楽しむ ③ 研修(地図読み山行)		
費用	約 10,000 円	交通機関	JR、東野バス、タクシー、会津鉄道、野岩鉄道、東武
行程	我孫子 5:31 → 上野 6:04 / 6:09 → 宇都宮 7:51 / 8:02 → 黒磯 8:56 / 9:20 (バス) → 那須湯本 9:50 / 10:00 ⇒ 地図読み研修・休憩 10:38 / 10:45 ⇒ スキー場分岐 11:15 ⇒ 昼食 11:48 / 12:05 ⇒ 飯盛温泉跡 12:35 ⇒ 休憩 12:45 / 12:50 ⇒ 牛首(休憩・研修) 13:35 / 14:00 ⇒ 峰の茶屋 14:20 ⇒ 避難小屋 14:40 / 14:50 ⇒ 延命水 15:10 / 15:18 (水の確保) ⇒ 那須岳避難小屋 15:40 (泊) 晴れ <歩行時間 4 時間 30 分>		



行程	2日目	避難小屋 4:10 ⇒ 峰の茶屋 4:30 ⇒ 朝日の肩 5:00 / 5:07 ⇒ 隠居倉 5:17 ⇒ 清水平分岐 5:40 ⇒ 北温泉への分岐 5:50 ⇒ 三本槍岳 6:20 / 6:28(研修) ⇒ 大峠への分岐 6:38 ⇒ 大峠 7:30 / 7:45(研修) ⇒ 大峠山 8:35 / 8:40 ⇒ 流石山 8:55 / 9:10(研修) ⇒ 大倉山 10:15 / 10:35(昼食) ⇒ 三倉山 11:10 / 11:20 ⇒ 三倉山北峰 11:30 ⇒ 唐沢山 12:05 / 12:20 ⇒ 休憩 13:10 / 13:15 ⇒ 沢ルートへの分岐(道標はない) 13:28 ⇒ 林道に出る 14:00 ⇒ 神社着 14:25 / 14:35(タクシ一) ⇒ 弥五島温泉 14:55 / 16:35(入浴と反省会) ⇒ 弥五島駅 16:40 / 16:54 ⇒ 会津田島 17:15 / 17:17 ⇒ 新栃木 19:43 / 19:52 ⇒ 南栗橋 20:32 / 20:33 ⇒ 春日部 20:50 / 21:05 ⇒ 柏 20:45 / 20:56 ⇒ 我孫子 22:01 解散 晴後曇り <歩行時間 8 時間 35 分>
	ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 那須岳避難小屋はしっかりとした小屋で、宿泊は快適(但し、トイレなし)。土間を挟んで左右2段の板敷きのスペース。各スペースとも5名は可能(計20名)。 水場は避難小屋から三斗小屋温泉方向へ15分程度降りたところに延命水がある。水量豊富で気持ちよい水場。 ルートは、全般によく踏まれており問題ない。三倉山～音金は登山者は多くないが、毎年刈払いが行われ明瞭。唐沢山からの下りは急降下約1000m、結構厳しい。
参加者	武内(L)、外崎、高橋芳、原田和、坂巻 男3名、女2名、計5名	



牛が首から茶臼岳

<632>

三頭山 (1525m)

田村光子

三頭山は花の百名山の一山なので、どんな花が咲いているのか楽しみにしていたが、朝からうす曇りで、雨が降らなければいいなと思いながら家を出る。

我孫子駅に着いて初めて、リーダーが入院していて、退院1週間目だという事を知った。すると家族の方々がリーダーの体を心配して、参加してこられた。

都民の森バス停では家族連れや若いグループでぎわっていた。幾つか登りコースがあるが、今回は南コースで三頭の大滝までは、木材のチップが敷き詰められていて歩きやすい。滝見橋で落差30mの大滝を見てから、沢沿いの登山道にはいる。登山道にはオオカメノキやミカマムグラなど色々の花が咲いていて目を楽しませてくれた。登りはさほどきつい所もなく、2時間足らずで西峰の頂上に着いた。頂上には他のグループの人たちが大勢いたが、われわれもゆっくり昼食を取ることが出来た。東峰には今回は行かずに下山する。頂上にはたくさんの人がいたが、われわれと同じ下山コースを取る人はほとんどいなかった。下山はいきなりの急坂で、食事の後なので注意して下りる。ヌカザス山、イヨ山など幾つかのアップダウンを繰り返す。「オツネの泣坂」と言われる急坂の所では、おつねさんの恋物語を聞きながら、無事下山することができました。

奥多摩湖に着くころ雨が降り出し、ドラム缶橋を急いで渡り、小河内神社バス停に3時過ぎに到着する。楽しい山行をありがとうございました。



三頭山頂上にて



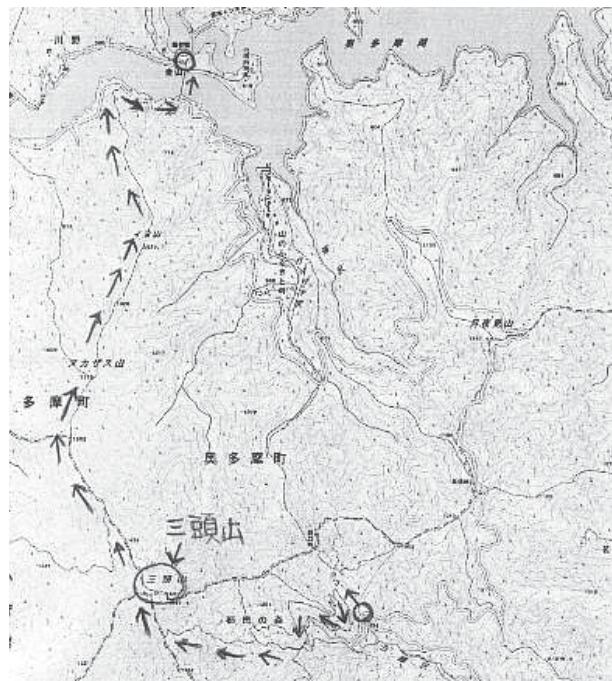
オオカメノキ



概要

概念図

山名	三頭山（西峰）		
月日	平成21年6月28日(日)		
山域	奥多摩	地形図	1/25000 奥多摩湖、猪丸
形式	日帰り	グレード	2B
目的	奥多摩三山の一つ。新緑を楽しむ。夏場の低山。		
費用	約4,000円	交通機関	JR、西東京バス
行程	<p>我孫子 5:33→新松戸 5:46/5:51→西国分寺 06:47/06:55→立川 7:00/7:23→武蔵五日市 07:57 着/バス 8:22 発→都民の森バス停 9:30 着/登山開始 9:45⇒三頭の大滝 10:15/10:20⇒三頭山（西峰 1524.5m）（昼食）11:40/12:00⇒ヌカザス山 13:15/13:20⇒イヨ山 14:00/14:10⇒小河内神社バス停 15:15 着/バス発 15:30（定刻 15:24）→JR 奥多摩駅 15:55（反省会）/ 17:15 →立川 18:26/18:31→西国分寺 18:36/18:42→新松戸 19:38/1940→我孫子 19:53（解散） <歩行時間；5時間30分（休憩45分含む）></p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 道は登り下り共、標識共よく整備されている。 登りはさしたる急坂はなく、最初の30分、三頭の大滝までは木材チップを敷き詰めたほぼ水平の遊歩道。 次いで沢沿いの道、次いでやわらかい土の歩きやすい道を頂上まで登る。 下りは数箇所急坂あり。しかし、注意して下りればよく、渋滞するほど坂ではない。落葉の積っているところがいくつかあったが、この時期はさほど厚くなく、歩行の障害にはならなかった。 下りルートに50mほどの上りが数箇所あり。下りの行程が長い点（水平距離 5.5km、標高差 1,000m）、膝には厳しい。 道は、全般的に、地図と標識で確認しながら、道を間違うことなく行動するのに不便はない。 都民の森からの登り道は鞍口峠経由の（北）コースと三頭の大滝経由の（南）コースがある。（北）コースを取れば、三頭を東峰（1528m）、中峰（1531m）、西峰（1524.5m）の順に踏んで、西峰から北へヌカザス山経由奥多摩湖に下りることになるが、今回取った（南）コースは順路としてまず西峰に出る。そのため、時間の制約もあり、西峰のみの踏破となった。 西峰頂上では、他グループ計約30人も居たが昼食を撮るのに手狭ではなかった。 		
参加者	小川誠(L)、中村隆(SL)、榎原、小川洋、箕輪力、藤倉、佐藤明、田村、本田、矢野裕、新谷、小川省(ゲスト)、山田美(ゲスト)、山田功(ゲスト) 男性4名、女性10名、計14名		



そよ風を感じて!! ワンショット

<633>

奥入瀬渓谷・八甲田山・姫神山

(1584m) (1124m)

細野清子

八甲田山の登山基点の酸ヶ湯温泉にはこれまでに2度ほど来ているが八甲田山には登ったことがない。今年こそはと八甲田山行きを計画した。青森経由でいくとどうしても1日目にロスができる。リタイヤした今は時間がいっぱいあるようではない。

いつものように時刻表をめくっていると、「八戸から奥入瀬号」が出ていることを発見した。日程を組んでみると時間も有効に使えることがわかった。検討に検討を重ね2泊3日で奥入瀬・八甲田山・姫神山と少々欲張りな計画ができあがつた。

《1日目 奥入瀬渓谷》

歩くなら奥入瀬渓谷

朝、出かけるときにはパラついていた雨も、八戸に着いたときには雲間から太陽が顔をだし、バスの窓からはのどかな田園風景が広がっていた。

石戸バス停はたくさんの人でにぎわっていた。トイレも並ぶほどの人だったが、渓谷を歩く人はわれわれのほかには一家族だけであった。ここからはマイナスイオンを浴び川音を聞きながらの2時間30分の歩き。渓谷は水量が多く流れも速い。《阿修羅の流れ》は見ごたえがあった。渦を巻きながら流れているのだが名前がマッチしていて面白い。周囲にはたくさん十和田湖から流れ出した滝があり本流に流れている。こんなに流れ出しても十和田湖の水はなくならないのだろうか?と思うほど流れていた。圧巻は跳子大滝。渓谷本流唯一の滝で、高さは7Mくらい、川幅いっぱいにとうとうと水が流れ落ちている。なぜか緑色の線が2本どの角度から見ても縦にはいっていた。

歩道が修復中で一部流れが見られないところもあった。渓谷の水量が1年中変わらないため、苔が同じところに生えるといわれている。ポスターなどによく見られる風景は今回はあまり見られなかった。多分植生態保護のために仕切られた向こうにあるのかも…と勝手に想像。

樹林帯を抜けるとそこは子の口。十和田湖畔

で遊覧船が停泊し、ぱーと開けたその先は、湖の青さと空の青さが目にまぶしかった。今日の歩きはここまで。

《 遊ぶなら十和田湖、歩くなら奥入瀬渓谷…
大町桂月 》

歩いた人でないとわからない心地よさが残った。

《2日目八甲田山》

今まさに旬で、真っ青

梅雨時の山行のため一番の心配は雨。特に今日2日目。しかし、その心配の必要もなく晴れ間さえ見えている。今日も楽しい一日になりそうだ。晴れたらゆっくり山行を楽しみたいとタクシーを利用する。酸ヶ湯温泉は前回見たときより周りの風景にマッチしていた。温泉に荷物を置かせてもらう。「花」の開花状況を聞きにいったが、ガイド部の人がいなくてはつきりとはいえないが「毛無岱の方はたくさん咲いているようです。千人岱の方も例年同様それなりに咲いているようです」と下足番の人がおしえてくれた。期待が高まる。このころには青空こそ見えないが「今日は大丈夫の」天気になる。しばらく樹林帯歩きだったが、抜けるころから左右に高山植物がみられた。シオガマ・カラマツソウ・ツマトリソウ・ミヤマオダマキ等々。少々蒸し暑くあせもタラタラと流れる。大岳山頂まで3m~7m位の雪渓が4箇所あった。今まさに雪がとけたばかりの地肌に花が咲いている。



大岳避難小屋上部の大?雪渓を下る

八甲田連峰の最高峰大岳山頂にはすでに10人くらいの人がお弁当をたべていた。暑からず寒からずの頂上で弁当を食べたり、コカリナを吹いたりとたっぷりのんびりの時間を過ごした。大岳から避難小屋までたくさんのミヤマオダマキが今まさに旬で、真っ青。“ワタシと見てみて”とアピールしている。



快晴の大岳山頂は360度の大展望

緑の草原が真っ白に

避難小屋には地元の年長児が《遠足》で先生たちに付き添われ登ってきた。みな長靴を履いている。荷物を置き井戸岳をピストンする。真っ青のミヤマオダマキがびっしり両脇にさいていた。下山は子供たちが登ってきた毛無岱を経て酸ヶ湯温泉へ降りる。上毛無岱はワタスゲが一面に広がっていて白い穂が静かにゆれていた。上毛無岱と間にある展望台からは下毛無岱が全貌できる。緑の広い草原に点々と池塘があり『わあ～いいねえ！』と歓声が上がる。下毛無岱に降りるとナント一面にワタスゲ。白い穂が静かに揺れていた。酸ヶ湯温泉のガイドさんがいた。「ワタスゲって花ですか？」と聞いてみた。答えは「NO」「白い穂はかす。花は綿棒にドゴールを塗り黄色い粉をまぶしたようのが花です」と教えてくれた。足元の木道の周りはキンコウカの蕾がびっしり。あと一週間もするとワタスゲに代わりこの草原もキンコウカの黄色で一面が染まるでしょう。よく見るとハクサンチドリ・ミツガシワ・イワイチョウなどさいている。下毛無岱からさらに一小時間降りると酸ヶ湯温泉。



一面に満開のワタスゲが広がる
(上毛無岱で…右後方は井戸岳)

下山したところに水のみ場があり、とうとうと冷たい水がながれていた。手や顔や喉を潤す。そして、千人風呂で汗を流す。バスの時間までたっぷりあったので2回入った人もいたようだ。蕎麦屋の白い蕎麦もさっぱりしていてとても美味だった。一番心配した雨にもあわづ沢山の花も見られて大満足。帳場に《八甲田山で見られる花々》のポスターが張ってあった。今日見た花はと数えてみた。なんと40種類のうち32もの花々が見ることができたのだ。ビックリ!!

10月の初旬には毛無岱は草紅葉で真っ赤に染まるとのこと。今度は紅葉を見にきたいものだ。

今夜のYHはこじんまりしていてアットホーム。地元の野菜や外国の食品など取り寄せ食事にも気を使ってあった。明日の天気は雨らしい。食後ゲストルームで検討の結果、遠野行きの計画も出来上がり、就寝前にはご主人が入れてくれたハーブが疲れた体に染みとおり安心して眠ることができた。

《3日目》

渋民村は今日も静かな佇まい

今日は遠野行きと決めていたが、青森で降っていた雨も、盛岡に近づくにつれふつついず何とか持ちそうな感じ。好摩タクシーに電話を入れてみると降っていないとのこと。

「行こう」ということになり電車の待ち時間に荷物を入れなおし登山の準備をする。登りのコースは全員が登ったことがない田代コースを歩く。アクセスが遠いせいかあまり歩かれていない様子。道はしっかりとついている。しばらく樹林帯の中を歩くのだが蒸し暑かった。やがて樹林帯を向けると草原。登山口から1時間ほどで頂上に着いた。頂上では3グループが登って休んでいた。われわれは三角点を確認、記念写真後すぐに下山する。雲行きも怪しいし、タクシーの待ち時間も気になるので…

下山は「土コース」を降りる。岩場を降りるので慎重に降りる。前回登ったときは一人しか通れない狭い岩場が、林間学校の生徒と鉢合わせになりえらく時間がかかったが、今日は登ってくる人はいない。ゆっくりと時間をかけて降りた。登山道が整備されていたことと周りの木々が生長していて、雰囲気が良くなつたような気がする。予定時間より30分早く到着。このころには空には晴れ間さえみえた。残念ながらきれいな姫神山の端麗な姿は見ることはできなかった。石川啄木が生まれ育った渋民村は今日も静かな佇まいを見せていた。

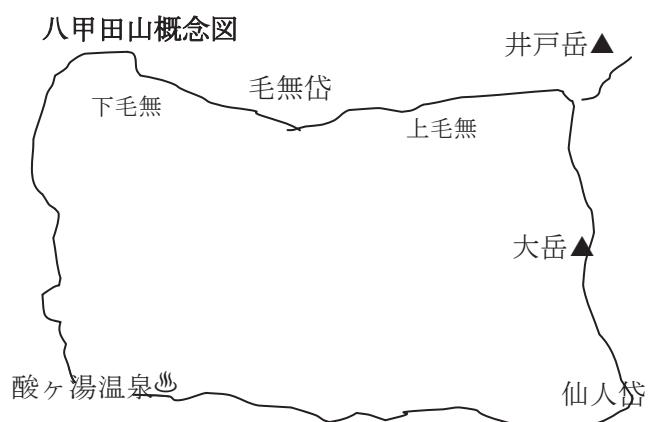
梅雨期の山行であったが雨に降られることもなく楽しく山行できた。すばらしい仲間と大自然に感謝感謝。

《この時期八甲田山で見られた花》

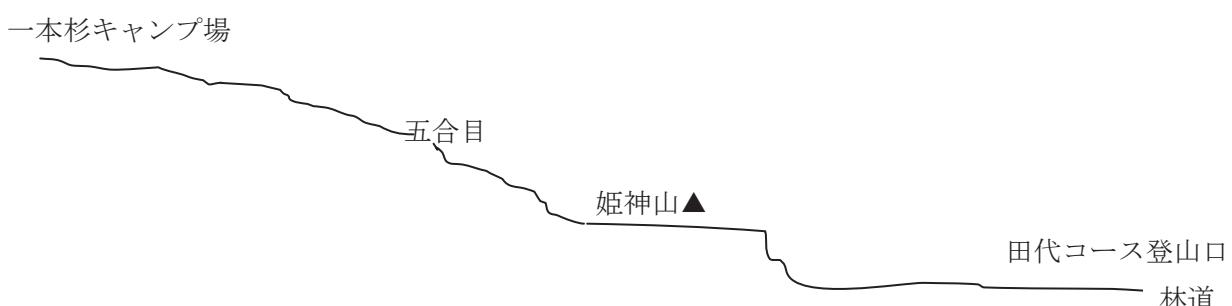
チングルマ・オオバキスミレ・ミヤマスミレ・ハクサンチドリ・ショウジョバカマ・ミヤマオダマキ・ツマトリソウ・イワナシ・カラマツソウ・コバイケイソウ・マルハシモツケ・ヨツバシオガマ・ミヤマハンショウヅル・オオカメノキ・イワウメ・ネバリノギラン・イワイチョウ・ヒメサクラ・ホソバノイワベンケイ・ウラジロヨーラク・ハクサンシャクナゲ・イワカガミ・ミツバオオレン・マイズルソウ・ミツガシワ・ミヤマキンポウゲ・ムラサキヤシオツツジ・ワタスグ・イソツツジ・ベニバナイチヤクソウ他



ミヤマオダマキ



姫神山概念図



概要

山名	奥入瀬渓谷～八甲田山～姫神山		
月日	平成21年7月2日(木)～4日(土)		
山域	八甲田連峰	地形図	1/25000 酸ヶ湯・八甲田
形式	山麓泊	グレード	2B
目的	・多彩な花々をめでながら連峰の最高峰を訪れる ・石川啄木の故郷の山		
費用	31,700円	交通機関	JR、バス・タクシー
1 日 目	我孫子駅 6:07→上野 6:44 /7:02→八戸→10:03/10:20→石が戸 11:57/12:10⇒子の口 15:15/15:35→焼山 16:03⇒奥入瀬YH 16:15(泊) <歩行時間 3時間>		
行 2 日 目	焼山 7:15→酸ヶ湯温泉 7:54/8:13⇒仙人岱避難小屋 9:55/10:15⇒鏡沼 10:40⇒大岳 10:45/11:30⇒大岳避難小屋 11:50/11:55⇒井戸岳 12:10/12:15⇒大岳避難小屋 12:25/12:30⇒上毛無岱 13:15⇒下毛無岱 13:35/13:45⇒酸ヶ湯温泉 14:27/16:58(入浴)→雲谷バス停 17:24⇒雲谷高原YH 17:28(泊) <歩行時間 4時間45分>		
程 3 日 目	雲谷高原YH 7:30→青森駅 8:00/8:58→八戸 9:55/10:06→盛岡 10:35/11:10 好摩 11:34(タクシー)→田代 12:00/12:10⇒姫神山 13:05/13:10⇒一本杉キャンプ場 14:37/14:50(タクシー)→好摩 15:00/15:32→盛岡 15:56/16:41⇒上野 19:02→我孫子駅 <歩行時間 2時間30分>		
ルート状況	・奥入瀬渓谷は養生のため渓谷沿いをあるけないところがあった。 ・八甲田山は酸ヶ湯温泉から大岳に向かう登山道に雪渓があった。(3mから7mくらいの雪渓4箇所) ・姫神山田代登山口はアクセスが悪いためか、余りあるされてないようだが登山道は整備されていた。樹林帯の中を歩く。急登もあるが山頂まで小一時間の短さで小気味よい歩きでよかった。		
参加者	細野清(L) 細野省、大串恵、大串秀(SL) 原田君、榎原文、品田、藤倉、瀬田、榎原三(ゲスト) 男3名 女7名 計10名		

<634>

水根沢谷

坂巻 明

水根沢谷山行に参加して

今年は初体験づくしになっています。丹沢、大室山縦走、八ヶ岳の雪山、那須、流石山の避難小屋泊と経験させてもらいました。ほかにも魅力的な山行が沢山ありましたが、登山のひと通りをやってみたく挑戦しました。案内に初級とあり、初心者歓迎とのアナウンスもありました。沢登りは岩山登りと一緒にで、ヘルメット着用が条件です。それに加え、専用シューズが必要とのこと。危険度合いが高そうです。何度か躊躇ましたが仲間の勧めがあり、幸い用具を借りることができましたので、今回は、この水根沢山行に参加しました。一度沢登りをやるとその楽しさにハマってしまうぞと言われ、その気になりました。そういった外崎さんは今回卒業しようと思っているそうです。

インターネットで検索してみると沢山のホームページがありました。すると、滝あり、水場あり、岩や崖ありで、滝をよじ登る姿や、水の中を胸まで浸かって歩くというか、泳ぐ写真でいっぱいでした。同じことが私にできるのか再び心配になってきました。沢登りは巻くこともできるが、その場合、もっと危険な場合があるという千葉さんの言葉を思い出しました。

当日がきて、期待が半分、不安が半分、体調は万全、さあ出発だ！！

全員集合！！合計12名。参加者の多さにびっくりしました。ちゃんと指導してもらえるのかな？半分くらいの人数が適当かな？勝手に思ったりしています。

電車、バスを乗り継ぎしてようやく水根沢に到着しました。出発地点となる場所に休憩所があり、着替えをして準備完了、荷物も置いておけそうなので、できるだけザックを軽くして行くことにした。弁当だけは忘れません……。

ここ数日の間、雨模様が続いたので水量は増しているようだ。それほどは冷たくはない。でも濡れると体温が奪われてしまいそう。小川さんや、高橋英さんは水浴びが好きとみえて泳いだり、飛び込んだりしていました。私は濡れないように浅瀬を探して、回り道をしながら歩きました。途中までは膝上まで濡れるだけで済んでいました。こんなところで身長の高さに優越感を感じていま

した。コース選択は沢山あって、水を避けて歩くこともできるようです。何組かのパーティがいましたが、若い人たちは果敢に滝のぼりを試みていました。その人たちのなかにはウエットスーツを着ている人もいたようです。それなら濡れても大丈夫と感心しました。途中、プールが数か所あり、腰が浸かるほどの場所をどうしても通過しなければなりません。覚悟を決めて挑戦、やってみれば「これまた、楽しい」です。



入渓前、全員集合



勇敢に初ヘツリ

水場もさることながら、岩場もあり、確保が必要なところもありました。岩山研修や赤岩尾根の山行を思い出しました。その経験のおかげで、苦労することなく登ることができました。途中、半円の滝があり、数人が滝のぼりをしていたので、私も挑戦しました。両手、両足を思い切り開いて、四つん這いになって登っていきます。リーダーの柴さんに確保してもらい、顔に水しぶきを浴びながら無事に登れました。体は濡れているし、開脚状態だし、岩は濡れてツルツルだし、足がつらなければよいがと心配でした。日頃のストレッチ体操の必要性、大切さを感じました。又、沢登りは全身の筋肉を使うことが分かりました。

靴やズボンを濡らし、水と遊び、沢を登る楽しさが少しづつわかつた気がします。予定の行程を終え

帰りの林道いでたら、暑さがぶり返してきました。リーダーに恵まれ、メンバーに恵まれ、天気に恵まれ、貴重な経験ができたことに感謝です。有難うございました。

概要

山名	水根沢谷		
月日	平成21年7月5日(日)		
山域	奥多摩	地形図	1/25000 奥多摩湖
形式	日帰り	グレード	2C
目的	新緑の綺麗な沢を楽しむ。		
費用	約3000円	交通機関	JR、バス
行程	我孫子 5:33→新松戸 5:46/6:02→西国分寺 6:58/7:09→青梅 7:50/52→奥多摩 8:28/35(西東京バス鴨沢西行き)→水根バス停 8:53⇒キャンプ場⇒水根沢谷入渓 9:36⇒作業道橋下通過 10:19⇒滝上 10:45⇒2段 12m 大滝 11:20⇒わさび田(沢右曲地点) 昼食休憩 12:07/30⇒半円ノ滝(気づかずに巻く)⇒終了地点引き返して半円の滝挑戦 13:15/35⇒解除 13:40/14:00⇒水根沢林道 14:10⇒休憩所(着替え)14:35/50⇒水根バス停 14:58⇒奥多摩湖バス停 15:02/36(バス)→奥多摩駅(反省会)15:55/17:40→我孫子 20:30 <遡行時間:約4時間、下山歩行時間:35分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 立川から奥多摩への直行電車が少ないので青梅乗換えが必要。 水根のバス停には、トイレがある。バス停を5分ほど進むと、むかし道無料休憩所がある。ここで、沢用の装備の準備をする。トイレもあるので便利。 休憩所を出て、まもなく分岐点があるが、左に進む(舗装されていない方)と沢に進む細い道がある。 この沢は、初級者用ということで、当日も3組に出会った。いずれのパーティも若い人が多かった。大学生らしき女性もいた。 全体としては、難しいところはないが、2段12mの大滝と半円の滝は、安全のため確保した方がよい。半円の滝では水量が多く、両手、両足を壁に突っ張って(オポジション)登る。壁は、滑らかなので慎重に少しづつ登る。 1箇所だけ、へつりも出来ないところがあり、ここは水深も1.5m以上なので胸までかかるが、水温がそれ程低くないので心配はなかった。(水温の低い時期には、トラバースしたい。) 		
参加者	柴(L)、堀口(SL)、外崎、高橋英、青山、千葉、佐藤健、佐藤明、田村、坂巻、小谷、小川誠 男性6名、女性6名 合計12名		

概念図



半円の滝に挑戦 リーダーがガッチリ確保



シャワークライミング

<635>

磐梯山 (1819m)

小松庸信



登り途中の弘法清水にて、左の背景は桧原湖

磐梯山は我故郷、福島県の山ですが今回、初登山となります。どちらかと言えば民謡「会津磐梯山」に唄われている歌詞が全国的に有名であり、地元でも親しまれています。「----宝の山よ、笹に黄金（こがね）が エーまたなりさがる。----小原庄助（おはらしょうすけ）さん、なんで身上（しんじょう）つぶした朝寝（あさね） 朝酒 朝湯（あさゆ）が大好きでそれで身上つぶしたものだ もっともだ。」酒飲みには自警をうながす歌でもあります。

さて、交通手段の貸切バスは 20 数人乗りであるところ、参加人数が 13 名でありましたので、二席分を使ってゆったり座れました。

常磐道の友部 JCT から東北道の栃木都賀 JCT 間、最近開通の北関東自動車道を約 40 分で通過、当方は、初めてこの自動車道を通りました。今後、北関東、東北の山行に使う高速道路として我孫子からは便利だと思いました。磐越道を走るバスの中ではベテラン H 氏から登山中の火山性有毒ガス対策の講話があり、「無風、窪地は要注意」「ガス発生地域では登山道を外れないこと」等、有毒ガスの恐ろしさと共に本登山の前の緊張感が走りました。それにしても我孫子から会津まで 4 時間も掛かり、日帰りには遠い距離だなと思われました。

登山入口の八方口駐車場は数十台駐車可能ではありましたが、天候が曇天にも関わらず満車状態でした。10 時 20 分、登山開始時に小雨が降り出ましたが雨具をつける程ではなく、これから先の天候が思いやられそうな空模様がありました。登り始めは大きなブナの木々を気持ちよく歩ける林道でした。暫く歩くと、現在営業を止めている

「中の湯」跡があり、露天風呂が白濁の湯で今にも入浴が可能のように見えました。今にも降りそうなどんよりした空の中を「弘法清水」(四合目)迄、桧原湖の遠望が木々の間から時折見られる中、約 1 時間強歩きました。「弘法清水」は展望が開けて、売店小屋が二軒あり、登山客で賑わっていました。

昼食後、磐梯山頂上をめざし、比較的急登でしたが 30 分で頂上に到着しました。曇天ながら 360 度

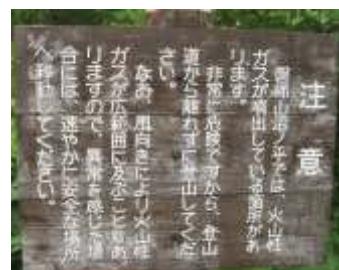
展望が開け、眼下には猪苗代湖が大きく眺望できました。

下山は 13：15 頃開始し、「弘法清水」を通り「黄金清水」を下って、火山爆発跡を直下に見て、その下方には赤褐色の銅沼が色彩を呈していました。「沼の平」に降りて行くにつれて、行きのバスの中で講話があった火山性ガスの臭いが少しづつ感じられ、緊張しながら通過しました。

ウラジロヨウラク(一種のつつじ)、ウスユキ草、ハクサンチドリなどの花々が咲き誇っていました。

当初予定していた赤埴山登山は止めて、回り登山道を通り、眼下に猪苗代湖が展望できるスキ一場ゲレンデまで出てきました。このスキ一場のスロープが結構な急勾配で、一気に下りることになりますが、ブレーキをかけ続け、疲労感を感じる程がありました。その影響で帰宅後 2~3 日の間、両足の筋肉痛になってしまいました。

帰りのバスの中はコンビニで調達したアルコールで小原庄助になった気分で心地よく酔った次第です。雨に会わず、頂上からの展望も望めた良い山行でした。

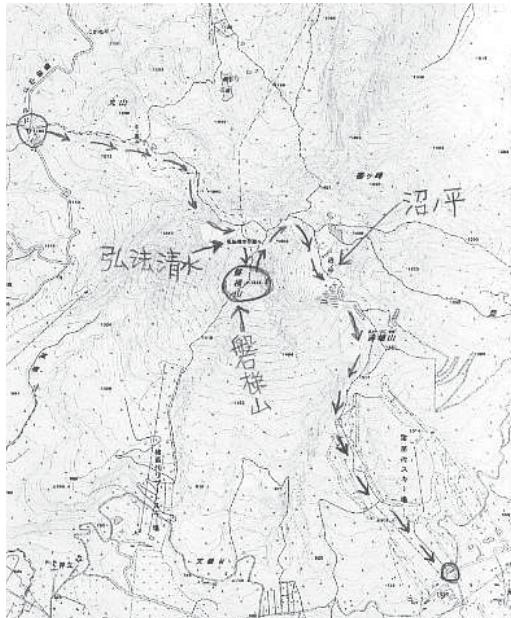


有毒ガスの警告板

概要

山名	磐梯山		
月日	平成 21 年 7 月 12 日 (日)		
山域	会津	地形図	1/25000 猪苗代 磐梯山
形式	日帰り	グレード	2B
目的	夏場の低山。花と展望		
費用	86,000 円	交通機関	貸切バス

<p>行程</p> <p>我孫子駅北口 05:40(貸切バス)→柏 IC6:00(常磐道)→友部 JCT(北関東道)→友部 SA 6:40/ 6:50→栃木都賀 JCT 7:36(東北 道)→郡山 JCT 9:00(磐越道)→五百川 SA9:05/9:15→磐梯河東 IC 9:45→磐梯山ゴー ルドライン 9:55→八方台登山口 10:05/10:20 登山開始⇒中の湯跡 10:45⇒弘法清水(昼食) 12:00/12:25⇒磐梯山頂上 12:55/13:15⇒弘 法清水 13:45⇒黄金清水(分岐) 13:55⇒沼ノ 平 14:30⇒赤埴山への分岐 15:05⇒天の庭 15:35⇒猪苗代登山口(猪苗代スキー 場)16:00⇒リフト乗場(バス駐車場) 16:30/16:33→コンビニ 16:45/17:00→猪苗 代磐梯高原 IC17:10→上河内 SA 19:00/19:10 →栃木都賀 JCT→友部 JCT→谷和原 IC21:00 →天王台駅 21:30→湖北駅 21:40→我孫子駅 21:50 <歩行時間 ; 6 時間 10 分(含、休憩 45 分)></p> <p>ルート状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 八方台登山口から登り、弘法清水から頂上往復、沼ノ平経由、猪苗代登山口に下山した。下山途中の赤埴山は時間の都合でパスした。道は登り下り共、標識共よく整備されている。 磐梯山頂上は富士山の約半分の高さであるところから、頂上を五合目としている。地図と標識で確認しながら、道を間違うことなく行動するのに不便はない。 登り道は中の湯跡までは勾配は急ではない。そこからも、急登はほとんどない。弘法清水から頂上まではやや急登。 下山道は慎重を期して弘法清水の山小屋で道を聞いてから降りた。二つある「分岐は右へ」と聞いた。 下山道は、頂上から北へ下り弘法清水へ、そこから、まず北へ次いで東へ向かって急降下、鞍部に下りて火口の南淵を東へ、次いで右(南)へ折れて、磐梯山の絶壁を右手遙かに仰ぎながら、沼ノ平経由南へ下山となる。つまり、頂上からは弘法清水経由、右へ大きくUターンしながら急降下する経路となる。 沼ノ平は有毒ガスが発生するところで、警告書の看板が立っている。何年か前に、集団から離れた人が迷ってガスの滞留区域に入り、死亡した事故があった由。 登りも下りも、殆どの道は木立と笹の中の道。曇りであったが、もし晴れていても、直射日光に曝される区間は、頂上区域とその他僅かの区域である。 絶壁の崖に落ちる危険性のあるところは登山道には無い。 下山道の猪苗代スキー場に出るまでの手前は水平道路が続く。 	<p>・スキー場を下るのはかなりの急勾配で歩き難い。距離もあり時間を食う。あざみなど花が多く楽しめる。</p> <p>・登り途中の弘法清水で昼食を摂った。他の登山者も摂っていたが、スペースは充分であった。</p> <p>・弘法清水は下山時は殆ど休憩せず通過した。弘法清水の清水は水量豊富で甘露であった。</p> <p>・頂上もスペースは充分であった。頂上は、頂上の標識より 10 m ほど高い岩場が本当の頂上で、岩を積んだ上に小さい祠がある。三角点はどちらにあるのか、一応探したが判らなかった。</p>
<p>参加者</p> <p>小川誠(L)、原田和(SL)、榎原、箕輪力、藤倉、小松、中村育、齊田、矢野裕、大串秀、大串恵、小川洋、須賀(ゲスト) 男性 5名 女性 8名 計 13 名</p>	<p>概念図</p>



<636>

東黒沢・ヒッゴ一沢

小谷直行

東黒沢からナルミズ沢との計画であったが、悪天予測もありスカッとしている気分で出発。東黒沢出合でテント泊の予定であったが、ひとまず白樺小屋に入り様子見ということになった。居心地の良い小屋で協議の結果、小屋をベースに沢登りトレーニングの為東黒沢とヒッゴ一沢の日帰り沢登りとなった。誰の頭の中にも5月の遭難事故が重くのしかかっていた様だ。

東黒沢

土合駐車場で装備を整え入渓。2~3のナメと淵を過ぎると大ナメが谷をふさいで出現する。見た目には凄い感じがするがどこでも自由に登れる楽しい滝だ。白毛門沢出合で4mの滝が出るがこれも問題なく越える。延々とナメが続き皆楽しんで歩いて行く。沢登りというより水遊びの感覚。

東黒沢は地図上右岸に900mの二俣を経由して山越えをし宝川温泉に抜ける道がついていることになっている。降雨時のエスケープの為それらしき道を探しながら行く。900m二俣では山中に入り探してみたが廃道らしきものもなかった。ここで後続の男性4人パーティが追い越して行き我々の計画コースに行くとのこと、悪天に遭わない様に祈った。

その後もナメは1000m過ぎ迄続き、それを過ぎると源流域の様子となるが、1150mでは急に開けて草の原となった。500~600m先にはナルミズ沢へ下る最低鞍部が見えている。12時となったので遡行はここで中止し今度は沢下りトレーニングとする。滝の下降は2ヶ所懸垂下降。下部の大ナメは上から見ると凄い迫力で気おくれしてしまうが右岸に巻き道を発見しこれを下る。滝の下部では数パーティ、何十人の沢遊びの人達が居て、こんな遊びもあったのかと唖然とする。相手も我々の物々しい姿にびっくりしたのだろうが....。(後で聞いたらキャニオリングという有料のツアーであった) 大ナメの下から左岸にキャニオリングの人達が利用している踏み跡が右岸の入渓点までつながっていた。楽しいナメ滝歩きの後は温泉に入りスーパーで買出しを後小屋でじっくりと反省会と明日の打合せをした。白樺小屋をベースとした東黒沢は沢入門の人にとって最高です。



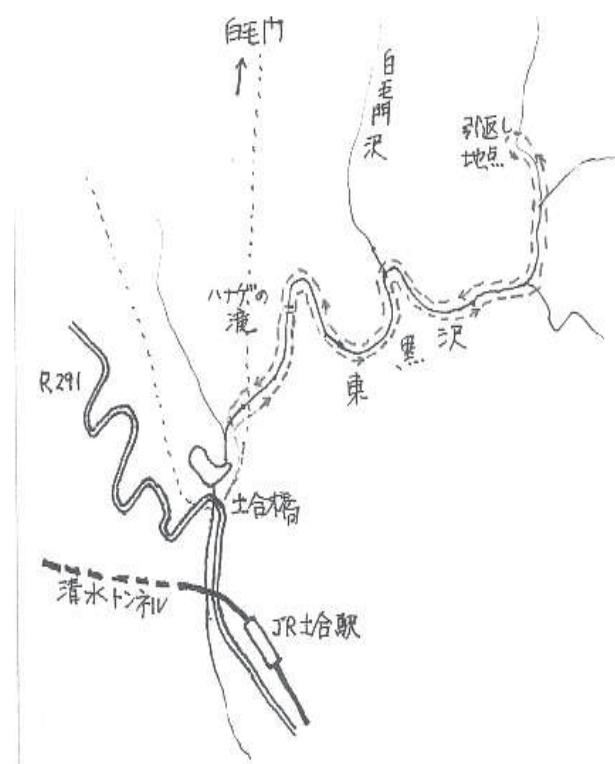
美しいハナゲの滝



ヘツリにも挑戦



東黒沢概念図



ヒッゴー沢

アプローチに山蛭が多いと聞いたので事前に中性洗剤を靴に塗り込んで出発したが、結果的には効果なし。私はこまめに足元を見て蛭を取り乍ら行ったので被害にはあわなかつたが、何人かの人はしっかりと食糧供給してしまった。他の山では

効果があったが、谷川の蛭は進化している様だ。蜂に刺される騒ぎもあり、入渓が9時になってしまった。人数が多いこともあり、12時遡行中止を確認し出発する。

最初の10m滝では迷ったが安全を考えザイルを出す。1名がスリップし、ザイルを出して良かったとホッとした。逆にザイルがあるから大まかな動きになりスリップしたのかもしれないが....。F2も堀口さんトップでザイル使用、シャワークライムを交えた登りとなる。以降ザイルを頻繁に使用していねいに登って行く。

下部ゴルジュ帯を抜けたところで11時となりエスケープルートを探し乍ら行く。上部ゴルジュ帯に入る手前1220mで休憩後、斜面の緩やかな尾根を選び中ゴー尾根1401mPを目指してエスケープとする。初めは灌木と岩の歩きやすい斜面であり眼下のヒッゴー沢の眺めも良く快適であったが、密藪から篠竹混じりとなり、短時間ではあったが本格的な藪漕ぎ体験となった。登山道で休憩中、男性3人パーティが降りて来てヒッゴー沢を行ってきたとのこと、相前後して下山した。中ゴー尾根は急斜面であり道も悪く思ったより時間がかかった。復路でまた蜂刺されがあり、谷川温泉についたのが18:00前となってしまった。ヒッゴー沢は、谷川岳では初級の沢であるが、登攀要素が強く、意外と手強いことを改めて感じた。

ヒッゴー沢概念図





概要

山名	東黒沢・ヒツゴ一沢		
月日	平成 21 年 7 月 18 日(土)～20 日(月)		
山域	谷川	地形図	1/25000 茂倉岳、水上
形式	小屋泊	グレード	4D
目的	飽きるほど滑滝で水遊び。詰めで天国へ続く草原を歩く		
費用	約 9,600 円	交通機関	レンタカー
前夜	我孫子駅北口 20:00 集合→柏 IC→水上 IC→谷川温泉・白樺荘 22:40 (泊)		
1 日 目 行 程	白樺荘 8:00→白毛門登山口駐車場 8:15⇒入渓 8:40⇒ハナゲの滝 9:10⇒白毛門沢出合 9:40⇒二俣 10:40⇒最高点 11:50⇒白毛門沢出合 14:05⇒ハナゲの滝 14:30⇒林道 15:00→白樺荘 16:30 (泊) <歩行時間：5 時間 30 分>		
2 日 目	白樺荘 5:30→谷川温泉駐車場 5:36/5:45⇒牛首⇒二俣 7:45/8:10 入渓⇒F1 8:25/9:00⇒F2 逆の字 10:00⇒階段状ナメ滝 12:15/12:40⇒右岸から藪漕ぎ⇒中ゴ一尾根 14:10 装備解除⇒二俣 15:30⇒谷川温泉 17:40 <入浴と食事> 19:30→水上 IC→柏 IC 22:45→我孫子帰着 23:00 <歩行時間：8 時間 30 分>		
ルート状況	<p>東黒沢 明るくて比較的平易な沢が多い。幅広く続くナメ滝と綺麗な沢床は沢遊び（シャワークリミングやウォータースライダー）にもってこいの感じ。 ハナゲの滝はしたから見ると易しそうだが滝上から見ると怖く迫力充分。但し右岸に立派な巻き道があり心配ない。</p> <p>ヒツゴ一沢 谷川温泉から谷川沿いに二俣及び出合への登山道は、この季節は山ヒルが多く生息し、蜂の巣も登山道上にあって（牛首と二俣の中間で、小沢を越える付近）、往復で刺された。危険なルートである。 登れなくはないがダイナミックな滝が多く、一つクリアするのに 30 分から 50 分必要（/7 名）で、多人数では日が暮れるかも。 右岸の藪漕ぎも強敵。足腰だけでなく腹筋、背筋も使って這い上がった。 中ゴ一尾根は急傾斜で下山時は滑りやすい。</p>		
参加者	佐藤健 (L)、堀口 (SL)、小谷、千葉有、佐藤明、青山、千葉彩 (ゲスト) 男性 3 名 女性 4 名 計 7 名		

<637>

淨土山(立山)～五色ヶ原～薬師岳
(2831m) (2926m)

清家三保子

～山上の樂園より北アルプス中央部の
雄大な薬師岳へ～

この山行を計画している段階で剣岳（点の記）の映画が封切られた。映画は後に見ることにして新田次郎の本を読んだ。剣、立山の1/40,000の地図を見て剣岳はもちろん、測量にも重要な基地として今回歩くザラ峠、鷲岳、越中沢岳等の稜線上の山はもちろん、剣岳の周りの赤谷山、坊主山、大熊山を見つける。西大谷山を見つける。剣岳の四等貼標を西大谷山から観測したのが10月12日で最後だったという。

越中沢岳から柴崎測量官の気分で丸山とか木挽山、松尾峠を見つけて見渡して見たいと思う。宿泊の予約の住所も立山町芦嶺寺とありワクワクする。

出発が近づくと気になるのは天候のみ。今年は梅雨の開けもはっきりしない様な日が続いている。前日にS.Lと山行部長に相談する。結局、当日の昼頃に最新の天気予報を見て山行を決定した。

室堂行きの夜行バスは乗り換えもなく便利であった。いつも如く眠れぬまま到着する。室堂では朝食、トイレとゆっくりする。ここでは男性トイレが行列しているので要注意だ。

1日目（曇、晴、小雨）

いよいよ立山から薬師岳を越えるロングコースの始まりだ。観光客やら登山者の雑踏を抜け富山大学立山研究所の立つ浄土山南峰へ着く。ここからは、五色ヶ原や薬師岳が見える筈だが残念見えない。

龍王岳は山頂をかなり巻いている。鬼岳は見落としやすいベンキの印がある。この二つを見過ごしてしまう。多くの登山者がいるからと安心してはいけないと心を引きしめる。

獅子岳迄はとても変化がある。雪渓を2ヶ所トラバース、今年は残雪も少なく特に危険は感じなかった。日本最大の氷河跡と言われるこの辺りのお花畠は見事だ。散っている花は無く新鮮だ。数え切れない程の花の中でもハクサンイチゲの群落は美しい。クロユリも顔を出す。



鬼岳雪渓のトラバース



獅子岳とザラ峠後方は鬼岳

ザラ峠は正に名の如くザレたつづら折りの下りであり、岩場には鉄のはしごの下りもあり、急な斜面を一揆に、まさにドン底に下りる感じだ。この峠は柴崎測量官が鷲岳、刈安峠、木挽山の偵察や選点の基地とした峠だ。佐々成政が急を告げる為、針ノ木岳を越えるのに通った峠だ。それも冬にワラジで信じられない程スゴイ。私達は登山靴で夏でも急な登り降りに難儀するのに。でも我がパーティーには1人スゴイがいた。全行程をテント泊で縦走している武内さんだ。

ドン底から登ると五色ヶ原に向かう木道に出る。霧雨のようなガスの中、ピンクのコザクラ草が愛らしい。ガスが時々かかるがガスが抜けると、行く先や歩いて来た山、さらに日本海も見渡せた。

山荘ではコッフェルで湯を沸かし、テント場から合流した武内さんと乾杯し皆くつろぐ。五色ヶ原山荘は水も豊かで入浴もできる。ただし早く入らないと湯船は徐々に汚れる。

何と田部井さんが NHK「北アルプス大縦走」

の取材中で同宿となる。話す機会があればと思ったが無理だった。先発隊荷上げの若いさわやかイケメンは富山の登山専門の大学3年生で、すでにガイドの資格も取ったという。さすが富山だ。小松さん言うところのカキ氷の様なごはんを4杯も食べ、最後はおかずも無く、ソースをかけて食べていた。40kg以上も背負うという。太郎平の小屋迄は同宿になりそうだ。



五色ヶ原山荘前で集合写真

2日目（小雨、曇、雨、晴）

五色ヶ原山荘をあとに鷲山へ続く木道を歩く。ガスとも小雨とも言える早朝の木道を落ちぬよう左右のお花畠を見ながら歩く。鷲山からは正面に越中沢岳が見えるはずだが見えない。越中沢乗越まで下り、ここから登りに入る。樹林帯を抜けると高山らしいハイマツの登山道となり越中沢岳に着く。8:25分だ。この北アルプス中央部の縦走路から「剣岳」の映画の主人公の様に周囲の山々を見渡すはずだったのに残念ガスの中だ。

この山頂から薬師岳中腹のスゴ乗越小屋の赤い屋根が小さく見えている。しかし「近くて遠いスゴ乗越小屋」の看板があった。赤い屋根はホッとして嬉しいのだが、私達はこの先スゴ乗越に向けて一気に500m弱の大下りがある。スゴの頭とのコルへの下りは特に要注意だ。「三点確保で絶対大丈夫」と声を掛け、又自分にも言い聞かせ下る。ロープに頼っての下りも、足場を捜し体を振られない様にする。さすが北アルプスは高度感が違う。夢中の2時間程は知らない間に過ぎた感じだ。難所を過ぎスゴの頭を登っている時に雨が降って来た。

やっと着いた「近くて遠いスゴ乗越小屋」は本降りであった。12:10分で時間はたっぷり。濡れた衣類を乾燥室に干し、せっせと湯を沸かし、好みの飲み物でくつろぐ。テント場から出て来た武内さんに「もったいないよー。」と言われ外に出ると、何と晴れ間が出ているではないか。今日越

えて来た山並を見ることができた。そして「おしるこ」タイム。そして乾杯タイム。

夕食時に小屋の情報を聞くと、今日の午後3:00まで、折立一有峰は規定の雨量を越えた為通行止であったという。明日はまだ分からぬとの事だ。五色ヶ原へ戻る相談のパーティーもいたが、私達は太郎平小屋まで行くこととして就寝する。



越中沢乗越 夢中で歩く

概念図



3日目（雨、暴風雨）

カッパ着用の完全装備で出発する。

間山まで1時間強登る。晴れていれば赤牛岳、水晶岳、雲の平、三俣蓮華岳などと並んで歩けるのに、ごく近邊しか見られない。間山迄の歩き易い尾根から、尾根幅が狭くなつて来て岩稜となる。おまけに雨風も強くなつて来た。前が見づらい。○印を見つけながら道をはずさない様に苦労する。はずすと高度感のある崖だ。

北薬師岳に着くと大きな薬師岳の一部と金作谷カール群が時折見える。国の天然記念物だそうな。看板に「ここで雨なら引き返せ」といった文面がある。いかに雨風の薬師岳が大変か肝に命じ、薬師岳に向かう。岩稜の登山道を風に飛ばされぬ様に注意して歩く。

少し雨風を防げる所で「お腹に食べ物を入れて」もらった。この状況なのであんまり休んでいない。白湯が何とおいしいこと。この後食べる所の取れない状況での薬師越えの力となった。

苦労、感動の薬師岳山頂は9:45分であった。全員暴風雨の中で握手する。あとは下るのみであるが雨風は更に強く、顔に当たる雨は雹ではないかと思う程痛い。ザレた斜面を下る時、皆大丈夫かな?とフードの下から後ろを見ると、吹き飛ばされそうな体を一步一歩「ガッシ、ガッシ」と進み、ピッタリとくついた一団、我がパーティー。北海道のトムラウシとは違うとぐつと感動してしまった。

広いザレたジグザグの下りで○印がしばらく途切れた。見通しも悪い。愛知大生の遭難も頭に浮かぶ。すぐS.Lとコンパス確認後、自信を持って下る。

やがてケルンがあり、薬師岳山荘も見えほっとする。山荘で休憩と思ったが、メンバーは太郎平の小屋迄行こうと頼もしい。ズブ濡れで靴を脱ぐものの大変だ。

少しホッとしたのに又一難。薬師峠迄の樹林帶の中の沢沿いの道は増水していて、まるで沢下りだ。登山道は見えていない。○印を見つけながら歩き易い所を捜す。薬師峠に着いた時は心底ホッとする。太郎平の乾燥室が完備していて有難い。武内さんは大丈夫かなと心配するが最後までテントを通すという。



黒百合



太郎平から薬師岳

4日目（曇）

心配していた通行止はない様だ。5:55分に出発する。雨は止んでいた。三角点ではあの暴風雨の中の薬師岳が、そして雲の平が見えた。

予定通り 9:00 に折立に予約していたタクシーの人となる。9:45 分に有峰口の温泉「白樺ハイツ」で入浴。タクシー会社で教えてくれた温泉だが 10:00 からなので少し待つ。タクシーは 30 分サービス待ちとの事であったが、やんわりと交渉の末、1 時間も待ってくれた。引き続き富山駅まで送つてもらう。ジャンボタクシーはバスより安く便利であった。

特急はくたかに乗るまで 2 時間以上あるので反省会をする。我孫子にはとても順調に 18:10 分に帰り着き、変化に富んだ山旅を終了した。

天候不順の中、どこにでも危険はいっぱいであったが常に全員一丸となって足並み揃い、当然でなくてはいけないが、少しの怪我や故障もなく、元気でしっかり下山できた。本当に感激の山であった。

「楽しかったねー。」と言って下さったメンバー全員に乾杯！！



キバナシャクナゲ



コバイケイソウ

概要

山名	立山～五色ヶ原～薬師岳		
月日	平成 21 年 7 月 24 日(金)夜発～28 日(火)		
山域	北アルプス	地形図	1/25000 立山、薬師岳
形式	山小屋	グレード	3C
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・山上の樂園五色ヶ原の池塘と高山植物を訪ねる ・北アルプスの中央部の雄大な姿の薬師岳に登る 		
費用	約 54,000	交通機関	夜行バス、JR
行程	前夜	我孫子駅 20:30 → 日暮里 → 新宿 21:45/22:30 (夜行バス) →	
	1日目	室堂 7:05/7:50(朝食、準備) ⇒ 室堂山荘 8:00 ⇒ 浄土山 9:10/9:20 ⇒ 鬼岳東面 10:50/11:00 ⇒ 獅子岳 12:00/12:10 ⇒ ザラ 峠 13:05/13:15 ⇒ 五色ヶ原山荘 13:15 (泊) <行動時間 5 時間 25 分>	
	2日目	五色ヶ原山荘 5:50 ⇒ 鳥山 6:35/6:40 ⇒ 越中沢乗越 7:35/7:40 ⇒ 越中沢岳 8:25/8:35 ⇒ 鞍部 9:50 ⇒ スゴの頭 10:20/10:45 ⇒ スゴ乗越 ⇒ スゴ乗越小屋 12:10 (泊) <行動時間 6 時間 20 分>	
	3日目	スゴ乗越小屋 5:45 ⇒ 間山 6:55/7:00 ⇒ 北薬師岳 8:45/8:50 ⇒ 薬師岳山頂 9:45/9:55 ⇒ 薬師平 ⇒ 薬師峠 12:20/12:25 ⇒ 太郎平小屋 13:00 (泊) <行動時間 7 時間 15 分>	
	4日目	太郎平小屋 5:55 ⇒ 三角点 7:35 ⇒ 折立 8:55/9:00 タクシー → 有峰口温泉 9:45/ 10:45 ⇒ 富山 11:25/13:50 (反省会) (はくたか) → 越後湯沢(新幹線) 15:56/16:08 → 上野 17:15/17:39 → 我孫子 18:10 <行動時間 3 時間 (休憩含む) >	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・鬼岳とのコル付近では岩につけられたペンキ印が分かりづらい。注意が必要。 ・獅子岳に向かう途中に雪渓を 2 ヶ所トラバース。今年は雪も少ないという事で、特に危険は感じなかった。 ・ザラ峠へはザレたつづら折りの下り。岩場の鉄のはしごの下りもありかなり急な斜面を一気に、まさにドン底に下りる感じだ。ドン底から登ると五色ヶ原に向かう木道に出る。 ・越中沢岳からはスゴ乗越小屋の赤い屋根が見えている。しかしこれはなかなか近づいて来ない。この先スゴ乗越へ向けて一気に 500m 弱の大下りがある。スゴの頭とのコルへの下りは特に要注意。 		

ルート状況	<p>ロープに頼って下るが、ここは足場を捜し、体を振られない様にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間山からの歩き易い尾根から尾根幅が狭くなつて来て岩稜となる。雨風も強くなつて来て、前が見づらい。道をはずさない様苦労する。北薬師岳に着くと、大きな薬師の一部とカール群が時折見える。 ・北薬師岳から薬師岳は細い岩稜をたどる。尾根に出る時は風に飛ばされない様に、下りは滑らないよう注意して歩く。 ・薬師岳のザレたジグザグの下りで○印が途切れ、一寸不安があつたので直ぐ SL とコンパス確認。自信を持って下る。やがてケルンや薬師岳山荘が見えほつとする。 ・尾根道が終ると風は弱まったが、薬師峠迄の樹林帯の中の沢沿いの道は増水していて沢下りかと思う程の水量となり、登山道は見えていない。○印を頼りに歩き易い所を捜す。薬師峠からはのんびりと歩き、太郎平小屋に入る。 ・ルート上のどこの小屋も乾燥室が完備していて有難かった。
参加者	清家(L)、武内(SL)、品田、藤倉、田村、矢野貞、小松、飯合(会友) 男 2 名、女 6 名 計 8 名



越中沢岳とスゴの頭

<638>

木曽駒ヶ岳～宝剣岳～三ノ沢岳 (2956m) (2931m) (2847m)

新谷直恵

7月30日 曇り時々晴れ

5月岳人あびこに入会し、初めての泊まりがけ山行だった。2Bというグレードの実感が持てず、定例集会でリーダーに内容をお尋ねしたところ、「通常は登るところ、今回はロープウェイを利用するから軽いよ」とのお答。新人2人がベテラン2人についていくという形で催行された。

新宿から高速バスを利用して酷暑の東京を抜け出す。駒ヶ根からロープウェイ駅のあるしらび平までバスを乗り継ぎ、そこからロープウェイで一挙に2600メートルの千畳敷へ。その間約8分弱。

満杯の客(多くは観光客)を乗せて20分間隔で運行するロープウェイの終点千畳敷カールは、高山植物のお花畠とあって、一列に並んで歩くほどの混雑ぶり。

その一群から少し離れてお弁当を開く。下界に比べ、吹き渡る風のなんと爽やかなことか。一挙に高地に登ったため、その標高差に慣れるため時間をとつていただいたことを後で知る。

千畳敷から登る途中までは高山植物が点々と咲きほころび、花の前で足を留めながらひとつひとつ名前を教えてもらう。

シナノキンバイ、チングルマ、ツガサクラ、イワツメグサ、ヒメウスユキソウ、ハクサンイチゲ、コバイケソウ、クロユリ、コケモモ、ヨツバシオガマ…

急な八丁坂を登り切ると緩やかな稜線の広がる乗越浄土が現れ、そこにある宝剣荘にひとまず荷物を



千畳敷カールを後に

置き、中岳経由で木曽駒ヶ岳頂へと急ぐ。

山頂には伊那駒ヶ岳神社と木曽駒ヶ岳神社という二つの祠があり、後者には宮司さんがいてお守りやお土産を売っていた。さすが日本百名山。

帰りはなぜか「危険」と標識のある中岳を巻く道を下りながら小屋に到着。眼前には明日登る宝剣の夕景が望め、見晴らしは山頂より良い。その景色を存分に楽しみながらビールで乾杯。「ああ、山登りは素敵」と、翌日の苦労をまだ知らずに感激する。

季節柄、宝剣山荘は満杯で、私たちは別棟の天狗山荘に宿泊したが、4人1部屋でゆったりと休むことができた。だが夜中に頭痛で目が覚めた。ビールを1缶飲んだだけで水をとらなかったため、軽い高山病症状だったようだ。その後の山行では水をたっぷり飲むようにしている。

概念図



31日 曇り時々小雨

翌朝の起床は4時半、5時朝食、5時30分出発。まず奇岩聳える宝剣岳に登る。途中いくつかの鎖場や梯子があり、リーダーの足跡をたどりながらひたすら登るが、下を見ればたちまち恐怖感に襲われるので必死。狭い頂上で記念撮影をするが、私ひとり安全地帯から離れることができない。今来た道を下ることを考えるだけで、その余裕がないのである。下りは南稜を下るが、三点確保しながらまず梯子段を下り、時間をかけて下る。眼下には美しい千畳敷への風景が広がる。



必死で岩場を通過

ほっとする間もなく、千畳敷に下る道を左に見ながら三ノ沢岳分岐点へ。ここから三ノ沢へは2つのピークを越えていくことになる。時折降る霧雨のなか稜線から3つのピークを目指し、アップダウンの繰り返しが続く。

道にはハイ松がびっしりと続き、ピーク付近は大岩群。必死でついて行く私はリーダーに「石が座つていいと言っています」と声をかけると、「ハイ松が歩けと言っている！」とリーダーが答える。仲間に励まされながらひたすら続く長い道を行く。

霧の中に咲く花々が愛おしい。ピークを越えた鞍部に差し掛かると、そのスロープに見事なお花畠が。サツと霧が晴れ青空が出ると、そこはまさに絵画の世界。歓声を挙げ、しばらく見とれる。ここまで足を延ばす登山者は少ないらしく、朝から出会った登山者は3組。それだけに山は静寂に包まれ喜びもひとしおだ。

ようやくたどり着いた三ノ沢岳頂上の大岩からは、空木岳や甲斐駒、北岳などの美しいアルプスの山々が眺望できた。ベテランの2人はこれまで登ってきた日々の足跡を想い、新人の私たちはいつの日か登るであろう美しい山の稜線にそれぞれ想いを馳せた。登山の醍醐味はこの一瞬でもあるのだろう。



三ノ沢岳山頂にて、集合写真

昼食後、今来た道を再び引き返す。雨が降り出し雨具を装着。途中2つ目のピークに差し掛かったところで雷が鳴り出す。疲れ切った足をさらに速める。

極楽平まで来ると可憐なコマウスユキソウやエーデルワイスの姿にまた元気をもらう。そこからは一気に千畳敷に下り、しらび平ロープウェイ駅へ。

帰り道、駒ヶ根バス停手前にあるこまゆき荘の温泉で汗を流して反省会。疲労がたちまち消えるから不思議だ。これは山の醍醐味第2段である。

2日にわたる山行で学びは多く、反省は多々あった。まず事前にコースの全体像を把握しておくことが不可欠なことを改めて思った。地図を見てもまだ山の全容はなかなかつかめないが、コースを知ることで体力配分(配分できるほどの余裕はないが)、気分配分(あともう少しという頑張りがきく)、食料配分などができる。何もわからないまま必死でついて行った山行であったが、とにかくリーダーを始め、仲間に助けられて美しい夏の中央アルプスと、清楚な高山植物を堪能することができた。多謝。



あっちが空木岳方面、
中央アルプス主稜をバックに

概要

山名	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～三ノ沢岳		
月日	平成21年7月30日(木)～31日(金)		
山域	中央アルプス	地形図 1/25000	木曾駒ヶ岳
形式	山小屋	グレード 2B	
目的	1. 中央アルプスの最高峰に登る 2. 高山植物の宝庫に可憐な花々を訪ねる。 3. 岩稜と花と寂峰と変化に富んだ縦走を楽しむ		
費用	約20000円	交通機関 高速バス、バス、ケーブル	
1 日 目	我孫子駅 5:30→中央高速バス新宿発 6:50 →駒ヶ根 BT10:30→千畳敷駅 11:40/12:00 ⇒宝剣山荘 13:20/ 13:30⇒中岳⇒木曾駒ヶ岳 14:15/14:35⇒宝剣山荘着 15:00(系列の天狗山荘泊り) 曇り時々晴<行動時間：3時間>		
行 程	2 日 目	天狗山荘 5:30⇒宝剣岳 6:05/6:15⇒宝剣岳 南稜を経て三ノ沢岳分岐点 7:25⇒三ノ沢岳 10:00/10:30⇒三ノ沢岳分岐点 12:50⇒ 極楽平 13:15⇒千畳敷駅 13:45/13:50⇒しらび平 14:10 (バス) →駒ヶ根「こまゆき」荘 14:50/16:10→駒ヶ根 BT17:00→新宿高速 BT20:40→我孫子駅 21:50 曇り時々小雨<行動時間：8時間15分>	
ル ー ト 状 況	・土、日、高速道路料金が1,000円で利用できるようになり、このため渋滞が激しく伊那方面の山へ行くには時間の計算が出来ない。(JRを利用すると時間がかかるのと料金が高い) これらの理由で平日山行にした。結果的には道路の渋滞にも遭わず、又、しらび平までのバス、千畳敷		

ルート状況	<p>までのロープウェイ等の待ち時間もなく予定通りの時間で行動できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス、ロープウェイの利用で標高 2600mまで一気に上がるので高山病には注意したい。我々も千丈敷で充分時間を取って対応した。 ・乗越淨土から中岳経由木曾駒ヶ岳へは 2 通りのルートがある。中岳を越していくのと中岳をバイパスするルートである。我々は往々に中岳を越していくルート、帰りにバイパスルートを選んだ。但し、バイパスルートには「危険」の標識がたっている。しかし注意して行動すれば問題ない。 ・宝剣岳の登り及び南稜の下りは充分注意したい。中央アルプスの中でも難所といわれている。要所要所にはクサリ、梯子があるが 3 点確保で慎重に行動すれば問題ない。又、ガスが出ていて下が見えなかつたのも幸いした。(恐怖心がなくなる) ・三ノ沢岳へのルートは 2,850m の稜線から 2,847m の山頂まで何回かのアップダウンの繰り返しで思った以上に長く感じた。登山道は尾根筋を忠実に辿れば問題ないが地図上のタイム片道 1 時間 40 分では無理だろう。 ・三ノ沢岳の山頂は三等 3 角点の場所と 20m 位の先にも山頂がある。静かな山頂は我々のみ。曇り空の中辿ってきた木曾駒、中岳、宝剣岳の荒々しい岩壁、中央アルプスの長い稜線が雲の合間にみえて山の深さを感じ、自然の大きさに感嘆する。 * 下山の途中から雨がぱらぱら降り出して一目散に喧騒の千畳敷駅から山小屋で紹介して頂いた「こまゆき」温泉に直行した。(料金は割引で 400 円)
参 加 者	村松(L)、千葉、中村育、新谷 男 1 名 女 3 名 計 4 名



三ノ沢岳山頂直下のお花畠は見事だ

<639>

越後駒ヶ岳 (2003m)

本田愛子

山行計画に山と花を楽しむ越後駒ヶ岳が掲載されていてすぐ参加を申し込んだ。計画書が届いてみると、避難小屋泊りは初めてで食料の担当になっていたので急に不安になってきた。数日前になつて連絡を頂き食料の相談とアドバイスを頂き分担して買物することになった。

当日8月6日午後8時我孫子駅北口に集合、高橋さんと石垣さんの車に同乗させて頂き水上の白樺小屋に11時に到着した。翌朝早い出発なのですが朝食の準備をして就寝した。暗いうち雨の音で目を覚ます。サンドイッチを食べ急いで片付け支度をして5時出発した。小出ICを下り国道352号を奥只見方向へ登って行くと雨もあがり車道から遠くに越後駒ヶ岳が見えた。暫く上がって行くとその先は通行止めになっていた枝折峠に着いた。トイレはあるが水場がなかった。トイレの横登山口から階段や砂利道を100メートル程登る。歩き始めて暫くすると雨が急に降ってきた。雨具を着ると雨が止んでむし暑く台風の影響か降ったり晴れたり……

明神さまの社の辺りで銀の道という銀山平への昔の生活道に合流する。ここから分かれてアップダウンが続いたが左側の眺望も良く歩きやすい道だが雨で所々ぬかるみや水溜りでオタマジヤクシが沢山いるのを見ながら黙々と歩く。少し急登に行くと小倉山の草つきに出る。石の道標に駒ノ湯の方角が記されている分岐点になる。そこから穏やかな登りになり百草の池の標識があったが池は草が茂っていて見当たらない。後で小屋の前から歩いてきた尾根を見下ろすと池が良く見えた。

急斜面が続いて見晴らしの良いところが前駒ヶ岳の頂点だろうと思うが雨で何も見えなかつた。晴れていれば駒ヶ岳が見えると記されている。この辺りから森林限界になり尾根歩きが暫く続き岩稜歩きになって急登になり鎖場を登りきると目の前に小屋が現れた。小屋の前に雪渓からパイプで引いた水場があるが雨のせいで水が濁っていた。小屋の入口で雨具を脱いだが下着まで汗と混じりびっしょり濡れてしまった。

夕方に雨も上がり小屋の外に出てみると、明日登る駒ヶ岳山頂、遠くに日本海や尾瀬燧ヶ岳、至仏山、上州武尊岳と目の前の荒沢岳には駒ヶ岳の

影が映り、影駒ヶ岳に感動した。遠くに虹が見えて素晴らしい景色を味わうことが出来て雨の中を登ってきた甲斐があった。夜は小屋の中で具沢山のうどんやサラダを作つてささやかな宴会をした。この避難小屋は夏場だけ管理人が居て平日だったので14名で毛布もマットも充分使って暖かく泊まることが出来た。ちなみに料金は2千円だった。



雨上がった？快適な駒の小屋から顔を出す
4姉妹？？ 窓から子ウサギが見えた。

翌朝トタン屋根に当たる雨音で目が覚める。朝食はレトルトカレーを温め、採れたてのきゅうりにお味噌をつけて美味しく味わつた。まだ濡れている雨具を着て山頂に向かう。20分位登ると中の岳への分岐を右に少し行くと山頂だった。あまり広くはないが小さな修験者の像が立つていた。残念ながら360度の景色も雨で真っ白で、記念写真を撮って下山した。雪渓も今年は小さかったらしい。この時期にしては花も少なかつたがニッコウキスグ、ハクサンコザクラ、イワカガミその他数種の花が見られた。

下山も雨が降ったり晴れたりと不安定な天氣で蒸し暑くアップダウンの連続を黙々と下る。登りより下りのほうがずっと長く感じられた。汗と雨でびっしょりとなって枝折峠に着いた。靴を新聞紙に包み雨具をビニール袋に入れて車に乗つた。車で里に下りた所に大湯温泉があり立ち寄つて汗を流し湯につかってサッパリした。小出のへぎの上に乗つたおソバに舌鼓して、小出から関越道で我孫子に帰つてきた。今回の山行は雨の中をひたすら歩き小屋の中での自炊、避難小屋泊りと私には初体験でしたが同行の方達の手早い準備や後片付け等々はとても参考になり貴重な経験をさせて頂き感謝しています。リーダーの高橋さんや同行の皆様には色々助けていただいたりご指導を頂きありがとうございました。

概要

山名	越後駒ヶ岳		
月日	平成 21 年 8 月 6 日(木)～8 日(土)		
山域	越後	地形図	1/25000 八海山、奥只見湖
形式	避難小屋泊	グレード	3 B
目的	越後の山と花を楽しむ		
費用	約 12,000 円	交通機関	自家用車
前夜	我孫子駅北口 20:10 → (関越道) → 22:30 水上 IC → 23:00 白樺小屋		
行程	1 日 目	小屋 5:05 → 水上 IC 5:20 → 小出 IC 6:12 → 枝折峠駐車場 6:55/7:15 ⇒ 8:05 大明神(十合目) ⇒ 休憩 8:43/9:43 ⇒ 9:25 道行山 ⇒ 休憩 10:07/10:17 ⇒ 10:36 小倉山 ⇒ 休憩 11:16/11:26 ⇒ 百草の池 11:40/11:50 ⇒ 休憩 12:42/12:52 ⇒ 駒の小屋 13:30 (泊)	
		<行動時間 6 時間 15 分>	
2 日 目	ルート状況	駒の小屋 5:35 ⇒ 駒ヶ岳山頂 6:00/6:07 ⇒ 駒の小屋 6:20/6:35 ⇒ 小倉山 8:30/8:40 ⇒ 明神峰 10:50/10:57 ⇒ 駐車場 11:25/11:50 ⇒ 湯之谷交流センター 12:25/13:20 ⇒ 小出 (そば) 14:10 ⇒ 小出 IC 14:25 ⇒ 柏 IC 17:45 ⇒ 我孫子 18:20	
		<行動時間 5 時間 50 分>	
参加者	高橋重(L)、田村(SL)、石垣、佐藤明、品田、小松、本田 男 3 名 女 4 名 計 7 名		

概念図



土砂降りだった雨もあがり夕食後に小屋前で！！



駒ヶ岳頂上：貴重な一等三角点も雨、猿田彦も冷たそう！



<640>

切込湖～刈込湖

細野清子

ヤナギランあるやなしや

参加者を募集したところ1名の希望者のみ。実施するかどうか迷ったが、ヤナギランが見たい思いが強いようなので山行を実施する。友人夫婦を誘ったり、後から1名申し込みがあつたりで結局6名の参加者となった。

日光に近づくにつれ霧が出ていたり雲がたれ下がっていたり道路に水溜りもあり、天気が気になる。東武日光駅で乗り合いジャンボタクシーに『バス代と同料金で行く』ということで、相乗りで光徳牧場まで行き、帰りも約束し迎えに来て貰うことにする。

おかげで予定より30分早く到着した。ところが光徳牧場に降りたとたん大粒の雨。『どうやら一日持ちそうだねと』ほつとしていた矢先だけに、ショック。空は明るいのでザックカバーをかけて登る準備をし、牧場の絞りたて牛乳でのどを潤したり、そうこうしているうちに雨が上がった。地図上ではキャンプ場の手前の道を行くことになっているので歩き始めたがどうも妙なので、『入り口は?』とたずねると親切にこちらですと案内してくれた。いきなりミズナラの樹林帯。『少しきついなあ』と思うと登りが終り平らになつたり下ったりの繰り返し。

段々と登っていくと今度は原生林。苔むした大きな木々が悠然と何本も立っている。ぱらっとまた雨が降る。ザックカバーを付けたり外したり2～3回。合羽は着るほどでもない。やがてズミの気がたくさんある山王見晴らしにでた。分岐では山王帽子山・太郎山へと表示板。目の前には山王帽子山、左手には於呂俱羅山。分岐を左手にとり坂を下る。その中腹から涸沼がみえる。たくさんの黄色い塊が見える。こんなに高いところからはっきり見える花は何の花?だんだん下っていくと『マルハダケブキ』の花だということがわかつた。あちこちに塊りをつくり咲いている。肝心のヤナギランの姿はどこにもない。これで今日のやまなみは私が書くことに決定。ヤナギランが咲いていたら中村育さんが書くことになっていたのに…。

涸沼では多くの人が弁当を食べていた。光徳牧場からは乗り合いタクシーで一緒だった3人と私達だけだったのに。私達も弁当を広げる。友人夫婦が大きな梨をむいてくれた。みずみずしいその梨は渴いた喉を潤してくれた。

まあナントきれいな水の色

涸沼を過ぎるとまたココは原生林・ダケカンバの林・ミズナラの林と樹林帯がはつきり区別したように生えていて面白い。30分ほど小さなアップダウンを繰り返し登りくだりすると湖が見えてきた。最初に切込湖。眼下にしてとおりすぎるとやがて刈込湖も見え湖畔に3人ほど憩っている人の姿が見えた。私達も下りて見る。『まあナントきれいな水の色でしょう』水際から1mほど透明。そしてその先は濃い目のコバルトブルー。きっと相当深いのでしょう。遠くに目をやると湖面に山の姿や緑に苔むした岩の姿がそのままの色で映し出している。

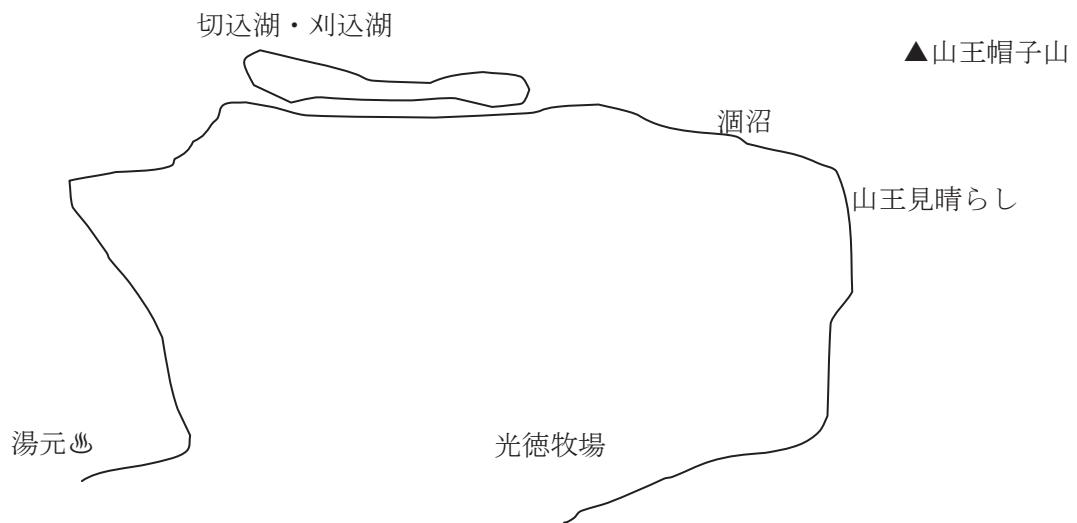


なかなか離れがたい思いだったがしばらくここで遊び、登山道に出る。皇太子様雅子様ご夫婦が来られたらしく、登山道の木の階段は未だ新しく整備が行き届いていた。名も知らない小さな紫の花の群落が見られたり、湯元までの道も楽しかった。小気味よいアップダウンの山。たまにはこんな山行も暑い夏にはよいのでは?

湯元では乳白色の湯で汗を流し、コーヒーで乾杯した。帰りもジャンボタクシーを頼んでおいてよかったです。各バス停には多くの人が列を作って待っていたから。おかげで40分ほど早く日光駅に到着。夕飯の弁当を買い込み余裕で電車に乗れた。

切込湖・刈込湖概念図

▲於呂俱羅山



概要

山名	切込み湖・刈込み湖		
月日	平成21年8月9日 [日]		
山域	日光・奥鬼怒・奥日光	地形図	1/25000 男体山
形式	日帰り	グレード	1A
目的	①消滅寸前のヤナギランを一目…見たい ②原生林に囲まれた静かな佇まい		
費用	6790円	交通機関	東武、乗合タクシー
行程	我孫子駅 5:30→北千住 6:31→東武日光 8:27 /8:35→光徳牧場 9:12/9:35⇒山王見晴らし 10:45/10:55⇒涸沼 11:30/12:05⇒切込み湖 12:55⇒刈込み湖 13:00/13:15⇒小峠 13:50⇒車道 14:15⇒湯元温泉 14:25/15:25→東武日光 16:10/16:59→北千住 19:28/19:38→我孫子 20:00 <歩行時間 3時間40分>		
ルート状況	・皇太子ご夫婦が歩かれた後なので、登山道は整備がいき届いていた。特に刈込み湖から小峠まで木の階段が多かった。 ・光徳牧場からの登山口は、地図上ではキャンプ場の手前を入ることになっているが、キャンプ場の先をはいる。[私の地図が古いのかもしれないが・・・]		
参加者	細野清(L)、細野省、箕輪カ、中村育、中村久一(ゲスト)、中村映子(ゲスト) 男2名 女4名 計6名		



刈込湖：鏡のような湖面が山の姿を映し出す



休憩場所で集合写真

<6 4 1>

編笠山～権現岳～赤岳 (2524m) (2715m) (2899m)

田村光子

岩稜、鎖場、長長い梯子 でも、大満足の縦走

1日目

この日程で初めは餓鬼岳から燕岳に行くつもりであったが、ちょっとした手違いで、新宿からの夜行列車に乗ることが出来ずに、山行を取りやめざるをえませんでした。

中1日おいて参加者全員がまだ行っていない八ヶ岳の権現キレットに行くことになった。

天気も良く観音平から編笠山に登る。以前来た時は青年小屋から登り押手川分岐を通り観音平に下りた。今回はその逆である。押手川分岐からは大きな石がごろごろしていて、かなりきつい登りであった。頂上には何人もの人がいて、私たちも昼食を取った。青年小屋への下りは大きな石が重なり合っていて、足を踏み外さないように、飛び越えるように下りた。青年小屋でトイレタイムを取り、次の日の行動時間を考え、権現小屋まで行くことにする。途中なでしこが咲いていて、今までの疲れがいっきに吹き飛んだ。幾つかの岩場を注意して通過すると、小屋に到着しほっとする。

小屋はわれわれの他に1名しか宿泊する人がいなく貸切状態で、天気が良かったので、外で一日の疲れを取る為祝杯をあげる。



権現岳と権現小屋

2日目

夜中から風が強く吹いていて、朝には止んでほしいと思いながら、よく寝る事が出来ずに朝を迎えた。朝ご飯前にご来光を見ようと権現岳に登ったが、良く見る事が出来なかった。6時に小屋を出発した。風は思っていたほど強くなくほっとする。権現岳からキレット小屋までは岩稜帯、鎖場、長長い梯子と緊張の連続で、息を抜く事ができない。

キレット小屋は建て替えられたばかりですばらしく、そこで小休止する。小屋から赤岳に行く途中ですれ違った人は2人だけで「足場が悪いので気をつけてください」と言われた。赤岳の頂上までは岩稜の連続で一難去って又一難と言う感じで、気をつけて登る。

頂上は百名山だけあって大勢の人でぎわっていた。われわれも記念写真を撮り、文三郎尾根を下る。道はガレ場で非常に歩きにくく、一步一歩慎重に下りる。途中で若者が足を怪我したらしく、びっこを引きながらゆっくり下山しているのを見て、われわれも滑らないように最善の注意をはらう。美濃戸山荘に着いた時にはほっとした。

2日間の汗を流す時間が気になり、山荘からバス停まで自然と足が速くなり、おかげでゆっくりお風呂に入る事が出来、小淵沢で反省会をし、帰路に着いた。

今回の山行で私事ですが、八ヶ岳が西岳から北八ヶ岳まで地図上を一本でつなぐ事が出来、とても満足する事が出来ました。ほんとうにありがとうございました。



キレットと長長い梯子

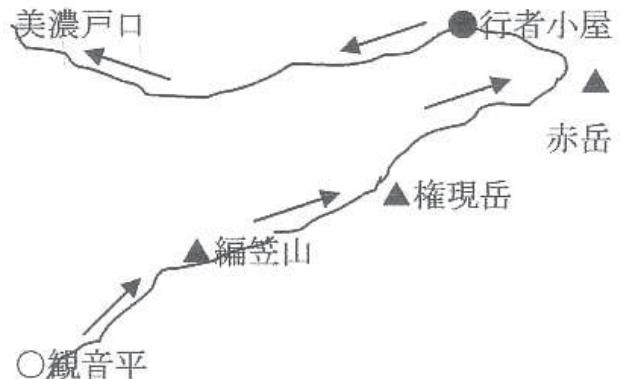


赤岳山頂にて集合写真きまりのポーズ

概要

山名	編笠山～権現岳～赤岳		
月日	平成21年8月14日～15日		
山域	八ヶ岳	地形図 1/25000	蓼科、美ヶ原、霧ヶ峰
形式	山小屋泊	グレード	3C
目的	キレット通過岩稜尾根を楽しむ		
費用	約23000円	交通機関	JR、タクシー
1 日 目	我孫子駅集合発 5:30→新宿駅 6:27/7:00(スーパーあづさ1号)→小淵沢駅 8:54/9:03(ジャンボタクシー)→観音平 9:20 登山開始 9:30→雲海展望台 10:22 押手川分岐 11:05/11:15⇒編笠山 12:40/13:00→青年小屋 13:25/13:35 権現小屋着 15:00 <歩行時間 4時間25分>		
行程 2 日 目	権現小屋 6:00 発⇒旭岳 6:45⇒キレット小屋 7:40/7:50 信教寺尾根との合流点 9:25⇒赤岳山頂 9:42/10:00⇒キレットへの分岐点 10:05⇒文三郎への分岐 10:24⇒行者小屋 11:12/11:25⇒美濃戸山荘 13:15/13:20⇒美濃戸口バス停 2:15 着 <行動時間、計8時間> 美濃戸口 13:00(ジャンボタクシー)→小淵沢駅 15:25/16:17(反省会)(ビューやまなし2号)→新宿駅 18:56/19:05→日暮里 19:25→我孫子駅着 20:00 (解散)		
参加者	高橋英(L)、佐藤健(SL)、外崎、原田和、田村、千葉、佐藤明 男3名 女4名 計7名		

概念図



< 642 >

摺古木山～安平路山～越百山 (2169m) (2363m) (2613m)

清家三保子

中央アルプス南部の秘峰への挑戦

何年前のことだったんだろうか、「故郷の山」という話題があった頃、私の故郷飯田から入って中央アルプスを縦走したいと思った。

地図を買い調べて見ると、大平まで歩くのも1日かかるし、避難小屋の鍵は飯田のスポーツ店で借りるとかで、ほぼ諦めていた。そしていつか摺古木山だけにでも行こうかなと思っていた。

越百山・南駒ヶ岳・空木岳は以前村松リーダーで縦走した。今回は飯田から越百山までである。飯田は新幹線なし飛行場なし、JRも乗り継ぎありの6時間はかかる。バスが新宿・飯田間4時間15分で最も早い。こんなだから、より自然が残っているのだろう。

1日目

高速バスの19:30分に乗車し、飯田に24:08分に着く。リーダーの交渉で翌朝利用する「飯田タクシー」の乗務員宿舎に泊めて戴く。畳敷きの部屋に親切に案内して下さる。リーダーはクーラーまで付けてしまった。タダで泊めてくれて、翌朝は気持ち良く送って下さる。飯田の人はいい人だなあ。

2日目（小雨）

まずはタクシーで大平（おおだいら）に着く。私は中学生の頃、南木曽に住む伯父の家に何度も行った。山の中の一軒家が好きだったからだ。五十年も昔は飯田からバスが通っていた。大平

峠で休憩のときはバス酔いでゲーゲーしたけれど、それでも行った。懐かしい大平はひとけが全くなかった。でも荒れていない。ドライバーさんの話では、昭和45年に集団離村し無人となつたが、地元の飯田山岳会などが中心となり「大平宿を残す会」ができ、現在も維持管理されているとのことで昔のままなのだ。

大平宿からは小雨のパラつく悪路を1時間程進む。大雨でえぐれた道や落石をうまくよけながら進んでいたタクシーも、とうとう工事中の看板でどうしようもない。まだ予定の3分の1程しか進んでいないが仕方ない、林道を歩き始める。

最初の目的地摺古木自然園には8:30分に着く。ここから2時間弱で登れる摺古木山は、自然園まで車で入れば格好のハイキングができる、石楠花が良いと宣伝され少し知られて来た。登山道も整備されていて歩きやすい。

誰にも会わず静かな山歩きをし、山頂に10:20分。眺望は少なく樹林の中の山頂なのに一等三角点がある。白びその木が多く地面は笹の緑で埋められている。ここから1時間強で白びそ山である。山頂は登山道の途中にあり見落としそうだ。何故か山頂を記す板や、道標は地面に置かれていることが多い。

白びそから下ること15分程で明るく開けた所に出る。しっかりしたログハウスの安平路避難小屋に着く。林道を余分に歩いたといつても、まだ12:20分だ。さっそくおじいさんは川に水汲みに、おばあさんは箒で部屋を掃除し、小屋ひとりじめである。

夕方までに2人程、日帰りとかで安平路山から大平方向へ下って行った。若い男性2人のパーティーは、小屋横でテントを張る。やはり安平路山のピストンで、その先へ縦走する私達をうらやましがっていた。部屋いっぱい好きに荷物を広げ、楽しい夕餉のパーティー。好きな場所にころがり早めに眠りに着く。

概念図





安平路小屋と安平路山

3日目（雲、晴）

さあ、長い一日の始まりだ。朝食は早く出るため湯のみ沸かす。好みのカップ麺等食べる。これは片付けも楽で良い方法だ。ヘッドランプがいらなくなつた 4:45 分に出発する。10 分程歩いたところの登山道すぐ脇に水場がある。ここから 30 分程、急な笹の中を登ると安平路山山頂だ。ここも樹林の中だ。

これからが大変だった。背丈を越える笹藪で周りは全く見えない。平泳ぎの要領で笹を搔き分け進む。なるべくくっついて歩くが、すぐ前後誰も見えなくなる。

先頭を交代して歩く。たった 15cm 位の笹の中の道が度々塞がって消える。背伸びして笹を見渡すと、数メートル先にわずか笹の段というか線が見える。その方向を目指して搔き分けて進むと、再び 15cm 程の道が見つかる。そして色褪せたテープを見つけるとホッとする。コンパスで方向があついていても、30cm ずれたら進めない。笹に負けて消えた 15cm の道を捜すスリルと見つけた嬉しさを、しばらくは感じていた。しかしあまりに長い。



背丈を越す笹藪を進む

順調に進んでいたが、広めの道で石ころも増え、おかしいなと思った時は、沢筋に入っていた。すぐにテープのところに戻るのに、少しの距離なのに、今歩いた道は分からぬ。何と凄い藪の回復力だろう。迷つたら、パニックしたら、天気が悪かつたらと恐さも感じる。後で小屋で聞いたが、6月に 63 歳の女性が迷つて、未だ分からないという。

靴ひもを何回も工夫して結んでも、しっかり結んでも解けてしまう。それも全員だ。今迄にない藪の凄さだ。リーダーが後ろから見渡し、道を指示してくれる。方向は合っている。

奥念丈岳にやつと、やつと 12:00 過ぎに着く。少し開けたところで昼食などをとり、先が見えたかなと、少しホッとする。今までぐらの様な思いだったのに、東方向には南アルプスが広がっている。

ギザギザしている鋸岳から南端の光岳まで、見事に屏風の様に広がっている。しばらくはハイマツやシャクナゲの明るい尾根を歩く。かなり崩壊した場所は越百川源頭だろう。このまま南越百山まで行けるかと思ったのに、再び平泳ぎの世界に突入する。

やっかいなことに笹と共に灌木や弾力のあるシャクナゲに押し戻される。体力も相当消耗してしまうが、進まないことには小屋に着かない。



南越百山山頂にて

南越百山についた時は 16:00 過ぎ。やっと藪から解放されほつとする。再び南アのパノラマ奥秩父、八ヶ岳、御嶽山、乗鞍岳と 360° のご褒美を堪能し、ここからは明るい尾根を疲れをほぐすように歩く。

リーダーは予定より遅れる旨を小屋に連絡したいと、携帯を試すが通じない。

越百山山頂には虫の息の敗残兵の如く着く。小屋とも連絡がとれ、ゆっくり行こうとリラックスする。苦労して歩いて来た山々を振り返る。晴れている山頂で写真も撮る。薮は雨やガスでなくて良かったと改めて思う。

越百小屋に 17:45 分に着く。早々「荷物を置いてすぐ食事にしてくれ」と小屋の主人に言われる。缶ゴミを払う余裕も水を飲む余裕もくれず「早く食事にしてくれ」ばかりだ。あげく「遅い」だの自分の自慢だの話しまくり、ビールも「食事の後にしてくれ」と言う。

ビールはまずかった。朝 4:45 分から 13 時間も行動し、やり遂げた後のビールなのにまずかった。以前、避難小屋に泊まった時は、我々パーティーのみで、わざわざ呼びに来て、小屋でコーヒーをご馳走してくれた。今は登山客が増え（越百山が 300 名山になった）主人は、ひげ面は同じだが変わってしまった。

4 日目（晴）

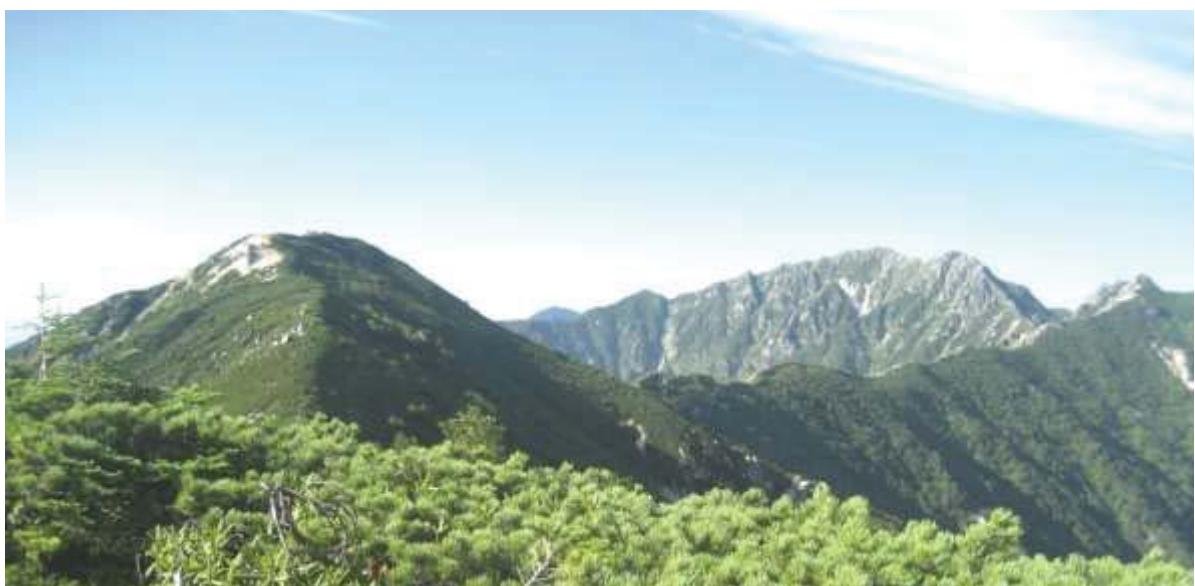
小屋の主人がタクシーに連絡を入れてくれると、いうことで、福柄平 9:00 予約で 6:00 に出発する。福柄平に 8:34 分に着き、ゆっくりしていると、後から来たパーティーにゲートまでしか車が入らないと教えられた。半分走るようにしてゲートに向かい 9:18 分無事タクシーに乗った。何という小屋番、福柄平と言ったのに。

木曽恋路の湯に入り、すっかり気分も良くなる。木曽福島発 15:40 分の高速バスまで、2 時間程あるので市内を歩く。木曽川に渡るしっかりした橋の元に御嶽登山道の石柱があり、入ったそば屋さんの写真には、昔の白装束の団体が写っている。さぞかし昔は木曽福島も信仰登山で賑わっていたのだろう。

こぢんまりした市内を回り足湯を見つける。靴を脱ぎ熱めの湯に足を浸す。そこへ大学生のマスコミ研究とかで可愛い女性が大きなカメラを抱え「取材させて下さい」と。リーダー氏ニコニコと O.K. する。質問に答えたり、写真を撮られたりする。最後に「木の幹みたいな足ですね」と褒められる。そして 8 本のさまざまな形のたくましい幹に感謝する。本当に故郷の山懐を歩き回ったなと穏やかな気分で幕を閉じた。



越百山山頂にて



南越百山からの中央アルプス。
越百山(左)南駒ヶ岳(中)仙崖嶺(右)

概要

山名	摺古木山～安平路山～越百山			
月日	平成21年8月21日（金）～24日（月）			
山域	中央アルプス	地形図	1/25000 安平路山、空木岳	
形式	避難小屋、山小屋泊	グレード	4C	
目的	1. 中央アルプス南部の秘峰への挑戦 2. 背丈を越える笹藪を分け、道なき道を辿るダイナミックな縦走。 3. 中央アルプス、メイン縦走路（木曾駒ヶ岳～摺古木山）の連結			
費用	約20000円	交通機関	高速バス、タクシー、JR	
行程	1 日 目	我孫子駅発 18:27→中央高速バス新宿発 19:30→飯田BT 24:08→飯田タクシー24:13（乗務員宿舎に泊）		
	2 日 目	飯田タクシー発 5:35→大平宿林道下車地点 6:45/7:00⇒摺古木自然園口 8:30/45⇒摺古木分岐 9:45⇒摺古木山 10:20/35⇒白ビソ山 11:50⇒安平路避難小屋 12:20（泊）		
	3 日 目	安平路避難小屋発 4:45 ⇒安平路山 5:30/40 ⇒浦川山 7:20 ⇒袴腰山 9:40 ⇒奥念丈岳 12:25/45 ⇒南越百山 16:03/20 ⇒越百山 16:50/17:00 ⇒越百小屋 17:45（泊）		
	4 日 目	越百小屋 6:00 ⇒四合目 7:58 ⇒福栄平 8:34/50 ⇒登山口ゲート 9:18（タクシー）→木曾恋路の湯 9:50/12:10 →野尻駅 12:30(JR)→木曾福島 13:10/15:40（高速バス）→新宿駅 20:30→我孫子駅 22:05		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 予定では翌日の早朝出発の予定だったが不確定要素が数多くあるので前日の遅いバスの利用で出発した。仮眠は飯田タクシーの従業員の宿泊所を利用させて頂いた。 大平宿から自然園休憩舎までの林道は荒れているのと工事中のため約3分の1位の所でタクシーを降ろされる。それから雨の中を1時間30分余計歩く。 1等三角点の安平路までは笹の刈払いがしてあって登山道としては歩きやすい。 安平路避難小屋は約15名位の収容が出来る。入口が土間で奥が一段高くなつて床張りの清潔な小屋です。但しトイレはない。水場は安平路山に向かって10分位の登山道のすぐ脇にある。 安平路山から先は南越百山までは背丈を越える笹藪との格闘が始まる。特に浦川山、松川乗越、奥念丈岳、周辺は酷い。背丈を越える笹藪のため周囲は全然見えず、前の 			

ルート状況	<p>人も後ろの人も見えなくなる。ただひたすら下を見ながら笹を手で搔き分けながら進む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笹藪のためルートが非常に取りにくい。人もあまり入っていないのでルートが不明瞭で何回も確認しながら進む。特に尾根が変わる場所では高度な読図力と細心な注意力が必要だ。その場所は浦川山の下り、袴腰山、奥念丈岳、南越百山への登り等。 ・奥念丈岳を過ぎると笹藪に混じって石楠花の木が行く手を阻んでくる。 ・南越百山に着くと笹藪、石楠花の密藪から開放される。此処まで12時間近く笹藪と格闘した事になる。 ・越百小屋は以前（数10年前）と違って日本300名山になった関係から登山客が増えて、対応がずさんで良い小屋とはいえない。隣に避難小屋があるがこれも管理していて一人利用料が2000円だそうだ。（避難小屋にしては高い） ・越百山登山口の福栄平までは一般車は入れないので注意が必要だ。その先の伊那川ダムのゲートまで歩かなければならない。（以前は入れた） ・野尻にある木曾恋路の湯は廉く（400円）、特に露天風呂から見る先日登った三ノ沢岳の展望がダイナミックです。 ・木曾福島からの高速バスは1日2便（朝、午後）なので注意が必要。
参加者	村松(L)、清家、武内、青山 男2名 女2名 計4名



空き地を見つけて一休み
奥念丈岳への登りにて

< 6 4 3 >

笛子川大鹿沢平つ沢（すみ沢）

千葉有子

平つ沢遡行に集まつたのは6名。季節は盛夏。空は青く澄み、冷たい清流が気持ちいい。最初はみんな面白がつて、小さなゴルジュをシャワークライムしたり、進んで水の中に足をドボンさせたりしていたが、単純な渓相に飽きてきた。トップを行く小谷さんからはため息さえ漏れる。

気分転換にしばし休憩して歩き始めると、すぐに30mモチケ滝に遭遇。しかし、唯一ザイルを使うはずのこの滝が、今日は水流が多く直登困難。仕方なく左岸を巻いて上に出ると、10mのナメ滝。6m滝は右のクラックに由布さんが挑戦するが、上部がツルツルで難しく断念。英さんが左の倒木を利用して上へ抜ける。そこで登場したのが、沢幅いっぱいに広がる50mのナメ。ひたひたと足を浸しながら、みんなてんでに登る。水の感触を味わい、木漏れ日を浴び、涼風が頬を撫で、すべてが心地よい。やっぱり沢は真夏がいい。

ナメが終わればここで沢は終了。登山道へ出る予定だったが、地図を広げメンバーで相談。登山道を利用すると、このまま下山するか、あるいは大谷ヶ丸方面へ回り込むようにして滝子山に登ることになる。しかし、このまま沢を詰めれば、浜立尾根へ近道が可能だ。みんな納得して（少し強引だったかも）遡行続行に決定。磁石・高度計で方向や高度をチェックしながら、下の二股、上の二股を確認。上の二股で南南東方向へ向かう支流へと進路をとる。

すぐに沢は潤れ、枯れ枝や泥の入り混じった谷筋を登っていく。途中「こんなものが落ちてる」と、重さんが拾い上げたのは素朴な風情の茶碗一个。土の中に埋もれていたのに、欠けたところも無く、きれいな形のまま。この近くに小屋でもあったのだろうか。しばし茶碗の主に思いを馳せる。

倒木が折り重なって進むのが困難になったところで、右の支尾根に上がり、けもの道を拾いながら稜線を目指した。登山道のある稜線に飛び出て、少し右に進むと浜立山頂が確認できた。よかったです。地図読みは間違つていなかつた。

ここで装備解除。ひたすら浜立尾根の急な下りを消化し、林道へと降り立つた。



モチケ滝： 1段を登るが落ち口水量多し



クラックを登るが？： 5mほどのナメ滝は右のクラックが登れそうだが上部がヌメヌメ。



12時18分 5mナメ滝上で

概念図



概要

山名	笛子川大鹿沢平つ沢（すみ沢）		
月日	平成21年8月22日(土)		
山域	中央線沿線	地形図	1/25000 笹子
形式	日帰り	グレード	2B
目的	夏の沢遊び		
費用	約3,000円	交通機関	JR
行程	我孫子駅 5:33→新松戸駅→西国分寺駅→高尾駅 7:22/7:26→大月駅 8:20/ 8:30(ジャンボタクシー)→滝子山登山口(平ツ沢入渓点) 8:50/9:18⇒3m滝 9:23⇒5m滝 9:50⇒7m滝 10:16⇒モチケ滝 11:24/11:50⇒8m滝 11:57⇒ナメ滝 5m 12:12⇒二俣 12:45⇒さらに上流の二俣 13:15⇒浜立山 14:05⇒平坦地で着替え 14:10/14:30⇒滝子山登山口(入渓点) 15:50⇒笛子駅 16:50/17:05→相模湖駅(反省会) 19:40→我孫子駅 21:35 <遡行時間 3.5~4時間 歩行時間 2時間 50分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模な沢ながら水量多く、苔がついて滑りやすい個所もあった。 ・中流部はやや平凡で退屈する。 ・核心部のモチケ滝は1段途中までは何とか登れるが、そのあとは水量多く、足場も取れず困難。右壁はホールド、スタンス乏しい上に丸みを帯びた滑りやすい岩の状態で登れない。左岸に巻き道があり。落ち口へトラバースする際、左側が滝に向って切れ落ちていて注意が必要。 ・浜立尾根は大鹿沢の一般登山道と合流するまで急降下の斜面が延々と続く。 		
参加者	千葉(L)、高橋重(SL)、外崎、高橋英、小谷、由布(ゲスト) 男3名 女3名 計6名		



ヒタヒタと歩き、源流をツメて、
浜立尾根に上がった

<644>

仙丈ヶ岳～アサヨ峰 (3033m) (2799m)

外崎 蓮

8/28 野呂川のほとり、両俣小屋に泊まる

「まだ仙丈ヶ岳に登ったことがない」と言うと、山仲間が不思議がるほど、それは人気の高い山だ。しかしど登るとなると、北沢峠からの往復だけではつまらない。そんな折り、両俣小屋から仙丈ヶ岳に登り、さらに早川尾根を歩いてきたという話を村松さんから聞いた。翌年、私は実行することに決めた。この計画に乗ってくれたのが武内さんと重さん。私にとっては、二人とも気心の知れた頼もしい男性たちだ。

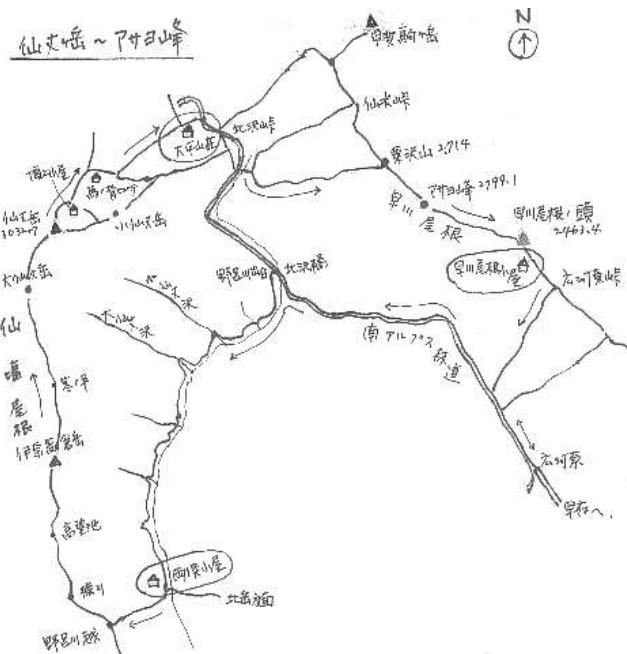
甲府駅に着くと、タクシーの運転手が寄ってきて車に乗らないかと誘う。広河原まで一人 3000 円で、今からだと北沢峠行き 9 時半のバスに間に合うという。少し気持ちが揺らいだが、急ぐ旅ではないからと断った。バスはウィークリーのため駅前を 9 時半に出発し、芦安温泉、夜叉神峠を越えて広河原に 11 時半ごろ着いた。ブルーのテントの下で、北沢峠行きのバスを待つ。どんな順番でバスに乗るのだろうと思っていると、そんなルールがあったのか、誰かがザックを道端に置いた。すると、それに習って次々と一列に並んでいく。

15 分ほど揺られ、北沢橋の架かる野呂川出合でバスを降りた。降りたのは私達の他に 3 人。バスは T 字路を右手に行ってしまった。私達は野呂川に沿って反対方向に歩き出す。野呂川には、右上方の仙丈ヶ岳と左上方の北岳から、何本も沢が流れ込んでいる。重さんは学生時代、合宿でこれらの沢を登下降したことがなつかしいと話してくれた。深い谷間の道は、台風などで壊れやすいのだろう、あちこちで大規模な補修工事が行われていた。2 時間歩いたところで、砂利道から河原へと導かれる。岸辺をさらに 20 分。思い描いていた通りの小さな両俣小屋にたどり着いたのが 3 時であった。

「なかなか行けない山小屋に泊まってみる」今回の山行の目的の一つでもある。予約のいらない、温かな雰囲気の小屋だ。管理人さんが女性だからだろうか。山奥のたった一軒しかない小屋で、アルバイトの若者を使って、一人で切り盛りしている女性とはどんな人なのだろう。あとで知ったが、桂木 優というペンネームで「41人の嵐」を執筆

しているという。暗くなると、常連の釣り客が集まってきて、奥の食堂がいっぱいになった。両俣小屋は、釣り人にとってもなくてはならない小屋のようだ。消灯は 8 時。枕元に川の流れが聞こえてきた。

概念図



8/29 大仙丈ヶ岳斜面のお花畑に息を呑む

4 時半に朝食を出してくれる山小屋はあまり聞かない。本当にありがたいことだ。出発時、玄関の外に出てきた管理人さんが「何かあったら無理しないで戻っておいで」と、背後から声をかけてよこす。小屋の左手の草むらを行くとお宮がある。ここで北岳方面と仙丈ヶ岳方面に分かれる。ここから仙塩尾根に出るまでが激しい登りで、息があがって 2 回も休んだ。昨夜同宿した九州から来たという男性が、野呂川越に先に着いていた。今夜は塩見小屋に泊まるという。写真を撮りあって左右に別れた。

仙塩尾根は仙丈ヶ岳と塩見岳をつなぐ長い尾根だが、2 年ほど前、山伏峠から三峰岳まで半歩いた。今回は、野呂川越から仙丈ヶ岳まで後半をつなぐ。(三峰岳から野呂川越までは抜けている) 尾根の左手が長野県で、右手が山梨県。まもなく四等三角点の横川岳に着く。忘れ去られたような静かな山頂だ。深い樹林の中の道はとても歩きやすい。2499m の独標から 20 分ほど行った先

の高望池は、干上がっていて池とは思えないが、梅雨時には水を溜めるのだろうか。さらに 10 分ほどで三等三角点の伊那荒倉岳に着く。ポッカリと天井の分だけ明るい。立ち木の根元にテント禁止の看板があった。

少しづつ木々の背丈が低くなり、林が明るくなってきた。苅の平に来ると、盛りを過ぎたマルバダケブキが、道の両側と林の中一面に群落を作っていた。それまで無かったハイマツも出てきた。さらに高度を上げて樹林から抜け出すと、遠くに仙丈ヶ岳の峰々が姿を現した。感激の一瞬。奥仙丈ヶ岳を右に巻き、ガレ場を越えて大仙丈ヶ岳の登りにかかる。



仙丈岳への岩稜(三軒岩小屋沢源頭付近)

そこには予期しない光景が繰り広げられていた。はるばると歩いてきた者へのご褒美だろうか。登山道の両脇と左手の砂礫の斜面一面が、色とりどりの花々で覆いつくされていた。自然是時として、人間には出来そうもないプレゼントをしてくれるものだ。これほどのお花畠を作るには、霧の通り道とか、光りの当たり具合とか、風のない場所が関係しているのだろう。北沢峠を往復する沢山の登山者が見にきたら、お花畠はたちまち壊れてしまうに違いない。重さんと武内さんは、傑作を撮ろうと懸命だ。一登りで大仙丈ヶ岳に着くと、花とは無関係そうな若者が一人、ビールの缶を脇に置いて仕出しのお弁当を食べていた。彼だって楽しいに違いない。12 時丁度、ついに仙丈ヶ岳に到着。登山者で賑わっている。



仙丈岳山頂にて

小仙丈ヶ岳方面からも行列を作って登山者がこちらに向かってくる。女性的な山と言われる仙丈ヶ岳も、見る方向によっては決してそうではないと思った。何しろ大きな山だ。カールの中の頂上小屋に下りてきて休憩する。元は避難小屋だったものが新しく立て替えられ、有人小屋となった。庭端の風当たりのいい場所に、風力発電の柱が何本も立っていた。二階のベランダにいた管理人らしい人が、「台風 11 号が近づいてるよ」と下にいた登山者に話しかけている。こんなに穏やかなのに、本当に来るのだろうか。

小屋の前のガレた道を下り、ダケカンバの林になると、馬の背ヒュッテが見えてきた。ヒュッテ付近は、鹿害を避けるためか黄色の太目の金網が縦横無尽に張られていた。沢に下り、藪沢小屋と大平山荘方面の分岐に出る。ホースから冷たい水が勢いよく流れてい、一息入れるにはとてもいい場所だ。沢に沿ってどんどん下る。大滝の手前に来た時、沢筋の道が崩れていて高巻きを強いられた。左下方の沢に転落しないように緊張して歩く。このあとも足場が悪く気が抜けなかった。鬱蒼とした樹林の道が平らになんてなかなか山荘が現れない。パッと明るくなって、目の前に建物が出てきてびっくりする。山荘というより平屋の農家のようだ。

玄関を入ると真ん中に通路があり、両側に畳が敷き詰められていて、大部屋の食堂兼寝室のシンプルな作りだ。完全予約制。電話を入れておいてよかった。暗くなつて到着した登山者にもその都度食事を出すなどは、他の山小屋では考えられない。そろそろ夏山も終盤とみえて、泊り客も少ないようだ。寝具は、ごく薄っぺらの細長い布団が一人に 2 枚のみ。裏の山野草の花壇に入つてはいけないというし、朝食は夜のうちに渡されたお弁当だし、7 時の消灯には呆気にとられた。登山者のことを考えて、早く寝かそうということか。昨夜の両俣小屋のふかふかの布団が思い出された。

宿泊料だって向こうは500円も安い。若い奥さんの話では、北沢峠の2つの小屋は俗化して、横柄で評判が悪いと話した。このいい点は、奥さんのリップサービス。夜中、前線の通過でかなり激しく雨が降った。

8/30 まだ間に合うから、すぐ下りて下さい！

5時に起きると部屋がきれいに片付けられ、私たち3人だけが残っていた。雨が上がっている。だが台風が来ているのは確実のようで、今日中に帰った方がいいと奥さんがアドバイスしてくれた。予定通り早川小屋まで行くことにする。

水場の前から山道に入り、ジグザグに坂を登って上の車道に出た。北沢峠は静まり返っているが、左手高台の建物が賑わっていた。道々、北沢長衛小屋の看板を探したが見当たらぬ。不思議に思って、車を止めていた男性に聞くと、北沢駒仙小屋に改名したこと。聞かないとわからないものだ。小屋も一段下のテント場も学生たちで賑わっていた。ここは仙水小屋と早川尾根方面の分岐になっていて、私たちは橋を渡って栗沢山に向かう。ひたすら登る。展望の利く所で振り返ると、北岳が、石器時代の斧の形に見えた。隣の仙丈ヶ岳のカールが美しい。台風がきているとは思えないほど晴れ渡っている。樹林を抜けると、甲斐駒ヶ岳の白い山頂がはっきりと見えてきた。巨岩の積み重なった栗沢山は絶好の展望台で、東面は雲海に覆われ、その底から黒戸尾根の稜線が甲斐駒ヶ岳に向かって突き上げているのが手に取るように見える。出発しようとしているところへ、先ほどの男性が上がって来た。彼は自然保護団体員で、山梨県から雷鳥の調査を委託されており、定期的に登って来るのだと言った。



岩場を通過(アサヨ峰の登り)

アサヨ峰まではハイマツ混じりの岩稜帯が続き、かなりエネルギーを使った。ある岩場では、次のホールドに足が届かなくて重さんの肩を借りた。ヤセ尾根で、その気になれば簡単に谷底に落ちることができる。ようやくアサヨ峰に着いて休んでいると、あとから例の男性がやって来た。雷鳥の調査はここまでだという。年々減っているそうだ。

出発に先立ち、武内さんと私が早川小屋に向けて進行方向を確認すると、コンパスの矢印が、眼下の明瞭な尾根とは全く違う方向を指している。始めからその尾根が正しいと思っている二人は、磁場のせいにしてコンパスが狂っていると判断。だが、その尾根を下りていくとどうも様子がおかしい。人の足跡がない。うろうろと辺りを探していると、武内さんが、さっき地図で調べた方角を指差して、あっちだと言った。すぐさまアサヨ峰に駆け戻り、昭文社の地図を出した。「この尾根に入り込まぬよう注意」と、赤い字で書いてあるではないか。指差す方向の入口を見落としていたのだ。ちゃんと看板もあった。人間の思い込みは恐ろしいものだと思った。

南アルプス銀座と呼ばれる早川尾根は、まさに雲上の散歩道だ。昨日歩いた仙丈ヶ岳や北岳方面と、その下の白く光って蛇行している野呂川を右手に見ながら、台風のことも忘れてふわふわした気分で歩いていく。のんびり歩いているうちにビールが頭に浮かび、予定通り早川小屋に泊まって帰りたくなった。早川尾根の頭といつても平坦地だが、そこから5分程で早川小屋に着いた。普通なら山小屋に着くには早い時間だ。

小屋の主人は、このお天気が惜しそうに屋根に布団を広げていた。「今晚こちらに泊めていただく外崎ですが」と挨拶すると、急に慌てた様子で「今ならまだ間に合うから、すぐに下山して下さい」と言ってよこした。そして奥から素早くヤカンを持ってくると、喉が渴いたろうから、先ずは飲んでから帰ってという。言われるままにベンチに腰掛けて、冷えた麦茶を三杯も喉に流し込んだ。

「2時間半もあれば、広河原に下りられるから、気をつけて行くように」と言って、小屋の裏手まで来て見送ってくれた。ビールが麦茶になり、小屋には泊まれなかつたが、主人の温かい人柄に触れることが出来たのでいいことにしよう。広河原峠から1時間半ほどで南アルプス林道に下りた。

広河原のバス乗り場へ向かっていると、空の乗合タクシーがやってきて、芦安温泉まで乗せるという。ゲートのあるところから学生たちも乗ってきてすぐ出発した。彼らは芦安駐車場で下車し、私達もバス停の山渓園で下車した。3日ぶりに入浴する。留守宅の英さんと山行部長に、一日早く下山したことを報告した。

甲府に戻り、電車を待つ間、駅ビルの食堂へ行って打ち上げをする。雨は夜になって、ついに新宿行きの「かいじ」の窓を叩き出した。

武内さんと重さんには全面的に支えていただき、南アルプスの充実した山旅ができたことに感謝している。

概要

山名	仙丈ヶ岳・アサヨ峰		
月日	平成21年8月28日(金)～30日(日)		
山域	南アルプス	地形図 1/25000	鳳凰山・仙丈ヶ岳
形式	山小屋2泊	グレード	3C
目的	① なかなか行けない山小屋に泊まる。 ② 展望を楽しみながら早川尾根を歩く		
費用	約32000円	交通機関	JR・バス・乗合タクシー
1 日 目	我孫子駅 5:31→日暮里→新宿駅 6:26/7:00 (特急あずさ)→甲府駅 8:28/9:30(山梨交通バス)→夜叉神峠登山口 10:40/10:45→ 広河原 11:26/12:20(南アルプス市営バス) →野呂川出合(北沢橋)12:35/12:40⇒林道終点 14:40⇒両俣小屋 15:00 着(泊) <行動時間: 2時間20分>		
2 日 目	両俣小屋 5:05⇒野呂川越 5:55/6:05⇒横川岳 6:35/6:40⇒独標 7:18/7:23⇒高望池 7:48⇒伊那荒倉岳 8:00/8:10⇒蓼ノ平 8:40 ⇒奥仙丈ヶ岳鞍部 11:00/11:15 ⇒大仙丈ヶ岳 11:20/11:25⇒仙丈ヶ岳 12:00/12:10⇒頂上小屋 12:30/13:05⇒馬ノ背ヒュッテ 13:35⇒大滝 14:40/14:50⇒ 大平山荘 15:25 着(泊) <行動時間: 10時間20分>		
3 日 目	大平山荘 5:40⇒北沢峠 5:55⇒北沢駒仙小屋 6:05/6:15⇒栗沢山 8:30/8:40⇒アサヨ峰 9:45/10:15⇒尾根を直進して戻る 10:30/10:35⇒早川尾根の頭 12:20⇒早川尾根小屋 12:25/12:35⇒広河原峠 13:00⇒ 南アルプス林道 14:25⇒広河原 14:40/14:50(乗合タクシー)→芦安温泉山渓園 15:40/17:12(山梨交通バス)→甲府駅 18:00/18:56(かいじ122号)→新宿駅 20:35 →神田駅→上野駅 21:08→我孫子駅 21:45 着 <行動時間: 9時間>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 両俣小屋へは、北沢橋(野呂川出合)から野呂川に沿って治山工事用の林道を2時間歩く。道のあちこちで補修工事が行われており、一部車の通れない箇所もあった。さらに20分、沢筋を歩く。 両俣小屋から野呂川越までは、根張りのきつい急坂。 三峰岳から北の仙塩尾根は左手が長野県、右手が山梨県の県境。道は明瞭で歩きやすい。 伊那荒倉岳手前の高望池は、干上がりでいて、とても池とは思えない。 馬の背ヒュッテ付近は、鹿害を避けて黄色い金網が縦横無尽に張られ、異様な景観を呈している。 巨岩の積み重なった栗沢山は、甲斐駒ヶ岳のすばらしい展望台。右手に延びる黒戸尾根が、手に取るように見える。 栗沢山からアサヨ峰の稜線は、足場の悪いハイマツ混じりの岩稜帯。雷鳥の生息地でもあるらしい。 アサヨ峰から、誤って南西に延びる明瞭な尾根に迷い込んだ。コンパスで方向を確認し、全く違う東をさしていたにも関わらず。この時、コンパスが狂っているのでは?と判断。戻って昭文社の地図を見ると、「この尾根に迷い込まぬよう注意」とあった。 南アルプス銀座と呼ばれる早川尾根は、まさに雲上の散歩道。昨日歩いた仙丈ヶ岳方面、形を変える北岳を右手に見ながら歩く。白い河原の中の野呂川の流れも。 早川尾根の頭は平坦地で、登山道沿いに立つ三角点でそれとわかる。気をつけないと迷うばかり通り過ぎてしまいそう。
参加者	外崎(I)、武内、高橋重 男2名、女1名、計3名



<645> ウィズハイク

雨引山 (409m)

早川不二子

久し振りの晴天。絶好のハイキング日和です。昨年のクイズハイクが中止になったこともあります。「みずき」の人たちは、今日の日を心待ちにしていたとの事。

「施設の若者と山行を楽しむ」を目的に今年は、雨引山に登る。雨引山は、茨城県桜川市にあり筑波連山の北部に位置する標高409mの里山ウイズハイク 雨引山です。我孫子市の福祉バスを利用して8時30分予定通り我孫子駅北口を出発した。刈り入れ間近に実った稻田や初秋の景色を楽しみながら約2時間で雨引観音駐車場に着いた。

チームごとにストレッチをして10時35分元気いっぱいに雨引山頂を目指す。山に入ると行く夏を惜しむように、つくつくぼうしが、やかましいくらいに鳴いていた。杉と落葉樹の木漏れ日の中ドングリやみずひきの花を見つけて……秋を感じながら進む。

途中、加波山との分岐を左に折れる。ここから、道幅が少し広くなるがやはり急な登り、息切がる。「みずき」の人たちも頑張った。頂上に辿り着いた時には、みんな汗だく。着替えが必要な人もいた。思っていたよりもきつかったけれど、皆の顔は達成感に満ちていた。

頂上からは、筑波山、加波山、金色に染まった関東平野の田園風景を見ることが出来た。各々持参したお弁当に食担の方が作ってくれた豚汁で昼食。豚汁のなんと美味しいことか……御馳走様でした。

たっぷり1時間のお昼休憩をとり12時40分に下山開始。下りは、落ち葉の中の小枝を踏んで滑らないように注意深く歩いた。

13時には加波山との分岐を過ぎ、13時30分雨引観音に着く。雨引観音は、安産、子宝祈願で有名だ。桜、あじさい、ぼたんなどの花も楽しめるそうだ。今は睡蓮が咲いていた。10羽ほどのクジャクが放し飼いにされていてのんびりと歩いたり水を飲んだりしていた。

境内の散策やアイスクリームを食べて思い思はいで1時間ほど過ごす。14時バスに乗り帰路に就く。16時30分には無事我孫子に到着。

「みずき」の皆さんとハイキングができて、とても楽しかったです。有難うございました。

A-1 チーム《健脚・食担》メモ

- ・昨年は雨で流れ、一昨年は登山中に雨が降ったが、今年は天気の心配の必要がなくてよかったです。2日後参加者の一人に会った。終わったばかりなのに、もう「来年もよろしくお願ひします」と言われた。
- ・ほとんど樹林帯の中を歩いたので日に焼ける心配がなかったが、とても蒸し暑かった。〔着替えのなかつた人もいたようだ〕
- ・毎日マラソンを6K走っている人と、登りで時間がかかる人も同じチームで、列が非常に長くなつた。
- ・山頂での具沢山豚汁は好評。とてもおいしかつたです。
- ・一日やさしく過ごせたことに感謝です。(細野清)



A-1 チーム

A-2 チーム《一般》メモ

- ・我孫子駅北口でみずきのメンバーを迎えて、定刻出発。車内で挨拶を交わしバスは快調に、予定通り雨引き観音に到着した。トイレ等済ませた後、班毎に岳人とみずきがマンツーマンで登山開始する。途中休憩の後、皆元気に、予定より早く頂上に着いた。頂上には他のパーティは居らず、美味しい豚汁をいただきゆっくりとくつろぐことが出来た。
 - ・みずきの皆さんのが楽しそうな様子を見ていて、心和む気がした。下りは滑りそうなところがあり、若干心配したが特に問題なく、無事下山できた。コースの選択が非常に良かったと思う。
- コメント：
- ・みずきの人は、大変喜んでいる様子がわかり、このようなことでお役に立てよかったですと、しみじみ思つた。

- ・私は初参加のためもあると思うが、身障者と、健常者の区分が付きにくかった。リボン等の目印があった方が良いのでは。
 - ・頂上で替え衣類を持っていない人がいた。みづきのリーダーに出発時の確認を徹底したいと思う。
 - ・女性のための、着替え用のシェルター（ツエルト等）があればよかったですと思う。
- (小谷)



A-2 チーム

A-3チーム《ゆっくり》メモ

- ・雨引観音駐車場に着くと たくさんの中車が止まっていてビックリでした。こんなに大勢の人がハイキングを楽しんでいるところなのかなと・・・
- ・しかし、安産の祈願やお宮参りで 脳わっていたようで登り始めは何人かの人とすれ違いましたが、その後は人とすれ違うこともなく自分たちのペースで歩くことができました。
- ・登山開始前トイレを済ませ、呼名・準備体操の後「このチームは“ゆっくりチーム”です。あせらず、また、水分補給や持ってきたおやつも食べながら ゆっくり歩きましょう」とチームリーダーの中村さんからの話で出発しました。
- ・スタートの急な登り坂で 苦しそうな T さんには、リーダーがすぐにロープをかけてサポートです。それで安心した様子で、何回か休みながらも全員自力で山頂に到着しました。
- ・山頂ではそれぞれ持ってきたお弁当とおやつそして食坦チームによるトン汁を和気あいあい楽しく食べました。
- ・帰路も S さんや N さんにロープをかけましたが、慎重な足運びで無事に下山することができました。

・歩いている間も会話が途絶えることなく、作業所の楽しく生き生きとした様子が垣間見られ、職員の方の温かいこころにも触れられた一日でした。(齊田)



A-3 チーム



頂上で全員集合

概念図



概要

山名	雨引山		
月日	9月5日（土）		
山域	茨城	地形図	1/25000 岩瀬、加波山、羽黒、真壁
形式	日帰り	グレード	2 A
目的	施設の若者と山行を楽しむ		
費用	1,500円	交通機関	福祉バス
行程	我孫子駅北口 8:20 集合/8:30 出発→福祉センター「あまびき」10:30/10:50⇒加波山分岐 11:30⇒雨引山 11:45/12:40（昼食）⇒加波山分岐 13:00⇒雨引観音 13:30/14:00→我孫子駅北口 16:30（解散） 晴れ<歩行時間 1時間45分>		
参加者	A-1 《健脚・食担》 外崎(CL)、本間(SL)、桐生、藤倉、瀬田、細野、細野、清家 A-2 《一般》 柴(CL)、小川誠(SL)、中村育、飯沼、矢野裕、小谷、早川、新谷、原田和、武内 A-3 《ゆっくり》 石垣（総括 L）、中村隆（CL）小川洋(SL)、高橋英、原田君、齊田、佐藤健 福祉作業所 大林、根本、内藤、上田、阿部、齋藤、徳本、加納、中島、山本、藤本、井上、田中、大久保、志賀幸、小鈴、酒井、志賀涼、酒井奈 会員 26名、福祉作業所 19名、計 45名		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 今日は天候に恵まれたので問題はなかったが、天候が崩れたときは下山時は注意が必要。 登山・下山時、各班の判断で細引きで足元に不安があるメンバーをビレーした。 福祉バスの制限で、時間は厳守であるが、距離は関係ないようでした。（150kmは超えていました） 		



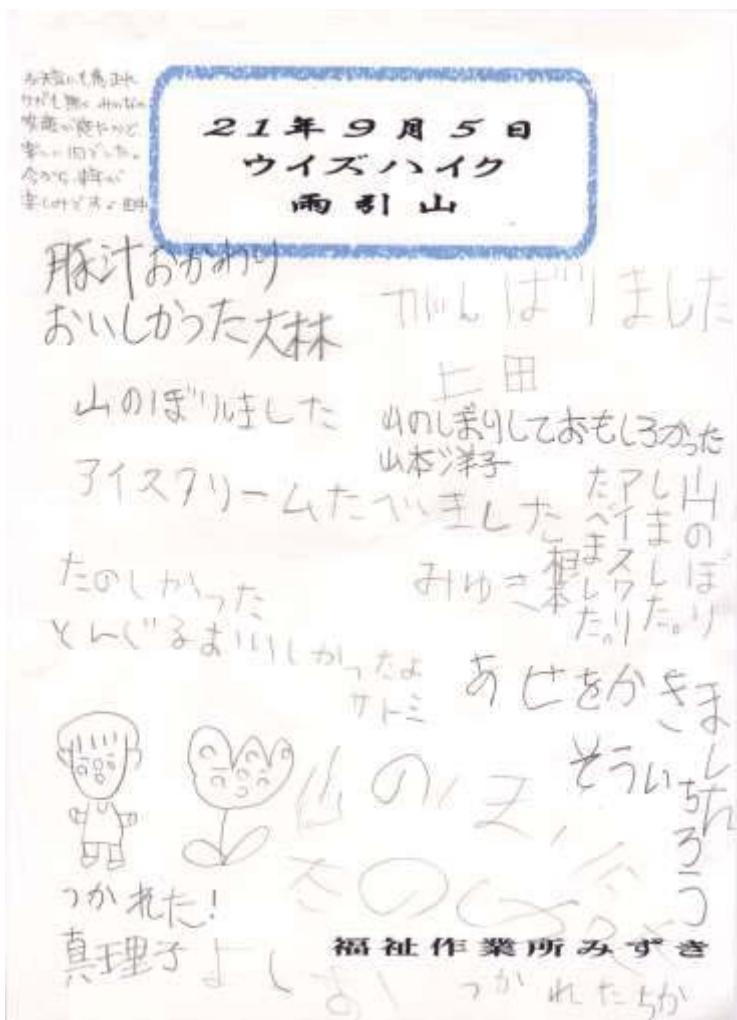
皆さん頑張りました。



急登の木階段登り。汗を一杯かきました。



頂上でみづきの仲間達



楽しいランチタイム。豚汁がおいしかった。



<646>新人研修（3点確保）

岩山
(328m)

矢野貞子

炎天下で確保に回ってくださった柴さん中村さん小谷さん高橋重さん有難うございました。4時開店の「花ちゃん蕎麦」を3時予約してくださったリーダーの英さん山行で聞いていたとおりミスマッチのおいしい「にらそば」が食べられて満足でした。有難うございました。

みなさんが送ってくださった、岩とお尻ばかり写った写真を見ながら楽しかった日を思い出しています。ご存知のとおり写真ではどこの岩山と勘違いするほどの切り立った岩場です。鹿沼市から20分ほど歩いた住宅地に隣接した裏山って感じの所です。

私は岳人我孫子に入会する際、岩はしないと誓いこれまでの4年間は岩場の研修には一切参加しませんでした。ところが、今夏、北アルプスに参加してやはり岩の練習は必要だと感じ今回の参加になりました。

30年ぶりに触れたザイルの感触のやわらかさや、すっかり忘れてしまったロープワークに時の流れを感じました。

まずは日吉神社の境内でハーネスとヘルメットを装着しロープワークの練習をしたあと、岩場へ向かいました。

まずは、女性陣全員が向かって右の小さな岩を中村さんの確保で女性陣全員が3点確保とセルフビレの練習。高橋重さんの確保でクライムダウンや懸垂下降の練習をしました。小さな岩を制覇した人から反対の岩へ。小谷、柴さんの確保で挑戦しました。見た目は手がかりが無さそうな一枚岩ですが、張り付いて見るとそれなりに手がかりありスリルがありました。この日は晴天でピークにたつと鹿沼の町が一望できました。

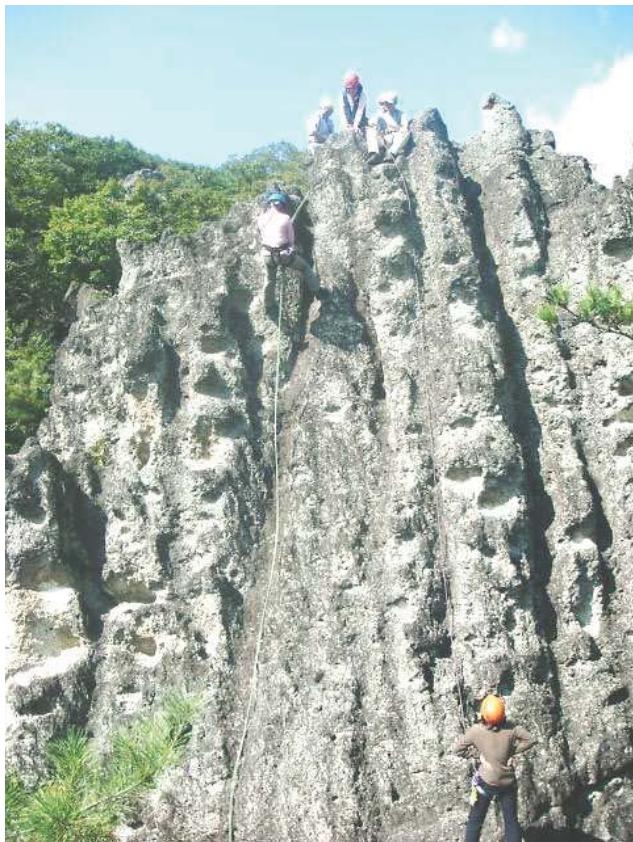
昼食後、午前中練習した岩を再びクライムアップ、反対側にクライムダウンや懸垂下降で降りる練習しました。垂直に立つ岩は上から覗くと足が竦みましたがしっかり確保されているという安心感がありました。この岩も女性陣全員が挑戦しました。すごーい！！ロッククライミングが初めての人もいましたが、みんなヘルメット姿が似合い俄かクライマーになっていました。必死だった人もそうでない人もスリルを味わう楽しみを感じましたね。今回はできないなんて声は聞かれなかったですよ。また行きましょう。次はリードクライミングで確保の練習もしなくてはね。

概要

山名	岩山		
月日	平成21年9月13日(日)		
山域	前日光	地形図	1/25000 鹿沼
形式	日帰り	グレード	1B
目的	新人研修（3点確保の技術を習得する）		
費用	約5500円 反省会を含む	交通機関	東武
行程	我孫子駅 5:53→北千住駅(集合) 6:32→新鹿沼駅 7:55/8:07⇒日吉神社 8:40/9:22⇒岩山 9:50(研修・昼食) /14:20⇒日吉神社 14:35⇒15:00(反省会)⇒新鹿沼駅 16:38→春日部 18:00/18:09→柏 18:48/18:56→我孫子駅 19:00 着		
ルート 状況	鹿沼駅から徒歩35分日吉神社、神社から岩山まで約10分位		
参加 者	高橋英(L)、柴(講師)、中村隆、高橋重、小谷、原田君、千葉、桐生、矢野貞、中村育、矢野裕、斎田、新谷 男5名 女8名 計13名		

概念図





ロープ結び神社へ安全祈願し、境内で柴さんからザイルワークの講習を受ける。

←右は登攀前の C さん、左は懸垂中の新人の S さん。



集合写真、冒険の後のさわやかな顔



3点確保の技術習得

<647>

佐武流山 (2192m)

高橋 重

山は万能薬

十年以上前に東北のホテルで、チョッとしたことで切れた右膝後十字靱帯。重荷を担いでの無雪期のテント泊は、その夏に出かけた大雪山以後遠ざかっていた。下りだけでなく上りでも痛む右膝、整形外科に何度も通った。

そして昨年の『がん』による入院、体力も筋力も免疫力も衰え、老に向かっていることだけは事実だった。その低下スピードが速くならぬことを期待し、昨年登れなかった分と、切れた靱帯を筋力で少しあはカバー出来るだらうとのはかない夢を持ち、この1年はかなり山へ出かけた。

本山行（佐武流山～苗場山）ルートには、苗場山頂しか小屋がない。数多くのテント泊をこなしてきた猛者達と一緒にテント山行で不安はあったが、積雪期のテントにも数回一緒にしており、何とか歩けると思えた。それ以上に積雪期の上越の山から見る、苗場山から南に延びる、魅力的で大きく広がる山々、響きの良い名の佐武流山なのでぜひ行きたかった。

出発前、交通手段についてTさんが、JR東日本から9月限定で、ツーデーパス5000円、そしてトレン太くん1日2000円が売り出されたとの情報を入手していた。今春から始まった高速道路1000円の向こうを張った企画のようだ。4人でこれを利用し、車を佐武流山登山口と下山口の苗場山小赤沢に置いて縦走の予定だった。

小雨の朝、越後湯沢駅で車を2台借りた。数年前に大雪のため陸の孤島となった、そして壇ノ浦で敗れた平家落人の谷と言われる秋山郷を通り、下山口に1台車をデポした。効率的に行動できる計画だった。

駐車場は百名山苗場山へ日帰りできるとあって40台程が停まっていた。そこから登山口までは、そう時間は掛からなかった。路肩に車を停めて「佐武流山近道、十二林班歩道」の標識から1時間半ほど歩き檜俣川下降点に着いた。

ザイルが張られた檜俣川を渡渉し登り始めると、盛を過ぎたオオシラヒゲソウが咲いている。苗場方面に行くなら、まだ見られるだらうと、少

し歩き持ってきたカメラを出したが撮れるような花はもうなかつた。木の根を掴みながら人工林が全くない。

天然の広葉樹・針葉樹の急坂を登り続けると、刈り開かれた『物思平』に着く。丁度1時間、ここまで平坦地はほとんどない。ここから尾根らしくなり檜俣川の斜面の岩場にツタやウルシ、カエデなどの紅葉が映える。



シラヒゲソウ

『急な坂』以上の『急坂』の木登りが連続し、どんな意味か判らぬワルサ峰まで1時間ほどひたすら登る。心地よい風が吹く峰から西赤沢源頭までの水無尾根も紅葉で素晴らしい。佐武流山と勘違いしそうな右手の猿面峰も、アバランチ・シートの植生部分は濃い緑と少しの紅葉と、露岩とのコントラストが美しい。

黄葉の尾根を歩き、「赤倉山方面水場10分」と書かれた苗場山から南への長野・群馬県境稜線との分岐に出たのは15時を過ぎていた。佐武流山方面に坊主平という平坦そうな地点もあるが、今日は水を汲んで、苗場方面に向かい「土舞台」へ泊まり、予定した佐武流山の往復は明日にしよう、との結論になった。分岐から少し下った地点から4人で空ボリを持って降りた水場、沢のホースから水は出でない！音も聞こえない！

Aさんが下るが、やはり水はない。各自1リットル近くの水分（お茶や麦茶など）を持っているので、今夕と明朝は、行動食を食べるのには充分の水分だ。明日は下山だなどと考えながら、さらに沢を下ると岩の上を割箸ほどの水流が細々と流れている。何とか酒精用水と4人の食事用水は、時間を掛けねば確保できそうだった。4人の甘露水集めも無駄なので2名は他にテントを張れる地点を探しに行った。岩の上に笹の葉を置き、執念で水を汲むこと1時間半（A氏はコップで溜まる水を汲んだ）、漸く7リットル程を汲んで登山道に戻ると、



檜俣川の渡渉

水量が多いときはここが最初の閂門になる

テン場探しの2名も『土舞台』手前まで行ったが、良い地点はないと戻ってきたところだった。

夕暮れ近く水を背負って水無尾根の分岐まで戻り、傾斜段差そして木の根ボックイが残る登山道にテントを張った。出来た空間は快適で？傾いた我が家だったが、担ぎ上げた冷たいBeerで乾杯の後、各自が担ぎ上げた酒精も割って飲むことができて極楽の団欒となった。部屋の中で4人は「舞台」に上れないことを残念がった。そして翌日は12時間以上の行動となるため次の大舞台、苗場山を諦め来たルートに戻ることに決まった。その夜は、星が瞬いていた。建てた御殿のベッドはデコボコで、V型ならまだしも山型の逆エビ状態で眠れぬかと心配したが水汲みなどのきついアルバイトの後なのか、グッスリと寝られた。

翌日はテントを早々にたたみ、荷物をデポし出発した。冷気の中、テント一張りが可能な坊主平を過ぎ、又カルミの多い尾根を一時間弱歩くと傾斜が緩くなり、立派な標識の立つ佐武流山頂に着いた。

山頂は東側が開け、少しガスっている。白砂山方面の切開きは、かすかにあるが笹藪だった。

「佐武流山」は、佐武流沢から名付けられたという。「佐武」は日本語の語源辞典では「鏽ぶ」の転化のようで、小赤沢などの「赤」とは、日本山嶽志によると「鉄」を意味し製鉄を行った跡があったようだ。さらに白山書房「山の本：2009秋」には、栄村で一番高い山に登山道を作ろうと「ヒュッテひだまり」の主人が登山道復活の「前進俱楽部」なるチームを作ったこと、この先どうするか？厳しい道の開削を考えた『物思平』、そしてチーム内にお坊さんがいて毎日安全を読経したので『坊主平』の名前が付けられたことが記載されていた。なるほど水を探すなどは小さなこ

とで。苦戦の末、開通に漕ぎつけたこの記事に登山の原点を見たような気がする。登山道復活に関係した多くの方への感謝とともに、まだ10年も経たない道に、歴史の山だと妙に感心する。

下りは、のんびりだが急坂、足元を確かめ立ち止まり、飛行場のような苗場山、茶褐色の岩菅山、厳しい岩肌の鳥甲山を見ながらだった。佐武流山はワルサ峰手前で見えなくなってしまった。ここまで12人の登山者とすれ違った。



ワルサ峰は水無尾根上の小さなコブ

ツルリンドウ・ゴゼンタチバナ・マイヅルソウなどが花以上に美しい赤い実で慰めてくれた。檜俣川渡渉点前で純白のオオシラヒゲソウを見ながら写真を撮っていると、Aさんの大きな声が聴こえた。

下ると1人、「水舞台」に落ちたとのことだった。ここから下降点までの登りと、その先の林道は長く辛かった。漸くたどり着いた駐車地点には数台の車が停まっていた。源氏の白旗を思わせるドロノキの白い綿毛の実が一面に落ちており、一ヵ月後にはこの辺は雪なのかと思った。



佐武流山山頂にて集合写真をとる

不安が解消され、痛みも軽減し、ゆっくりして睡眠も取れ、免疫も向上し、森林浴を楽しんだ山、計画はこなせなかつたが佐武流山は万能薬だつた。振り出しの越後湯沢で苦労したメンバーと温泉療法をプラスし、中野屋で「ヘギ蕎麦」を食し、八海山で清めれば天国だった。そして平家の赤旗のような紅葉やツリバナの赤い実を見て、何故か山は余裕と細心の注意が必要だと思った。全てに感謝の山だった。

概念図



佐武流山を見る

概要

山名	佐武流山		
月日	平成 21 年 9 月 26 日(土)~27 日(日)		
山域	上越	地形図	1/25000 佐武流山、苗場山、切明
形式	テント	グレード	4B
目的	秘峰の紅葉		
費用	15,750 円(反 省会費用、風 呂代含)	交通機関	JR、レンタカー
1 日 目	我孫子駅 5:31→上野 6:05/17→越後湯沢駅 7:20/8:00→登山口 10:20/30⇒檜俣川下降点 11:57⇒檜俣川徒渉 12:15/30⇒物思平 13:25/35⇒ワルサ峰 14:40/47⇒西赤沢源頭 15:28/33⇒水場 15:45/17:15⇒西赤沢源頭 15:25 (泊)		
2 日 目	西赤沢源頭 5:50⇒坊主平 6:00⇒ワルサ峰 8:55/9:15⇒物思平 9:55/10:05⇒徒渉 10:40 ⇒檜俣川下降点 11:03⇒登山口 12:35→越後 湯沢駅 14:50/17:08→我孫子駅 19:20		
ルート 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・檜俣川の徒渉は好天続きで水量が少なく、徒渉点にはロープが張ってあった。 ・物思平までは急登だが登山道は整備されて歩きやすい。 ・ワルサ峰まではアップダウンの繰り返し。 ・西赤沢源頭から赤倉山方面に 10 分で水場の標識があったが、水場には 1 滴の水も流れていなかった。(村松さんの説明では、9 月は渇水期で枯れることもあり得る) ・水場から 200m 沢を下降したが水はなく、僅かに染み出ている水を 2 時間かけて 7.5L 取る。 ・テント場は西赤沢源頭から佐武流山方向に 10 分登れば坊主平に 1 張幕営可能。赤倉山方面に 1 時間で土舞台 (1901m) に幕営可能。 		
参加 者	青山(L)、村松(敏)、武内、高橋重 男 3 名 女 1 名 計 4 名		



< 648 >

棒ノ折山～高水二山 (969m)

原田和昭

山頂、三方素晴らしい展望

年間計画書に計画してあった 11 月棒ノ折山と 10 月の高水三山を一緒にして実施した。そのためにルートは変更しロングコースになり、奥多摩の山並み展望を楽しむようになった。電車を降りた川井駅からはタクシーで奥茶屋登山口まで行く。



準備体操をして、さあ出発だ

毎年 10 月 10 日は快晴で安定した日が多いと思っていたが、今年は二日前に台風 18 号が通過した後で晴れたり曇ったり一時的に雨、ガスの発生、雷、気温の低下等の変化の激しい一日となった。

奥茶屋登山口からはゴンジリ沢に沿ってワサビ田を見ながら登山道に入る。登山道は台風の影響で石ころが流れ出て荒れていた。倒木も多くて非常に歩き難い急坂で、棒ノ折山の頂上手前の斜面は檜の葉が一面に落ちて、緑の絨毯の上を歩くようなフワフワした感じでした。

棒ノ折山の頂上は広くて、東屋やベンチもあり、10 人位の登山者が休憩していた。南側の展望は樹木で何も見えないが、他の三方は素晴らしい展望で雲取山を代表とする奥多摩の山並みを楽しむことが出来た。

頂上からは権次入峠を通過して黒山への道を進む。道はゆるやかなアップ・ダウンの連続

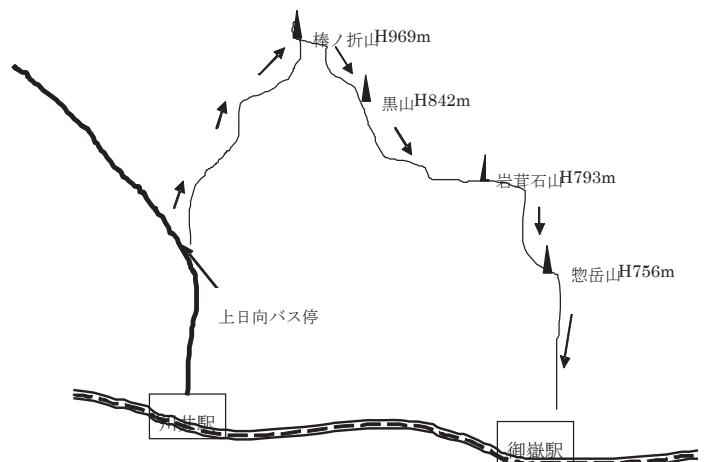
で黒山に到着する。ここで北方面の山並みを見ながら昼食をする。

黒山からは小さなアップ・ダウンが多く、大小さまざまな石がゴロゴロと出て歩き難い所がある。途中から雨が降り出し足元は滑り易くなり、岩茸石山の頂上直下は岩場で露岩にロープを設置してあって慎重に声を掛けながら急坂を登る。高水三山で最高峰の岩茸石山に登ると雨が止んで一休みとカッパを脱ぐ。

ここから急坂を下りてから惣岳山に向かって緩やかな尾根道を下る。惣岳山頂上には青謂神社が杉林の中に建っている。小休憩後に一路御嶽駅に向かって急坂を慎重に降りる。

今回の目的である紅葉は頂上付近に赤くなりかけた樹木が少しあったが、時期が早すぎて楽しむことが出来なかつたのは少々残念でした。しかし、展望は天候の変化の中でロングコースを歩きながら楽しむことが出来て良かったと満足しています。反省会は我孫子駅まで帰ってから充分に楽しむことが出来ました。

概念図



へへ～ひびの紅葉を窺して



棒ノ折山：頂上で集合写真をとる

概要

山名	棒ノ折山～高水二山		
月日	2009年10月10日（土）		
山域	奥多摩	地形図 1/25000	原市場 武藏御岳
形式	日帰り	グレード	2 A
目的	紅葉と奥武蔵の山々の眺望を楽しむ		
費用	約3,100円	交通機関	JR・タクシー
行程	我孫子駅発 5:33→新松戸駅 5:47/5:53→西国分寺駅 6:47/6:55→立川駅 7:03/7:05→川井駅着 8:17/8:25 タクシー発→奥茶屋登山口着 8:35(準備) 登山開始 8:45⇒休憩 9:25/9:32⇒棒ノ折山 10:20/10:40⇒権次入峠 10:52⇒黒山 11:15/11:45(昼食)⇒逆川ノ丸 12:05⇒休憩 12:50/12:55⇒名坂峠 13:15⇒カッパ着用 13:20/13:25⇒岩茸石山 13:37/13:47⇒分岐 13:50⇒惣岳山 14:23/14:35⇒分岐 15:20⇒休憩 15:25/15:30⇒道路に出る 16:00⇒御岳駅着 16:05/16:22⇒青梅駅 16:40/16:43⇒西国分寺駅 17:20/17:25⇒新松戸駅 18:24/18:27⇒我孫子駅着 18:40(反省会) 19:40(解散) 晴のち曇一時雨<歩行時間 5時間 45分>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 今回のコースは棒ノ折山と高水三山の内の二山を縦走するコースでロングコースになった。台風18号が通過して二日後で倒木と枯れ枝が散乱して歩き難い箇所が多く有った。 コース全体としてはアップダウンが多く棒ノ折山と岩茸石山の頂上直下は急登で、惣岳山の手前には岩場でロープが設置してある。 途中で雷と雨に降られ特に滑り易い状況になり注意が必要であった。 ルート上や分岐点等には案内標識が設置して有るので迷うような場所は無かった。 惣岳山からの下りは急坂で滑り易く転倒の危険箇所があり注意が必要である。
参加者	原田和(L)、藤倉(SL)、小川誠、原田君、品田、箕輪力、小川洋、瀬田、中村育、新谷、矢野裕、田村 男2名、女10名 計12名

<649>

甑山・神室山 (雄甑 981m・雌甑 979m) (1365m)

甑山 原田君子
神室山 佐藤明子

第1日目 甑山

原田君子

紅葉を楽しむ

初めてのテント山行なので、不安もあるがとにかく参加をきめた。

山形駅までは夜行バス。山形から新庄駅まではJR。新庄からレンタカーに乗り換えた。テント場に水場が無いかも知ないので、レンタカー営業所で水をもらい今夜から明日に使用する分までたっぷり車に積みこむ。甑山登山口の小さな駐車場には車がいっぱいで、なんとかスペースを確保し、2台の車を置き、殆どの荷物は車に残し日帰りの装備で身軽に出発する。

秋田・山形県境のこのあたりは今が紅葉の真っ盛りでどの山もきれいな錦でいろどられている。登山口からは小さな沢を2度ほど渡るが、道は狭く崩れかけた所もあり気を使いながら歩く。しばらくすると名勝沼の分岐に着く。名勝沼は湖面が静かで水面には青い空と紅葉した木々を映し、思わず「ワー　きれい」と、歓声が出る。この美しい風景にカメラを構えた人達が数人いる。

ここから雄甑・雌甑の中間点のコルまではわずか30分だが沢沿いの道は急登で、足元はジュクジュク、倒木もあってとても歩きにくい。この道を下るのは難儀だなと思いながら登っていく。コルから雌甑の頂上まではザレた急登で、周りを見るゆとりなどまったくない。足元ばかり気にしていた。頂上に着いての眺めは素晴らしい。360度の展望のはるか向こうには雪をかぶった鳥海山がはっきりと見える。頂上ですばらしい景色を眺めながらお昼ご飯にする。雌甑からの下りは足を滑らせるとまっ逆さまに落ちてしまいそう。緊張で汗が出てくる。慎重に、慎重にと心でとなえながら登りと同じ時間をかけてコルまで下る。

雄甑山まではわりに緩やかな登りで、やっと周りを見るゆとりができた。遠くの山々の紅葉、今登ってきた山。雌甑山はきつい急登なのに雄甑山はゆったりおおらか。男性はおおらかで包容力



▲雌甑山

雄甑山から見る烏帽子岩▼



があるのでなあ……頂上でゆっくりして景色を堪能する。雄甑山から見える奇岩、烏帽子岩は雄甑山のシンボルか？　頂上から少し戻り秋田・山形の県境尾根を下る。尾根は乾いており、登りと比べると、ずいぶん歩きやすいが急坂には変わりない。名勝沼分岐まで下ると登山口まではあとわずか。駐車場には我々の車2台だけになっている。駐車場で一休みしてから明日登山予定の神室山登山口まで車で約1時間移動する。林道は悪路で車のお腹がする。

神室山登山口の駐車場の草地に今宵のテントを張る。夕食の支度をしながら、まずは甑山無事下山を祝いビールで乾杯。夕食がすみ、まだ早い時間なので、皆さんはひとつのテントに集まり歌など楽しんでおられたが、私は昨夜の夜行バスで

疲れなかつたので先に失礼して、早々と寝させて頂いた。明日はロングコース、雨が降りませんように祈りながら・・・・。

夜中にテントが雨風に叩かれたが夢うつつ。

概念図



第2日目 神室山

佐藤明子

故郷の山を味わう

夜半から雨がテントを強くたたくので明日はどうなることかと心配していたが、朝になって幸いにも止んだ。テントを撤収して西の又コース登山口から登り始める。第一渡渉点、第二渡渉点には吊橋がかかっているが第三の渡渉点は石伝いに渡渉しなければならない。それぞれに右往左往しながら渡る先は三十三尋の滝、そしてその滝を囲む紅葉のコントラストが素晴らしい。錦秋とはこの事かと思わせる景色に感動する。

少し登った先に不動明王のまつられている小さな平地があり、美しいブナ林の中、ここからいよいよ胸突き八丁坂と呼ばれる本格的な急登を直登で詰めるのだが、評判程でなくトントンと登ってしまった。

登りきると視界が開け展望のよい穏やかな道となり、池塘やお花畠の御田の神に到着する。笠原を撫で上げた風が心地よく通り抜けていく。

それでも神室山の頂上に上がると風は冷たく強い。記念撮影もそこに前神室山へ向かった。こちらの方がなんとなくどっしりとした風格を感じさせる山頂であった。しかも、これで登りは最後だとの安心感からか、心行くまで見事な紅葉を楽しむことが出来た。

黄金色に輝くブナの林の中を下り、ザンゲ坂を過ぎた辺りから急に風が強まり大粒の雨が降り出した。突然の嵐に追われるよう下山したが、30分ばかりでパノラマコース入口に戻ることが出来た。武内リーダーの『テント山行だが、ベースまでは車で行けるので、荷物の重さを気にする必要がない分楽な山行』とは、まさしくその通りで、費用（宿泊代）も省け、流行りのエコにも貢献でき、良いことづくめと納得する。

又、昨日飯山に入山した時から感じていた事だが獸の匂いが強い。私たちが彼らの住む領域に侵入して、勝手に臭いと文句を言うのは筋違いとも思えるが、それを除けば概して東北の山は豊かで美しい。かつてマタギが活躍した山に深く入り、燃えるような最高の紅葉に会えて本当に幸せだった。故郷の山をしみじみと味わうことの出来た楽しい山行でした。



神室山

概要

山名	甑山・神室山		
月日	平成 21 年 10 月 16 日(金)夜～18 日(日)		
山域	秋田・山形 県境	地形図 1/25000	松ノ木峠、神室山
形式	テント泊	グレード	2B
目的	紅葉を楽しむ		
費用	22,000 円	交通機関	夜行バス、レンタカー、JR
前夜	我孫子 21:00 → 上野 → 東京 / 八重洲ヤンマ一 東京前発(キラキラ号山形行) 23:00 →		
1 日 目	山形駅 5:40 着 / (JR) 6:05 → 新庄駅 7:14 レンタカー借入 7:50 / 8:15 → 甑山登山口 9:35 / 10:00 ⇒ 名勝沼 10:30 / 10:35 ⇒ コル 11:00 / 11:10 ⇒ 女甑山 11:35 (昼食) / 12:00 ⇒ 男甑山 13:00 / 13:20 ⇒ 名勝沼分岐 14:25 ⇒ 甑山登山口 14:40 / 15:00 → 神室山登山口 16:00 (泊)		
行 程	<歩行時間 4 時間 40 分>		
2 日 目	神室山登山口 5:40 ⇒ 西の又コース登山道入口 5:55 ⇒ 第 3 渡渉点 7:34 ⇒ 御田の神 8:45 / 8:55 ⇒ ノマコース分岐 9:20 ⇒ 神室山 9:38 / 9:50 ⇒ ノマコース分岐 10:05 ⇒ 鎌大神(1325m 地点) 10:30 / 10:45 ⇒ 前神室山 11:15 / 11:25 ⇒ 1288m 地点 11:40 ⇒ 1040m 地点 12:30 ⇒ 神室山登山口 13:35 / 13:55 ⇒ ホットハウスカムロ 15:00 (入浴) / 15:45 ⇒ 新庄 16:35 / 17:14 → (山形新幹線) → 上野 20:50 / 21:08 → 我孫子 21:42		
	<歩行時間 8 時間 >		

ルート状況

- ・飯山(1日目)は歩行時間は短いが、急坂の連続、特に名勝沼～雌飯・雄飯の稜線上のコルに出るまでは沢筋のジメジメとした急坂なので足場が悪い。コルから雌飯への登りは阿弥陀岳登りを彷彿させるような直登(25分)。
- ・神室山(2日目)は、西の又コース第3渡渉点から御田の神まで、胸突き八丁と呼ばれる急坂が最大のポイント(約1時間半の登り)。
- ・昭文社地図で、神室山直下の稜線上に痩せ尾根危険のマークがあるがたいしたことは無い。
- ・西の又コース、パノラマコースとも道はしっかりとついており問題なかった。
- ・パノラマコース入口駐車場にテントを張った。草地で快適。水は沢から取れる(我々は、新庄の駅レンタカー営業所でポリタンに入れ車に積んでおいた)

参加者 武内(L)、石垣、外崎、原田君、青山、佐藤明
男2名 女4名 計6名

概念図



神室山山頂にて

< 650 >

大菩薩嶺
(2057m)

齊田 紀代美

全山、独り占めの気分
夕食は一升瓶とワイン

リーダーお二人と、はじめての1泊2日山小屋泊の新人3人プラス1人の6人での山行でした。

持ち物は、1泊ということで、これは要?でもなるべく軽い荷物で・・と、荷物を出したり入れたり、いろいろ迷ってしまいました。案の定、2日目小雨の中での休憩時、他の方々は行動食を摂るときは傘をさしていて、私は大事な荷物を一つ置いてきてしまったと思いました。

行きの電車の中で、研修の目的の一つ「山小屋の利用法とマナー」という資料を頂き早速、勉強（！？）で会話も弾みます

電車の乗り換えの時は、ホームでの待つ位置など、さりげなく教わりながら塩山駅に到着。そして、塩山からは大菩薩峠登山口行きのバスに乗り、30分で終点の裂石です。

身支度を整え日程の説明や、一日目は標高差1,100m、急登もあるがゆっくり登れば大丈夫との励ましとも、プレッシャーともとれるお言葉を頂いた後、出発しました。

雨の心配もない空模様で、紅葉と富士山に会えることを祈りながら雲峰寺に沿って車道を登り始めた。（この車道、なかなか急な登りだった）

20分ほど歩くと丸川峠への分岐に到着、いよいよ山道の登りに入りました。

林の中、富士山に会えるとイイね、などと話しながら、ひたすら登り、振り返ると紅葉がとてもきれいでした

このコースは人影少なく全山ひとり占めの気分です。リーダーの心遣いで水分補給休憩したり写真を撮ったりと、ゆっくりペースで歩き、いつの間にか標高を稼いでいました。

ときどき頭を雲で隠してはいるが、木々の切れ目から富士の姿が見えるようになると足の運びにも元気が出ます。

森林を抜け広い草原のようなところでると

丸川峠（1680m）。趣のある小屋の丸川荘の中には木彫りの小物や観音様など飾ってあり、コーヒーのいい香りもしました。でも、その誘惑には負けず記念写真を撮り再び紅葉の中を次第に会話を途切れがちに黙々と登り山頂（2057m）に到着。記念撮影をした後、森林を抜けて大きな岩（雷岩）の上に立ち広々とした展望を楽しむことができました。

この景色！自分の足で登って見るからこそこの感動！来られて良かった！ここでは、久々に上日川峠等から登られた人々がいて賑やかでした。

「かもしかを見たよ！」「今年から山登りを始めた」などと話してくれた、小学生の姉弟と両親の元気な家族がとても頼もしく思いました。

緩やかな下りに入り、少しづつ天候は崩れてきて霞んではいるが右手に、眺望も開けていて、山小屋も近いよという声に足取りも軽くなつたような気持ちです。

介山荘に到着（16：00）すると若いお兄さんが出迎えてくれ、靴を脱ぐのを待っているのももどかしい様子で小屋の案内をしてくれました。

少々××と思いながらも案内されるままについて行くと、部屋にはすでに蒲団が敷いてあり、男性は2人で女性は4人と個室のように使うことができ、休憩は食堂を開放しており、お茶も用意され至れり尽くせりで先輩諸氏からは、山小屋はこんなものではないと、何度も何度も念を押されました。

自家製の野菜で作ったという夕飯のカレー・サラダもおいしく、若いご夫婦が仕切っていて、その息子さん（3歳）やお父さん夫婦と家族総出で歓迎していただきました。

また、食事時にドドーンと、一升瓶に入った日本酒とワインのサービスがありました。（この一帯を、東アルプスと名付けて、若い人たちを中心北や南アルプスに対抗しようと力を入れているそうです。よろしく！と頼まれたその下心ではないと思いますが・・・）

ほろ酔い加減で、今日の山行（長い一日だったこと、きれいだった紅葉、わずかに姿を見せてくれた富士山等々）を思い出しながら、気持ちよくぐっすりとねむってしまいました。（外は雨が降り始めていた）

2日目、雨模様で雨具をつけての出発でしたが、今日も人影もなく静かな山歩きです。熊沢山を超えると、石丸峠から牛ノ寝通りと呼ばれる通りの広々とした尾根で、その後は標識が少

なく、急な下りが続くのでコンパスを使って位置を確認しながら、また、道は雨で滑りやすく、沢にいくつかの橋がかかっていて、右岸を歩いたり橋を渡って左岸を歩いたりと、緊張する下山でした。

最後は小菅の湯に到着しゆっくり温まりました。(その間にリーダーは、バスの便が悪いのでタクシーの手配もしてくださいました)

リーダーの方々の身をもって教えてくださいました、暖かいご指導のもと、新人3人の1泊2日の山行が、無事(いくつかの失敗はありました)終えることができたことに心から感謝いたします。

記念の記憶に残る、また、富士山を見ながら歩きたいという思いも残る山行になりました。



小菅の湯到着 \(^o^)/



2日目朝、霧雨の降る大菩薩峠

概要

山名	大菩薩嶺		
月日	平成 21 年 10 月 24 日～10 月 25 日		
山域	大菩薩	地形図 1/25000	大菩薩峠、七保、丹波
形式	一泊 2 日	グレート	2 A
目的	①紅葉の大菩薩嶺。 ②研修：個人装備と山小屋の生活		
費用	13,300 円	交通機関	電車、バス、タクシー
1 日 目 日 程	我孫子駅（千代田線）5:33→新松戸 6:23/6:25 →西国分寺→高尾→塩山駅 8:58/9:25(バス) →登山口 9:52/10:10⇒分岐 10:30⇒昼食 11:45/12:05⇒丸川峠 13:07/13:20⇒大菩薩嶺 14:55/15:05⇒雷岩 15:15⇒賽の河原 15:45⇒ 大菩薩峠 16:00 (介山荘泊) 曇り <歩行時間 4 時間 20 分>		
2 日 目	介山荘 6:45⇒熊沢山 7:00⇒石丸峠 7:20⇒樅ノ尾山 8:45(牛ノ寝通り)⇒大ダワ 10:10⇒小菅の湯 12:15/14:10(タクシー)→奥多摩駅 14:40 (反省会) / 15:36⇒立川 16:48→西国分寺→新松戸→我孫子駅 19:10 小雨 <歩行時間 4 時間 50 分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ルートファインディング：迷うところはほとんどないが、間違えばとんでもない所に行ってしまうので、地図を見て、方向を確認し、尾根筋を外さないよう気をつけること。特に展望のない天候の日。 ペース配分：1日目は急登、標高差 1,100m、2日目はロングコース、一部急下降あり。登りは 30 分ピッチの 5 分休憩のペースを守ればコースタイムを確保できる。 目的の一つ、紅葉は随所にみられた。赤・黄・緑の混成がまたきれいである。足元は錦のじゅうたんを踏むようだった。やまたんにその色彩を表現できないのは残念だ。 目的 2、研修 山小屋の生活体験は小屋がよすぎて今後の参考にならない。小屋は新しく部屋は個室（男女別）、布団はふわふわの民宿並み。ただし電灯、水、食事、トイレは山小屋でした。 		
参加者	中村 隆 (L) 小川 誠 (SL) 本田 矢野 裕 齋田 新谷 男 2 名 女 4 名 計 6 名		

概念図



<651>

丹沢主脈縦走 (鍋割山～塔ノ岳～丹沢山～蛭ヶ岳) (1273m) (1491m) (1567m) (1673m)

村松敏彦

蜂の一刺し

「神奈川支部のアラフォーのリーダーさん、丹沢の計画を今年の秋実施しませんか」とまだ寒い3月、居酒屋で山の談義で盛り上がっている時頼んだ山行が「じゃ一計画しましょう」と話したことがやっと実現した。メンバーは5人、女性の3名は自他ともに認めるリーダー親衛隊だ。リーダーとは渋沢駅で落ち合う。絶好の天気で、尚かつ首都圏に近い丹沢は多くの登山者で賑わっていた。バスは満員の乗客を乗せて登山口の大倉に着いた。今日の行程は主脈縦走のメインルートは大倉尾根を辿るのが、普通だが我々は鍋割山稜を越えて塔ノ岳を経て丹沢山の「みやま山荘」に宿泊の予定だ。

久方振りの丹沢だが見なれた風景は何か懐かしさを感じる。単調な林道歩きもこれから始まる山登りの準備運動と思いながら勘七沢の出会いを右に見ると後沢乗越の急登が待っていた。ここで休憩していると一人の若者が近付いて鍋割山迄同行させてくれとのこと、聞くところによると長い間山登りをしていないこと、来年3月大学を卒業して地元の消防署に就職が決まり鍋割山荘の草野オーナーの所に報告に行く所だとのこと、若者に対しては心が非常に寛容な我々は心良く同意して6名のパーティとなった。

鍋割山の山頂は天気が良すぎて富士山展望の山だが今日は霞んで見えない。若者とはここで別れて昼食にする。広い山頂は多くの人が雑談しながら秋の一時を楽しんでいた。昼食をしていると突然、隣にいたリーダーがおにぎりを持ちながら口を開けて「蜂に唇を刺された」と云う。良く見ると唇の中が腫れている。同行者がすぐに薬を塗ったが翌日の昼頃迄腫れは続き、まるでお岩さん(顔は良く知らないが)の様だった。だが冷静に考えてみれば何故唇の内側が刺されるのか、何故そこまで蜂に気がつかないのかよく解らない。数十年前、時の総理が女性問題で女性から【蜂の一刺し】に合い総理の座を追われた事件を思い出した。それとは違ってこの場合は生きている本当の蜂に刺されたのだから皆で不思議だとか、誰かに

唇を吸ってもらえば直ぐ直るとか、一時、この話題で盛り上がった。大きな方向指示盤のある塔ノ岳で山座同定を楽しんで今晚宿泊する丹沢山へと向かう。途中ブナ、コナラの立ち枯れの木を見るが無残な様相だ。何故この様な現象が起きているのだろう。笠を反対にして枯れ葉とか種を採集している施設を見るがまだ解明出来ていないのだろうか?

丹沢山塊で唯一1等三角点のある丹沢山には日本百名山の大きな標識が建っていた。三角点に軽くタッチして直下の「みやま山荘」に宿泊する。小屋は百名山ブームかどうか解らないが遠来の人を含めて多くの登山者で賑わっていた。又、この小屋の団欒室には日本山岳史を語る多くの蔵書があるのには驚いた。聞くところによるとオーナーが登山家で長い間集めた本だとその事だそうだ。暇な時、滞在してゆっくりこれらの本を読んで先人の功績と歴史を辿ってみたいものだ。



丹沢山みやま山荘前で。

翌日、丹沢三ッ峰を経て宮ヶ瀬に行く道（丹沢主稜という）を右に見て我々は左の蛭ヶ岳に向かう。風は強いが天気は良く、草原状の峰々は晩秋の風を一杯受けている。不動ノ峰を越えると数年前台風並みの風と雨の中を吹き飛ばされないよう必死に歩いたキレットに着く。天候が良いと何のことない箇所だが慎重に下り、まもなく山小屋のある蛭ヶ岳の山頂に着く。

丹沢の最高峰で一休みして下山にかかる。原小屋跡を過ぎると丹沢では珍しいカラマツ林の姫次着く。ここのからマツ林は新緑、紅葉の季節は美しい。今回は一寸時期がずれてその美しさは見られなかったが。小さな登下降を繰り返しながら歩くのが嫌になるころ展望台のある焼山に着く。ここには3つの境界を印す祠が鎮座していた。ここからは焼山登山口の西野々部落迄一目散、中途にやま蛭を部落迄持ち込まないよう注意書きの看板を随所にみる。以前はこの様な看板を見るこ

とはなかった。下山口から橋本駅まで乗ったタクシーの運転手によると6月頃からつい最近まで多量のやま蛭が部落に発生したそうだ。多分登山者が服や体に付けて下山してくるのと動物（鹿、猪？）が持ち込むのと温暖化が拍車を掛けているのではないだろうか。動植物の生態系が崩れているような気がする。橋本駅近くの居酒屋で恒例の反省会を盛大に行い、秦野に帰るリーダーともここで別れた。余計なことかも知れないがリーダーも早い内に我孫子に戻って一人で生活しているお母さんを安心させてあげたらと常々思っているのは私だけだろうか。



蛭ヶ岳山頂にて。富士がよく見える。

概念図



概要

山名	鍋割山～塔ノ岳～丹沢山～蛭ヶ岳		
月日	平成21年10月31日(土)～11月1日(日)		
山域	丹沢	地形図 1/25000	大山、青野原
形式	山小屋泊	グレード 2A	
目的	①秋の丹沢の紅葉を楽しむ2日間 ②新装なったみやま山荘に宿泊する。 ③神奈川支部リーダーの計画を検証する。		
費用	12,000円	交通機関	小田急、タクシー、JR、その他
行程	1日目 我孫子駅 5:30→新宿駅(小田急線)6:41→渋沢駅 7:55/8:08(バス)→大倉 8:20/8:30⇒二俣 9:40/9:50⇒鍋割山 11:55/12:20(昼食)⇒塔ノ岳 13:30/13:50⇒丹沢山みやま山荘 15:00 着(泊) 2日目 みやま山荘 6:35⇒鬼ヶ岩ノ頭 7:40⇒蛭ヶ岳 8:10/8:20⇒姫次 9:50/10:00⇒黍穀避難小屋 10:35⇒焼山 11:20/11:45(昼食)⇒林道 12:50⇒焼山登山口 13:00/13:20(タクシー)→橋本駅 14:10/16:15→京王新宿駅→我孫子駅着 18:10		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 渋沢駅にて8:00に他のメンバーと合流。 登山道及び道標はしっかりしているのでよほどのことがない限り迷う心配はない。 二俣の登山口から鍋割山迄は急登が続く。 塔ノ岳から丹沢山まではけっこアッパダウンがあり思ったより時間がかかる。 新装なったみやま山荘は約30人収容で本日は約40名、2枚の布団を3名で利用する。その割にゆったり寝る事が出来た。 焼山から西野々の登山口まで至る所に蛭注意の立て札がたっている。民家が登山者が持ってくる蛭によって大きな被害を被っているとのこと。この季節にはいないが以前にはこの様な事はなかった。 		
参加者	北川(L)、村松、清家、外崎、千葉 男2名、女3名、計5名		



**丹沢のシカは人慣れしている。
近づいても動じない。**

< 652 >

三ノ宿山 (1229m)

中村 育子

晩秋の行者道を歩く

日光の紅葉シーズンがピークを過ぎても、きれいな葉が残っているこの時期に、リーダーの中村八重子さんは三の宿山行を設定した。この日、山はまだ紅葉が美しく、山行にはほどよい薄曇りの日和りだった。この山は昔の行者が修行して歩いた山だという。そのことを納得するようなラッキーな出会いのあった、風のない、穏やかな晩秋の山行だった。

男性の参加は原田さんだけだった。原田さんは「ゆうべそのことに気がつき、僕、恥ずかしくてよく眠れなかつたんですよ。」といって、行きの電車の中でみんなを笑わせていた。

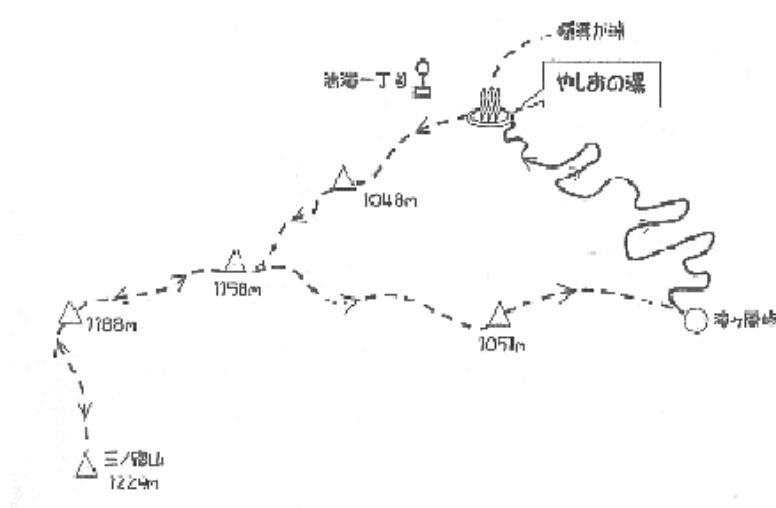
中村八重子さんはマイナーな山をよく知っていると誰かが言っていたが、山では、山頂で出会った3人以外には誰にも出会わなかつた。三の宿山は、日光駅から中禅寺湖方面に向かう道路120号線とそれに沿って流れる大谷川の南側にある。右隣には鳴虫山。バス亭「清滝一丁目」(東武日光駅から10分)で下車。登山準備のために出向いた清滝神社の境内には大きなイチョウの木が数本あって、きれいな黄

色い葉とぎんなんがたくさん落ちていた。何人かが、ぎんなんの食べ方についておしゃべりしている。(みんな色々なことを知っている。)

出発9時。神社の前の120号線を突っ切って反対車線に出、路地に入る。「やしおの湯」を通り過ぎると間もなく、右手に登山へのとりかかりの道がある。周りは丈のある草木がはえているので、気がつかずに通り過ぎてしまいそうだ。道しるべがない。

上(かみ)の代(しろ)発電所のてっぺんに貯水槽があつて、そこをめがけて歩くと尾根に出る。ふもとに古川電工の宿舎が見える。昔は大勢の人たちが住んで、沢山宿舎があったが、今はあそこに見える数棟だけになってしまった、とリーダーが説明する。リーダーの知識には驚く。少し登ると、ヘビがいた、と誰かがいう。こんな晩秋、こんな山の中に現れるとは。ヘビも冬支度をする。紅葉がとても美しい。日光の紅葉を、いろは坂を通らずに楽しめるとは知らなかつた!遠く靄がかかつてゐるとはいへ、爽やかな晩秋の1日を楽しめる予感がして気持が浮き立つ。鉄塔の下に来ると、「現在地を確認します」とリーダー。大谷川をはさんで北を向く。川向こうの左端に見えるのが丹勢山。その奥に左から男体山、大真名子山、小真名子山、女峰山、丸山が見えるが、さらに遠方は靄がかかっていて見ることはできない。これらをリーダーと原田さんに教えてもらう。鳴虫山は見えない。このあたりから紅葉は終わりに近くなる。真っ赤に色づいたツツジや名前の分からぬ紅葉した木に出会うと、みんな歓声をあげ、歩みが遅くなる。あまりの美しさにみとれてしまい、通り過ぎることが出来ない。つい全員で

概念図



記念写真を撮ってしまう。

山頂まで沢山のピークを上り下りする。もう着くかと思うとまた下りが続く。終わりがないのではないかと思う頃、榎原さんが、「今までピークがいくつあったと思う?」と聞く。「え、いくつ?」「14個よ。」その数にも驚いたが、数えきった榎原さんにも脱帽だ。榎原さんは、よく階段等も数えては、「二百段あった」等といって周りをびっくりさせる。榎原さんは大胆なのに緻密なのだ。

山頂には先客がいた。6, 70代の男女3人連れである。私たちがピークを14も乗り越えて、息も絶え絶えに山頂にたどりついた時、この先客は、サッとムカゴおにぎりを差し出し、そして、言った!「私たちはもう食べたの。全部どうぞ。」ええッ!いいんですか!腹ペこの身には8個のおにぎりはうれしいいただきもの。塩けが効いていて、素朴で懐かしい味がする。感激が体中に広がってゆく。彼らは、たくさんのご馳走を広げ、宴たけなわの最中だった。そこには7、8人分はあろうかと思われるほどのおいなりや巻き寿司もあった。どうしてこんなに持ってきたのだろう。たった3人なのに。リーダーの八重子さんは、急に来られなくなつた同行の人がいたのかもしれないという。でもそれだけの理由なのだろうか。リーダーは、こんなこともいっていた。昔の山伏たちは修行の間、村の人々の接待を受けた。あの山上の3人は足尾から来た人で、いわば地元の人たちだ。山にご馳走を運んできたのは「接待」の延長なのかもしれない、と。今でも6月のある日、「今山伏たち」は、経文を唱えて山中を歩くのだそうだ。あの先客たちは、「今山伏」への差し入れを背負ってきたのかも…。

下山途中、小さな祠の傍で休む。山伏が祈るという話を聞いて、箕輪さんか藤倉さんが、「それなら祠をきれいにしてあげましょう」と、落ち葉を払って掃除をはじめたので、とても感動する。

昼食後下山。土がザラザラして歩きにくい。前の人足もとばかり追って歩く。脇目もふらずに歩いていると、崖のようなところに出た。「ここは降りられないわよね。少しだけもどりますが、すぐ手前に巻き道があったのよ。気がついた?」とリーダー。リーダーはそれを承知のうえで、私たちに、直接確認させたのである。ええ!そんなのあった?巻き道に気がついた人は少なかった。私も気がつかなかつたことを反省はしたのだが…。



白いラインにならんでラインダンス

ピーク1158m地点までは登りと同じ道を下る。そこから右に折れ、鳴虫山方面に向かって滝ヶ原峠に出る。峠からはアスファルトの林道を1時間以上も歩く。疲れて着いた「憾満が淵」の入り口では、お地蔵さんが出迎えてくれた。苔むしていて、どれも赤い帽子と前掛けをつけている。きれいだった。

先に着いた人たちがソフトクリームを食べているので、私も買いに走る!川の淵に延びた紅葉は一段と美しい。120号線の道沿いに続くケヤキも、今が見頃だ。

山に分け入り、一日中自然と向き合って過ごせることは贅沢なことこのうえない。同行の皆さんに本当に感謝している。



お地蔵さんのお出迎え



紅葉をバックに集合写真

概 要

山名	三ノ宿山		
月日	平成21年11月1日（日）		
山域	日光	地形図 1/25000	日光南
形式	日帰り	グレード	2 A
目的	古の行者道を歩く		
費用	約4500円	交通機関	J R・東武電車・東武バス
行程	我孫子駅 5:32→北千住 5:55/6:32→東武日光 8:30/8:35（バス）→清滝一町目バス停着 8:46（準備）9:00⇒やしおの湯入口 9:13⇒休憩（鉄塔）9:45/9:50⇒ピーク 1048m 10:20⇒ピーク 1158m（分岐）休憩 10:55/11:05⇒ピーク 1188m 11:35⇒三ノ宿山 1229m 12:00/12:25（昼食）⇒ピーク 1188m 12:48⇒ピーク 1158m 地点に戻る 13:15/13:20⇒滝ヶ原峠 14:28⇒憾満が淵 15:33⇒休憩 15:40/		

行程	15:50⇒東武日光駅 16:25/16:59→春日部駅 19:02/19:09→柏駅 19:52/20:03→我孫子駅 20:07 晴時々曇<歩行時間6時間30分>
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 上り登山道は、やしおの湯から50号鉄塔経由し1158mまで、バリエーションルートを歩く。 三ノ宿山からの下山は1158mまで引き返し、滝ヶ原峠に下山する。
参加者	中村八(L)、桐生(SL)、榎原、品田、原田和、箕輪カ、藤倉、瀬田、矢野裕、中村育、斎田 男1名、女10名 計11名

< 653 >

難台山～吾国山 (553m) (518m)

箕輪カオル

常磐線岩間駅から水戸線福原駅までの、愛宕山・難台山・吾国山のハイキングコースを立冬の日に歩くこととなった。

岩間駅前通りを間もなくすると愛宕神社参道の看板があり、それに沿って歩いて行き、さらに長い石段を登りきると愛宕神社（愛宕神社は日本三大火防の神らしい）。



愛宕神社前で

登りとは違う難台山への標識の石段を下り、ひとまず広い駐車場に出た。駐車場の西側から林道に入り、乗越峠、すすきが原、展望檜の台地へといくぶん急坂を進む。展望檜は素通りして、難台山を目指す。車道のための切通しがいくつかあって、先ず目標の団子坂峠に来ると、地元のハイカーに出会う。「団子と大福があるよ」の冗談に和み行くと、大きな岩「団子岩」に出る。

まだまだ急登が続く。登っては下り、次々他のハイカーにも出合う。大福、鼻の下、ししの鼻、天狗の奥庭等々の看板があり、急登とはいっても歩きやすい山道である。

山林は、桧、コナラ、ブナなどの木の下に、アオキ、シキミなどの実のなるものがあった。アオキの実はまだ青かったが、シキミの実は真っ赤に熟れて広葉樹の黄葉とともに照葉樹林のさわやかな里山を彩っていた。



団子山

シキミは、「悪しき実」という意味からつけられた名前で毒をもつ植物ということを小谷さんが解説してくれた。

また、つつじや山桜の木が多く見られ、花の頃の春山もよいのではないかと思った。やっと到着した難台山頂では、山頂標識の傍ら寄り添うように見事な一本の満開のつつじが私たちを迎えてくれた。

つつじを愛でながら、原田リーダーの自家製野菜と味噌を使っての味噌汁に美味しさと感謝を味わった（きれいに刻んだ野菜は、奥さんの君子さんが準備してくださったとのこと）。

これでまた元気をつけて吾国山を目指すが、下りはなかなかの勾配である。広い道ではあるが、直下に、ジグザグにそして慎重に下る。途中、すずらんの群生地の分岐をさらに進むと道祖神峠に。そして、吾国山・先心館方面の細い道「狭き門」と書かれた棟門をくぐり、茨城県立洗心館の広い敷地に到着。

洗心館は、平成21年3月31日で閉館したと貼紙してあって静かで、トイレさえも閉まっていたほど。ここでしばらく休憩をして最後の山、吾国山に向かう。

ここからの30分弱のきつい登りを黙々と/or>て、山頂での千葉さんからの林檎の甘酸っぱさは格別。吾国山頂の石垣と祠、くつろげる椅子とテーブルが置かれている。祠の後方からの難台山、加波山方面がはっきり眺望できた。

福原駅をめざしてひとまず農道に下山する。それからは、帰りの電車に間に合うようひたすら歩く。福原駅前一本の銀杏が金色に輝いていた。いい汗を流したロングハイキングであった。

難台山 ツツジと一緒に撮影

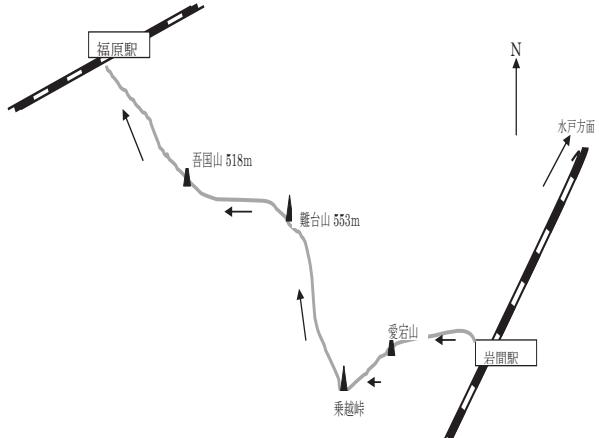
概要

山名	難台山～吾国山		
月日	平成21年11月7日（土）		
山域	茨城	地形図	1/25000 岩間、加波山、羽黒、
形式	日帰り	グレード	2A
目的	北関東平野の眺望を楽しむ		
費用	2,600円	交通機関	JR
行程	我孫子駅 6:26→岩間駅 7:24(準備) 登山開始 7:30⇒福祉センター横で衣服調整 8:05 ⇒愛宕神社 8:30/8:35⇒見晴らし峠 9:20/ 9:25⇒南山展望台 9:46⇒団子石峠 10:12 ⇒団子石(休憩) 10:15/10:25⇒団子山 10:40⇒大福山 10:50⇒鼻の下 10:55⇒し ケ鼻 11:00⇒天狗の奥庭 11:05⇒台山 11:25/12:10(昼食)⇒すずらん群入口 12:33⇒道祖神峠 13:05⇒洗心館 13:15/ 13:25⇒吾国山 13:45/14:00⇒農道に出る 14:40⇒高速道路下を通過 14:58⇒福原駅 15:15/15:24⇒友部駅 15:40/15:45⇒我孫 子駅 16:59 反省会 17:10/18:20(解散) 曇り午後から晴<行動時間 7時間45分 内、歩行時間 6時間15分>		
参加者	原田和(L)、箕輪力(SL)、箕輪完、中村育、本間、小谷 男3名 女4名 計7名		

ルート状況

- 今回のコースは7年前に一度歩いたことがあり、その時の記録を参考に歩いた。
- 愛宕山からの縦走コースを探すのに少し時間を要したが登山道は整備されて歩き易いコースでした。
- コース全体としてアップダウンが多くて難台山や吾国山の頂上付近は急登と急降下で滑り易いので注意が必要です。低山の里山歩きですがロングコースでした。
- ルート上や分岐点等には案内標識が設置してあるので迷うような場所は無かった。

概念図



表妙義
(第四石門 860m)

高橋芳恵

大の字に挑戦

紅葉を一番美しい季節の妙義山を再訪することができた。これまで妙義山の近くを通るたびに表妙義の大の字を「おもしろいけど厳しそうだな」と見上げてきたが、今回思いがけず「大の字」に行くことができた。リーダーからコース説明があり、①ゆっくりコースと②チャレンジコースを用意されているとのこと。当日の体調をみて、中間道をゆっくり先に進むコースか大の字コースを選んでよいとのことで参加者はそれぞれ選択し、15名中10名が大の字コースを行くことになった。

妙義神社は修理中であったが、中間道への道と別れ、苦むした石段から始まり、杉木立の急坂をどんどん上がっていく。私は必死の思いで上っているのだが、後ろの後輩は余裕で海外旅行の話題に余念が無い。体力の違いと自分の衰えを感じながら杉や岩に記された「大」を目印にひたすら上っていた。大の字近くになると鎖場が続き、先を行く他のグループの人が鎖に振られているのを見て恐怖を感じたが、下からのわが仲間の指示を必死に守り、やっと「大の字岩峰」にたどり着いた。冷や汗ものだが、登ってしまえば達成感で気持ちが良かった。大の字は金属で組み立てられていた。ここからは展望がよく妙義の岸壁や榛名山、関東平野などの見晴らしがよかったです。

大の字からの下りは直接第一展望台に向かう道を選びゆっくりコースの皆さんを追ってひたすら歩いた。中間道は関東ふれあい道となっていて歩きやすく、秋のさわやかな風を受けてとにかく気持ちが良い。見渡せば金鶏山、白雲山の特異な岩稜が素晴らしい。「やはりいつ来ても山はいいなー」と、こうして久しぶりに仲間と山道を歩けることがとにかくうれしかった。周囲は奇岩の連続で「本読みの僧」が道端にうずくまる様子がいかにも信仰の山である。

第二展望台を過ぎた東屋でやっと先発隊に追いつくことができ、共に昼食となった。さらに中間道を進むと有名な第四石門のある石門広場となり、さすがに登山客や観光客で賑わっていた。石門の上の大砲岩を見上げて自然の造詣に感嘆し、少し早い紅葉を楽しんだ。今回は帰りの渋滞

を考慮しオプションの石門めぐりはせずそのまま下山しバスを待ち合わせたので、その分早い帰路となつた。

前回の妙義山は春のトレッキングでこの山の面白さを満喫したが、今回秋のまた違った風情を楽しむことができた。帰り途中アクシデントが発生したが、岳人の皆さん機転の行動で全員無事に山行を終えることができ、改めて会員の素晴らしいを感じることができた。中村リーダーをはじめ皆様、本当に疲れ様でした。ありがとうございました。



紅葉、妙義のやまなみ



岩門の下で集合写真

概要

山名	表妙義 (第4石門 860m)		
月日	平成21年11月8日 (日)		
山域	西上州	地形図 1/25000	松井田、南軽井沢
形式	日帰り	グレード	2B
目的	①奇岩、奇峰のスリルに富んだコースを辿る。 ②紅葉の中、ゆっくり中間道をたどる。		
費用	4,235円	交通機関	貸切バス
行程	我孫子駅北口発 5:40→柏 IC5:55→嵐山PA 7:00/7:15→松井田・妙義 IC7:58→道の駅妙義山着 8:05 (準備)出発 8:15⇒ [近道コース] 妙義神社 8:30⇒中間道登山口 8:40⇒第1見晴 9:00⇒第2見晴 10:00⇒あづまや 11:20 [大ノ字コース]妙義神社 8:28⇒大ノ字頂上 9:15⇒辻(分岐)9:35⇒クサリ場通過 9:50⇒(中間道)第一見晴 10:20⇒第二見晴 10:38/ 10:45⇒本読み僧 11:05⇒近道班と出会う 11:15⇒あづまや 11:30/11:55(昼食)⇒分岐 12:50⇒大砲岩からの引返し時 13:00⇒分岐 13:05⇒第四石門 13:10/13:25⇒石門入口車道に下山 13:45バス乗車発 13:48→道の駅妙義山 14:00/14:15→松井田・妙義 IC14:30→嵐山PA15:30/16:15→花園IC発 16:45→飯倉PA18:10/18:20→柏 IC18:50→我孫子駅南口 19:15→R356号線で各自下車(解散) <歩行時間: 4時間30分>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 妙義神社境内は台風被害修復工事のため立ち入り禁止、参道や登山道は通過可能。右手の仮拝殿で安全登山を祈願し、大ノ字コースと近道コースの2班に分かれて出発する。大ノ字コースはちょっとぴり岩場・鎖場を樂しみたい人のためにオプションとして用意した。10人もチャレンジ、さすがは岳人。意外と厳しかったという感想だがその分達成感も十分では…。 近道コースは大ノ字コースの人たちが冷や汗をかいしている間にのんびり景色を樂しみながら先行しておこうという魂胆だ。Sさんが哲人のごとく考え込んでも、また子供のように駄々をこねても全然気にならない。 中間道は関東ふれあいの道にもなっていて、道幅は広く、よく整備されている。前半には第1見晴と第2見晴があつて休憩を兼ねて眺めを樂しめる。特に第2の方で金鶏山の奇峰や白雲山の岸壁は見ごたえがある。 東屋から下りるエスケープルートがあるが、今回は不要、ここを過ぎた後半はアップダウンが大きくなり鉄階段が多くなる。 最後は石門や奇岩の多い岩場につく。今回は石門めぐりはしなかったが、機会があったら楽しんでいただきたい。 下りは階段状の急下降で、膝をいたわりながらゆっくり歩きたい。石門入口の車道に着いてバスを呼ぶ。駐車場は紅葉目当てのお客さんで満杯だったそうだ。上州の山は足回りが不便なので、貸切バスは至極便利である。 バスの待機場所 登山口の道の駅2時間、中間のエスケープルート下の金鶏橋1時間、下山口下の駐車場2時間を目途とし、携帯で連絡して移動。
参加者	中村隆(L)、石垣(SL)、細野清、細野省、外崎、小川洋、榎原、高橋英、原田君、高橋芳、小川誠、桐生、矢野貞、原田和、坂巻 男7名、女8名 計15名



スリルある岩庇の下を行く



<655>

川苔山 (1363m)

榎原文子

紅葉が見ごろ 楽しい仲間と素晴らしい山

久しぶりの奥多摩の山行に心が弾む。何年も前に個人山行したこの山があまり記憶になく初めての山のように期待がふくらむ。一番電車で奥多摩駅に向かう電車も駅もものすごい人の数、11月なので出掛ける人も少ないので?と思っていたのにとんでもない、奥多摩駅から川苔橋までバスで15分、臨時が出る程の人気コースのようだ。バスを下車した所でリーダーの清家さんの挨拶といつもの準備体操を終えいよいよ出発、周りは紅葉した木々がちょうど見ごろを迎えたばかりでなんとも美しい限りだ。バス停わきの林道を谷沿いに進み細倉橋を渡った所で林道と離れ、右に登山道となる。

昨日まで3日間程雨が降ったとかで沢の音、滝の音がものすごく豪快でいたるところで滝が見られ、エメラルドグリーンの淵を眺めながら木橋を渡ったり、沢筋の赤や黄色のモミジの葉で絨毯のような道、岩肌をへつるように進めば百尋の滝が現れる。滝の近くに行くのにはハシゴを降りたりして時間がかかるので、次回春とか夏、日の長い季節に来てのお楽しみに残す事として先に進んだ。尾根を巻き込むようにして登っていくと、右手が開けて谷向こうに足尾岩が望まれる。いったん小沢に下って対岸の右手に登っていくと足毛岩との分岐があり、日向沢ノ峰方面への道をたどりジグザグに登っていくとすでに取り壊された茶店小屋跡にたどり着く。広く平らな所で頂上はもう近い。最後の急坂を頑張れば山頂にたどり着く。お天気に恵まれ富士山をはじめぐるり360度の展望、近くの人にお願いして記念撮影を済ませ、風を避けて少し下った所で昼食となる。武内さん、清家さんがお湯を沸かして甘酒を作って下さり、とても美味しいいただきました。メンバーからの差し入れのおいしいパイナップルなどもあり木の葉の舞い散る青空の下での最高の時間を持つ事が出来ました。鳩ノ巣駅への下り道は

登った沢筋の道とは違い全く雨の痕跡すらない枯れた道で時々落ち葉が嵐のように一いつものすごい勢いで舞い上がりながら移動する様はめったにお目にかかれないので自然の姿であった。楽しい仲間と素晴らしい山で一日を気持ちよく過ごせたと、また私の宝物が一つ増えました。皆さんありがとうございました。

概要

山名	川苔山		
月日	平成21年11月15日		
山域	奥多摩	地形図 1/25,000	武蔵御岳・武蔵日原・奥多摩湖
形式	日帰り	グレード 2A	
目的	奥多摩の名山に紅葉と展望を求めて		
費用	約3,000円	交通機関 JR・バス	
行程	我孫子駅 5:33→新松戸駅→西国分寺駅→立川駅 7:05→奥多摩駅 8:30/8:40(バス)→川乗橋 8:54/9:05⇒細倉橋 9:45⇒百尋ノ滝 10:40/10:50⇒東ノ肩 12:05⇒川苔山 12:10/12:20⇒東ノ肩 12:25/13:05(昼食)⇒大根ノ山ノ神 14:50⇒鳩ノ巣駅⇒15:20/16:10(反省会)→青梅駅 16:40/16:43→神田駅 18:00/18:03→上野駅→我孫子駅 18:45 <行動時間:6時間15分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none">百尋ノ滝を過ぎる迄の谷沿いの登山道は細く急登。以前、滝の真下まで行かれない時もあったが、現在は梯子もできて下りられる。最近、雨も多く谷は水量が多かった。登山道の岩や木の橋も濡れていて滑りやすかった。		
参加者	清家(L)、矢野貞(SL)、榎原、中村八、武内、小川誠、藤倉、瀬田、新谷 男2名 女7名 計9名		



木橋を渡る



川苔山頂上にて。快晴、見晴らしよし。

概念図



落葉した木々、立ち止まると寒い
頂上より下りて風のないところで昼食にします。



< 656 >

武川岳 (1052m)

瀬田映子

武甲山越しに絶景が…

芦ヶ久保駅では沢山の登山者が降りた。駅前は広くトイレも綺麗。準備体操を始めいざ出発しようとした時、3人組の男性登山者に「どこまでですか?」と声をかけられたので「武川岳です」と元気良く答えた。「最初から急登で大変ですね」と言ってきた。「頑張ります」と笑顔で答えたが・・・武川岳のグレードは1Aのはず、そんな事はないだろうと思いつながら8時40分に駅を出発した。駅から坂を下り川の手前を左折。小さなトンネルをくぐりぬけると登山口に着いた。見上げるとかなりの急登、あの男性登山者の言葉は本当だったのか。駅で降りた登山者達は何処へ行ったのだろうか?私たちの前には誰もいない。後ろから男性登山者が一人だけ。不安を抱きながら8時46分に登りはじめた。沢沿いの登山道は傾斜が急である。Jさん沢沿いの水場で水をゲット。

急な登りの左側傾斜を中年女性の登山者が足場を探しながら必死になって登っている。その下で男性登山者が後に続こうかどうか迷っている様子。我々はその様子を横目にリーダーに従って急な登りを息を切らせながらひたすらまっすぐに登って行く。しばらくして後ろを振り向くと先ほどの男女の登山者が後に続いて登ってきた。きっと道を間違っていたのであろう。



美しいスギの木の間に??

概要

山名	武川岳		
月日	平成21年11月21日		
山域	奥秩父	地形図 1/25000	正丸峠、原市場
形式	日帰り	グレード	2A
目的	紅葉を楽しむ		
費用	約4000円	交通機関	JR 西武池袋線 バス
行程	我孫子駅 5:31 発 → 日暮里駅 → 西武池袋駅 6:28 発 → 飯能駅 7:24 着 / 7:50 発 → 芦ヶ久保 8:30 着 / 8:40 出発 ⇒ 登山口 8:46 ⇒ 二子山雌山 10:25 ⇒ 雄山 10:45 ⇒ 焼山 11:38 / 12:00 (昼食) ⇒ 武川岳 13:15 / 13:25 ⇒ 前武川岳 13:40 ⇒ 天狗岩 14:15 ⇒ 西山壯 ⇒ 名郷 15:18 / 15:21 → 飯能駅 16:15 / 17:05 → 西武池袋駅 17:57 → 日暮里駅 18:20 → 我孫子駅 18:51 晴れ (歩行時間 5 時間 30 分)		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 駅から坂を下り川の手前を左折し、トンネルをくぐると登山口がある。 上り始めて40分ぐらいの所に水場がある。アップダウンの多いコースで二子山雌山の頂上直下は特に急登でロープが取り付けている。三等三角点は雄山に置かれている。 前武川岳から名郷に下る道標に「上級向き」と書いてあるが、危険個所や迷いやすい所はない。標識は少なく、登山道に落ち葉があり、はつきりしない所があったが、迷うようなことはない。 		
参加者	田村 (CL) 、榎原、藤倉、瀬田、高橋重 (SL) 本田、矢野裕 男1名 女6名 計7名		

沢の源頭を過ぎるとロープがはられたさらに急な登りが立ちはだかる。ロープに助けられながら足がかりのない急な登り坂を登る。「先週、川苔山に登っていて良かったね。足つりそう!!結構キツイ!!」とSさんに声をかける。よいしょ!よいしょ!自分に掛け声をかけながらざらつく斜面を一生懸命に登る。10時25分やっと二子山雌山に着いた。最後の急登は本当にしんどかった。ここで休憩、息を整えエネルギーを補給して二子山雄岳をめざす。10分ほどで二子山雄岳に着いた。

山頂は、武甲山や秩父市街が一望できる素晴らしい風景。しばらくの間素晴らしい風景みて、心が和み次の焼山を目指す。

急坂をくだり武甲山を右にのぞみながらの尾根を歩く。振り返ると、さっき登ったあのきつかった二子山がみえる。二子山が我々に「頑張れ!!

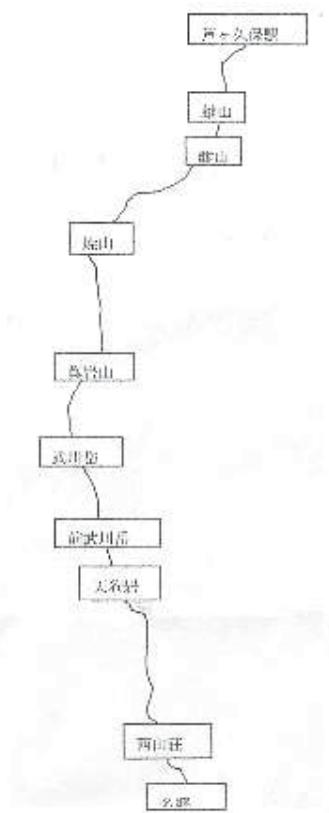
もう少し」と応援しているかのようだ。もう少し岩の登りをつめると一面が開け11時38分焼山に着いた。

山頂で待っていたのは、大きな武甲山越しに両神山、御荷鉢山、浅間山、榛名山、赤城山、奥に谷川岳、さらに、男体山。近くには伊豆ヶ岳など一望できる素晴らしい風景。最高！！最高！！感激のあまり、さっきまでの疲れはどこかに吹き飛んでしまった。武甲山を目の前に、紅葉を眺め秩父盆地を見下ろしながら昼食を食べる。最近食べたどんなご飯よりも美味しく感じた。

焼山の素晴らしい展望をもっと見ていたいのだが、この先まだまだ行程が続くので写真撮影をして武川岳を目指す。美味しいご飯を食べてお腹が一杯になり最高の気分で12時焼山をあとにした。

小持山、大持山を右に穩やかな登り、最後にまた急坂を登り13時15分武川岳山頂に着いた。椅子が置かれた山頂には先客の中年男性登山者二人が休んでいた。一人はいつの間にかスーといなくなってしまった。もう一人の男性登山者は、単身赴任で休日には近場の山に登っているとのこと。私たちより先に下っていった。武川岳も南側が開け展望が良く、武甲山の勇姿をみることができた。日溜りの中のんびり昼寝などしてみたい気分だが、10分ほど休み武川岳山頂を下り前武川岳に向かった。

概念図



前武川岳付近はまっすぐに伸びた美しい杉樹林帯。その美しい杉の木の間から美しい美女軍団がつぎつぎに顔を出し「ハイ、ポーズ」・・・名カメラマンによる写真撮影・・・・素晴らしい記念写真ができました。穏やかな杉樹林帯にはつとる間もなく、また岩の露出した急坂を登る。何度アップダウンを繰り返すのだろうか。

14時15分石灰岩の岩石が大小さまざまな石碑のように並んでいる天狗岩登頂に着いた。天狗岩からは、石灰岩の岩塊を積み重ねた急な下りで男坂と女坂に分かれていた。女坂を下る途中、ふと振り向くと女性が艶かしいポーズをとっている裸婦像のような木に出会いました。あまりの美しさに私は勿論の事、名カメラマンもシャッターを押すのを忘れていたようです。岳人の皆に見せられないのが残念！！

名郷バス停に向かう途中の西山荘の近くでは寒桜に出会いました。またゆずの木が何本も植わっていてゆずが沢山実っていました。Jさんがストックで取ってくれたのですが、傾斜の草むらに落ちてしまいました。残念！でもわたしは手の届くところに「わたしを取って」と微笑みかけているゆずを一つゲットしてきました。15時18分名郷バス停到着。運よく15時21分のバスに乗れました。飯能駅に16時15分に着き駅前で反省会。餃子にビール美味しかった！

何度アップダウンを繰り返したのだろうか？思っていたより急なアップダウンの多いきついコースでしたが、天候にも恵まれ展望も最高！風で落ちた山栗やどんぐり落ち葉を踏みしめながら紅葉も眺めることができました。本当に楽しい山行でした。リーダーをはじめ参加したみなさんどうもありがとうございました。



アップダウンの繰り返しの後たどり着いた武川岳

< 657 >

馬頭刈山・戸倉三山

(臼杵山・市道山・刈寄山)
842m 795m 687m

高橋 英雄

低山ながら静かで充実した山行が楽しめる ロングコース

山行の時はいつもの事ですが天気が気になり、前日の予報を見たら、まずまずの予報である。我孫子駅からいつもの電車に乗り西国分寺駅、立川駅、拝島駅、武蔵五日市駅と乗り継ぎバス停より軍道方面に行くバスに乗る人たち大勢いた。バスは満員であったがどうにか乗れて20分ほどで軍道バス停に着く。

登り初めからややきつめの登りジクザクに進んでいるうちに光明神社跡地に着く。それからは緩やかな登り。途中道路わきに朝鮮に関係あるのかそれらしき石碑が2、3箇所あった。やがて馬頭刈山山頂に着く。山頂は広さがあるも立ち木があって展望が余りよくない。木々に葉がつくと余計に見えなくなるのでは…。



馬頭刈山山頂で

適当に昼飯を済ませ下山する。千足尾根は結構きつく、また、歩きにくい。ジクザクの道を下り、ようやく茅倉集落に着く。集落から車道に出て約30分位歩いて払沢の滝入り口に着く。滝まで15分位で着く。払沢の滝は関東100選のうちの1とか、予定に無かったが時間があったので滝見物と相成った。

払沢の滝バス停よりバスで荷田子バス停まで

行き、歩いて今日の宿で光明山荘に着く。時間が少し早かったが部屋が空いていたので入れて貰った。6畳2間で余裕でした。

1日目の反省会は程ほどに切り上げ明日の出発が早いので早めに床につく。



滝をバックに、気分爽快です
滝の全体撮影



朝御飯は頼んでいない為、民宿のフロント横で各自朝食をしていたら、民宿の好意により味噌汁を頂き今日の活力になるかな?民宿を6時30分に出発、歩いて6分位で登りに入る。やや急な登りをジクザクに登り、鞍部656mで一休み。これから臼杵山まで登りを覚悟しなければ…。

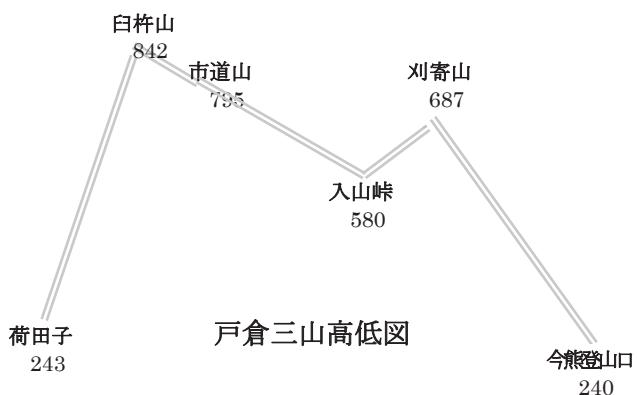
3山で一番高いのは臼杵山、次は市道山で、刈寄山と低くなっている。3山の中でも市道山から刈寄山迄はアップダウンがかなりあって長い。また刈寄山は登山道から少し中に入った所にあって往復20分位かかる。今熊山(神社)を経て、悪い下山道を下りやがて今熊バス停着く。10分位待ってバスに乗り八王子駅に着く。駅近くで反

省会をして駅から我孫子へと向かう。3山は一本道で迷うような所は無く順調であったが、山の何処にも水が無く、夏場の山行はかなり水が必要でしょう。6年前に来ているが記憶はまばらであまり良く覚えていなかった。年を重ねたせいかな、それにしても長い1日であった。

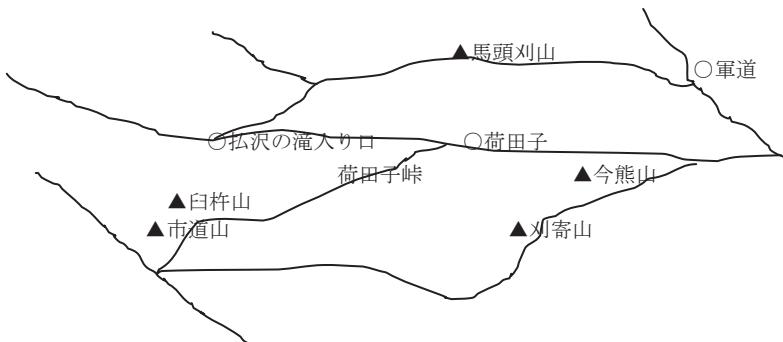
概要

山名	馬頭刈山・戸倉三山		
月日	平成21年11月28日(土)~29日(日)		
山域	奥多摩	地形図	1/25000 五日市
形式	民宿泊	グレード	2A
目的	低山ながら静かで充実した山行が楽しめるロングコース		
費用	約13500円	交通機関	電車、バス
1 日 目	我孫子駅5:33→西国分寺→立川駅7:07→拝島駅7:18/7:35→五日市駅7:57/8:20(バス)→軍道8:38/8:45出発⇒高明山(光明神社)9:38/9:45⇒馬頭刈山10:31/11:00⇒鶴脚山11:20⇒茅倉集落12:05⇒払沢の滝入り口バス停12:40(滝見物)/13:14(バス)→荷田子(民宿光明山荘)13:40(泊) <歩行時間:3時間>		
2 日 目	民宿光明山荘6:30出発⇒656mピーク7:30⇒臼杵山南峰8:35/8:45⇒市道山10:08/10:15⇒林道横断12:25⇒刈寄山12:40/12:45⇒入山峠12:55⇒今熊山(今熊神社)13:50/13:55⇒今熊山登山口バス停14:30/14:36(バス)→八王子駅5:05/16:25→西国分寺→我孫子駅18:30 <歩行時間:7時間30分>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 1日目のルートは登山口からややきつい登り、光明神社まで、それからは、なだらか登りで比較的歩き易い。 馬頭刈山山頂は展望が余りよくない。下山道は意外ときつい道程。茅倉集落から払沢の滝まで30分あまり歩く。 2日目のルートは入り口から登りは656mのピークまで急登、それからは緩やかな登りが続く。3山のうちで一番高い山が臼杵山で市道山、そして刈寄山と下りのはずだが、市道山から刈寄山まではアップダウンがかなりあった。 今熊山から下山道はかなり荒れていて歩きにくい。車道近くになってからようになる。 2日間ともルート的には一本道で迷うところはなく順調に歩くことが出来た。
参加者	高橋英(L)、村松敏、外崎、佐藤明 男2名 女2名 計4名



概念図



<658>

手賀沼一周

箕輪カオル

予報では、（曇りのち雨となり寒くなるでしょう）とのことでしたが、とても良い天気に恵まれました。A グループ 15名が水の館を8時に出発しました。旧村川邸跡わきのはけの道を通過して、銀杏の落葉散る志賀邸跡に立ち寄りました。その後、楚人冠公園の丘に登り、楚人冠の句碑「冬晴の筑波見ゆ洪いなる空に」の前で記念撮影をしました。少しばかり我孫子の文化にもふれて…。それから、アビ斯塔玄関前に待つB グループ 9名と合流しました。そして3回目となる今回は、かつてない大勢（24名参加）のクリーンハイクとなりました。

クリーン作戦リーダーの原田和昭さんから、「収集ごみの分別」について説明があり、4種類（1缶類 2ビン類 3タバコの吸い殻 4その他燃えるごみ）の担当を決めて出発しました。船戸の森を抜けると武者小路邸跡があります。邸内は入れませんでしたが、門前からの庭の紅葉が日に照らされて色鮮やかでした。「今日の最高峰だぞ」といわれる根戸城跡は、柏市との境界の台地に位置し、そこは竹林等で覆われていました。日下さんの説明によると、内堀・外堀の跡とのことで、その様子も微かに感じ、さらに進むと、昔の練兵場ではないかという小さな広場がありました。陽だまりには、もう水仙が咲いていました。

柏市のふるさと公園でしばらく休憩。その後、大堀川の橋を渡り千葉県浄水場に来たところで、幸いにも柏市のゴミ収集車に出会い、私たちの収集したものを持ち取ってもらいました。この辺りから本格的に手賀沼に添った歩きとなり、枯蘆の中、白鳥、鴨などの水鳥をウォッチングしながら足取りも軽やかです。タイミング良く双眼鏡を持ってきた人もいました。沼南道の駅に11時20分到着しました。ここで、4名が所用で帰ることになりました。そこで、小川リーダーから日下さんが秋の叙勲受章をされたという紹介がありました。

30分の昼食タイムをはさみ、今度はフィッシングセンターをめざしての歩きです。さすが午後からの沼風は少し冷たく、汗ばむ体には気持ちの良いものでした。滝の前団地あずまやの藤棚下で休憩しました。原田さんがごみを一括して、トイ

レ掃除の人に託すメモをつけて置くことになりました。なかなか手際のよい判断。遊歩道の桜並木では本来、裸木のはずなのに桜の花が咲いていました。鮮やかな赤い実をつけた樹木を見つけ、シロダモと知りました（中村八重子さんから聞く）。「樹木の名前を知る山行もいいね」等と話しながら歩いているうちに、出発点である水の館を過ぎ、親水公園広場に到着。ゲスト3名を含め19名が完歩です。

ゴミの総量 22.6 kg 手賀沼をきれいにする一役を担いました。仲間とともに史跡の再発見もでき、なにより6時間もの歩きに故障者もなく終えられたことは良かったと思いました。



旗手のもと、ゴミ収集。北千葉揚水センターで柏市のゴミ収集車がゴミを引き取ってくれました。



楚人冠公園にて。

概要

山名	手賀沼一周		
月日	平成21年11月29日(日)		
山域	我孫子市 及び柏市	地形図	1/25000 取手
形式	日帰り	グレード	1A
目的	①手賀沼を巡り、ふるさとの自然再発見、足慣らしと親睦。 ②手賀沼をきれいにするため、ごみを拾つて歩くクリーンハイク。		
費用	なし	交通機関	徒歩
行程	A グループ；手賀沼畔の「水の館」駐車場 08:00 集合/08:05 出発⇒手賀沼北側道路を西へ⇒志賀直哉邸跡 8:25⇒杉村楚人冠公園 8:34⇒8:45 手賀沼公園(アビスタ玄関前) B グループと合流 B グループ；手賀沼公園(アビスタ玄関前) 8:55⇒手賀沼北側の道(自動車道路と平行の北側の道)を西へ⇒武者小路実篤邸跡		

9:20⇒船戸城址⇒根戸城址 9:45/09:50⇒北柏ふるさと公園 10:05/10:15⇒北柏ふるさと大橋を北から南へ渡る⇒手賀沼南側の道を東へ⇒ビジャーセンター10:30⇒道の駅「沼南」 11:20(昼食休憩)/12:00⇒手賀沼大橋は渡らず手賀沼南側遊歩道を東へ⇒フィッシングセンター13:10/13:20⇒手賀沼北側遊歩道を西へ⇒滝の前団地あずまや 14:00/14:15⇒水の館前 14:35⇒手賀沼大橋北側の市役所下交差点着 14:45「COCOS」にて反省会/16:30解散 行動時間；6時間40分(休憩1時間30分を含む)
参加者 小川誠(L)、高橋重、原田和、大串恵、大串秀、斎藤、日下、榎原、中村育、原田君、中村八、飯沼、箕輪力、箕輪完、千葉、桐生、矢野貞、瀬田、本田、齊田、新谷、矢野(ゲスト)、須賀(ゲスト)、末長(ゲスト) 男 9名 女 15名 計 24名

▼ 概念図



<6 5 9>忘年山行

雪入山 (360m)

小松庸信

今年の忘年山行は、茨城県霞ヶ浦市に位置する“雪入山”であった。近隣の茨城県には「雪山と言われるような雪に覆われた山はないはずだが」と思いながら参加した。

集合時間が6：30であったので、いつもの山行より一時間程遅く、通常の起床時間で良く気持ちに余裕があった。天候が昨夜の雨から一転して、快晴の朝を迎えることが出来た。

参加33名、企画リーダーが流行性感冒ということで急遽参加できなくなる事態はあったものの、ほぼ予定通りにバスは出発した。国道6号線の利根川橋の上から雅に日出を見る事ができた。日曜の道路は空いていて、車の流れが頗る順調でバスの終着地の“雪入ふれあいの里公園”には7：40頃、予定より早く到着できた。高台にある本公園から望む下界はまさに一面雲海に覆われ、高い山から眺望できる風景がこの低山で体験できるとは何か得した気持ちになった。

山行は林道の下りから始まり、木漏れ日の中を暫くはルンルン気分で下っていった。更に進んだ先で二股の分岐点があり、パラボラ山に通じる直登ルートの方を進むが、30度位の勾配と思われる急坂である。更に落葉が積み重なって一層滑り易くしている為に、本当に登りに難儀させられた。パラボラ鉄塔のあるところからの展望は、木々に遮られていたが西の方角だけは開けて、何と富士山を遠望出来、幸運であった。12月とは思われないポカポカ陽気の中、暫く尾根小道を歩き続けていると、木々の間から筑波山の男・女体山がくっきりと見られる。



筑波山

雪入山の頂きは、尾根の緩やかな山道の一角に、山名の入った標識が小枝にぶら下っているだけであった。更に平坦な尾根を進んでいくと、浅間山(345m)への分岐点に到着する。急な道を数分登ると、なだらかな山頂に小さな石の祠が神社であることを示している丈である。ここ小森の山頂で休憩する。

浅間山から忘年宴会場の三ツ石森林公園までは下るだけで、ルンルン気分のまま“見晴し公園”に、11時前に難なく到着できた。今日の山行時間は約3時間で終了したが、バス駐車場がはるか下の方にあり、宴会場までの荷揚げが一番疲れる作業であった。お陰で宴会前に適当な運動になり、食担の作られた美味しい料理が空腹を満たすことになった。食担の作られた“芋煮”は大量生産の為に、味付けにはご苦労されていたようではあった。一層温かさを感じ、お酒が進み美味しかった。会場は太陽の日差しをまともに受けるところで、日焼けを感じる程であった。忘年会ではbingo大会も行われたが、当方は大変運良く最初にあがることができ、一位の栄光を受けた。今年の山行では雨にあたることが多かったが、ここにきて今年最後の幸運をいただいた感じであった。

帰路のバスの中は例によって、歌って飲んでの二次会、賑やかな陽気な帰途であった。国道6号線の利根川橋から、今度は太陽の沈む夕日を望むことができた。楽しく無事に今年も忘年会行事を終えることが出来た。



鍋二つにたっぷりできました。
(そのあともうひとつにも)。
食担の皆様ありがとうございます！！
芋煮を食べて皆歌う！！
コカリナ演奏！！

各班リーダーのコメント（やまたんより）

チーフリーダー

村松敏彦

12月とは思えぬほどの暖かい天気に恵まれ無事忘年山行を終える事が出来ました。数日前の朝、玄関口に大きなマスクをした体の大きな本当のリーダーの「インフルエンザに罹ってしまいました。今度の忘年山行参加出来ません」という言葉に眠気も吹っ飛んでしまいました。まあ何とかなるだろうという事で「お大事に」と言ってその場を辞したがそれからは大変、細かな事の多いこと、幸いに食坦の方、その他関係の人達の協力で何とか滞るなく終える出来ました。あらためて感謝します。この会に対する思いを何時までも持ち続けてさらなる発展を望むものです。

1班

品田千恵子

今年も忘年山行がやってきました。1年が過ぎるのは早いものです。今回の山行は忘年山行に相応しい名の雪入山でした。正式な名前のある頂きはなく雪入地区の北側の稜線を雪入山と呼ぶらしい。しかし富士山や丹沢・霞ヶ浦、牛久大仏などを見ることが出来、展望も良く、途中には近くに双耳峰の筑波山もみることが出来ました。見晴し広場での昼食は風もなく暖かい陽だまりだったので日焼けを気にしながら食坦係の力作である「芋煮鍋」は汗を流しながら美味しく頂きました。その後のビンゴゲーム大会では豪華景品付というので皆さん大いに盛り上がりとても楽しく時間が過ぎました。

行きのバスの車窓からはきれいな朝日が見られ、帰りの車窓からも奇麗な夕陽を見ることができ本当に天気に恵まれた山行でした。皆さん、どうも楽しい山行を有難う御座いました。

2班

飯沼トミ子

前日の冷たい天気とうって変わって快晴に恵まれ、6時30分に我孫子を出発した。バスは渋滞にも遭わずに8時には目的地に着いた。準備運動の後に登山？を開始した。風もなく静かな小春日和の中の山行になりました。

いやしの里では美しい姿を見せていました。パラボラ山への直登コースは短くても、やはり急登でした。班メンバーの中では体力的に一番弱い私がリーダーと云うことで列の先頭を頑張って一息で登った。剣ヶ峰を越え、筑波山を左に眺めながら足元も軽やかに雪入山へ。「雪入山」の標識が立木に隠れてしまっていた為に見逃す所でした。

三ッ石森林公园での忘年会は12月とは思えない暖かさの中で盛大に行われました。食坦の腕のみせどころで、沢山のそして種類の多い料理に皆さん満悦の様子でした。そして、山頂でのビンゴゲーム、これは始めての催しものでグッドアイデアでした。景品をご用意して下さった方に感謝申し上げたい気持ちです。それから、山中で聞くコカリナの演奏の美しさは格別でした。次から次へのアトラクションは時間も充分にあり、のんびりした忘年山行でした。食坦の方々本当に有難う御座いました。



天気良し、食事良し、山良し、仲間良し

3班

武内勇二

雪入ふれあいの里ネイチャーセンターから関東平野は雲海の底に沈んでいるのが見えた。昨夜の雨が温められ霧となって立ち込めたのだろう。駐車場先の小道に入り、中央青年の家を目指して出発、霧でうっすらと暗い林の中を緩やかに下っていく。木漏れ日が霧に光の帯を投影し、その幻想的な光のページェントにパーティの中から感嘆の声が上がる。林道に出て緩やかに登った所で霧は晴れ明るい日射しに包まれた。この辺が雲海の天井ということだろう。中央青年の家付近にはキャンプファイア広場が整備されていた。立ち寄りはしなかったが、この広場からも関東平野の展望は良さそうだ。いやしの里への林道はすっかり葉の落ちた桜並木だ。ミニゴルフコースがあつたり、露天風呂・岩盤浴の施設が建っていたり、結構観光化している。春から秋にかけては、それなりに人を集めのだろうが、冬の今頃は閑散としている。剣ヶ峰への展望コースを分けパラボラ山直登コースを取った。滑りやすい急登だったが左程の標高差がある訳ではなく、20分程度で林道に出た所に電波中継所があった。ここで一服、木の

枝越しに真っ白な富士山が見えた。尾根上には舗装されていないものの車も通れそうな広い道が次の電波塔まで続いている。雪入山は道標がなければそれとは気づかづに通り過ぎるだろう。現に、その手前にある剣ヶ峰は意識しないままに通り過ぎてしまった。葉の落ちた木の枝の隙間より北西方面の筑波山が望めるものの南側の展望は概してよくない。辛うじてパラグライダー離陸場や展望のため切り開かれた場所から霞ヶ浦方面が望めた。あきば峠で林道を横切り、元あきば峠の石柱を過ぎると直ぐに浅間山の登り口があり、頂上には祠が祭られている。浅間神社は富士山の神靈である浅間大神を祀ることなどから富士山信仰と結び付く。浅間の語源は諸説あるが「アサマ」とはアイヌ語で「火を噴く燃える岩」または「沢の奥」という意味がある。また、東南アジアの言葉で火山や温泉に関係する言葉である。例えマレー語では「アサ」は煙を意味し「マ」は母を意味する。その言葉を火山である富士山にあてたとする説は日本人のルーツに思いを馳せる事が出来て面白い。浅間山頂上で短い昼食休憩を取り、忘年会会場の三ッ石公園展望広場を目指して一目散。途中芝生広場の道標の所で?という場面もあったが、ほぼ予定通り宴会場に到着。バス駐車場から会場へ酒や食料のボッカに今日始めての汗をかいだ

4班

藤倉貞子

山行場所が近いのでいつもの集合時間より1時間遅く6:30分集合、山に近づく程、霧が濃く雪入ふれあいの里駐車場で下を見渡すと霧で高い木の頭が見えるだけで真っ白でした。

落ち葉を踏みしめながら、枯れ木に絡まった真っ赤なカラスウリ・薄暗い林道の中で太陽の光が降り注ぎ輝いて見え神秘的でした。アップダウンの山道を進むと「いやしの里」から急登で足場に気を付けながら息も上がり電波中継場で休憩。剣ヶ峰では、霞ヶ浦が見えました。雪入山345mは展望がなく標識のみでした。あきば峠から筑波共同試験地、浅間山で休憩し昼食をとりました。三ッ石公園みはらし広場で親睦会。食坦のお陰で料理・お酒、美味しくおなか一杯いただきました。ビンゴゲーム大会も楽しくバライティーある景品で楽しい忘年山行でした。幹事・食坦の方々ご苦労様でした。

概要

山名	雪入山		
月日	平成21年12月6(日)		
山域	東筑波	地形図	1/25000 柿岡
形式	日帰り	グレード	1A
目的	①1年を締める忘年山行。 ②大勢の時の料理の仕方を覚える教育研修。		
費用	3500円	交通機関	貸切バス
行程	我孫子駅北口発 6:35→雪入ふれあいの里公園 7:40⇒出発 8:00⇒いやしの里⇒パラボラ山 9:15⇒剣ヶ峰 9:30⇒雪入山 9:38⇒あきば峠 9:54⇒浅間山 10:15/10:30⇒三ッ石森林公园着 11:00 懇親会 11:45/13:05 ビンゴゲーム大会 13:25/14:00 三ッ石森林公园駐車場発 14:43→我孫子駅北口着 16:20(解散)		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 雪入山としての際立ったピークはない。登山道の脇にひっそりと山名板がたてかけてあるのでここかなと思う場所が山頂だ。 コースは雪入ふれあいの里公園駐車場の奥から道標にしたがって中央青年の家方面に登山道を降りる。 いやしの里の駐車場からの展望は低山でありますながら高山からの展望と見違える。遙か南西方向には冠雪の富士山が朝の太陽を受けて白く輝いていた。又、眼下の筑波方面は薄い霧の中に見え隠れして幻想的な風景を醸していた。眼を南東に転じればその名通り霞ヶ浦がぼお~と霞んで見える。まさに墨絵の世界を表現していた。 その先の林道から右の登山道に入ると展望コースと急登コースに別れるが展望コースは展望がないので急登コースをパラボラ山に向かう。 剣ヶ峰の先にこのコース唯一の展望と展望板が設置されている。 ここを過ぎると間もなく登山道脇に雪入山の山名板の所に着く。注意していないと気がつかず通り過ぎる。 浅間山の登下降は滑りやすい。 懇親会の三ッ石森林公园はロッジ風の建物の中にトイレ、水など完備している。又、公園はよく整備されていて展望広場、芝生広場、鳥の池など自然をゆっくり楽しむように出来ている。 		
参加者	1班：品田(L)、村松(SL)、桐生、矢野貞、矢野祐、中村育、斎田、石垣 2班：飯沼(L)、清家(SL)、高橋重、瀬田、本間、新谷、中村隆、高橋英 3班：武内(L)、青山(SL)、小松、小川誠、榎原、中野、原田君、小谷 4班：藤倉(L)、佐藤健(SL)、佐藤明、田村、外崎、原田和、小川洋、中村八、千葉 男11名 女22名 計33名		



三ツ石森林公园にて、忘年会のあと、全員集合。

概念図



<660>

足和田山～紅葉台 (1355m)

矢野 裕子

南アルプスが雄々しく見えて

霧雨の中、我孫子・柏を出発しましたが、中央線に乗る頃には予報通り明るく晴れてきて、楽しい一日の予感です。富士急線では車内アナウンスも入り、車窓にはすでに大きな大きな白い富士山が左に右にと見えていました。今日は飽きるほど見られるとか、なんと幸せなことでしょう。この沿線の右手には三つ峠や岩のゲレンデもたくさんあるそうで、ザックのお仲間がどんどん降りて行きます。富士吉田駅でスイッチバックして、到着した河口湖駅ではすでに標高900mあるそうです。

さて登山口の小海でタクシーを降りて出発。東海自然歩道となっているので整備が行き届き、とても歩きやすい。眼下に見下ろせる河口湖には幻想的な霧が立ち込めており、また、広大な裾野も眺められる。途中の天神社へ参拝。その先も展望がよく、立ち止まつては樹海を眺める。広い広い緑の森がどこまでも続く。足元は濡れた広葉樹～針葉樹～唐松～。

そして、かなりのきつい登りが1時間続き足和田山頂へたどり着いた。山梨百名山の立て札と立派な見晴檻があるが、ここで一んと見えるはずの富士山は、すっかり雲の中に隠れてしまっていた。やはり空気の澄んだ朝が一番ということなのか、残念！

昼食をとって、次の三湖台へ。こちらは広い高台で、ぐるりと360度素晴らしい眺めです。樹海の西には南アルプスの山並みが雄雄しくくつきりと連なり、南東には雲に見え隠れする雄大な富士。先輩と一緒にその白い斜面にじっと目を凝らすと、ほら雪煙があんなに立っている、相当な風が吹いているよと。そうしてこの数日後、片山右京さんたちの事故をニュースで聞きました。ああ、あの斜面だ…と鮮明に記憶が蘇りました。たっぷりの展望を存分に楽しんで、ベストショットの富士記念撮影もしました。「これ来年の年賀状よ、やまたんの表紙よ」って言いながら。その後紅葉台を経て、しばし樹海の中をさ迷い歩くと鳴沢氷穴へ。ここでは低い洞穴に、小さくかがんに入っていく。

概要

山名	足和田山～紅葉台		
月日	平成21年12月12日		
山域	富士周辺	地形図 1/25000	鳴沢
形式	日帰り	グレード 1A	
目的	富士の展望と富士山麓の神秘		
費用	約6,000円	交通機関 JR、富士急行、タクシー、レトロバス	
行程	我孫子 5:33→新松戸 5:46/51→西国分寺 6:47/55→高尾 7:22/26→大月 8:14/19→ 河口湖 9:09/15→(タクシー)→小海登山 口 9:25/30⇒高台にて河口湖を見る 9:55⇒天神社 10:00⇒休憩 10:20/25⇒分 岐標識 休憩 11:15/25⇒足和田山(五湖 台) 昼食 11:30/11:52⇒三湖台 12:43/13: 10⇒紅葉台 13:20⇒鳴沢氷穴 13: 58/14:25⇒富岳風穴 14:50/15:25(バス停 にてティータイム)→(レトロバス)→河口 湖 16:15/17→大月 17:20/19:12→我孫子 21:37 晴<歩行時間 4時間>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 東海自然歩道コースなので、標識がたくさんあり、迷うことはない。 ルート中危険個所は特にない。 観光地のルートだが、紅葉台までトイレはなく、紅葉台の展望台のトイレも買い物をするか、展望台(有料)を利用しなければ入れない。 紅葉台を下り鳴沢氷穴までも、標識に従えば迷わずたどり着ける。 レトロバスは途中観光地点を回るため、時間がかかる。 		
参加者	千葉(CL)、高橋英(SL)、桐生、瀬田、 小谷、矢野裕、新谷 男2名 女5名 計7名		



陽だまりの稜線を五湖台へと向かう

冷たい氷から滴が垂れ、千年以上前の溶岩でできた神秘の空間。このような溶岩洞穴は伊豆半島側にもあり、繋がっている場所からの色々な音が聞こえてくるのだそうです。観光気分で富士の写真の展示なども見学した後、歩く道すがら露の薹を発見。車道の脇なのに、自然はちゃんと残っている。この日は風穴は点検中で見学できず、帰りのレトロバスへの時間が中途半端です。

バス待ちの停留所で、やおら小谷さんのザックから出てきたのはガスコンロ。こんなときはティータイムで暖まろう。桐生さんの紅茶パックとコーヒースティック。千葉さんは直ぐにお水をくみ、先ほど買った生姜糖を取り出す。英さんは今日はペちゃんこのザックなのに、ちゃんとコップが出

てくる。何がなくてもこれは必需品だよと。新谷さんは美味しいあんパンを。何も持たない私は、瀬田さんのテルモスの蓋をお借りして、幸せなひと時のティータイム。体の芯が温かくなり笑顔がほころぶ。話の中で小谷さんの魔法のポーチも拝見。消毒用オキシドール、小型ペンチ、薬や道具が自分と全く違う。さっきの露の薹の香りが付いたナイフでコーヒーを混ぜませ。こんなふうに、30分余りの待ち時間を、楽しみに変えてしまう先輩たちの知恵に、私は心から感激しました。レトロバスでゆっくりと観光ポイントを周りながら河口湖駅へ。帰りの富士急線は、外も中もかわいい機関トーマスの絵で、気分も明るく帰路に着きました。



五湖台（足和田山）山頂にて。

概念図



< 661 >

天地山～鋸山
(981m) (1109m)

小川誠二郎

年末の一日を山懐で

先週12月6日(日)が忘年山行。きょう13日は奥多摩で年末登山。きょうの山行のテーマは「昔道を辿る」。どんなことになるのやら、どれだけ皆さんについて行けるやら、とにかくやってみようの精神で参加しました。青山さんリーダーの山は、本仁田山とか真名井沢とかに参加しましたが、いずれも私にはきつかったことを覚えています。

白丸駅から南方向へ多摩川の数馬峠橋を渡り、川を下にして川沿いの遊歩道を氷川発電所まで行き、舗装道路から町に入り、東京多摩学園まで住宅地内の入り組んだ車道を、道を探しながら登る。東京多摩学園の鶏小屋に行き当たって、右へジグザグの登山道に入る。天気は曇り。寒くはない。落葉の道を登る。

青山リーダーが「鉄の女」と呼ばれるわけは、ザックに鉄アレイを入れて、山行即鍛錬をされているからとのこと。話に聞いてはいますが、ホントのことで、さらに、道中、2kgほどの石を拾ってビニール袋に包み、こともなげにザックに入れられたのには恐れ入りました。

天地山は、昇竜によって天地が割れたという言い伝えからの名前。頂上手前は岩や木に掴まり、膝を着いたりして、なりふり構わずの急登。頂上は狭く、視界も広くない。11時だが昼食を、いくつかある岩に腰掛けて取る。天地山の標識の板が割れそうになって岩の隙間に置いてあるので、テープングテープで両端を巻いて補修し、それを掲げて記念撮影。

天地山からの下り道は急降下。青山さんの記憶にあるロープのある道に行き当らない。10mほど登り返して、別ルート探索の青山さんから発見の合図。ロープや木の根に掴まって急降下。天地山のピークを過ぎると歩き易い杉林の道。登って登って鋸山。ちょうど単独行の男性が現れたので記念撮影を依頼。

これで登りはおしまいと思ったのが大間違いで、その後、尾根道のアップダウンがボディーブローのように効いて、鞘口山、クロノ尾山の登りはきつかった。そのあとは南斜面の杉林の道を

ジグザグに下る。冬山は時間との勝負。日暮れ前に下山するために急ぐ。青山さんの足の運びを盗んで見習って必死でついて下りる。650m地点で15:45のバスに間に合うメドがついて一服。沢音を右に左に聞きながら下り続けて桧原ウッドハウスの裏に出た。神戸(こうど)岩は時間がないのでバス。

反省会は、武蔵五日市駅からバス道を戻って「居酒屋まるま」。穴倉のような酒場であらためての忘年会となりました。

きょうは末永さんの入会後初のデビュー登山。たくましい新会員が眩しく見えました。私の登りスピードが遅いために時間配分に関してリーダーにご心労をおかけして申訳なく思っています。鍛え直して再挑戦できればいいが、と思っています。気忙しい年末の一日を山の懐で過ごすことができて、有難く思っています。

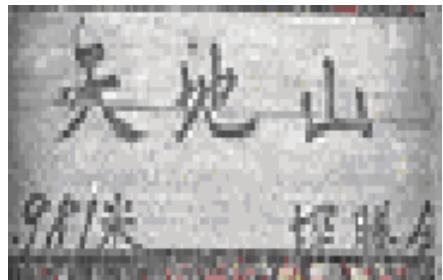


↑ 山名板の両サイドを絆創膏で補修した天地山頂で

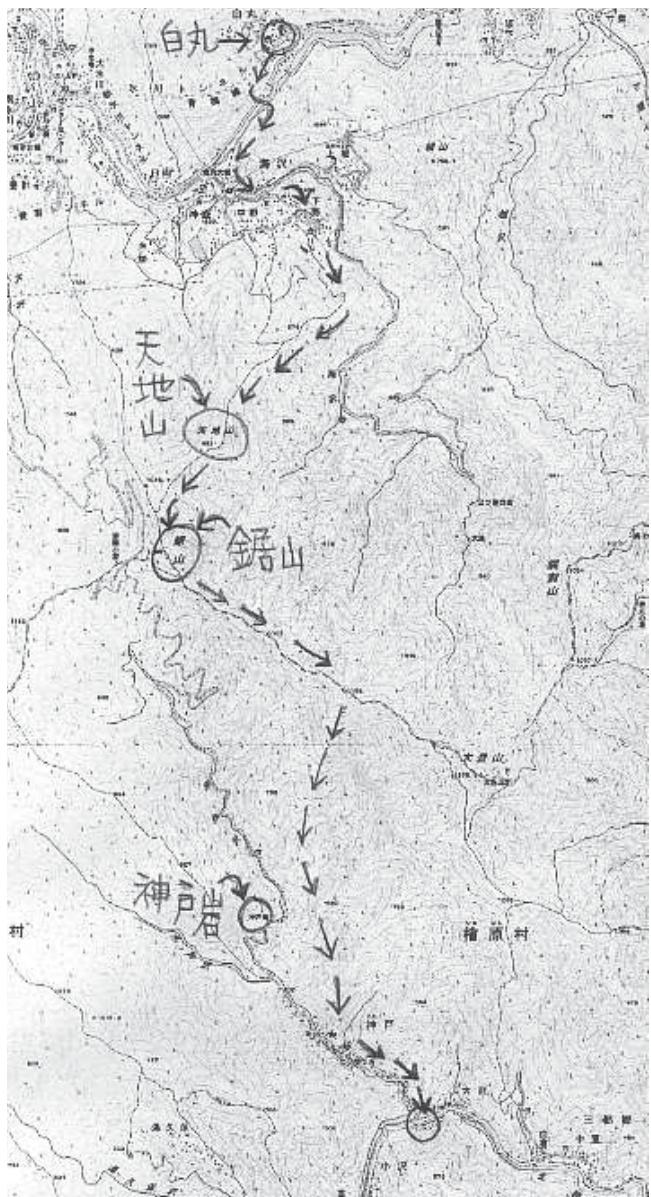
↓ 舗装道路のような登山道に出ると立派な標柱の鋸山。



概要



概念図



山名	天地山～鋸山		
月日	平成 21 年 12 月 13 日(日)		
山域	奥多摩	地形図 1/25000	奥多摩湖、猪丸
形式	日帰り	グレード 2 B	
目的	忘れられた昔道を辿る		
費用	約 3,000 円	交通機関	JR、バス
行程	我孫子駅発 5:33→新松戸駅 5:47/5:53→西国分寺駅 6:47/6:55→立川駅 7:01/7:05→白丸駅着 8:29(準備)/8:38⇒ふれあい農園・寿楽荘前 9:15⇒多摩学園隣登山口 9:20⇒休憩 9:40/9:45⇒休憩 10:40/10:45⇒天地山 11:00(昼食)/11:15⇒T字分岐 12:10⇒鋸山 12:20/12:25⇒分岐 12:35⇒林道に出る(休憩) 12:44/12:50⇒鞘口山 13:21/13:30⇒クロノ尾山 13:50⇒中尾根の祠 14:07⇒休憩 14:45/14:50⇒神戸岩ロッジ下山口 15:10⇒神戸岩バス停着 15:30バス発 15:44→五日市駅着 16:15(反省会) <歩行時間 6 時間>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 数馬峠橋～冰川発電所までは整備された遊歩道で気持ちよい。 東京多摩学園周辺は園生の作品が展示してある。 天地山頂直前は急登で落ち葉と湿った土のため滑りやすい。 天地山直下の露岩帯の半分は直進しないで右に廻り込んだらロープが設置してあるので木の根に注意しながら通過する。 クロノ尾山から中尾根入り口は急坂で滑りやすい。 827M付近は尾根が広がっていて踏み跡が薄く迷いやすい。 		
参加者	青山(L)、村松敏、原田和、小川誠、田村、高橋重、末永 男 4 名 女 3 名 計 7 名		

<662>

徳並山
(1117m)

藤倉貞江

大善寺前・勝沼ぶどう郷駅へ向かい、電車の中でささやかに乾杯、乗り換えの高尾で新年会兼反省会しました。冬晴れで景色最高。地図読み研修、充実した山行でした。リーダーをはじめメンバーの皆さんに感謝いたします。

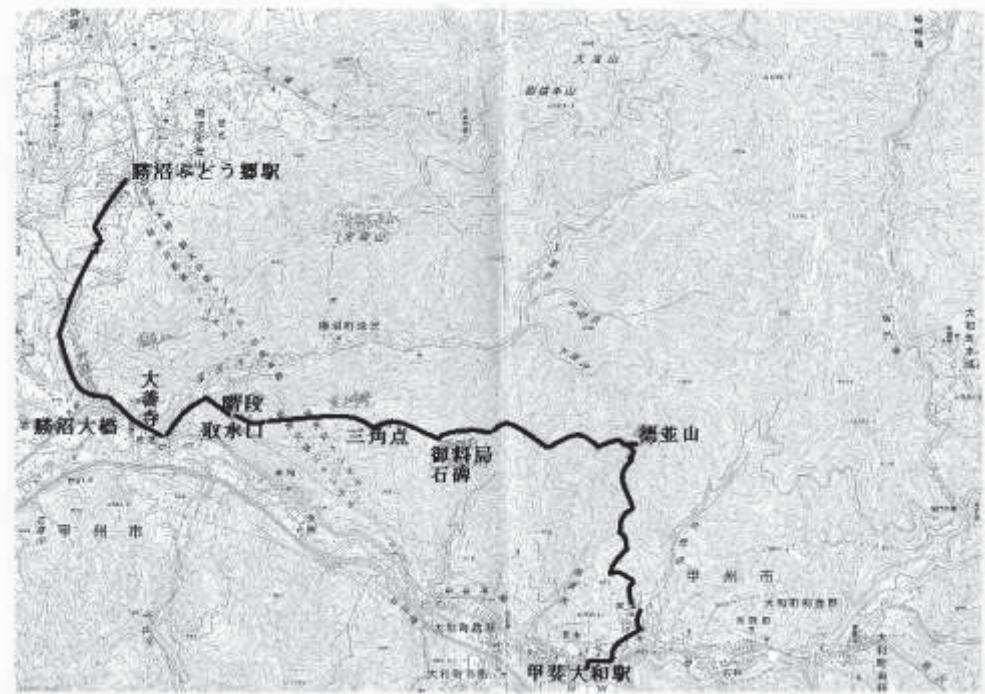
今年初の山行で、天気もよく心が弾みます。甲斐大和駅で降り、準備・ストレッチしてから出発となる。西光寺と石仏間の石段を登り細い坂道を進む。果樹園の車道終了地点で衣服調整し動物除けフェンスの扉を抜け、しばらく藪こぎしながら登る。尾根の登り斜面を進み見渡すと丹沢の山々・富士山を望むことができた。今日登れてよかったです。左に白根三山、右に奥秩父山々も見え尾根歩きを満喫したが、倒木が道を塞ぎ倒れた大木をよじ登って乗越えたり、体を横にして岩を通りすぎる箇所もありました。

山頂は木々に囲まれて展望はなかった。昼食をとって地図読み研修で、進行方向を確認し急坂を慎重に下る。アップダウンも多く推木林が切れた展望のある場所で現在位置の確認を繰り返し行った。四等三角点での地図読み確認した。下るだけだと思うと気分的に楽になるが、気が抜けない急坂を下り一般道に下りました。



甲斐大和駅から西光寺の脇の石仏群を上ると小正月一道祖神祭の轍が立っていた。初めて見た。オコンブクロ(お金袋?)というようだ

概念図



概要

山名	徳並山		
月日	平成22年1月17日(日)		
山域	中央沿線	地形図	笛子、石和、塩山 1/25000
形式	日帰り	グレード	2B
目的	道標の無い道を地図を読みながら歩く		
費用	約4,000円	交通機関	JR
行程	我孫子駅 5:33→新松戸駅 5:47/5:53→西国分寺駅 6:47/6:55→高尾駅 7:23/7:26→甲斐大和駅着 8:38/登山開始 9:00⇒林道終了地点 9:27/9:30⇒休憩 9:57/10:02⇒徳並山 10:40/11:02(食事・地図読み研修)⇒ピーカ(地図読み研修)12:15/12:25⇒休憩 12:47/12:52⇒四等三角点(944.7m)(地図読み研修)13:32/13:37⇒一般道路に下山 14:08⇒大善寺前 14:25⇒勝沼ぶどう駅着 15:00/15:13⇒高尾駅 16:38/18:28(反省会)→西国分寺駅 18:52/19:03→新松戸駅 20:00/20:08→我孫子駅着 20:22(解散) <歩行時間5時間15分>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ルート上に4等三角点2ヶ所の標識以外の道標はないバリエーションルート。 徳並山への尾根道は薄いながらも踏み跡を忠実に辿れば迷うことはない。 徳並山山頂付近は上り下りとも急峻、三点確保で慎重に歩行せねばならない箇所もいくつかある。
	<ul style="list-style-type: none"> 4等三角点の徳並山(1116.7m)から次の4等三角点(944.7m)までは、行政区界を示す杭やベンキを辿れば問題なし。 944.7mの三角点以降尾根が広くなり落ち葉の中に踏み跡があちこちについているので迷いやすい。現に我々も通過目標とした柏尾発電所の取水口を通らず下山してしまった。
参加者	武内(L)、原田和、高橋重、小川誠、堀口、坂巻、清家(SL)、藤倉、桐生、中村育、細野清、外崎 男6名、女6名、計12名



急な尾根を登りきった4等三角点の徳並山頂上、右上に小さな標識



アップダウンが続く細い尾根道で滑るが、平坦な所は快調！



←北へ下る尾根道は落葉に積もったサラサラの雪で滑る

<663>

吾妻耶山・今倉山 (1341m) (1037m)

齊田記代美

今年は、冬らしい天気が続き、冬山の基礎を習うのに十分の雪が期待できた。ところが、2、3日前、春のような陽気で、雪が融けてしまうのではないかと心配したが、前日には再び冬型の天氣にもどり、期待通りの山行になりました。

1日目

我孫子駅前5時半に出発。すでに関越道は渋滞していた。しかし、そのノロノロ走行のおかげで、車窓からは明け方の淡くピンクに染まった富士山をはじめ、浅間山、赤城の山、そして南アルプスと、雪をかぶった山々をゆっくり眺めることができた。

水上インターで高速道を下り、仏岩峠にて吾妻耶山に登る準備をした。先輩のつけているのを見様見まねでワカンを履いたが、思っていたつけ方とは違っていて、少々あせってしまい、支度に時間がかかった。

ワカンやアイゼンを履いた時はガニ股で歩き、自分で自分の足を踏まないようになどオリエンテーションの後、林を抜け尾根道を登った。ワカンを履いていると滑らないという安心感があり、その上お天気も良く快適でした。

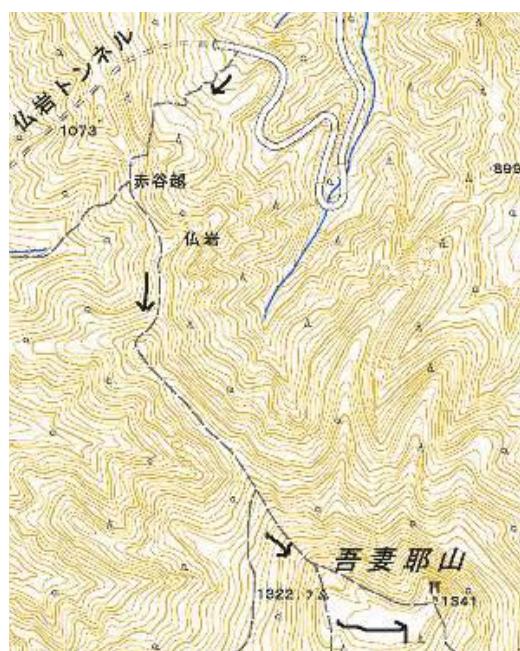
仏岩を過ぎると、だんだん登りがきつくなり、ワカンの先で足の置き場を確保しなければならず、ワカンから靴がはみ出そうになった。1時を過ぎたが、頂上にはたどり着かず、少し平らなところで昼食をとり、アイゼンに履き替え下山した。

往きに大きな岩を巻いて行ったが、帰りに見ると仏岩と名づけられている通り大仏さまが座っているような大岩でした。

再びバスに乗り、途中で、スーパーに寄り、食材を買い足して宿泊地の白樺小屋へ移動した。

小屋では、夕食のカレーライスを作るグループと、テント設営するグループに分かれ、先輩の方々の指示に従って体験した。

概念図



仏岩峠ワカンで全員集合

一段落したところで、テーブルを囲み、一人一人からの感想や反省、そして、ワカンの履き方、行動食について等など具体的なアドバイスを頂きました。これらのいくつかは早速翌日の山行に生かされ、新人に対しての暖かい思いを感じました。

夕飯は、手づくりのお漬物などの差し入れもあり、豪華なものとなつた。その後、歌集が配られ合唱。皆さんのが美声に聞き惚れました。なかでも、“新人哀歌”には、笑顔も消えそう・・・などなど、一泊研修ならではの、有意義な時間を過ごしました

夜はテント泊と小屋泊に分かれ、先輩女性陣は更なる経験をと、降り出した雪の中をテントへ、新人女性陣は、寝袋の経験のため、小屋の中で寝袋にくるまって寝ました。



テント設営指導中 白樺小屋前にて

2日目

雪も上がり、晴天です。早速、昨夜の反省を踏まえて、ポケットに行動食を入れ、準備体操の後、ワカンをしっかりと締め、リーダーを囲み地図とコンパスで、行き先を確認した後、雪なればこそ、道のなきところに道をつけながら、林の中を、登って行きました。途中からは、全員が交替でトップをやらせてもらいました。真っ白な新雪の中、一歩一歩足を踏み出す気持ちよさに、後ろから「もっとゆっくり」と声を掛けられてしまいました。

林を抜けると、昨日登った吾妻耶山が向かいに、また、谷川岳の山なみも望むことができ、他の季節とはまた違う山の美しさに感動しました。

下山後は、また研修の一つである戸外での食事作り体験ということで、カレーうどんを作りました。ここにも、携帯に便利で簡単に作れるなど、いろいろなアイデアが隠されており感激しながらいただきました。

冬山研修という名のとおり、数々の研修項目を盛り込んで、参加くださった先輩の方々が一つ一つ根気強くご指導くださいました。

凜とした雪山の静けさにふれ、好天と、新雪にめぐりあえ、幸せな山行になりました。

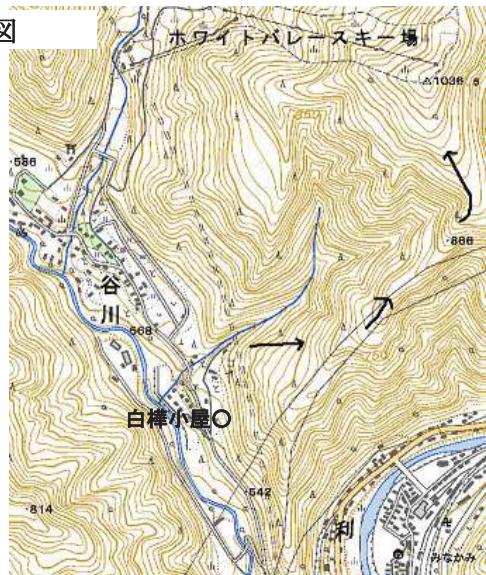


今倉山900m付近は雑木林と
純白の雪が美しい



気分は最高!! 今日の最高到達点、

概念図



山名	吾妻耶山・今倉山		
月日	平成22年1月23日(土)～24日(日)		
山域	谷川連峰	地形図	1/25000 水上
形式	小屋泊（一部テント泊）	グレード	3C
目的	冬山の基礎 (ラッセル歩行や冬山生活等)		
費用	約10,600円	交通機関	貸切バス (21人乗りマイクロバス)
行程	<p>1日目 我孫子駅北口 5:30→高坂SA 7:15/7:30→下牧PA 9:30 /9:40→水上インター→仏岩峠 10:00/10:30⇒仏岩 11:15⇒1290m付近 13:00/13:30（昼食・わかんからアイゼンに履き替え）⇒仏岩 14:10/14:15⇒仏岩峠 14:55/15:05→白樺小屋 16:00 着 <行動時間：4時間25分></p> <p>2日目 白樺小屋 7:20⇒950m付近 9:20/9:30⇒白樺小屋 10:30/12:00→高坂SA 13:30/13:50→我孫子駅北口着 14:55 <行動時間：3時間10分></p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 吾妻耶山：仏岩峠からはツボ足の不完全なトレースあり。1,100m付近からは木の根を掴んで登る急斜面。仏岩から先の東側トラバース斜面に小さなデブリが出ている。 今倉山：新雪数十cm。小屋裏から100mほどは急斜面、送電線の尾根までは杉と雑木林。最後の鉄塔を越えると、湯檜曽側に少し雪庇の出るブナと雑木の尾根。所々赤ペンキやテープの目印がある。 		
参加者	高橋重(CL)、村松敏(総指導)、外崎(L)、武内(L)、高橋英(SL)、桐生(SL)、小川誠、藤倉、瀬田、斎田、新谷、田村、原田君、中村育、矢野裕、末永 男5名 女11名 計16名		

概要

冬山、雪上行進を楽しむ



今倉山 ブナの急斜面を登る



吾妻耶山を見ながら鉄塔の尾根を下る

<6 6 4>県連行事

房総ロングハイキング
(御殿山・石尊山)
(363m) (348m)

小川洋子

1日目

11年振りのロングハイキング、果たして歩き通せるか少々不安を抱きながらの参加だった。朝6時50分我孫子をバスで出発。我々岳人あびこの8人を含め東葛地区の38人を乗せて一路富山水仙ロードへ。水仙の甘い香りを楽しみながらしばし遊歩道を散策する。その後御殿山(364m)に登り、頂上で三々五々昼食を見る。両方で約3時間30分、軽い足慣らしとなる。そこからまたバスで七里川温泉へ。

七里川温泉は硫黄泉が湧き出る静かな山間の一軒宿だ。秘湯という趣がある。館内は少し鄙びた雰囲気が漂い、大きな囲炉裏がある。我々は小休止の後、2階にある温泉へ。むき出しのパイプから注ぎ込まれる黄色がかかった透明なお湯は本格的な硫黄泉で、温度が低い為加温されているがかけ流しだ。夕食の前、講演とガイダンス、夕食後、交流会がもたれた。大きな囲炉裏の前では泊り客なのか、入浴だけの客か持ち寄った魚などを焼きながら、和やかに酒を酌み交わす人たちがいる。ゆったりと時間が流れる。就寝前満月を眺めながらの露天風呂は、心身ともに満たされるひと時だった。



御殿山に登る

2日目

朝5時の起床の後湯船に浸かり、宿が用意してくれた朝食のお弁当をほおばる。竹の皮に包まれたおこわがなんとも言えず美味だ。同じお弁当を昼食用に持ち5時50分、宿のすぐ裏手から今日のロングハイク、石尊山～麻綿原～清澄山～折木沢、約23キロの縦走開始。1月の房総はあまり寒くはない。ヘッドランプをつけ、暗い山道を行く。石尊山に向けてしばらく緩やかな登りが続く。日の出を前に薄墨色の山々の彼方上に満月が白く浮かぶ様は一幅の絵画を見るようだ。こんな絵を見たくて山を歩くのかもしれない。40分ほどすると、大きな石祠が3つ祀られ、その先の樹林の中に石尊山の頂上(348m)がひっそりとある。



石尊山にて

石尊山を後に尾根道を麻綿原へと向う。7時前厚い雲の上に朝日が顔を出す。何故朝日はこんなに赤いのだろう。高みに登り、思わず万歳をしたくなる。檜、杉などの樹林の中に強い日差しが差し込み、樹林に、起きろ、朝だ、と告げているかのようだ。樹林の中赤い実の鈴なりになった木を見つける。飯桐の実だ。あまり美味しいのか鳥が最後に食べる実だと。ハナ茗荷の赤い実、しきみや胡椒の薄い黄色の花、藪椿の赤い花。葵の花も葉の陰にひっそりと咲いている。檜や杉、もみの木、ヤブニッケイなどの高木が多く、その中にモミジロウ、モミタロウの大木を見つける。2時間30分も歩くと麻綿原・天拝園だ。アジサイが所狭し、と植えられ、その季節にはさぞ見事であろうと思われる。冬の天拝園は癒しの観音様がひっそりと佇んで我々を迎えてくれた。なだらかに高度を上げながら3.1kmの道のりを清澄寺へ向う。時折見せる房総の山並みを楽しむ。低山とは言え海拔0メートルに近い麓から考

えると深い山に違いない。山並みの向うに時折、海も見える。太平洋だ。1時間ほど歩くと清澄寺の大きな屋根が見えてくる。

清澄寺は日蓮宗の大本山だ。日蓮が修行得度および立教開宗した寺だ。境内には国天然記念物の清澄の大杉（千年杉）が見事だ。寺の裏手にある清澄山は、時間がなくて登れなかつたが千葉県で2番目に高い山で、本土で一番早く初日の出が拝める場所だ。10分ほど離れた駐車場でやっと昼食となる。長丁場なのでしっかり食べなくては・・・



国天然記念物 清澄の大杉の前にて

元清澄山入口を通り、東大演習林を歩く。食事もとり、アップダウンもあまりない道を歩くのは時には忍耐がいる。林道を歩きながら時々睡魔が襲うと言う声も聞こえてくる。

東大作業場を通り黒滝へ。黒い広い岩肌に細い滝が何本か流れている。折木沢ゴールはもうすぐだ。イチョウの大木がすっかり葉を落としているが、堂々と枝を広げている。新緑や黄葉の時はどんなにか見事な事だろうか。

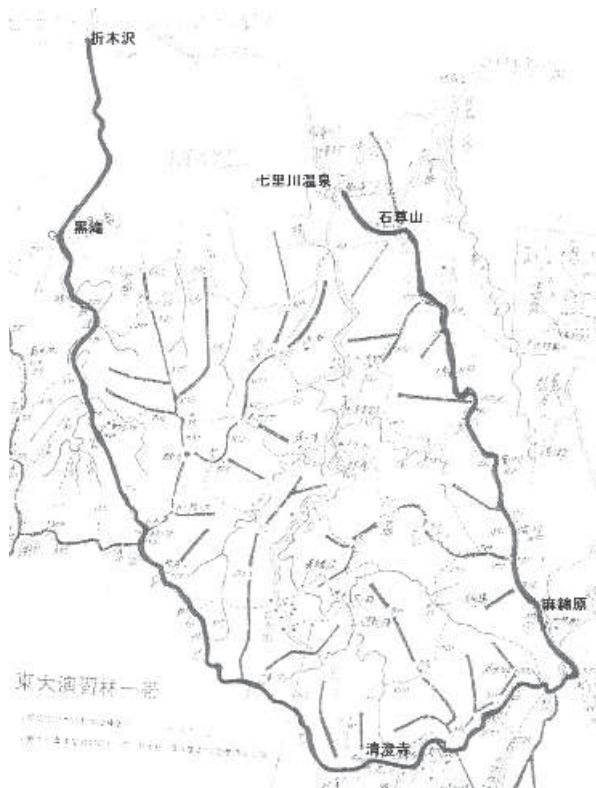
11年前のロングハイクとはコースも違い、かなり楽な23キロだった。企画をされた方々に感謝しながらバスに乗り帰路に着く。

概要

山名	房総ロングハイキング（御殿山・石尊山）			
月日	平成22年1月30日(土)～31日(日)			
山域	房総	地形図 1/25000	上総中野、坂畠、安房小湊、安房古川、金束	
形式	山麓泊	グレード	3A	
目的	ロングコース歩きと県連会員との親睦			
費用	11,000円	交通機関	貸切バス	
行程	1日目	我孫子駅北口（貸切バス）06:50→鎌ヶ谷 7:30/7:40→市原SA8:35/8:50→鋸南富山IC →道の駅（富楽里）9:35/9:45⇒水仙遊歩道⇒ 道の駅に戻る 10:50/11:05（バス）→御殿山入		

行程	1日目	口駐車場 11:20/11:30⇒御殿山 12:25/ 12:55(昼食)⇒御殿山入口駐車場 13:50/ 14:00(バス)→七里川温泉着 15:00 (泊) <歩行時間；3時間25分、休憩30分含む>
	2日目	七里川温泉 6:00⇒石尊山 6:37/6:40⇒モミ次郎 8:00⇒モミ太郎 8:40⇒麻綿原 9:30/9:50 ⇒清澄寺 10:55/11:30(昼食)⇒元清澄山入口 手前・ゲート 12:45⇒東大演習林郷台作業所 13:25/13:35⇒黒滝・ゲート出口 14:20⇒折木沢ゴール 14:55/15:15(バス)→市原SA→鎌ヶ谷 18:20⇒我孫子駅北口着 19:00 <歩行時間；8時間55分、休憩68分含む>
ルート状況	以前は、第1日目は花嫁街道などを歩き、県民の森に宿泊して、第2日目は東京湾の朝日を見て登り、房総半島南部を東から西へ歩き、途中、愛宕山、伊予ヶ岳、富山に登り、下山して東京湾の夕日を見るコースだった。しかし、ここ数年は、主として東大演習林を許可を得て歩く今回のコースになっている。また、昨年からは、終盤、川沿いに黒滝を見て下山するコースになっている。宿舎も七里川温泉の沖津屋になっている。	
参加者	岳人あびこ 小川誠(L)、高橋英(SL)、外崎、箕輪カ、瀬田、小川洋、箕輪完、新谷、 男3名 女5名 計8名 県連会員（岳人あびこの8名以外 3名 一般参加者；13名 合計；55名	

概念図



< 6 6 5 >

笹尾根
小桐峠～土俵岳～生藤山
(1005m) (990m)

千葉有子

朝、沢渡でバスを降りる。ここから小桐峠までは地図上で点線の道。しっかり地図読みして小さなピークの右側の谷に向かう。「こゆずり」の名の通り、里にはたくさんのユズが実っていた。里の人が仕事道に利用しているらしく雪が積もっていても、峠までの道は分かりやすい。小気味よく高度を上げ、登山道に入ってから1時間45分程で笹尾根上に上がる。土俵岳へ向かっていると数名のパーティーと出会う。彼らは秋川側から浅間峠を登ってきたらしい。稜線上は先週末までの降雪で30cmほどの雪。先ほどのパーティーの足跡をたどり、やや硬くなつた雪を踏みしめながら快調に進む。

今日のパーティーは11名。昨年度、私が企画した浅間尾根は3名、笹尾根は4名で辛うじて山行が成立したことを思えば、不可思議なこの盛況ぶり。なんだか気味が悪い。しかし考えてみれば、今年度の山行は8月のすみ沢6名、12月の足和田山7名と順調だ。私が計画する山も「まんざらではない」と評価が上がつたかな、と独りごちる。天気も申し分ない。心配した風も稜線上では思つたより穏やか。右に道志、左に奥多摩の山々を眺



朝礼風景 出発前に安全確認

めながら、雪の笹尾根をのんびりと歩く。

土俵岳、日原峠を越え、浅間峠まではあつという間に過ぎた。「この様子なら生藤山まで楽勝」。そう思ったのだが、浅間峠からが長い。行けども、行けども熊倉山が現れない。後で思えば、1時間10分の行程なのでさほどではなかったのだろうけれど、気の緩みと朝からの疲れがこの間を余計に長く感じさせた。

熊倉山を過ぎ、軍刀利（ぐんだり）神社の大きな鳥居に迎えられた時、すでに3時をまわっていた。軍刀利神社は軍神として広く信仰を集め、特に武門の崇敬篤く、武田信玄も信仰したという。上野原市桐原から登る参詣道があり、下にある奥宮には山梨県指定天然記念物大桂がある。推定樹齢500年、高さ33m、根回り14mの巨木らしい。余裕があれば見てみたかった。

概念図



ここから三国山、生簾山までは指呼の間。といつてもアップダウンは途切れることなく、疲れた体に応える。三国峠から生簾山を往復すると、いよいよ下山にかかる。高齢者パーティーはなぜか下りが早い。さっきまでフウフウ言っていたのが嘘のように、駆けるように里へと下った。本当は下りこそ慎重になるべきなのだけれど……。反省です。

概要

山名	笹尾根（小樅峠～土俵岳～生簾山）		
月日	平成22年2月6日（土）		
山域	中央線沿線	地形図 1/25000	与瀬、五日市、猪丸
形式	日帰り	グレード	2B
目的	雪の笹尾根歩き		
費用	3,800円	交通機関	JR、バス、タクシー
行程	我孫子 5:33→新松戸 5:47/5:53→西国分寺 6:47/6:55→高尾 7:23/7:26→上野原 7:56/8:28（バス）→沢渡バス停 9:00/ 9:05⇒登山道に入る 9:20⇒休憩 9:45/ 9:50⇒H850m 地点 10:18⇒休憩（衣服調整）10:25/10:30⇒尾根筋に出る 11:05⇒土俵岳 11:45/12:05（食事）⇒日原峠 12:23⇒浅間峠 13:10/13:15⇒栗坂峠 13:27⇒熊倉山 14:25/14:40⇒軍刀利（ぐんだり）山 14:52⇒軍刀利神社 15:00⇒三国山 15:20⇒生藤山 15:25⇒三国山 15:32⇒三国峠 15:40⇒佐野川峠 15:56⇒一般道路に出る 16:20⇒石楯神社前バス停 16:30/16:40（タクシー）→上野原 16:57/18:50（反省会）→高尾 19:10/ 19:11→西国分寺 19:37/19:49→新松戸 20:47/20:55→我孫子 21:10 <歩行時間：6時間35分>		



ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 沢渡バス停から小樅峠までの道は、ガイドではなく 1/25000 の地図では薄い点線。里で地元の人に道を確認。地図を見ながら蔵王院の前を過ぎ、小さなピークの右側の谷に入る。堰堤の前にウォー克拉リーの立て札があり、それに従い堰堤左脇の道を進む。やがて十文字の名の峠に到着。ウォー克拉リールートはそこから向こう側の里に下りる。小樅峠へはそこから稜線を目指して上へ。雪が積もっていても道は分かりやすく、気をつけて進めば迷うことはない。 ・笹尾根に出ると、小樅峠へは少し戻る。 ・笹尾根上の標識は要所要所にあり、わかりやすい。 ・浅間峠を過ぎると地図上では生簾山まで下山道はない。しかし、浅間峠～熊倉山途中の栗坂峠から両側に下りる道があるようだ。 ・軍刀利神社を下った地点からも三国山へ向かわず、井戸へ下りる道があった。
参加者	千葉(L)、原田和(SL)、高橋英、小川誠、瀬田、田村、堀口、佐藤健、佐藤明、矢野裕、小谷 男 6 名、女 5 名 計 11 名



↑ 熊倉山頂上にて

← 尾根歩き

九鬼山 (970m)

坂巻 明

九鬼山山行に参加して

このところ寒い日が続いています。4～5日前には関東平野にも2日続けて雪が降りました。現地は雪が沢山積もっているだうなと想像できます。先月行った徳並山のときは、雪が少しありましたが気温が比較的高く穏やかな日和でしたので、今日の天候とつい比べてしまいます。いつもどおり我孫子駅5時半出発です。我孫子駅でホリデイバスを買おうと少し早めに行ったら、もうすでに我孫子駅グループは到着していました。北柏、柏とそれぞれ乗り込み9名全員集合しました。今日の参加者は女性が6名とウーマンパワーに押されそうです。さっそくリーダーの中村さんが挨拶をされました。今日は雪が沢山あるから大変だと脅かすような言いつぱり、そして計画書、地図の所有確認をしました。その後、車内で朝食をとったり、リラックスしたり様々です。武藏野線に乗り換えると、暗かった外もだんだん明るくなっていました。中央線では富士山がくっきり顔をのぞかせていました。高尾駅で乗り継ぎ電車に乗ると周りはわがグループと同じ服装の中高年の人たちがいっぱいいて熱い空気を感じています。

予定通り8：10猿橋駅に到着しました。乗降客はあたりに散り、いつの間にか私たちだけになりました。登山姿の人たちも見当たらなくなりました。準備体操をしてから、ゆっくり歩き出しました。道路の日陰部分には雪が残っています。数分すると登山道が現れ、いざ出陣です。地面は雪に覆われ真っ白です。幸い、この時期このコースは登山者の数が少ないのか、踏み跡が少なく地面が凍結して氷状態にはなっていないので歩きやすいです。少し登ると駅ははるか下に見えます。衣服調整の休憩をとる。すると駅をはさんで向こう側には百蔵山がすぐ近くに座っているのが見えます。神楽山の頂上からは雁が摺山も左手に確認できました。しばし景色を眺めながら休憩をとり、これから尾根歩きです。雪のためか、あたりは比較的静かに感じます。鳥の鳴き声だろうと思われる音が聞こえます。風が吹きぬける尾根に出ると北風が非常に寒いです。いつもですと汗

が出てくるのですが、今日はあまり汗をかきません。しばらくアップダウンを繰り返し、馬立山で一回目の昼食タイムとなりました。各自、座ったり、立ったまま持参した弁当を食べました。富士山は周りの木々の枝によって見え隠れしています。このあたりで大体3分の1の行程です。

概念図



食事後、休憩する間もなく出発します。今日の目標の九鬼山はすぐそこですが、一度、谷へ大きく降りて登り返します。登り返すと頂上まではあと一息です。しかし、急斜面になっていて最後の難関が待ち受けました。トラバース箇所がしばらくあり、この時期は残雪が多く、歩行をより難しくしているように感じます。注意しながら頂上を目指します。無事に到達し、それぞれがリーダーと握手しました。そして、記念撮影が終わりました。頂上に設置してある温度計は摂氏3℃を指していました。富士山を背景にしての写真も撮りました。余談ですが、旧五百円札にある富士山は隣の御前山からのアングルだそうです。



九鬼山直下のトラバース



御前山にて富士(左)をバックに

そうこうしているうちに女性陣から2回目の昼食タイムの要求が出ました。リーダーからオーケーのサインがでて、再びお昼ご飯となります。少し行くと適当な場所を見つけることができました。そこは富士見平と言って日当たりがよく、ベンチがあり、眺めも最高です。皆さんとても満足そうでした。

後は下りの3分の1を残すのみ、午前中あった風はおさまり、何だか少しあったかくなつたようだ。その時、リーダーから私に先頭を歩けの指示がありました。最終目的地の富士急「禾生駅」に向かって、下山を開始します。すると女性陣から2回目のリクエストが入りました。寒い時はなぜか、あったかいラーメンが食べたいわね！！これで反省会のメニューは決まります。南面の下山ルートにも雪は残っていましたが、程よく溶けていて歩きやすいです。また、急斜面もありませんでしたので、あっという間に降りてしまいました。時計を見たら3時半でした。今回はおよそ7時間の山行となりました。

当初、禾生駅スタートの計画でしたが、逆のコースにして大正解でした。もし逆のコースにしていたら、アイゼンを使わなければならなかつたかもしれません。登り道が少し多かったけれども、危険な下りは少ないし、富士山を正面に見ながら歩けたことは大変良かつたと思います。天気に恵まれ、メンバーに恵まれ、冬の山を満喫できました。雪があったからか、ゆっくり歩いたからか、すごく思い出に残る山行となりました。

リーダー、皆さん、有難うございました。



紺屋の休場で休憩



九鬼山 \(^o^)/ 背後は南大菩薩

概要

山名	九鬼山		
月日	平成22年2月7日(日)		
山域	中央沿線	地形図 1/25000	大月、都留
形式	日帰り	グレード	2B
目的	①富士展望 ②冬枯れの陽だまりを求めて		
費用	約2,590円	交通機関	電車
行程	我孫子駅5:33→新松戸5:51→西国分寺6:55→高尾7:26→猿橋駅8:11/8:15⇒登山口8:40⇒神楽山分岐9:30⇒神楽山9:40⇒御前山10:10/10:20⇒沢井沢ノ頭10:45⇒馬立山11:07/11:25(昼食)⇒札金峠12:00⇒紺屋の休場12:40⇒九鬼山13:35/14:10(2回目の昼食)⇒禾生駅15:35/16:08→大月16:18/18:30→高尾→西国分寺→新松戸→我孫子21:00着 <行動時間 7時間20分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 道標はしっかりと立てて迷うところは殆どないが、地図を見て方向を確認し、尾根筋を外さないよう気をつけること。 山頂までの単純標高差650m、5、6個のピークがあり、アップダウンが激しいので累積標高差は1000mを超える。登りはロングコース、適度のピッチで休憩をとり、ゆっくりながらもペースを守ればコースタイムを確保できる。 富士山の展望は随所にみられた。富士山は登山ルート前方左に位置し、冬枯れの木の間から我々をたびたび励ましてくれた。特に御前山と九鬼山(富士見平)からの眺めが絶品。 冬枯れの陽だまりを求めて。前日までの木枯らしから一変して快晴微風、穏やかな陽だまりの中を快適に歩けた。 数日前に降った雪が残っており、九鬼山に近づくにつれ雪の量は増える。雪道を楽しんでいるのか誰もアイゼンを付けない。結果的に雪道歩きの訓練になった。雪にはリーダーより慣れているらしい。 		
参加者	中村隆(L)、中村八、高橋重、坂巻(SL)、本田、中村育、齋田、新谷、末永 男 3名 女 6名 計 9名		

<667>

鍋割山～塔ノ岳～丹沢山 (1272m) (1491m) (1567m)

末永三江子

雪の丹沢山

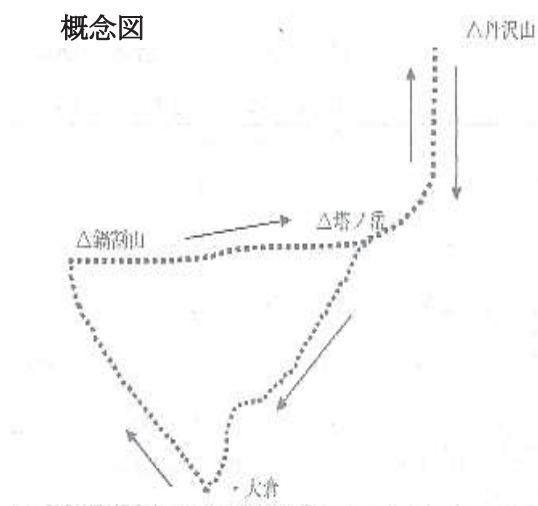
暖かい。なんて良い日に来たのだろう。
「きっと普段の心がけが良いから」
そんなふうに思いながらも、行きの電車の中で
「やまなみ」担当を知られ、気持ちはブルー。
大倉から二俣まで歩いているうちに苦しくなり、「あ～なんで来たのだろう。帰りたい」と心
から思った。
二俣で衣服の調整を行い、エネルギー補給をす
ると、不思議とさっきまでの苦しい気持ちが飛ん
だ。「辛い、苦しいも、飴ひとつで解消できる体
だったんだ」

雪がこのまわりから見え始め、後沢乗越へ来る
と本格的雪山となった。すべらないよう一歩一歩
前に進んでいくと、稜線に出たはるか土手三つの
上に鍋割山荘が見える。

雪道は歩きよかつた。昨年の初秋に来た時と全
然違う。雪山って楽しい。岳人の皆と来たことが
気分を変えてくれる。鍋割山荘に着いた。

昼食のおにぎりを出すとすっかり冷たく固く、
これで溶けたらまるで甘くないアイスだ。良く噛
んで呑み込むも、胃が冷える。冷たい。テルモス
の茶を飲むと、体に湿る温かさが足りない。

概念図



そのとき武内さんが「ぜんざいでもやるか」と
言った。「え～、ここでぜんざいが食べられるの」と感激。皆で鍋のまわりを囲み、ぜんざいが1秒
でも早くできますように!と祈った。「できたよ。
コップ出して」と言われ、コップを出した。熱い、
甘い、美味しい。心まで温まつてしまわせになつ
た。

鍋割山荘を後にして出発。ここからはそれほど
急な坂はない。左、右の景色はどこも雪だらけ。
空は青空、木の枝を下からのぞき見上げると、綿
が重なった上に青空がきれい。2時間もかからず
に尊仏山荘に着いた。斬岩絶壁の上に塔の岳がある
ようにも見えた。360度のパノラマ。大きく美しい
富士山がそこにあった。集合写真を撮る。

夕暮れに近づくにつれ、富士山はいっそう美
しいオレンジピンクに染まった。富士が「明日も天
気だよ」と教えてくれた。

夕食が終わり、少し間をおいて宴会が始まった。
柴さんは自家製ワイン、武内さんは焼酎、小川さん
はウイスキーを、重い荷物と一緒に運んでくれた。
楽しく呑んで、朗らかに大笑いして、いい空
気を吸って天国みたいだ。だいぶ酔って、そう思
った。



20日夕、塔ノ岳の尊仏山荘にて、食事前

20時に布団に入って寝る。ストーブの上の部屋
のせいか、布団も部屋も暖かい。皆すぐ眠ったよ
うだ。23時頃、腹痛で目が覚めた。トイレに行こ
うかどうしようか迷っていたが、いよいよがまん
できなくなり覚悟を決めて外に出た。

玄関を開けると、目の前にカシオペアが輝いて
いた。トイレに入るも用が足せず、10分ほど頑張
ったがあきらめた。尿と糞の匂いが体に染み付いて
不快。

このまま部屋に戻るには仲間にも迷惑と思い、
夜空を見上げて指を出して魚座、水がめ座、山羊
座と勝手に作ってみた。少し前に出て山荘を見
ると、屋根の上に北斗七星が尊仏山荘に光を撒いて
いるようだった。明るい夜空。三日月が反対側に
いる。

太平洋は暗かったが、街の明かりが行儀よく並んでまるでビルがそこに横になっているように見えた。人工の光と自然の光の違いはそれぞれだが、きれいだ。ひとりロマンチックにふけっていたが、体が冷え切り、歯と歯がガチガチいい始めたので、部屋に戻った。腹痛が起こらなければこの光景に出会えなかつたことに感謝した。布団に入ると暖かく、すぐ眠りに落ちた。

目が覚めると、まわりの人は蒲団をたたみ、仕度にとりかかっていた。今日は山頂までピストンだから必要なものは全部置いていくというので、私も貴重品だけを持ち、アイゼンを装着して、丹沢山を目指した。荷物がないと身軽で雪山散歩のようだ。



塔ノ岳から降りて丹沢山に向かいます。

雪が 20~30 センチほど積もった道を行くと、木に積もった雪がまるで満開の桜のように見えた。ピンクの雨を降らしたらステキになるだろう。



丹沢山みやま山荘でコーヒータイムのあと、塔ノ岳へ戻ります

樹氷に目をやると、枝に積もった雪は立体的山の地図にそっくり。もっと近くで観察すると、ひとつひとつの氷の結晶が重なり立っていた。自然の美しさを勉強した。樹氷のトンネルをくぐり、丹沢山に着いた。記念写真を撮る。富士山は美しい。

みやま山荘でお茶を飲んで体を暖めて来た道を戻る。一度歩いた道は、「ここが写真スポット」と、それに余裕があり、お喋りも弾む。

尊仏山荘に着くと、それぞれにおやつを食べ、大倉を目指して出発。花立あたりから雪がなくなり、アイゼンをはずして下山。すごい急坂(バカ尾根)をどんどん下って大倉へ。衣服を替えてそば屋に入る。反省会の始まりだ。この会は山が目的なのか、宴会が目的なのか、どちらにせよ達成。

疲労、そして癒しと、凝縮された 2 日間でした。
雪の丹沢山へ行って心から楽しみました。

皆様、ありがとうございました。



丹沢山山頂にて

概要

山名	鍋割山～塔ノ岳～丹沢山		
月日	平成 22 年 2 月 20 日 (土) ~21 日 (日)		
山域	丹沢	地形図 1/25000	大山、秦野
形式	山小屋	グレード 2 B	
目的	① 塔ノ岳・丹沢山周辺の霧氷、 ② 富士山、南アルプスの眺望、 ③ 初級者雪山研修		
費用	約 8,800 円	交通機関	J R、小田急、バス
行程	1 日 目	我孫子 5:31 → 新宿 6:27 / 6:41 → 渋沢 7:53 / 8:08 (バス) → 大倉 8:18 / 8:40 ⇒ 二俣 10:00 / 10:10 ⇒ 後沢乗越 11:10 ⇒ 鍋割山 12:45 / 13:35 (休憩・昼食) ⇒ 小丸 ⇒ 金冷 15:05 ⇒ 塔ノ岳尊仏山荘 15:30 (泊)	
	2 日 目	塔ノ岳 5:30 / 6:50 ⇒ 日高 ⇒ 竜ガ馬場 ⇒ 丹沢 山 8:15 ⇒ みやま山荘 9:00 (休憩) ⇒ 竜ガ馬 場 9:20 ⇒ 塔ノ岳 10:15 / 10:45 ⇒ 花立山荘 11:25 ⇒ 堀山ノ家 12:05 ⇒ 大倉 13:40 / 15:10 ⇒ 渋沢 15:40 ⇒ 我孫子 18:05	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 後沢乗越辺りまでは、平坦に近い登りが続く。 後沢乗越からは、登り傾斜が少しきつくなる。途中までは、雪が解けてどろどろの悪路となるが、階段状になっているの 		

ルート状況	<p>ですべることは無い。やがて雪道となるが、鍋割山頂までは、アイゼンの必要は無い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 鍋割山頂は広く休憩には良い。トイレもある。 この先塔ノ岳までは、アップダウンを数回繰り返す。下りが傾斜のきついところもあるのでアイゼンが必要だ。雪は、積雪 10cm 位であるが、登山者が多いので踏み固められていて歩きやすい。 塔ノ岳は、トイレもバイオトイレで綺麗。 1 階の休憩室は、大きなストーブの暖房設備があり、暖かく、そのため 2 階の床も床暖房となり、布団の下から暖められ夜中に少し暑かった。 塔ノ岳の水は、往復 30 分のところから 201 タンクで担ぎ上げている。水は貴重な為ポット用のお湯も有料だ。 塔ノ岳から丹沢山までは、1 部、勾配のきつい所もありアイゼンは、必要だ。積雪は、10 ~ 20 cm で、踏み固められているので歩きやすい。
参加者	柴(L)、武内(SL)、小川誠、田村、瀬田、 本田、矢野裕、末永 男性 3 名、女性 5 名 計 8 名



塔ノ岳から丹沢山に向かう途中
霧氷のなか富士山がくっきりと浮かぶ

< 668 >

鶴島御前山 (484m)

中村八重子

2月に入っても雪の降る日が多い今年ですが、今日は穏やかな冬晴れです。北側斜面の残雪を予想していましたが、幸い見当たりませんでした。

近場の里山山行ということで、気合もなく歩き始めました。登山口まで約2キロ、山里の静かな道を歩く。田畠一面に霜が降っていました。一枚の田に目を向けると、陽ざしが射している場所と、そうでない場所とでは、霜の融け具合がはつきりと表れていました。木の芽まだ固く春はまだ遠い感じをうけます。

里山の登山道は何本もありますが、しっかりとした標識がないのでわかりにくい、登山口を見落とさぬよう注意して入る。標高500メートルに満たない山ですが、いろいろな発見もでき、ちょびりスリルを味わうこともできました。

鳥のいい声でのさえずりが聞こえましたが、何という名前かわかりません。野鳥の見分け方は難しいですね？　言い覚え方はないでしょうね。日ごろから意識して耳を傾けたいと思います。

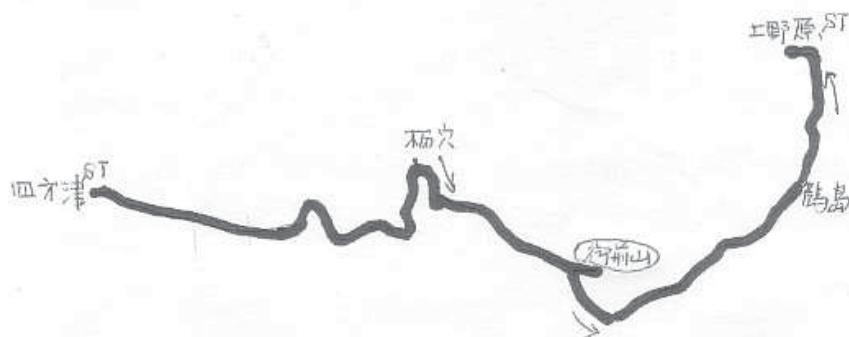
花・樹木・鳥・その他　いろいろなものに興味をもち覚えると、楽しい山歩きができるとおもいます。

春を待つ野山にも、スミレなど野の草花が咲いていました。

概要

山名	鶴島御前山		
月日	平成22年2月21日(日)		
山域	中央沿線	地形図	上野原 1/25000
形式	日帰り	グレード	1B
目的	冬枯れの里山を歩く		
費用	2300円	交通機関	JR
行程	我孫子駅 5:33→新松戸駅→西国分寺駅→高尾駅 7:46→四方津駅 8:12/8:20⇒柄穴集落 9:06⇒柄穴御殿 9:35⇒はさみ岩 10:35⇒鶴島御前山 10:40/11:20⇒分岐 11:30 ⇒下山口 12:05⇒桂川橋 12:33⇒上野原駅 12:42/12:55→高尾駅 13:17→上野駅 14:17(反省会)15:42→我孫子駅 晴れ時々曇り<行動時間4時間30分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 四方津駅から東へ登山口まで約45分間、のどかな集落の中を歩く。(途中道が狭いため不安になり地元の人に道を尋ねる) 杖突橋を渡り、対岸の集落杖突に入るとまもなく登山口のある柄穴集落が見えてきた。身支度を整えお墓の脇より歩き始める。50メートル位歩くと赤いテープの目印あり。篠竹のはつきりしない道がふたてに分かれている。稜線へ出るみちを進むとかすかな踏み跡がみえてくる。 柄穴御殿先の下りは長いトラロープが張ってある。(雨、雪の場合は要注意) 下山は新矢野根峠との分岐へまわって下る。(頂上から直下で里へ下るコースもある。 (2001年高柄山下山コースで寄り道した山です。) 		
参加者	中村八(L)、中村隆(SL)、箕輪完、品田、箕輪力、清家 男 2名 女 4名 計 6名		

概念図





▲休憩：一息入れて、はいポーズ



▲ 鶴島御前山：山頂にて集合写真を撮る

<669>14期新人卒業山行

伊豆ヶ岳
(851m)

矢野裕子

リーダーさんてすごい！

14期新人の私達6人、時間を作つて毎回全員で行き先選定からすべてのことを話し合つてきました。卒業山行の目的を知り、登山計画の研修通り進めていく中で、実にたくさんのこと学びました。

計画書には二つの様式があり、やまたん掲載用と参加者配布用。会の装備品を借りてみる、そのときは装備品貸出申請書。留守宅のお願い、地元警察の連絡先、下山報告電話、下山報告第一報、やまたんへの報告書、やまなみの原稿。一つの山行にこんなにたくさんの過程があつたとは、驚きました。何度も文書にしていく中で目的を確認し、楽しく安全な山行へと繋がると教えていただきました。

このコースは総延長1,665kmの関東ふれあいの道ということで、はつきりした標識が随所にあり大変気持ちの良い道でしたが、天候は朝の雨から雪へと変わり、伊豆ヶ岳山頂も美しい雪景色の中、ありがとうのメッセージを持って写真撮影。

実は悪天候の中での調理の心配から、計画を変更して逆回りにし屋根のあるところで煮炊きを…などと考えたのですが、小谷さんから計画通りで大丈夫と。その意味が昼食時にははつきりとわかりました。山頂下分岐の鞍部、一つの木の椅子の前でここだ、と。少々風もあり小雨、え～寒いな…と思っているところでツエルト。イメージが湧かずに動きが止まってしまう私たちに、重さんが声をかけ小谷さんの手ほどきであつという間に



先生からプレゼント
お重に入つて春の色ト

ドーム型完成。小さな椅子がテーブルとなり皆でザックに座れと。ぬかるんでいる地面に抵抗を示す私たちに、落ち葉の束を敷き詰めて、ほら。窮屈でもちゃんとした体勢をとっておかないと後がつらいんだよと。

こうしてできたツエルト内の会場で私たちの卒業式。外は雨、風、雪も舞っているなか狭いけど暖かい。参加できなかった新谷さんからの心のこもった贈り物はゆっくり炒めてうまみの凝縮された豚汁、その美味しいこと！そしてサプライズ。外崎さんがお重の蓋を開けるとわあ！という歓声。ピンク色のちらし寿司に塩漬けの桜の花びらが飾られて華やかな春の色。もち米みたいにふわりとやわらかく、やさしい味にもう感激です。そうする合間も、気の利かない私の隣で重さん自ら味噌を加減し、写真を撮り、鍋を押さえて支えてくださる。本当に先生たちはさすがです。悪天候でも元気が出る楽しみ方をしっかり教わりました。ツエルトとコンロさえあれば◎心配ない。

下山はぬかるんだ急斜面で難儀しましたが、ここでまた一つザイルの回収の仕方も習い、里へ下りたころから明るい空となってルンルン気分で福寿草や節分草を愛で、梅を見ながら駅へ到着。

この日をもちまして、もう新人ではない、いつまでも甘えていてはいけないと自分に言い聞かせつつ、どうかどうかこれからもよろしくお願ひいたしますと、こうして素晴らしい卒業山行を終えました。



よし！この中で

概念図



概要

山名	伊豆ヶ岳	
月日	平成 22 年 2 月 28 日 (日)	
山域	奥武藏	地形図 1 / 25000 正丸峠
形式	日帰り	グレード 1 A
目的	①研修を生かして山行計画を立て、実行する。 ②コンロを使って調理を楽しむ。	
費用	2600 円	交通機関 JR、私鉄
行程	我孫子駅 6:01 → 日暮里 6:31 / 6:37 → 池袋 6:49 / 7:04 → 正丸駅 8:30 / 8:50 ⇒ 正丸峠 9:50 / 9:55 ⇒ 小高山 10:20 ⇒ 五輪山 10:40 / 10:45 ⇒ 伊豆ヶ岳 10:55 / 11:05 ⇒ 分岐 (昼食) 11:20 / 12:45 ⇒ 林道 13:25 ⇒ 正丸駅 13:55 / 14:25 → 池袋 → 柏 16:56 (反省会) → 我孫子 <行動時間 5 時間 5 分>	

ルート状況

・伊豆ヶ岳山頂から下った分岐の地点ではつきりした標示が無くなり、先頭を小谷さんに代わっていただきました。その先で進行方向に突然ロープが張ってあり、進入禁止。そこから急斜面を下りました。標識も無く、雨の後の斜面はぬかるんで滑りやすくて気を使いました。関東ふれあいの道のコースから外れたためか、少し不安な箇所でした。
 ・他は歩きやすく気持ちのよい道でした。
 ・伊豆ヶ岳直下の男坂は「危険・自己責任」との立て札。途中出会った男性が、濡れた岩がつるつる滑って大変怖かった、とのことでした。

参加者

矢野(L)、小谷(SL)、本田、齊田、中村育、外崎(講師)、高橋重(講師)



伊豆ヶ岳頂上で集合写真
此処まで来れたのは皆様のおかげです

<670>

日の出山～麻生山 (902m) (794m)

高橋英雄

目的は陽だまり山行のつもりでしたが前日の天気予報を見たら奥多摩地方は雨、又は雪の予報であった。夜になって中止にするか迷ったが一応行くことに決めた。

当日は朝から小雨降っていたが、これ位なら大丈夫と電車に乗る。武蔵五日市駅に着きバスの発車迄30分位時間があり、待っている間に雨具の用意。身につける間もなく、雨の方は本降り。バスの中は我々の6名とほかに2、3人乗っているだけで、松尾バス停で降りるつもりであったが運転手にお願いして先の登山道入り口までお願いする。

雨は相変わらずで林道を少し歩いて日の出山ハイキングコースの入り口。上り始めて30分もしたら雨から霧になり其のうち雪になる。この時期にしては珍しい。頂上に着いたら真っ白、展望の良い日の出山ですが何も見えず残念でした。

アヅマヤで昼食をとってたいら2～30人の中高年の登山者が来て我々が押し出される羽目になる。早々と昼食を済ませ、下山に入る。まだ道はぬかるんではないが木に積もった雪が解け始め、傘やカッパに落ち、時々びっくりする。

麻生山を越えて降りた所に分岐があつて正道の道を途中逆行って引き返す。(道が狭くなった為) 別の道へ行くと東電の鉄塔がありそこから道が途切れてしまった。いろんな所を探したが無く諦めて引き返したところまで戻り、そこから少し行くと金比羅尾根に入った。雪も小止みになり琴平神社に着いた頃はやんでいた。神社から少し歩くと街中に入り、しばらくいくと保険センターがありそこで水道を貰って雨具や靴の泥を落として身支度して駅の方へ向かう。

途中の蕎麦屋に入り反省会、ここは小生が2度程来た所で品が良く多少高めだが味は凄く良い。武蔵五日駅に来た時お勧めです、今日は道迷いがあり反省材料が沢山あった。



途中雨から雪になる。思いもよらない雪で周りは真っ白！！

概念図



雪中行：積もった雪が落ちて歩きにくい

概要

山名	日の出山～麻生山		
月日	平成22年2月28日(日)		
山域	奥多摩	地形図 1/25000	五日市
形式	日帰り	グレード	2A
目的	陽だまり山行		
費用	約6300円	交通機関	JR、西東京バス
行程	我孫子駅 5:33→新松戸駅 5:47/5:51→西国分寺駅 6:47/7:07→立川駅 7:15/7:23→武蔵五日駅着 7:58/8:32(バス)→松尾バス停 8:50/登山開始 8:55→登山道に入る 9:10 ⇒休憩 9:30/9:35⇒頸かけ岩 9:47⇒日の出山 10:30/(食事)11:00⇒分岐 11:18⇒麻生 ⇒休憩 9:30/9:35⇒頸かけ岩 9:47⇒日の出山 10:30/(食事)11:00⇒分岐 11:18⇒麻生山 11:55/12:00⇒ルート選定の為引き返す 12:13⇒鉄塔の所から引き返す 12:40⇒尾根の地点に戻る 13:00⇒幸神への分岐		
		ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・松尾バス停で下車の予定が先の登山口まで運転手にお願いする ・車道を20分位登った所に日の出山ハイキングコース登山口がある ・登山道は幅が広く歩き易い、途中雨から雪になる、頂上は5センチ位の積雪一面真っ白 ・下山途中、雨か又は木に積もった雪が落ちて歩きにくい ・麻生山を下山して少し進んだ所でルート選定の為引き返す、鉄塔まで進んだがルートが無く引き返して尾根に戻る。
		参加者	高橋英(L) 中村隆、原田和、小川誠、千葉、瀬田 男4名、女2名 計6名



日の出山：雪が積もった頂上にて集合写真





資料

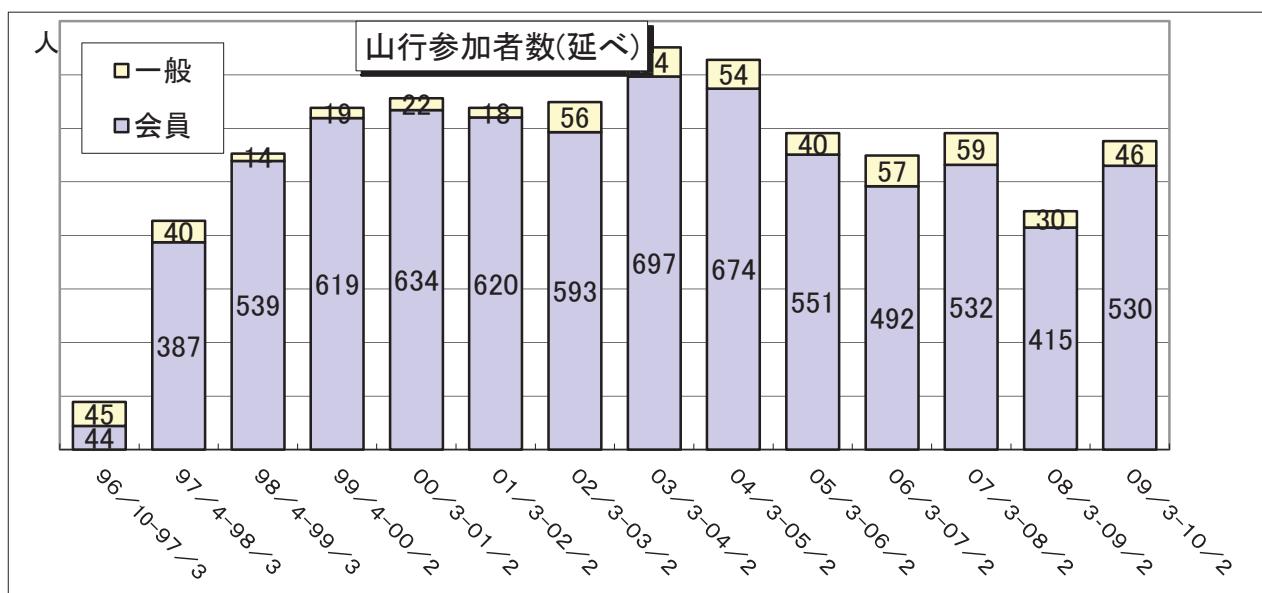
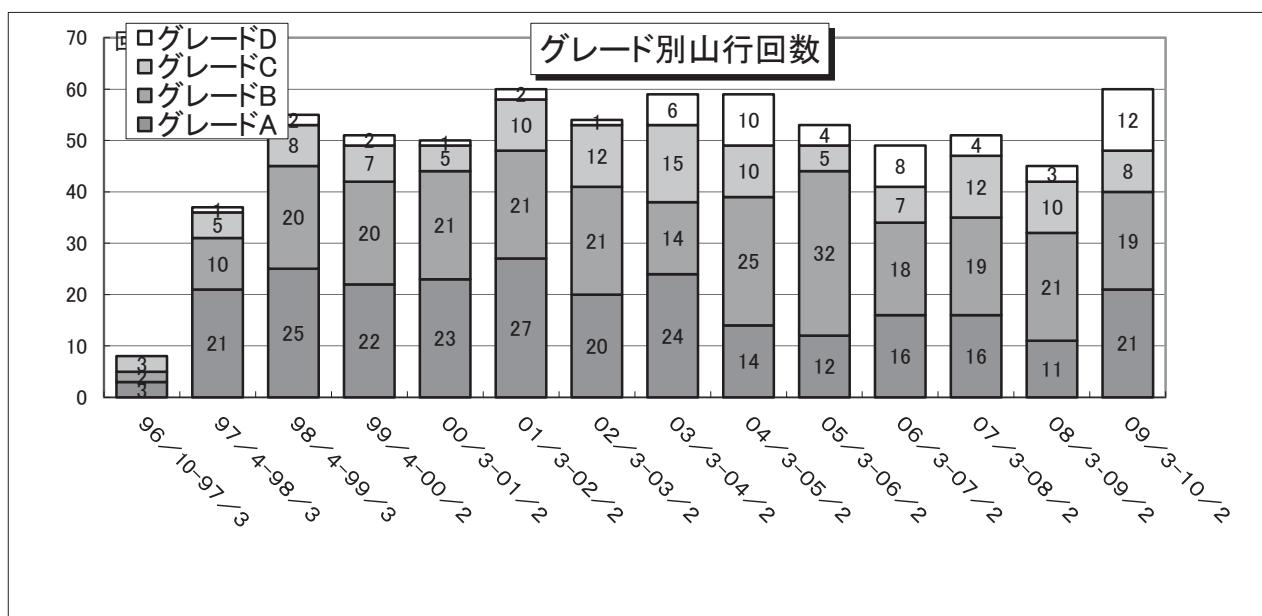
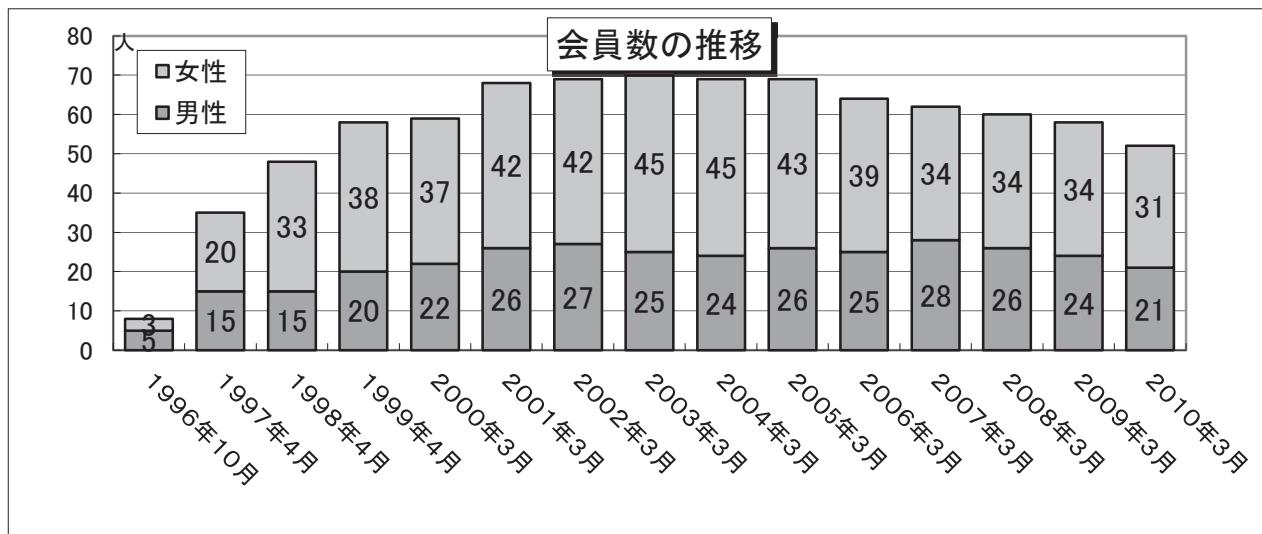
推移グラフ（1996年～）

山行一覧表（2009年3月から2010年2月）

活動の記録(2009年度)

山行(山名)索引（1996年～2010年2月）

推移グラフ



山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ号	ページ
1	あ	会津朝日岳 (創立山行)	会津	1996	10/12-13	テント	B	細野省二	1	4
298	あ	会津朝日岳	会津	2002	12/21-23	テント	C	川下敬史	4	253
492	あ	会津朝日岳	会津	2006	7/1-2	避難小屋	3C	外崎蓮	8	46
110	あ	会津駒ヶ岳	会津	1999	6/26-27	民宿泊り	B	大串秀雄	2	60
269	あ	会津駒ヶ岳・平ヶ岳	会津	2002	6/21夜-24	テント	B+	武内勇二	4	161
121	あ	荒川三山・赤石岳	南ア	1999	9/12-15	山小屋	C	大串秀雄	2	86
225	あ	赤石岳～聖岳	南ア	2001	8/27-30	山小屋	C+	大串秀雄	4	52
497	あ	荒川三山～赤石岳	南ア	2007	8/4-7	山小屋	4C	外崎蓮	8	61
258	あ	赤岩尾根	西上州	2002	4/20-21	テント	D	柴勇	4	133
316	あ	赤岩山～古賀志山	前日光	2003	4/27	日帰り	B	柴勇	5	26
445	あ	岩菅山～赤岩山	上信	2006	6/25-27	避難小屋	4B	外崎蓮	7	47
582	あ	赤岩尾根・烏帽子岳	西上州	2008	4/26-27	テント	3C	柴勇、坂巻明	10	20
284	あ	烏帽子岳～水晶岳～赤牛岳	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4	213
56	あ	赤城山 (黒檜山)	上州	1998	6/21	日帰り	A	外崎蓮	1	98
323	あ	赤城山 (黒檜山)	上州	2003	6/1	日帰り	A	柴勇	5	42
571	あ	赤城山 (黒檜山)	上州	2008	1/19-20	テント	3C	高橋重	9	119
653	あ	難台山～吾国山	茨城	2009	11/7	日帰り	2A	原田和昭	11	98
524	あ	朝日山・赤鞍ヶ岳	道志	2008	2/3-5	山麓泊	3B	村松敏彦	8	135
616	あ	大室山・赤鞍ヶ岳	西丹沢・道志	2009	1/17-18	山麓泊	2B	小川誠二郎	10	116
641	あ	編笠山～権現岳～赤岳	八ヶ岳	2009	8/14-15	山小屋	3C	田村光子	11	64
560	あ	赤薙山 (県連平日ハイク)	日光	2007	10/11	日帰り	1A	斎藤清一、県連	9	91
378	あ	赤ぼっこ～天狗岩	奥多摩	2004	5/23	日帰り	1A	日下芳十	6	24
330	あ	阿寒・斜里・羅臼岳	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5	70
174	あ	秋田駒ヶ岳	東北	2000	9/16-17	旅館	B	外崎蓮	3	76
271	あ	秋田駒ヶ岳～乳頭山・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋/旅館	B	大串秀雄	4	168
545	あ	秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山	奥羽	2007	6/30-7/2	山麓泊	3B	柴勇	9	52
483	あ	熊野古道・悪四郎山	熊野	2007	5/14-17	山麓泊	4B	細野清子	8	18
153	あ	浅草岳・守門岳	会越	2000	5/3-6	テント/民宿	D	村松敏彦	3	20
346	あ	浅草岳・守門岳	会越	2003	10/18-19	民宿	2B	柴勇	5	130
21	あ	白馬岳～朝日岳	北ア	1997	8/7-10	テント&山小屋	B	細野清子	1	33
22	あ	朝日岳・白毛門	谷川	1997	8/30-31	テント	C	細野省二	1	37
112	あ	朝日岳・白毛門	谷川	1999	7/24-25	避難小屋	B+	外崎蓮	2	63
399	あ	朝日岳～白馬岳	北ア	2004	9/16-19	山小屋	3C	石垣吉朗	6	78
524	あ	朝日山・赤鞍ヶ岳	道志	2007	2/3-4	山麓泊	2B	村松敏彦	8	135
99	あ	朝日連峰 (コールティングウイーク合宿)	朝日連峰	1999	5/1-4	避難小屋	D	村松敏彦	2	29
165	あ	朝日連峰	朝日連峰	2000	7/28-30	テント	C	柴, 清家	3	47
500	あ	朝日連峰	朝日連峰	2006	9/16-18	避難小屋	3C	千葉有子	8	69
204	あ	鼻曲山～浅間隠山	上州	2001	5/12-13	山荘/テント	A+, C	細野清子	4	12
242	あ	浅間隠山	上州	2001	11/18	日帰り	A	外崎蓮	4	95
644	あ	仙丈ヶ岳～アサヨ峰	南アルプス	2009	8/28-30	山小屋	4C	外崎蓮	11	72
411	あ	矢倉岳～足柄古道	箱根	2005	11/8	日帰り	3A	高橋芳恵	6	109
2	あ	愛鷹山連峰	富士周辺	1996	12/14-15	無人小屋	C	柴勇	1	5
211	あ	愛鷹連峰縦走 <富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/16-17	旅館	C	清家三保子	7	34
355	あ	足和田山	富士周辺	2003	12/7	日帰り	1A	斎藤・中村	5	151
660	あ	足和田山～紅葉台	富士周辺	2009	12/12	日帰り	1A	千葉有子	11	114
446	あ	烏帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2007	6/26-29	山麓泊	5B	高橋潔	7	49
630	あ	湯の丸山・四阿山 (市民登山)	上信越	2009	6/7-8	山麓泊	2B	佐藤健一	11	29
379	あ	畦ガ丸	丹沢	2004	5/29	日帰り	2B	斎藤清一	6	26
670	あ	日ノ出山～麻生山	奥多摩	2010	2/28	日帰り	2A	高橋英雄	11	136
266	あ	阿蘇山・九重山・由布岳	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4	149
29	あ	愛宕山	房総	1997	10/19	日帰り	A	県連、高橋英	1	56
260	あ	愛宕山～吾国山	常陸	2002	4/28	日帰り	A	中村八重子	4	136

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ号	ページ
566	あ 愛宕山・ポンポン山	京都	2007	11/20-22	山麓泊	2A	細野清子	9	105
138	あ 安達太良山	福島	2000	1/15-16	山小屋	C	柴勇	2	131
267	あ 安達太良山(公開登山)	福島	2002	6/9	日帰り	A	大串秀雄	4	153
359	あ 安達太良山	福島	2004	1/10-11	山小屋	4C	川下敬史	5	162
14	あ 吾妻連峰	吾妻連峰	1997	5/17-18	山小屋	C	柴勇	1	22
74	あ 一切経山～東吾妻山	吾妻連峰	1998	3/31-11/1	山小屋	B	村松敏彦	1	149
228	あ 吾妻連峰	吾妻連峰	2001	9/15-16	避難小屋	B+	外崎蓮	4	60
109	あ 湯の丸山・四阿山	上州	2000	6/19-21	民宿泊り	B	外崎蓮	2	58
512	あ 大峰山～吾妻耶山	谷川	2007	11/6	日帰り	3B	青山寿子	8	104
663	あ 吾妻耶山・今倉山	谷川	2010	1/23-24	山小屋	3C	高橋重	11	120
213	あ 雨ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	7/1	日帰り	A	外崎蓮	7	37
177	あ 雨飾山	頸城	2000	10/8-9	民宿	B	大串秀雄	3	84
559	あ 雨飾山	頸城	2007	10/8-9	山小屋	2B	清家三保子	9	89
443	あ 尼ヶ禿山～迦葉山	上州	2005	6/16	日帰り	2B	斎藤清一	7	41
97	あ 天城連山	伊豆	1999	4/24-25	民宿	B+	細野清子	2	26
337	あ 西岳～編笠～権現山	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎蓮	5	93
614	あ 西岳～権現～編笠(クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎蓮	10	110
641	あ 編笠山～権現岳～赤岳	八ヶ岳	2009	8/14-15	山小屋	3C	田村光子	11	64
405	あ 阿弥陀岳	八ヶ岳	2004	10/11	日帰り	4D	千葉有子	6	93
645	あ 雨引山(ウイズハイク)	茨城	2009	9/5	日帰り	2A	石垣吉朗	11	76
32	あ 七ヶ岳・荒海山	会津	1997	11/1-2	テント	B	村松敏彦	1	62
121	あ 荒川三山～赤石岳	南ア	1999	9/12-15	山小屋	C	大串秀雄	2	86
497	あ 荒川三山～赤石岳	南ア	2006	8/4-6	山小屋	3C	外崎蓮	8	61
341	あ 未丈ヶ岳・荒沢岳	会越	2003	9/20-21	テント	4D	村松敏彦	5	107
344	あ 荒島岳・能郷白山	白山	2003	10/10-13	テント	3B	細野省二	5	123
190	あ 荒船山	西上州	2001	2/4	日帰り	A+	川下敬史	3	104
351	あ 荒船山	西上州	2003	11/9	日帰り	1A	榎原文子	5	142
539	あ 荒船山	西上州	2007	6/3	日帰り	1A	武内勇二	9	35
200	あ 有間山～蕨山	奥武蔵	2001	4/22	日帰り	A	外崎蓮	4	5
527	あ 有馬山～蕨山	奥武蔵	2007	4/8	日帰り	3B	青山寿子	9	8
239	あ 安房高山(ふれあいハイキング)	房総	2001	11/3-4	日帰り	A	県連、外崎	4	90
642	あ 摺古木山～安平路山～越百山	中央アルプス	2009	8/21-24	避難小屋	5C	村松敏彦	11	66
292	い 北信三山(黒姫山・戸隠山・飯縄山)	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4	239
329	い 戸隠山・黒姫山・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5	67
220	い 飯豊連峰縦走	飯豊連峰	2001	8/2-5	テント	C+	柴勇	4	48
554	い 飯豊連峰縦走(北股岳～大日岳～飯豊山)	飯豊連峰	2007	8/24-27	テント	4C	武内勇二	9	75
45	い 天狗岳～硫黄岳	八ヶ岳	1998	3/28-29	山小屋	C	村松敏彦	1	84
555	い 五十沢～金城山	上越	2007	9/1-2	避難小屋	4C	千葉有子	9	78
291	い 石鎚山	四国	2002	3/25夜-28朝	民宿	B	斎藤清一	4	235
194	い 石割山	富士周辺	2001	2/25	日帰り	A	斎藤清一	3	110
627	い 石割山	道志	2009	5/17	日帰り	2B	外崎蓮	11	18
55	い 伊豆ヶ岳(新人研修)	奥武蔵	1998	6/7	日帰り	A	外崎蓮	1	97
16	い 伊豆ヶ岳(新人研修)	奥武蔵	1997	6/8	日帰り	A	柴、細野清	1	26
619	い 伊豆ヶ岳東尾根	奥武蔵	2009	2/8	日帰り	1B	堀口昭二	10	125
669	い 伊豆ヶ岳	奥武蔵	2010	2/28	日帰り	1A	矢野裕子	11	134
327	い 船形山～泉ヶ岳	船形連峰	2003	6/21-22	避難小屋	B	石垣吉朗	5	60
578	い 子の権現・伊豆ヶ岳(新人歓迎)	奥武蔵	2008	3/30	日帰り	1A	やまたん	10	6
74	い 一切経山～東吾妻山	吾妻連峰	1998	3/31-11/1	山小屋	B	村松敏彦	1	149
313	い 稲荷山・御荷鉾山	西上州	2003	4/12-13	町営宿舎	A	中村隆泰	5	19
332	い 伊吹山・賤ヶ岳	近江	2003	7/25-27	テント	2A	武内勇二	5	77
77	い 今倉山～二十六夜山	道志	1998	11/14	日帰り	A	村松敏彦	1	154
663	い 吾妻耶山・今倉山	谷川	2010	1/23-24	山小屋	3C	高橋重	11	120

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ号	ページ
515 い	伊予ヶ岳・富山（県連40周年）	房総	2006	11/18-19	テント	1A	高橋英雄	8	112
388 い	易老山～光岳	南ア	2004	7/17-19	山小屋	4C	外崎蓮	6	48
233 い	祝瓶山・大朝日岳	朝日連峰	2001	10/5夜-8	テント	C	細野省二	4	74
340 い	岩木山・八甲田山	津軽	2003	9/13-15	民宿、旅館	3B	高橋英雄	5	102
448 い	岩木山・白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	2005	7/22-24	テント	3D	細野清子	7	56
445 い	岩菅山～赤岩山	上信	2005	6/25-26	避難小屋	3B	外崎蓮	7	47
402 い	岩手山・姫神山	東北	2004	9/18-20	宿	3B	高橋英雄	6	85
545 い	秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山	東北	2009	6/30-7/4	山麓泊	5B	柴勇	9	52
601 い	岩手山～三石山～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10	76
237 い	岩殿山	中央沿線	2001	10/21	日帰り	A	日下芳十	4	86
311 い	岩殿山	中央沿線	2003	4/6	日帰り	A	日下芳十	5	14
417 い	岩殿山	中央沿線	2004	12/19	日帰り	1A	高橋英雄	6	121
478 い	宮地山～岩殿山	中央沿線	2007	4/3	日帰り	4B	青山寿子	8	7
532 い	岩櫃山	上州	2007	5/3	日帰り	2B	原田和昭	9	17
51 い	岩山（リーダー研修）	前日光	1998	5/24	日帰り	B	村松敏彦	1	91
105 い	岩山（リーガー研修）	前日光	1999	5/30	日帰り	B	村松敏彦	2	47
162 い	岩山（新人研修）	前日光	2000	7/2	日帰り	A	高橋英、安田	3	42
202 い	岩山（新人研修）	前日光	2001	4/29	日帰り	A	細野省二	4	6
307 い	岩山	前日光	2003	3/16	日帰り	A+	柴勇	5	1
318 い	岩山	前日光	2003	5/11	日帰り	A	坂口よし江	5	31
418 い	岩山（登山教室）	前日光	2004	6/12	日帰り	1B	柴勇	6	141
429 い	岩山	前日光	2005	4/3	リーダー研修	1B	村松敏彦	7	10
456 い	岩山（登山教室）	前日光	2005	8/28	日帰り	1B	村松敏彦	7	131
531 い	岩山	前日光	2007	4/29	日帰り	2B	柴勇	9	15
646 い	岩山	前日光	2009	9/13	日帰り	1B	高橋英雄	11	80
279 う	木曾駒ヶ岳～空木岳	中ア	2002	8/23-25	山小屋	C	大串秀雄	4	196
394 う	木曾駒ヶ岳～空木岳～越百山	中ア	2005	8/19-23	山小屋	5C	大串秀雄	6	67
552 う	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳	中ア	2009	8/12-16	山小屋	5C	佐藤健一	9	68
205 う	雁ヶ腹摺山～姥子山	大菩薩	2001	5/19	日帰り	A	斎藤清一	4	17
369 う	馬立山～九鬼山	中央沿線	2004	4/11	日帰り	1B	武内勇二	6	6
464 う	裏高尾縦走	中央沿線	2005	10/16	日帰り	2A	千葉有子	7	100
354 う	裏妙義	西上州	2003	11/15-16	国民宿舎	4D	柴勇	5	148
280 え	越後三山（越後駒ヶ岳、中の岳、八海山）	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4	200
465 え	越後駒ヶ岳	越後	2005	10/16-18	避難小屋	3C	大串秀雄、高橋潔	7	102
639 え	越後駒ヶ岳	越後	2009	8/6夜-8	山小屋	3B	高橋重	11	60
195 え	越前岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	3/18	日帰り	A	武内勇二	7	14
348 え	恵那山	中ア	2003	10/25-26	避難小屋	3B	石垣吉朗	5	135
493 え	樽前山・恵庭岳・羊蹄山	北海道	2007	7/2-8	山麓泊	5B	大串秀雄	8	49
115 え	鳥帽子岳～穂高岳縦走	北ア	1999	8/6-12	山小屋	C+	細野清子	3	111
446 え	鳥帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2005	6/26-27	山麓泊	3B	高橋潔	7	49
536 え	霧島・祖母山・鳥帽子岳	九州	2009	5/21-26	山麓泊	5B	大串秀雄	9	27
582 え	赤岩尾根・鳥帽子岳	西上州	2008	4/26-27	テント	3C	柴勇、坂巻明	10	20
284 え	鳥帽子岳～水晶岳～赤牛岳	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4	213
621 お	小出俣山	谷川	2009	3/14-15	テント	4D	高橋重	11	1
203 お	大笠山・笈ヶ岳	白山	2001	5/2-6	テント	D	村松敏彦	4	8
633 お	奥入瀬渓谷・八甲田山・姫神山	八甲田	2009	7/2-4	山麓泊	2B	細野清子	11	43
233 お	祝瓶山・大朝日岳	朝日連峰	2001	10/5夜-8	テント	C	細野省二	4	74
285 お	大洗海岸水族館（ウイズハイク）	常陸	2002	9/28	日帰り	A	外崎蓮	4	217
437 お	塔の岳～大石山～檜洞丸	丹沢	2006	5/14-16	山小屋	4B	柴勇	7	28
203 お	大笠山・笈ヶ岳	白山	2001	5/2-6	テント	D	村松敏彦	4	8
41 お	扇山（公開登山）	中央沿線	1998	3/8	日帰り	A	三浦七郎	1	78
249 お	扇山	中央沿線	2002	2/10	日帰り	A	松本豊	4	114

山 名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ号	ページ
561	お百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2008	10/21-23	山麓泊	4B	大串秀雄	9	93
575	お大霧山	奥武蔵	2008	2/10	日帰り	1B	高橋英雄	9	128
10	お大楠山 (新人歓迎)	三浦半島	1997	4/20	日帰り	A	細野清子	1	16
281	お大雲取谷	奥多摩	2002	8/31-9/1	テント	C	川下敬史	4	203
543	お大雲取谷	奥多摩	2007	6/23夜-24	夜行日帰り	3D	堀口昭二	9	48
372	お大蔵高丸～ハマイバ丸	大菩薩	2004	4/29	日帰り	2A	細野省二	6	12
561	お百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2009	10/21-24	山麓泊	5B	大串秀雄	9	93
631	お三本槍岳～流石山～大倉山	那須	2009	6/27-28	避難小屋	3B	武内勇二	11	38
140	お大洞山～大沢山	中央沿線	2000	1/23	日帰り	B+	細野省二	2	135
95	お大鹿山 (新人歓迎山行)	大菩薩	1999	4/18	日帰り	A	細野省、清家	2	22
101	お大峰山～大台ヶ原山	台高山脈	1999	5/1-3	テント	C	細野省二	2	40
628	お大峰山・大台ヶ原	紀伊山地	2009	5/24-28	山麓泊	3B	大串秀雄	11	20
528	お大高山	奥武蔵	2007	4/15	日帰り	2B	中村隆泰	9	10
42	お大岳山 (2期生卒業山行)	奥多摩	1998	3/15	日帰り	A	日下芳十	1	80
455	お大岳山	奥多摩	2005	8/21	日帰り	2A	中村八重子	7	77
495	お大岳山	奥多摩	2006	7/16	日帰り	3B	中村隆泰	8	57
243	お奥多摩三山 (大岳山、御前山、三頭山)	奥多摩	2001	11/23-24	避難小屋	B	高橋英雄	4	97
551	お大岳山～鋸尾根	奥多摩	2007	8/12	日帰り	2B	高橋英雄	9	67
151	お大塚山～中塚山	房総	2000	4/29	日帰り	A	外崎蓮	3	13
373	お鬼ヶ岳・釈迦ヶ岳～大柄山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6	14
587	お大行沢～カケス沢	東北	2008	6/14-15	テント	4D	千葉有子	10	41
87	お大岱山	甲州	1999	2/7	日帰り	A++	細野省二	2	9
380	お大幡川四十八滝沢	富士周辺	2004	5/30	日帰り	4D	堀口昭二	6	28
403	お南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北アルプス	2006	9/25-30	山小屋	6C	大串秀雄	6	87
366	お大平山～晃石山	北関東	2004	3/20-21	宿	2A	大串秀雄	6	1
557	お太平山 (ウイズハイク)	北関東	2007	9/23	日帰り	1A	小川誠二郎	9	83
140	お大洞山～大沢山	中央沿線	2000	1/23	日帰り	B+	細野省二	2	135
606	お奈良倉山～鶴寝山～大マティ山	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10	91
342	お女峰・大真名子山・太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5	109
101	お大峰山～大台ヶ原山	台高山脈	1999	5/1-3	テント	C	細野省二	2	40
512	お大峰山～吾妻耶山	谷川	2006	11/5	日帰り	2B	青山寿子	8	104
628	お大峰山・大台ヶ原	紀伊山地	2009	5/24-28	山麓泊	3B	大串秀雄	11	20
347	お大室山・加入道山	丹沢	2003	10/23	日帰り	2B	原田君子	5	133
427	お加入道山～大室山～檜洞丸	丹沢	2006	3/20-22	避難小屋	4B	青山寿子	7	5
616	お大室山・赤鞍ヶ岳	西丹沢・道志	2009	1/17-18	山麓泊	2B	小川誠二郎	10	116
18	お大山～三峰山	丹沢	1997	6/21	日帰り	A	清家三保子	1	28
295	お大山～三峰山	丹沢	2002	11/17	日帰り	A	中村隆泰	4	246
302	お大山	丹沢	2003	1/19	日帰り	A	高橋芳恵	4	263
625	お大山	丹沢	2009	4/26	日帰り	2A	柴勇	11	14
564	お小川山	奥秩父	2007	11/10-11	テント	3B	柴勇	9	100
484	お小川谷・悪谷	奥多摩	2006	5/21	日帰り	3B	堀口昭二	8	21
102	お奥久慈男体山	常磐	1999	5/9	日帰り	A+	中村隆泰	2	43
309	お奥久慈男体山	常磐	2003	3/30	日帰り	A	堀口・青山	5	6
231	お日光白根山	日光	2001	9/29-30	避難小屋	B	武内勇二	4	69
541	おカヤの平・奥裾花 (市民登山)	北信濃	2008	6/9-10	山麓泊	2A	堀口昭二	9	39
229	お奥秩父の沢・川胡桃沢・鶏冠谷右俣	奥秩父	2001	9/23-24	テント	B,D	村松敏彦	4	64
170	お奥穂高岳・北穂高岳	北アルプス	2000	8/25-28	山小屋	B+	大串秀雄	3	63
390	お前穂高岳～奥穂高岳	北アルプス	2004	7/24-26	山小屋	3D	大串秀雄	6	54
598	お奥穂高岳	北アルプス	2008	8/22-24	山小屋	4C	坂口よし江	10	69
61	お西穂高岳～奥穂高岳～前穂高岳	北アルプス	1999	7/18-21	山小屋	D	村松敏彦	1	107
47	お石裂山	前日光	1998	4/19	日帰り	A+	柴勇	1	87
430	お石裂山	前日光	2005	4/10	日帰り	2B	高橋芳恵	7	12

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ号	ページ
603	お石裂山	前日光	2008	10/5	日帰り	2A	高橋重	10	82
486	お那須旭岳・大白森山	那須	2007	5/27-29	テント	4C	村松敏彦	8	25
602	お尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10	79
577	お天気山～羽賀場山	前日光	2008	3/16	日帰り	2B	安田みづほ	10	4
391	お燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋潔	6	57
537	お鬼石沢	丹沢	2007	5/27	日帰り	3C	青山寿子	9	31
479	お鬼ヶ岳～節刀ヶ岳	富士周辺	2006	4/9	日帰り	2B	武内勇二	8	9
373	お鬼ヶ岳・釈迦ヶ岳～大柄山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6	14
617	お大室山・赤鞍ヶ岳	中央沿線	2009	1/25	日帰り	1B	瀬田映子	10	120
180	お小野子山～十二ヶ岳	上州	2000	11/3	日帰り	A+	外崎蓮	3	90
481	お帶那山	甲州	2006	4/30	日帰り	1A	高橋英雄	8	13
425	お坊山	中央沿線	2005	3/13	日帰り	3B	村松敏彦	7	1
17	お表妙義縦走	上州	1997	6/15	日帰り	C	柴勇	1	27
238	お表妙義	上州	2001	10/27-28	テント	C+	柴勇	4	88
371	お表妙義	上州	2004	4/25	日帰り	2B	榎原文子	6	10
401	お表妙義	上州	2004	9/18-19	夜	4D	青山寿子	6	83
654	お表妙義	西上州	2009	11/8	日帰り	2B	中村隆泰	11	100
361	お恩若峰・源次郎岳	中央沿線	2004	1/25	日帰り	3C	村松敏彦	5	166
594	お木曾御嶽山	木曾	2008	8/2-3	山小屋	3B	坂巻明	10	59
66	か甲斐駒ヶ岳	南ア	1998	9/11-13	テント&無人小屋	C	細野省二	1	125
218	か甲斐駒ヶ岳～仙丈岳	南ア	2001	7/26-29	テント	C	武内勇二	4	40
504	か甲斐駒ヶ岳	南ア	2006	8/9	山小屋	3C	佐藤健一	8	81
407	か宮之浦岳・開聞岳	九州	2004	10/21-24	山小屋	3C	細野清子	6	97
198	が蛾ヶ岳～三方分山<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	4/14-15	旅館泊	B	村松敏彦	7	22
275	か加賀白山	白山	2002	19夜-7/2	テント	B+	細野清子	4	181
587	か大行沢～カケス沢	東北	2008	6/14-15	テント	4D	千葉有子	10	41
155	か景信山～高尾山	中央沿線	2000	5/14	日帰り	A	斎藤清一	3	23
251	か景信山～陣馬山	中央沿線	2002	2/24	日帰り	A	松本豊	4	118
163	か籠ノ登山・水ノ塔山	上信	2000	7/16	日帰り	A	安田みづほ	3	43
27	か尾瀬集中登山(創立記念) A:笠ヶ岳～至仏山	尾瀬	1997	10/9-11	テント&山小屋	B	CL柴勇、L川名	1	47
345	か笠ヶ岳・至仏山	尾瀬	2003	10/11-12	山荘	2B	外崎蓮	5	127
553	か笠ヶ岳	北ア	2007	8/17-20	山小屋	3C	高橋重	9	70
36	か笠取山、雁坂峠(クリスマス山行)	奥秩父	1997	12/20-21	テント	B	村松敏彦	1	68
326	か笠取山	奥秩父	2003	6/15	日帰り	A	原田君子	5	58
487	か笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2006	2/5	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
626	か堂平山～笠山	奥武蔵	2009	5/9	日帰り	1A	原田和昭	11	16
263	か甲子山～三本槍岳～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4	142
406	か甲子～三本槍～茶臼岳	那須	2004	10/16-17	避難小屋	3C	武内勇二	6	95
278	か鹿島槍ヶ岳	北ア	2002	8/13夜-17	山小屋	C	高橋英雄	4	190
533	か鹿島槍ヶ岳	北ア	2007	4/6	テント	4D	村松敏彦	9	19
593	か爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10	56
389	か霞沢岳	北ア	2004	7/23-25	テント	4C	武内勇二	6	51
217	が鳥海山・月山	出羽	2001	7/19夜-22	山小屋	B	大串秀雄	4	36
148	か四ッ又山～鹿岳	西上州	2000	4/16	日帰り	B	細野省二	3	7
347	か大室山・加入道山	丹沢	2003	10/23	日帰り	2B	原田君子	5	133
427	か加入道山～大室山～檜洞丸	丹沢	2005	3/20-21	避難小屋	3B	青山寿子	7	5
83	か鐘撞堂山(新年鍋山行)	奥武蔵	1999	1/10	日帰り	A	細野清子	2	2
408	か鹿野山	房総	2004	10/23	日帰り	1A	原田和昭	6	102
297	か加波山(忘年山行)	常陸	2002	12/8	日帰り	A	原田和昭	4	250
476	か兜山～棚山	中央沿線	2006	3/12	日帰り	2A	村松敏彦	8	1
305	か鎌倉アルプス天園	湘南	2003	2/9	日帰り	A	細野清子	4	270
232	か上高地～涸沢	北ア	2000	10/6-7	山小屋	B	大串秀雄	4	71

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ号	ページ
70	か	神峰山ふれあいハイク	常磐	1998	9/27	(雨の為、水族館他)	A	東葛	1	135
649	か	甑山・神室山	秋田・山形県境	2009	10/16-18	テント	2B	武内勇二	11	87
595	か	掃部ヶ岳～杏ヶ岳	上州	2008	8/10	日帰り	2A	品田千恵子	10	61
122	か	茅ヶ岳	中央沿線	1999	9/19	日帰り	A	清家三保子	2	91
608	か	茅ヶ岳	甲斐	2008	11/2	日帰り	2B	小川洋子	10	95
385	か	榧ノ木山～鷹ノ巣山	奥多摩	2004	7/4	日帰り	2B	千葉有子	6	41
541	か	カヤの平・奥裾花(市民登山)	北信濃	2007	9/10	山麓泊	1A	堀口昭二	9	39
232	か	上高地～涸沢	北ア	2001	10/6-8	山小屋	B	大串秀雄	4	71
423	か	諏訪岳～唐沢山	両毛	2006	2/10-12	日帰り	2A	斎藤清一	6	134
583	か	涸沢・蝶ヶ岳	北ア	2008	5/3-6	テント	4D	千葉有子	10	23
431	か	モミゾ沢・新茅の沢～鳥尾山	丹沢	2007	4/16-19	テント	5B	佐藤健一	7	14
416	か	鳥場山	房総	2004	12/5	日帰り	1A	細野清子	6	118
227	か	唐松岳～五竜岳	北ア	2001	9/6-8	山小屋	C	大串秀雄	4	57
452	か	唐松岳～鎧ヶ岳～杓子岳	北ア	2005	8/13-15	山小屋	3C	高橋英雄	7	71
454	か	唐松岳～五竜岳	北ア	2005	8/21-22	山小屋	3B	原田和昭	7	75
81	か	切込湖・刈込湖	日光	1999	12/14	日帰り	A	柴勇	1	162
640	か	切込湖～刈込湖	日光	2009	8/10	日帰り	2A	細野清子	11	62
7	か	川苔山	奥多摩	1997	2/22	日帰り	A+	清家三保子	1	11
100	か	川乗山	奥多摩	1999	5/2	日帰り	A+	高橋英雄	2	39
356	か	蕎麦粒山～川苔山	奥多摩	2003	12/13-14	避難小屋	3B	坂口よし江	5	155
439	か	川乗谷・逆川	奥多摩	2005	5/22	日帰り	3C	村松敏彦	7	32
655	か	川苔山	奥多摩	2009	11/15	日帰り	2A	清家三保子	11	102
205	が	雁ヶ腹摺山～姥子山	大菩薩	2001	5/19	日帰り	A	斎藤清一	4	17
513	が	大菩薩嶺～雁ヶ腹摺山	大菩薩	2007	5/7	山小屋	5D	大串秀雄	8	106
580	か	勘七の沢	丹沢	2008	4/13	日帰り	3C	佐々木侑	10	16
89	か	官ノ倉山	奥武蔵	1999	2/21	日帰り	A	日下芳十	2	12
199	か	高山不動と関八州見晴台	奥武蔵	2001	4/15	日帰り	A	中村隆泰	4	3
468	き	菊花山	中央沿線	2005	11/3	日帰り	1B	中村隆泰	7	109
266	き	阿蘇山・九重山・由布岳	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4	149
338	き	御嶽山・乗鞍岳	木曽・北ア	2003	8/28-31	山小屋	4C	大串秀雄	5	96
167	き	木曾駒ヶ岳～宝剣岳	中ア	2000	8/6-7	山小屋	B	清家三保子	3	55
246	き	木曾駒ヶ岳	中ア	2001	12/22-24	テント、避難小屋	C+	村松敏彦	4	105
279	き	木曾駒ヶ岳～空木岳	中ア	2002	8/23-25	山小屋	C	大串秀雄	4	196
394	き	木曾駒ヶ岳～空木岳～越百山	中ア	2004	8/19-22	山小屋	4C	大串秀雄	6	67
552	き	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳	中ア	2007	8/12-14	山小屋	3C	佐藤健一	9	68
638	き	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～三ノ沢岳	中央アルプス	2009	7/30-31	山小屋	2B	村松敏彦	11	56
376	き	瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
76	き	北高尾山稜	中央沿線	1998	11/3	日帰り	A++	細野清子	1	153
494	き	北岳	南ア	2006	7/13-15	山小屋	3B	原田和昭	8	54
549	き	塩見岳～北岳	南ア	2008	7/28-32	山小屋	5C	外崎蓮	9	62
170	き	奥穂高岳・北穂高岳	北ア	2000	8/25-28	山小屋	B+	大串秀雄	3	63
253	き	北八ヶ岳	八ヶ岳	2002	3/2-3	山小屋	B+	村松敏彦	4	123
290	き	北八ヶ岳	八ヶ岳	2002	10/18	日帰り	A	斎藤清一	4	233
579	き	北八ヶ岳	八ヶ岳	2008	4/5-6	山小屋	3C	安田みづほ	10	12
586	き	北八ヶ岳(市民登山)	八ヶ岳	2008	6/7-8	山小屋・テント	2B/3B	やまたん	10	31
175	き	鬼怒沼	日光	2000	7/30-10/1	山小屋	B	武内勇二	3	78
602	き	尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10	79
69	き	仏果山～経ヶ岳	丹沢	1998	9/20	日帰り	A	高橋英雄	1	134
247	き	仏果山～経ヶ岳	丹沢	2002	1/20	日帰り	A	原田和昭	4	108
288	き	焼石岳～経塚山	東北	2002	10/13-14	避難小屋	C	細野省二	4	227
303	き	達沢山～京戸山	中央沿線	2003	1/19	日帰り	C	村松敏彦	4	265
367	き	行道山	両毛	2004	3/28	日帰り	1B	佐藤健一	6	3

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ号	ページ
81	き切込湖・刈込湖	日光	1998	12/13	日帰り	A	柴勇	1	162
640	き切込湖～刈込湖	日光	2009	8/9	日帰り	1A	細野清子	11	62
536	き霧島・祖母山・烏帽子岳	九州	2007	5/21-24	山麓泊	3B	大串秀雄	9	27
52	き霧降高原	日光	1998	5/31	日帰り	A	大串秀雄	1	92
154	き霧降高原	日光	2000	5/7	日帰り	A	榎原文子	3	22
485	き霧降高原	日光	2006	5/24	日帰り	1A	榎原文子	8	23
555	き五十沢～金城山	上越	2008	9/1-3	避難小屋	5C	千葉有子	9	78
123	き金時山～明神ヶ岳	箱根	1999	9/26	日帰り	A	斎藤清一	2	93
191	き金時山<富士周辺シリーズ>	箱根	2001	2/11	日帰り	A	細野清子	7	7
620	き金時山	箱根	2009	2/22	日帰り	2B	坂口よし江	10	127
136	き甲武信岳～金峰山(クリスマス山行)	奥秩父	1999	12/23-25	テント、避難小屋	D	村松敏彦	2	128
236	き瑞牆山～金峰山	奥秩父	2001	10/20-21	山小屋	B	細野清子	4	83
376	き瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
418	き金峰山	奥秩父	2004	12/25-26	テント	4D	村松敏彦	6	123
436	き金北山	佐渡	2005	8/4-6	山小屋	2B	原田和昭	7	26
33	く九鬼山	中央沿線	1997	11/8	日帰り	A	細野清子	1	64
369	く馬立山～九鬼山	中央沿線	2004	4/11	日帰り	1B	武内勇二	6	6
666	く九鬼山	中央沿線	2010	2/7	日帰り	2A	中村隆泰	11	127
415	く草津白根山	上州	2004	12/1-2	宿	1A	斎藤清一	6	117
496	く草津白根山	上州	2006	7/31-8/1	山麓泊	1A	斎藤清一	8	59
60	く櫛形山	南ア	1998	7/7	日帰り	A	清家三保子	1	104
212	く櫛形山	南ア	2001	6/30	日帰り	A	原田君子	4	25
120	く葛葉川本谷	丹沢	1999	9/5	日帰り	B	村松敏彦	2	84
325	く葛葉川本谷	丹沢	2003	6/8	日帰り	C	堀口昭二	5	56
456	く葛葉川本谷(登山教室)	丹沢	2005	9/11	日帰り		村松敏彦	7	131
438	く熊倉山	奥秩父	2005	5/15	日帰り	2B	高橋英雄	7	30
434	く根本山～熊鷹山	桐生	2006	4/30	日帰り	3B	外崎蓮	7	21
483	く熊野古道・悪四郎山	熊野	2006	5/14-16	山麓泊	3B	細野清子	8	18
79	く雲取山	奥秩父	1998	11/22-23	素泊り小屋	B	細野清、外崎	1	158
158	く雲取山(公開登山)	奥秩父	2000	6/3-4	山小屋／テント泊	B	日下芳十	3	27
308	く雲取山	奥秩父	2003	3/22-23	避難小屋	C	青山寿子	5	4
487	く笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2009	2/8	山小屋	6B	大串秀雄	8	27
550	く雲取山	奥秩父	2007	4/5	山小屋	3A	小川誠二郎	9	65
168	く雲ノ平～槍ヶ岳	北ア	2000	8/12-16	山小屋／テント	C	大串秀雄	3	57
516	く殿平～鞍吾山	中央沿線	2007	11/24	日帰り	3B	武内勇二	8	115
107	く高畑山～倉岳山(新人研修)	中央沿線	1999	6/13	日帰り	A	清家三保子	2	55
185	く倉岳山(忘年山行)	中央沿線	2000	12/3	日帰り	A	原田君子	3	97
574	く鳥屋山～倉岳山	中央沿線	2009	2/4	日帰り	3B	千葉有子	9	125
331	く倉戸山	奥多摩	2003	7/13	日帰り	2A	高橋英雄	5	76
328	く栗駒山・焼石山	東北	2003	6/28-29	貸しテント	B	大串恵子	5	63
444	く早池峰山・栗駒山(市民登山)	北上	2006	6/17-20	山麓泊	3B	石垣吉朗	7	43
602	く尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10	79
13	く黒川鶴冠山	大菩薩	1997	5/24	日帰り	A+	川名	1	21
179	く黒岳	富士周辺	2000	10/29	日帰り	A	原田君子	3	88
189	く三ッ峠山～黒岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	1/20-21	山小屋	B+	中村隆泰	7	3
137	く水の塔山・黒斑山	上州	2000	1/8-9	ホテル泊	B	村松敏彦	2	130
292	く北信三山(黒姫山、戸隠山、飯縄山)	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4	239
329	く戸隠山・黒姫山・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5	67
604	く黒部峡谷下の廊下	北ア	2008	10/11-13	山小屋	3C	千葉有子	10	85
335	く黒部源流	北ア	2003	8/12-17	テント	5D	堀口昭二	5	87
64	く黒部五郎岳	北ア	1998	3/1-8/4	山小屋	B+	外崎蓮	1	116
518	け鶏足山～花香月山(忘年山行)	常磐	2006	12/10	日帰り	2B	川下敬史	8	120

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ号	ページ
435	け 燐ヶ岳・景鶴山	尾瀬	2006	8/1-4	テント	5D	村松敏彦	7	23
544	け 裂縫丸山	足尾山塊	2007	6/23-24	テント	3B	外崎蓮	9	50
629	け 裂縫丸山～小法師岳	足尾山塊	2009	5/30-31	避難小屋	4B	青山寿子	11	26
208	け 毛無山～十二ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/2	日帰り	B	大串秀雄	7	28
312	げ モミゾ沢・源次郎沢	丹沢	2004	4/12-14	テント	C	堀口昭二	5	15
361	げ 恩若峰・源次郎岳	中央沿線	2004	1/25	日帰り	3C	村松敏彦	5	166
480	げ 水無川本谷・源次郎沢	丹沢	2007	4/15-17	テント	4D	佐藤健一	8	11
131	け 乾徳山	奥秩父	1999	11/23	日帰り	B	三浦七郎	2	120
293	け 乾徳山	奥秩父	2002	11/3	日帰り	B	安田みづほ	4	242
333	こ 恋ノ岐沢・平ヶ岳	会越	2003	7/27-29	テント	5E	村松敏彦	5	81
310	こ 甲州高尾山	中央沿線	2003	4/6	日帰り	A	中村隆泰	5	11
113	こ 庚申山～皇海山	足尾山塊	1999	7/24-25	避難小屋	B+	細野省二	2	64
460	こ 庚申山～鋸山～皇海山	足尾山塊	2005	10/2-3	避難小屋	3C	大串秀雄	7	90
457	こ 甲東不老山	中央沿線	2005	9/18	日帰り	1A	中村隆泰	7	82
65	こ 塩見岳～蝙蝠岳	南ア	1998	8/21-26	山小屋	B+	細野省二	1	121
597	こ 塩見岳～蝙蝠岳	南ア	2008	8/21-23	山小屋	2B	清家三保子	10	66
660	こ 足和田山～紅葉台	富士周辺	2009	12/12	日帰り	1A	千葉有子	11	114
40	こ 古賀志山	前日光	1998	2/14	日帰り	A+	柴勇	1	76
316	こ 赤岩山～古賀志山	前日光	2003	4/27	日帰り	B	柴勇	5	26
525	こ 古賀志山 (新人歓迎山行)	前日光	2007	3/25	日帰り	1B	中村八重子	9	1
84	こ 南大菩薩小金沢連峰	大菩薩	1999	1/15-16	山小屋	B+	柴勇	2	4
24	こ 小草平の沢	丹沢	1997	9/21	日帰り	B	村松敏彦	1	42
456	ご 御座山・労山フェスタ	西上州	2005	9/17	日帰り	2B	村松敏彦、労山	7	133
164	ご 五色ヶ原～薬師岳	北ア	2000	7/20-23	山小屋	C	村松敏彦	3	45
637	ご 済土山～五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	2009	7/24夜-28	山小屋	4C	清家三保子	11	53
649	こ 甑山・神室山	秋田・山形県境	2009	10/16-18	テント	2B	武内勇二	11	87
374	ご 五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6	16
394	こ 木曾駒ヶ岳～空木岳～越百山	中ア	2006	8/19-24	山小屋	6C	大串秀雄	6	67
642	こ 摺古木山～安平路山～越百山	中央アルプス	2009	8/21-24	避難小屋	6C	村松敏彦	11	66
19	ご 御前山	奥多摩	1997	6/28	日帰り	A	村松敏彦	1	29
178	ご 御前山	奥多摩	2000	10/22	日帰り	A	大串秀雄	3	87
243	ご 奥多摩三山 (大岳山、御前山、三頭山)	奥多摩	2001	11/23-4	避難小屋	B	高橋英雄	4	97
610	ご 御前山	奥多摩	2008	11/23	日帰り	2B	箕輪完二	10	100
139	こ 小檜山	奥秩父	2000	1/16	日帰り	B	村松敏彦	2	134
82	こ 甲武信岳 (クリスマス山行)	奥秩父	1998	12/19-20	テント	C	村松敏彦	1	163
136	こ 甲武信岳～金峰山 (クリスマス山行)	奥秩父	1999	12/23-25	テント、避難小屋	D	村松敏彦	2	128
265	こ 笛吹川東沢釜の沢～甲武信岳	奥秩父	2002	5/25-26	テント	B	堀口昭二	4	147
268	こ 甲武信ヶ岳	奥秩父	2002	6/14夜-16	山小屋	B+	外崎蓮	4	157
376	こ 瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
629	こ 裂縫丸山～小法師岳	足尾山塊	2009	5/30-31	避難小屋	4B	青山寿子	11	26
156	こ 子持山	上州	2000	5/21	日帰り	A	細野清子	3	25
196	こ 萩釣山・高指山<富士周辺シリーズ>	道志	2001	3/24-25	無人小屋	B	柴勇	7	18
514	こ 萩釣山～三国山	丹沢	2006	11/11-12	避難小屋	2B	坂口よし江	8	109
227	ご 唐松岳～五竜岳	北ア	2001	9/6-8	山小屋	C	大串秀雄	4	57
454	ご 唐松岳～五竜岳	北ア	2006	8/21-23	山小屋	4B	原田和昭	7	75
593	ご 翁ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10	56
182	ご 権現山	中央沿線	2000	11/18	日帰り	B	柴勇	3	94
296	ご 権現山	中央沿線	2002	11/24	日帰り	A	清家三保子	4	248
337	ご 西岳～編笠～権現	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎蓮	5	93
614	ご 西岳～権現～編笠(クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎蓮	10	110
641	ご 編笠山～権現岳～赤岳	八ヶ岳	2009	8/14-15	山小屋	3C	田村光子	11	64
463	ざ 蔵王周辺の山々	蔵王連峰	2005	10/9-12	山麓泊	3B	斎藤清一	7	97

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ号	ページ
39	さ 笹尾根	奥多摩	1998	2/8	日帰り	A	清家三保子	1	74
193	さ 笹尾根	奥多摩	2001	2/18	日帰り	A	中村隆泰	3	108
250	さ 笹尾根 (日原峠～生藤山)	中央沿線	2002	2/16	日帰り	A	中村隆泰	4	116
362	さ 笹尾根	奥多摩	2004	2/1	日帰り	2B	外崎 蓮	5	168
576	さ 三頭山～笹尾根	奥多摩	2008	3/8-9	日帰り	1A	外崎蓮	10	1
615	さ 笹尾根(楨寄山)	奥多摩	2009	1/10	日帰り	2B	矢野裕子	10	114
665	さ 笹尾根 (小樋峠～生藤山)	中央沿線	2010	2/6	日帰り	2A	千葉有子	11	125
96	さ 笹子雁ヶ腹摺山 (新人歓迎山行)	中央沿線	1999	4/18	日帰り	A+	斎藤清一	2	24
581	さ 笹子雁ヶ腹摺山	中央沿線	2008	4/26	日帰り	2B	原田和昭	10	18
501	さ 富士山～佐白山 (ウィズハイク)	茨城	2007	9/24	日帰り	2A	外崎 蓮	8	71
647	さ 佐武流山	上越	2009	9/26-27	テント	4C	青山寿子	11	82
556	ざ 箕ヶ岳	南ア	2007	9/9-10	テント	4C	外崎 蓮	9	81
638	さ 木曾駒ヶ岳～宝剣岳～三ノ沢岳	中央アルプス	2009	7/30-31	山小屋	4B	村松敏彦	11	56
652	さ 三ノ宿山	日光	2009	11/1	日帰り	2A	中村八重子	11	95
294	さ 雷電山～三方山	奥多摩	2002	11/10	日帰り	A	日下芳十	4	244
198	さ 蟻ヶ岳～三方分山<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	4/14-15	旅館泊	B	村松敏彦	7	22
413	さ 三方分山～パノラマ台	富士周辺	2004	11/21	日帰り	2B	斎藤清一	6	113
157	さ 南月山～三本槍岳	那須	2000	5/27-28	山小屋	B	三浦七郎	3	26
263	さ 甲子山～三本槍岳～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4	142
406	さ 甲子～三本槍～茶臼岳	那須	2005	10/16-18	避難小屋	4C	武内勇二	6	95
569	さ 三本槍岳	那須	2007	12/15-16	テント	3C	吉川誠一	9	114
631	さ 三本槍岳～流石山～大倉山	那須	2009	6/27-28	避難小屋	3B	武内勇二	11	38
336	じ 爺ヶ岳～針ノ木岳	北ア	2003	8/13-16	山小屋	3C	斎藤清一	5	90
593	じ 爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10	56
65	し 塩見岳～蝙蝠岳	南ア	1998	8/21-26	山小屋	B+	細野省二	1	121
451	し 仙丈ヶ岳～三峰山～塩見岳	南ア	2007	8/5-10	山小屋	6D	大串秀雄	7	66
549	し 塩見岳～北岳	南ア	2007	7/28-31	山小屋	4C	外崎 蓮	9	62
597	し 塩見岳～蝙蝠岳	南ア	2008	8/21-23	山小屋	2B	清家三保子	10	66
128	し 粪子山～鹿留山	富士周辺	1999	11/3	日帰り	A	外崎 蓮	2	113
466	し 鹿俣山 (玉原高原)	上州	2005	10/27	日帰り	2A	柴田節子、県連	7	105
261	し 鹿倉山	奥多摩	2002	5/3	日帰り	A	高橋英雄	4	138
209	し 思親山 <富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/3	日帰り	A	斎藤清一	7	32
332	し 伊吹山・賤ヶ岳	近江	2003	/25夜-27	テント	2A	武内勇二	5	77
215	し 七面山～八紘嶺 <富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	7/14-15	宿坊泊	B	細野省二	7	39
54	し 七里川清掃ハサワグ	房総	1998	6/7	日帰り	A	大串秀、県連	1	94
144	し 七里川～追原～元清澄山	房総	2000	2/19-20	日帰り	A	県連自然保護委員会	2	142
27	し 尾瀬集中登山 (創立記念) C : 至仏山	尾瀬	1997	10/9-11	テント&山小屋	B	CL柴勇、L村松敏	1	47
27	し 尾瀬集中登山 (創立記念) A : 笠ヶ岳～至仏山	尾瀬	1998	10/9-12	テント&山小屋	B	CL柴勇、L川名	1	47
345	し 笠ヶ岳・至仏山	尾瀬	2003	10/11-12	山荘	2B	外崎 蓮	5	127
373	し 鬼ヶ岳・釧迦ヶ岳～大柄山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6	14
128	し 粪子山～鹿留山	富士周辺	1999	11/3	日帰り	A	外崎 蓮	2	113
393	し 白馬～糞子～鑓ヶ岳	北ア	2005	8/12-16	山小屋	4C	高橋英雄	6	64
452	し 唐松岳～鑓ヶ岳～糞子岳	北ア	2007	8/13-17	山小屋	5C	高橋英雄	7	71
565	し 社山	日光	2007	11/18	日帰り	2A	石垣吉朗	9	103
443	し 尼ヶ禿山～迦葉山	上州	2006	6/17	日帰り	3B	斎藤清一	7	41
330	し 阿寒・斜里・羅臼岳	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5	70
180	じ 小野子山～十二ヶ岳	上州	2000	11/3	日帰り	A+	外崎 蓮	3	90
208	じ 毛無山～十二ヶ岳 <富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/2	日帰り	B	大串秀雄	7	28
375	じ 十二ヶ岳	富士周辺	2004	5/9	日帰り	2B	中村隆泰	6	18
68	じ 上州武尊山	上州	1998	9/19-20	山小屋	B+	柴 勇	1	132
289	じ 上州武尊山	上州	2002	10/13-14	民宿	B	大串秀雄	4	230
482	じ 上州武尊岳	上州	2006	5/3-4	テント	4D	村松敏彦	8	15

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ号	ページ
135	じ 上州三峰山	西上州	1999	12/19	日帰り	A+	細野省二	2	126
314	し 生藤山～陣馬山	中央沿線	2003	4/13	日帰り	A	高橋芳恵	5	23
352	し 戸倉二山～生藤山	奥多摩	2003	11/9	日帰り	3B	千葉有子	5	144
250	し 笹尾根（日原峠～生藤山）	中央沿線	2003	2/17	日帰り	A	中村隆泰	4	116
259	し 生藤山	中央沿線	2002	4/21	日帰り	A	細野清、榎原	4	135
637	じ 浄土山～五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	2009	7/24夜-28	山小屋	3C	清家三保子	11	53
49	じ 蝶ヶ岳～常念岳	北ア	1998	5/2-5	テント	C	村松敏彦	1	89
172	じ 燕岳～常念岳～蝶ヶ岳	北ア	2000	4-17	山小屋／テント泊	B+	中村隆泰	3	69
391	じ 燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋潔	6	57
433	し 笹の岩～蕎麦粒山～棒の折	奥多摩	2005	4/24	日帰り	3B	青山寿子	7	19
449	し 笹の岩～蕎麦粒山	奥多摩	2005	7/23	日帰り	2B	中村隆泰	7	60
613	じ 城峯山（忘年山行）	秩父	2008	12/14	日帰り	1A	やまたん	10	106
22	し 朝日岳・白毛門	谷川	1997	8/30-31	テント	C	細野省二	1	37
112	し 朝日岳・白毛門	谷川	1999	7/24-25	避難小屋	B+	外崎蓮	2	63
124	し 白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	1999	10/9-11	テント	B+	村松敏彦	2	101
448	し 岩木山・白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	2006	7/22-25	テント	4D	細野清子	7	56
461	し 白毛門沢	上越	2005	10/2	前夜発	3C	千葉有子	7	94
349	し 白笹山～南月山	那須	2003	10/26	日帰り	2A	武内勇二	5	137
387	し 白砂山	上信越	2004	7/17-18	宿	3B	中村隆泰	6	45
118	し 白峰三山	南ア	1999	8/20-22	山小屋	C	外崎蓮	2	77
21	し 白馬岳～朝日岳	北ア	1997	8/7-10	テント&山小屋	B	細野清子	1	33
317	し 白馬岳（雪山合宿）	北ア	2003	5/2-5	テント	D	村松敏彦	5	28
393	し 白馬～杓子～鎧ヶ岳	北ア	2004	8/12-15	山小屋	3C	高橋英雄	6	64
399	し 朝日岳～白馬岳	北ア	2005	9/16-20	山小屋	4C	石垣吉朗	6	78
166	し 白馬三山	北ア	2000	8/5-7	山小屋	B	斎藤清一	3	52
431	し モミゾ沢・新茅の沢～鳥尾山	丹沢	2006	4/16-18	テント	4B	佐藤健一	7	14
183	じ 陣場山	中央沿線	2000	11/19	日帰り	A	榎原文子	4	1
251	じ 景信山～陣馬山	中央沿線	2002	2/24	日帰り	A	松本豊	4	118
314	じ 生藤山～陣馬山	中央沿線	2003	4/13	日帰り	A	高橋芳恵	5	23
284	す 烏帽子岳～水晶岳～赤牛岳	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4	213
113	す 庚申山～皇海山	足尾山塊	1999	7/24-25	避難小屋	B+	細野省二	2	64
460	す 庚申山～鋸山～皇海山	足尾山塊	2007	10/2-5	避難小屋	5C	大串秀雄	7	90
600	す 皇海山～錫ヶ岳	奥日光	2008	9/21-23	テント	4C	青山寿子	10	73
245	す 助川山（忘年山行）	常陸	2001	12/2	日帰り	A, B	川下敬史	4	103
499	す 錫ヶ岳～前白根山	日光	2006	9/9-10	テント	4C	村松敏彦	8	66
600	す 皇海山～錫ヶ岳	奥日光	2008	9/21-23	テント	4C	青山寿子	10	73
153	す 浅草岳・守門岳	会越	2000	5/3-6	テント／民宿	D	村松敏彦	3	20
346	す 浅草岳・守門岳	会越	2003	10/18-19	民宿	2B	柴勇	5	130
595	す 掃部ヶ岳～杏ヶ岳	上州	2008	8/10	日帰り	2A	品田千恵子	10	61
642	す 摺古木山～安平路山～越百山	中央アルプス	2009	8/21-24	避難小屋	4C	村松敏彦	11	66
423	す 諏訪岳～唐沢山	両毛	2005	2/10-11	日帰り	1A	斎藤清一	6	134
184	す 高反山・諏訪山	西上州	2000	11/25-26	テント	C+	細野省二	3	96
420	せ 石尊山～三石山	房総	2005	1/29-30	宿	2A	斎藤清一	6	127
618	せ とみやま水仙遊歩道・石尊山 (県連ロングハイク)	房総	2009	1/31-2/1	山麓泊	3A	斎藤清一	10	122
8	せ 石老山（公開登山）	中央沿線	1997	3/16	日帰り	A	柴、細野清	1	12
188	せ 石老山<富士周辺シリーズ>	中央沿線	2001	1/14	日帰り	A	村松敏彦	7	1
479	せ 鬼ヶ岳～節刀ヶ岳	富士周辺	2007	4/10	日帰り	3B	武内勇二	8	9
395	せ 背戸峨廊	阿武隈	2004	8/22	日帰り	1B	中村八重子	6	71
370	せ モミゾ沢・セドの沢左俣	丹沢	2004	4/24-25	テント	4D	堀口昭二	6	8
529	せ セドの沢右俣	丹沢	2007	4/15	日帰り	3C	堀口昭二	9	12
535	せ セドの沢左俣	丹沢	2007	5/13	日帰り	3C	堀口昭二	9	24
607	せ 浅間尾根	奥多摩	2008	11/1	日帰り	2A	村松敏彦	10	93

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ号	ページ
659	せ 雪入山～浅間山（忘年山行）	茨城	2009	12/6	日帰り	1A	村松敏彦	11	110
146	せ 浅間嶺	奥多摩	2000	3/26	日帰り	A	高橋英、安田	3	4
26	せ 仙丈ヶ岳	南ア	1997	1/27-28	山小屋	B	村松敏彦	1	45
218	せ 甲斐駒ヶ岳～仙丈岳	南ア	2001	7/26-29	テント	C	武内勇二	4	40
219	せ 仙丈岳	南ア	2001	7/28-29	小屋・テント	B	清家三保子	4	46
451	せ 仙丈ヶ岳～三峰山～塩見岳	南ア	2005	5/8	山小屋	4D	大串秀雄	7	66
644	せ 仙丈ヶ岳～アサヨ峰	南アルプス	2009	8/28-30	山小屋	3C	外崎蓮	11	72
73	せ 平標山～仙ノ倉山	谷川	1998	10/24-25	山小屋	B	細野清子	1	146
274	せ 平標山～仙ノ倉山	谷川	2002	7/13-14	山小屋	B	原田和昭	4	178
396	そ 相馬山～榛名富士	上州	2004	8/29	日帰り	2A	高橋芳恵	6	73
116	そ 蕎麦粒山	奥多摩	1999	8/8	日帰り	A	斎藤清一	2	70
356	そ 蕎麦粒山～川苔山	奥多摩	2003	12/13-14	避難小屋	3B	坂口よし江	5	155
433	そ 笹の岩～蕎麦粒山～棒の折	奥多摩	2006	4/25	日帰り	4B	青山寿子	7	19
449	そ 笹の岩～蕎麦粒山	奥多摩	2006	7/24	日帰り	3B	中村隆泰	7	60
536	そ 霧島・祖母山・鳥帽子岳	九州	2008	5/21-25	山麓泊	4B	大串秀雄	9	27
321	だ 大源太山～巻機山	上越	2003	5/23-26	避難小屋	C	青山寿子	5	38
59	た 田代山～帝釈山	会津	1998	7/4-5	テント	B	細野省二	1	102
214	た 利尻山・大雪山	北海道	2002	7/3-9	山麓、避難小屋	B+	大串秀雄	4	27
404	だ 大山・蒜山	大山	2004	10/1-5	宿	2B	斎藤清一	6	90
400	だ 立山三山～大日三山	北ア	2005	9/17-21	山小屋	4C	外崎蓮	6	80
58	だ 大菩薩峠	大菩薩	1998	6/28	日帰り	A	大串秀雄	1	100
150	だ 大菩薩嶺	大菩薩	2000	4/23	日帰り	B	武内勇二	3	11
364	だ 大菩薩嶺	大菩薩	2004	2/22	日帰り	3C	武内勇二	5	170
513	だ 大菩薩嶺～雁ヶ腹摺山	大菩薩	2006	11/5-6	山小屋	4D	大串秀雄	8	106
650	だ 大菩薩嶺	秩父	2009	10/24-25	山小屋	2A	中村隆泰	11	90
78	だ 大無間山	南ア	1998	11/21-23	テント	C	清家三保子	1	156
73	た 平標山～仙ノ倉山	谷川	1998	10/24-25	山小屋	B	細野清子	1	146
274	た 平標山～仙ノ倉山	谷川	2002	7/13-14	山小屋	B	原田和昭	4	178
286	た 谷川岳～平標山	谷川	2002	10/4夜-6	避難小屋	C	青山寿子	4	220
159	た 高岩	上州	2000	6/10	日帰り	B+	柴勇	3	33
609	た 高岩山～鍋割山	奥多摩	2008	11/9	日帰り	2B	本田愛子	10	98
155	た 景信山～高尾山	中央沿線	2000	5/14	日帰り	A	斎藤清一	3	23
519	た 高尾山	中央沿線	2006	12/17	日帰り	1A	中村八重子	8	124
575	た 高尾山	中央沿線	2008	2/11	日帰り	1A	坂巻・小松	9	130
244	た 高柄山	中央沿線	2001	11/25	日帰り	A	中村八重子	4	101
145	た 高川山	中央沿線	2000	3/12	日帰り	A	日下芳十	3	3
368	た 高川山	中央沿線	2004	4/4	日帰り	2A	中村八重子	6	5
568	た 高宕山～八郎塚（忘年山行）	房総	2007	12/9	日帰り	2A	佐藤健一	9	112
196	た 挿釣山・高指山<富士周辺シリーズ>	道志	2001	3/24-25	無人小屋	B	柴勇	7	18
184	た 高反山・諏訪山	西上州	2000	11/25-26	テント	C+	細野省二	3	96
111	た 夜叉神峠～高谷山	南ア	1999	7/4	日帰り	A	大串秀雄	2	62
570	た 鷹取山	三浦半島	2008	1/20	日帰り	1A	中村隆泰	9	117
319	た 鷹巣山～六ツ石山	奥多摩	2003	5/17	日帰り	B	高橋芳恵	5	33
385	た 横ノ木山～鷹ノ巣山	奥多摩	2004	7/4	日帰り	2B	千葉有子	6	41
107	た 高畑山～倉岳山（新人研修）	中央沿線	1999	6/13	日帰り	A	清家三保子	2	55
234	た 高原山	那須	2001	10/17	日帰り	A	中村隆泰	4	79
624	た 高見石～天狗岳	八ヶ岳	2009	4/18-19	山小屋	3C	高橋重	11	11
521	た 高水山～棒の折山	奥多摩	2007	1/21	日帰り	2A	千葉有子	8	129
93	た 高水三山	奥多摩	1999	3/28	日帰り	A	日下芳十	2	19
264	た 高水三山	奥多摩	2002	5/18	日帰り	A	松本豊	4	145
648	た 棒の折山～高水2山	奥多摩	2009	10/10	日帰り	3A	原田和昭	11	85
85	た 高山	日光	1999	1/24	日帰り	A	外崎、村松敏	2	6

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ号	ページ
306	た 日光高山	日光	2003	2/11	日帰り	B	細野省二	4	272
488	た 高山 (県連ハイク)	日光	2006	6/8	日帰り	2A	柴田節子、県連	8	32
573	た 高山	日光	2008	1/27	日帰り	2B	武内勇二	9	124
199	た 高山不動と関八州見晴台	奥武蔵	2001	4/15	日帰り	A	中村隆泰	4	3
392	た 宝川ナルミズ沢	谷川	2004	8/8-9	テント	4D	村松敏彦	6	61
44	た 滝子山	中央沿線	1998	3/22	日帰り	B	清家三保子	1	83
255	た 滝子山	中央沿線	2002	3/17	日帰り	A+	武内勇二	4	128
287	た 滝子山	中央沿線	2002	10/6	日帰り	A+	榎原文子	4	224
414	た 滝子山	中央沿線	2004	11/28	日帰り	3B	青山寿子	6	115
561	た 百蔵山～扇山・大藏高丸～滝子山	中央沿線	2010	10/21-25	山麓泊	6B	大串秀雄	9	93
50	た 武川岳	奥武蔵	1998	5/17	日帰り	A+	中村隆泰	1	90
59	た 田代山～帝釈山	会津	1998	7/4-5	テント	B	細野省二	1	102
303	た 達沢山～京戸山	中央沿線	2003	1/19	日帰り	C	村松敏彦	4	265
3	た 蓼科山、西天狗岳	八ヶ岳	1997	1/2-4	テント&小屋	C	川名	1	6
502	た 蓼科山	八ヶ岳	2006	/30-10/	日帰り	2B	石垣吉朗	8	75
117	た 銚岳～立山縦走	北ア	1999	8/12-14	テント／小屋	C	柴勇	2	72
450	た 剣岳～立山三山	北ア	2006	8/4-8	山小屋	5D	村松敏彦	7	62
400	た 立山三山～大日三山	北ア	2004	9/17-20	山小屋	3C	外崎蓮	6	80
476	た 兜山～棚山	中央沿線	2007	3/13	日帰り	3A	村松敏彦	8	1
520	た 谷川岳	谷川	2006	12/22-23	テント	4D	村松敏彦	8	126
542	た 谷川岳	谷川	2007	6/16-17	山小屋	2B	高橋重	9	46
590	た 谷川岳山麓 (リーダー研修)	谷川	2008	6/28-29	山麓泊	2B	石垣吉朗	10	49
286	た 谷川岳～平標山	谷川	2002	10/4夜-6	避難小屋	C	青山寿子	4	220
493	た 樽前山・恵庭岳・羊蹄山	北海道	2006	7/2-7	山麓泊	4B	大串秀雄	8	49
71	た 太郎山	日光	1998	10/4	日帰り	B	三浦七郎	1	136
342	た 女峰・大真名子山・太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5	109
160	た リーダー研修 in 丹沢	丹沢	2000	7-18	テント	B	村松敏彦	3	34
270	た リーダー研修 in 丹沢	丹沢	2002	6/29-30	テント	B・C	村松敏彦	4	166
30	た 丹沢主脈縦走 (公開登山)	丹沢	1997	10/25-26	山小屋	B	村松敏彦	1	57
129	た 丹沢主脈縦走 (新人研修)	丹沢	1999	11/13-14	山小屋	A++	細野省二	2	115
410	た 丹沢主脈	丹沢	2004	11/6-7	宿	3B	中村隆泰	6	106
53	た 丹沢主稜縦走	丹沢	1998	6/6-7	山小屋	B	柴勇	1	93
103	た 丹沢三ッ峰	丹沢	1999	5/15-16	山小屋	B	清家三保子	2	45
651	た 鍋割山～丹沢山～蛭ヶ岳	丹沢	2009	10/31-11/1	山小屋	2A	北川晴久	11	93
667	た 鍋割山～塔ノ岳～丹沢山	丹沢	2010	2/20-21	山小屋	2B	柴勇	11	129
383	た 玉原高原	上州	2004	6/19-20	宿	2B	清家三保子	6	35
132	ち 秩父御岳山	奥武蔵	1999	11/28	日帰り	A	安田みづほ	2	121
441	ち 秩父御岳	奥武蔵	2005	5/29	日帰り	1A	中村八重子	7	36
94	ち 茶臼岳	那須	1999	4/10-11	山小屋	C	柴勇	2	20
263	ち 甲子山～三本槍岳～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4	142
406	ち 甲子～三本槍～茶臼岳	那須	2006	10/16-19	避難小屋	5C	武内勇二	6	95
172	ち 燕岳～常念岳～蝶ヶ岳	北ア	2000	9/14-17	山小屋／テント泊	B+	中村隆泰	3	69
391	ち 燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋潔	6	57
583	ち 潤沢・蝶ヶ岳	北ア	2008	5/3-6	テント	4D	千葉有子	10	23
20	ち 鳥海山	出羽	1997	7/19-21	山小屋	B	柴勇	1	32
169	ち 鳥海山	出羽	2000	8/18-20	山小屋	B	外崎蓮	3	60
217	ち 鳥海山・月山	出羽	2001	7/19夜-22	山小屋	B	大串秀雄	4	36
456	ち 鳥海山	出羽	2005	8/26-29	山小屋	3B	武内勇二	7	79
49	ち 蝶ヶ岳～常念岳	北ア	1998	5/2-5	テント	C	村松敏彦	1	89
28	ち 長者ヶ岳～天子ヶ岳	富士周辺	1997	10/19	日帰り	A	柴勇	1	54
206	ち 長者ヶ岳～天子ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	5/20	日帰り	A	高橋英雄	7	26
43	つ 筑波山	常磐	1998	3/21	日帰り	A	川名	1	82

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ号	ページ
80	つ 筑波山 (忘年山行)	常磐	1998	12/6	日帰り	A	日下芳十	1	160
127	つ 筑波山 (ふれあいハイク)	常磐	1999	10/24	日帰り	A	柴、県連	2	110
299	つ 筑波山 (二期生新春山行)	茨城	2003	1/3	日帰り	A	日下芳十	4	256
358	つ 筑波山	常磐	2004	1/3	日帰り	1A	日下芳十	5	161
419	つ 筑波山	常磐	2005	1/3	日帰り	1A	日下芳十	6	125
458	つ 土岳・花貫 (ウイズハイク)	常磐	2005	9/23	日帰り	2A	日下芳十	7	84
6	つ 燕岳	北ア	1997	2/8-11	テント	C	川名	1	10
119	つ 燕岳～檜ヶ岳	北ア	1999	8/26-29	山小屋	B	大串秀雄	2	80
172	つ 燕岳～常念岳～蝶ヶ岳	北ア	2000	4-17	山小屋／テント泊	B+	中村隆泰	3	69
391	つ 燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋 潔	6	57
530	つ 坪山	中央沿線	2007	4/22	日帰り	1A	清家三保子	9	13
108	つ 本社ヶ丸～鶴ヶ鳥屋山 (新人研修)	中央沿線	1999	6/13	日帰り	B	細野省二	2	56
467	つ 鶴ヶ鳥屋山	中央沿線	2005	10/30	日帰り	2B	柴 勇	7	107
117	つ 銚岳～立山縦走	北ア	1999	8/12-14	テント／小屋	C	柴 勇	2	72
450	つ 剣岳～立山三山	北ア	2005	8/4-7	山小屋	4D	村松敏彦	7	62
226	つ 剑山	四国	2001	8/31夜-9/3	民宿	A	斎藤清一	4	55
668	つ 鶴島御前山	中央沿線	2010	2/21	日帰り	1B	中村八重子	11	132
606	つ 奈良倉山～鶴寝山～大マティ山	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10	91
567	て 手賀沼一周	東葛	2007	12/1	日帰り	1A	小川誠二郎	9	110
611	て 手賀沼一周	東葛	2008	12/1	日帰り	1A	高橋重	10	102
658	て 手賀沼一周	東葛	2009	11/29	日帰り	1A	小川誠二郎	11	108
334	て 光岳	南ア	2003	8/7-10	山小屋	4C	外崎 蓮	5	84
388	て 易老山～光岳	南ア	2004	7/17-19	山小屋	4C	外崎 蓮	6	48
143	て 晃石山(テルジ)	日光	2000	2/11	日帰り	A	細野清子	2	141
366	て 大平山～晃石山	北関東	2004	3/20-21	宿	2A	大串秀雄	6	1
45	て 天狗岳～硫黄岳	八ヶ岳	1998	3/28-29	山小屋	C	村松敏彦	1	84
378	て 赤ぼっこ～天狗岩	奥多摩	2004	5/23	日帰り	1A	日下芳十	6	24
508	て 天狗尾根 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/14-15	避難小屋	3C	堀口昭二	8	92
624	て 高見石～天狗岳	八ヶ岳	2009	4/18-19	山小屋	3C	高橋 重	11	11
28	て 長者ヶ岳～天子ヶ岳	富士周辺	1997	10/19	日帰り	A	柴 勇	1	54
206	て 長者ヶ岳～天子ヶ岳 <富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	5/20	日帰り	A	高橋英雄	7	26
152	て 天上山	伊豆七島	2000	5/3-5	民宿	A	細野清子	3	16
350	て 西谷山～天祖山	奥多摩	2003	11/2-3	避難小屋、テント	3C	高橋英雄	5	139
475	て 西谷山～天祖山	奥多摩	2007	2/11-13	避難小屋	4C	青山寿子	7	127
516	で 殿平～鞍吾山	中央沿線	2006	11/23	日帰り	2B	武内勇二	8	115
661	て 天地山～鋸山	奥多摩	2009	12/13	日帰り	2B	青山寿子	11	116
510	て 天女山 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/15	日帰り	1A	松本豊・中村隆	8	100
4	て 天覧山	奥武蔵	1997	1/15	日帰り	B	村松敏彦	1	8
431	ど 道志二十六夜山	道志	2005	4/23	日帰り	1B	中村隆泰	7	17
181	ど 塔ノ岳～鍋割山 (新人卒業)	丹沢	2000	11/11-12	山小屋	B	安田みづほ	3	92
365	ど 蛭ヶ岳～塔ノ岳	丹沢	2004	2/28-29	避難小屋	3C	青山寿子	5	172
377	ど 塔ノ岳～丹沢三ツ峰	丹沢	2004	5/16	日帰り	3B	青山寿子	6	22
437	ど 塔の岳～大石山～檜洞丸	丹沢	2005	5/14-15	山小屋	3B	柴 勇	7	28
667	ど 鍋割山～塔ノ岳～丹沢山	丹沢	2010	2/20-21	山小屋	2B	柴 勇	11	129
626	ど 堂平山～笠山	奥武蔵	2009	5/9	日帰り	1A	原田和昭	11	16
292	ど 北信三山 (黒姫山、戸隠山、飯縄山)	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4	239
329	ど 戸隠山・黒姫山・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5	67
447	ど 美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2006	7/11-17	山麓泊	5D	大串秀雄	7	52
46	ど 徳並山	大菩薩	1998	4/11	日帰り	B	村松敏彦	1	86
662	ど 徳並山	中央沿線	2010	1/17	日帰り	2B	武内勇二	11	118
352	ど 戸倉二山～生藤山	奥多摩	2003	11/9	日帰り	3B	千葉有子	5	144
324	ど 戸倉三山	奥多摩	2003	6/7-8	国民宿舎	A+	斎藤清一	5	54

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ号	ページ
657	と馬頭刈山・戸倉三山	奥多摩	2009	11/28-29	山麓泊	2A	高橋英雄	11	106
515	と伊予ヶ岳・富山(県連40周年)	房総	2007	11/18-20	テント	2A	高橋英雄	8	112
618	とみやま水仙嶺歩道・右尊山(県連ロングハイク)	房総	2009	1/31-2/1	山麓泊	1A	斎藤清一	10	122
447	と美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2008	7/11-19	山麓泊	7D	大串秀雄	7	52
574	と鳥屋山～倉岳山	中央沿線	2008	2/3	日帰り	2B	千葉有子	9	125
126	と秋山郷～鳥甲山	上信	1999	10/23-24	(テント)	B+	細野省二	2	107
397	と鳥甲山	上信	2004	9/4-5	テント	4D	青山寿子	6	74
350	と酉谷山～天祖山	奥多摩	2003	11/2-3	避難小屋、テント	3C	高橋英雄	5	139
475	と酉谷山～天祖山	奥多摩	2006	2/11-12	避難小屋	3C	青山寿子	7	127
63	な苗場山	信越	1998	7/19-20	山小屋	B	外崎蓮	1	113
230	な苗場山	信越	2001	9/29-30	山小屋	B	安田みづほ	4	66
459	な苗場山	信越	2005	10/1-2	山小屋	3B	清家三保子	7	88
588	な苗場山	谷川	2008	6/15-16	山小屋	3B	原田君子	10	44
391	な燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋潔	6	57
487	な笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2010	6/2-9	山小屋	7B	大串秀雄	8	27
403	な南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2005	9/25-29	山小屋	5C	大串秀雄	6	87
151	な大塚山～中塚山	房総	2000	4/29	日帰り	A	外崎蓮	3	13
280	な越後三山(越後駒ヶ岳、中の岳、八海山)	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4	200
631	な三本槍岳～流石山～大倉山	那須	2009	6/27-28	避難小屋	3B	武内勇二	11	38
5	な鳴虫山	日光	1997	1/26	日帰り	A	三浦七郎	1	9
104	な鳴虫山	日光	1999	5/22	日帰り	A	原田君子	2	46
276	な鳴虫山	日光	2002	7/21	日帰り	A	松本豊	4	185
422	な鳴虫山	日光	2005	2/6	日帰り	2C	清家三保子	6	132
486	な那須旭岳・大白森山	那須	2006	5/27-28	テント	3C	村松敏彦	8	25
32	な七ヶ岳・荒海山	会津	1997	11/1-2	テント	B	村松敏彦	1	62
300	な菜畑山	道志	2003	1/12	日帰り	A	大串恵子	4	257
31	な鍋割山(支援隊)	丹沢	1997	10/25	日帰り	A	加藤秀明	1	60
91	な鍋割山	丹沢	1999	3/20	日帰り	A	三浦七郎	2	14
181	な塔ノ岳～鍋割山(新人卒業)	丹沢	2000	11/11-12	山小屋	B	安田みづほ	3	92
609	な高岩山～鍋割山	奥多摩	2008	11/9	日帰り	2B	本田愛子	10	98
651	な鍋割山～丹沢山～蛭ヶ岳	丹沢	2009	10/31-11/1	山小屋	2A	北川晴久	11	93
667	な鍋割山～塔ノ岳～丹沢山	丹沢	2010	2/20-21	山小屋	2B	柴勇	11	129
606	な奈良倉山～鶴寝山～大マティ山	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10	91
90	な難台山～吾国山(卒業山行)	茨城	1999	3/7	日帰り	A	萩野勝弘	2	13
477	な難台山～吾国山	茨城	2006	3/26	日帰り	1B/2B	柴勇	8	3
653	な難台山～吾国山	茨城	2009	11/7	日帰り	2A	原田和昭	11	98
538	な男体山麓荒沢水源	日光	2007	5/27	日帰り	1A	中村八重子	9	33
374	に五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6	16
584	に二王子岳	飯豊	2008	5/31-6/1	避難小屋	3C	石垣吉朗	10	27
57	に西沢渓谷	奥秩父	1998	6/21	日帰り	A	中村隆泰	1	99
337	に西岳～編笠～権現山	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎蓮	5	93
614	に西岳～権現～編笠(クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎蓮	10	110
3	に蓼科山、西天狗岳	八ヶ岳	1997	1/2-4	テント&小屋	C	川名	1	6
442	に西の湖・赤岩	日光	2005	6/15	日帰り	1A	榊原文子	7	39
548	に焼岳～西穂高岳	北ア	2008	7/18-21	山小屋	4B	大串秀雄	9	59
61	に西穂高岳～奥穂高岳～前穂高岳	北ア	1998	7/18-20	山小屋	D	村松敏彦	1	107
77	に今倉山～二十六夜山	道志	1998	11/14	日帰り	A	村松敏彦	1	154
398	に日光白根山	日光	2004	9/12	日帰り	2B	大串恵子	6	76
540	に日光白根山	日光	2007	6/7	日帰り	2B	斎藤清一	9	37
489	に日光男体山(市民登山)	日光	2006	6/11	日帰り	3A	中村隆泰	8	34
440	に入笠山	南ア	2005	5/29	日帰り	1A	細野清子	7	34
271	に秋田駒ヶ岳～乳頭山・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋／旅館	B	大串秀雄	4	168

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ号	ページ
67	に 女峰山	日光	1998	9/19-20	無人小屋	C	村松峯子	1	130
342	に 女峰・大真名子山・太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5	109
197	ぬ 沼津アルプス <富士周辺シリーズ>	沼津	2001	4/1	日帰り	A+	村松峯子	7	20
446	ね 烏帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2008	6/26-30	山麓泊	6B	高橋 潔	7	49
589	ね 温泉ヶ岳～根名草山	日光	2008	6/21-22	山小屋	3B	田村光子	10	46
434	ね 根本山～熊鷹山	桐生	2005	4/29	日帰り	2B	外崎 蓮	7	21
344	の 荒島岳・能郷白山	白山	2003	10/10-13	テント	3B	細野省二	5	123
343	の 鋸山 (ウィズハイク)	房総	2003	9/27	日帰り	1A	外崎 蓮	5	112
460	の 庚申山～鋸山～皇海山	足尾山塊	2006	10/2-4	避難小屋	4C	大串秀雄	7	90
551	の 大岳山～鋸尾根	奥多摩	2008	8/13	日帰り	3B	高橋英雄	9	67
661	の 天地山～鋸山	奥多摩	2009	12/13	日帰り	2B	青山寿子	11	116
338	の 御嶽山・乗鞍岳	木曽・北ア	2003	8/28-31	山小屋	4C	大串秀雄	5	96
577	は お天気山～羽賀場山	前日光	2008	3/16	日帰り	2B	安田みづほ	10	4
62	は 白山	白山	1998	7/17-20	テント	B+	細野省二	1	110
252	は 箱根・浅間山	箱根	2002	2/24	日帰り	A	斎藤清一	4	120
173	は 八幡平・焼山	東北	2000	5-16	旅館	B	川下敬史	3	74
545	は 秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山	奥羽	2008	6/30-7/3	山麓泊	4B	柴 勇	9	52
601	は 岩手山～三石山～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10	76
568	は 高宕山～八郎塚 (忘年山行)	房総	2008	12/10	日帰り	3A	佐藤健一	9	112
280	は 越後三山 (越後駒ヶ岳、中の岳、八海山)	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4	200
503	は 八海山・平ヶ岳	越後	2006	10/3-5	山麓泊	3B	大串秀雄	8	77
340	は 岩木山・八甲田山	津軽	2003	9/13-15	民宿、旅館	3B	高橋英雄	5	102
633	は 奥入瀬渓谷・八甲田山・姫神山	八甲田	2009	7/2-4	山麓泊	3B	細野清子	11	43
215	は 七面山～八紘嶺 <富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	7/14-15	宿坊泊	B	細野省二	7	39
657	ば 馬頭刈山・戸倉三山	奥多摩	2009	11/28-29	山麓泊	2A	高橋英雄	11	106
518	は 鶴足山～花香月山 (忘年山行)	常磐	2007	12/11	日帰り	3B	川下敬史	8	120
523	は 花咲山	中央沿線	2007	1/28	日帰り	1A	中村隆泰	8	133
204	は 鼻曲山～浅間隠山	上州	2001	5/12-13	山荘/テント	A+, C	細野清子	4	12
409	は 破風山	奥秩父	2004	10/31	日帰り	1A	日下芳十	6	104
522	は 浜石岳	駿河	2007	1/21	日帰り	1A	北川勝久	8	131
98	は ハマイバ丸 (山菜取り山行)	大菩薩	1999	4/29	日帰り	B	柴 勇	2	28
372	は 大藏高丸～ハマイバ丸	大菩薩	2004	4/29	日帰り	2A	細野省二	6	12
161	は 早池峰・薬師岳	北上	2000	7/1-2	民宿泊	B	斎藤清一	3	40
444	は 早池峰山・栗駒山 (市民登山)	北上	2005	6/17-19	山麓泊	2B	石垣吉朗	7	43
336	は 爺ヶ岳～針ノ木岳	北ア	2003	8/13-16	山小屋	3C	斎藤清一	5	90
171	は 榛名山	上州	2000	8/27	日帰り	A	細野清子	3	66
396	は 相馬山～榛名富士	上州	2005	8/30	日帰り	3A	高橋芳恵	6	73
511	は 半月山 (県連平日ハイク)	日光	2006	10/19	日帰り	1A	日下芳十、県連	8	102
382	ば 磐梯山	会津	2004	6/6	日帰り	2B	村松敏彦	6	32
635	ば 磐梯山	会津	2009	7/12	日帰り	2B	小川誠二郎	11	48
27	ひ 尾瀬集中登山 (創立記念) B : 韶ヶ岳	尾瀬	1997	10/9-11	テント&山小屋	B	CL柴勇、L柴	1	47
176	ひ 韶ヶ岳	尾瀬	2000	10/7-8	山小屋	A+	外崎 蓮	3	81
435	ひ 韶ヶ岳・景鶴山	尾瀬	2005	8/1-3	テント	4D	村松敏彦	7	23
114	ひ 妙高山・火打山	頸城	1999	7/31-8/1	テント／小屋	B	柴 勇	2	66
447	ひ 美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2005	7/11-16	山麓泊	4D	大串秀雄	7	52
636	ひ 東黒沢・ヒッゴー沢	谷川	2009	7/19-20	テント	4D	佐藤健一	11	50
505	ひ 東八ヶ岳縦走 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/13-15	山小屋	3C	柴 勇	8	84
374	ひ 五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	越後	2004	5/2-4	テント	4 D	村松敏彦	6	16
225	ひ 赤石岳～聖岳	南ア	2001	8/27-30	山小屋	C+	大串秀雄	4	52
636	ひ 東黒沢・ヒッゴー沢	谷川	2009	7/19-20	テント	5D	佐藤健一	11	50
437	ひ 塔の岳～大石山～檜洞丸	丹沢	2007	5/14-17	山小屋	5B	柴 勇	7	28
34	ひ 桧洞丸	丹沢	1997	11/15	日帰り	A+	三浦七郎	1	65

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ号	ページ
320	ひ桧洞丸	丹沢	2003	5/21	日帰り	A+	中村隆泰	5	35
427	ひ加入道山～大室山～檜洞丸	丹沢	2007	3/20-23	避難小屋	5B	青山寿子	7	5
75	ひ御岳山～日の出山	奥多摩	1998	11/1	日帰り	A	中村隆泰	1	152
363	ひ日の出山	奥多摩	2004	2/11	日帰り	2A	岡田秀子	5	169
424	ひ日ノ出山	奥多摩	2005	2/20	日帰り	2B	中村隆泰	6	136
670	ひ日ノ出山～麻生山	奥多摩	2010	2/28	日帰り	2A	高橋英雄	11	136
491	ひ森吉山・姫神山	東北	2007	6/26-28	山麓泊	2B/2A	細野清子	8	42
402	ひ岩手山・姫神山	奥羽	2005	9/18-21	宿	4B	高橋英雄	6	85
633	ひ奥入瀬渓谷・八甲田山・姫神山	八甲田	2009	7/2-4	山麓泊	4B	細野清子	11	43
612	ひ本仁田山～平石山	奥多摩	2008	12/7	日帰り	2B	武内勇二	10	104
269	ひ会津駒ヶ岳・平ヶ岳	会津	2003	6/21夜-25	テント	B+	武内勇二	4	161
332	ひ恋ノ岐沢・平ヶ岳	会越	2003	7/27-29	テント	5E	村松敏彦	5	81
503	ひ八海山・平ヶ岳	越後	2007	10/3-6	山麓泊	4B	大串秀雄	8	77
643	ひ笛子川大鹿沢平つ沢	中央沿線	2009	8/22	日帰り	2B	千葉有子	11	70
235	ひ飛龍山	奥秩父	2001	10/20-21	山小屋	B	高橋英雄	4	81
487	ひ笠取山～名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2008	6/2-7	山小屋	5B	大串秀雄	8	27
365	ひ蛭ヶ岳～塔ノ岳	丹沢	2004	2/28-29	避難小屋	3C	青山寿子	5	172
651	ひ鍋割山～丹沢山～蛭ヶ岳	丹沢	2009	10/31-11/1	山小屋	2A	北川晴久	11	93
404	ひ大山・蒜山	大山	2005	10/1-6	宿	3B	斎藤清一	6	90
88	ひ日和田山～物見山	奥武蔵	1999	2/14	日帰り	A	高橋英雄	2	11
353	ひ日和田山～物見山	奥武蔵	2003	11/15	日帰り	1A	日下芳十	5	146
265	ふ笛吹川東沢釜の沢～甲武信岳	奥秩父	2002	5/25-26	テント	B	堀口昭二	4	147
130	ぶ武甲山	奥武蔵	1999	11/21	日帰り	A	中村隆泰	2	118
546	ぶ武甲山	奥武蔵	2007	7/7	日帰り	1A	小川誠二郎	9	55
124	ふ白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	1999	10/9-11	テント	B+	村松敏彦	2	101
448	ふ岩木山・白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	2007	7/22-26	テント	5D	細野清子	7	56
23	ふ富士山	富士周辺	1997	9/13-14	山小屋	B	川名	1	39
221	ふ富士山Aコース吉田口	富士周辺	2001	8/18	日帰り(山小屋)	B	日下芳十	フ	43
222	ふ富士山Dコース富士宮口	富士周辺	2001	8/18-19	山小屋	B	榊原文子	フ	45
223	ふ富士山Bコース吉田口(駅から)	富士周辺	2001	8/25-26	山小屋	C	川下敬史	フ	50
224	ふ富士山Cコース須走り口	富士周辺	2001	8/25-26	山小屋	B	原田君子	フ	53
272	ふ富士山	富士周辺	2002	7/6-7	山小屋	B	松本 豊	4	172
272	ふ富士山エコフォーラム	富士周辺	2002	7/6-8	ホテル		房山	4	172
272	ふ富士山	富士周辺	2002	7/6-7	山小屋	B	松本 豊	4	172
301	ふ富士山	富士周辺	2003	1/12-13	テント	B	堀口昭二	4	260
453	ふ富士山	富士周辺	2005	8/20-21	山小屋	3B	石垣吉朗	7	73
501	ふ富士山～佐白山(ウィズハイク)	茨城	2006	9/23	日帰り	1A	外崎 蓮	8	71
381	ふ水沢山～ニッ岳	上州	2004	5/30	日帰り	2B	高橋 潔	6	30
428	ふニッ箭山(新人歓迎山行)	常磐	2005	3/27	日帰り	1B	外崎 蓮	7	7
69	ぶ仏果山～経ヶ岳	丹沢	1998	9/20	日帰り	A	高橋英雄	1	134
247	ぶ仏果山～経ヶ岳	丹沢	2002	1/20	日帰り	A	原田和昭	4	108
327	ぶ船形山～泉ヶ岳	船形連峰	2003	6/21-22	避難小屋	B	石垣吉朗	5	60
447	ふ美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2007	7/11-18	山麓泊	6D	大串秀雄	7	52
426	ふ不老山	西丹沢	2005	3/19	日帰り	2B	原田和昭	7	3
125	ほ鳳凰三山	南ア	1999	10/16-17	山小屋	B	清家三保子	2	105
339	ほ鳳凰三山	南ア	2003	8/30-31	テント	3C	青山・千葉	5	100
558	ほ鳳凰三山縦走	南ア	2007	9/29-30	山小屋	2B	坂口よし江	9	87
596	ほ鳳凰三山	南ア	2008	8/14-15	山小屋	2B	本間恭子	10	63
167	ほ木曾駒ヶ岳～宝剣岳	中ア	2000	8/6-7	山小屋	B	清家三保子	3	55
552	ほ木曾駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳	中ア	2008	8/12-15	山小屋	4C	佐藤健一	9	68
638	ほ木曾駒ヶ岳～宝剣岳～三ノ沢岳	中央アルプス	2009	7/30-31	山小屋	3B	村松敏彦	11	56
86	ほ房総ツングハイキング	房総	1999	1/30-31	ログハウス	A+	県連	2	8

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ号	ページ
141	ぼ房総ロングハイク	房総	2000	1/29-30	ログハウス前泊	A+	斎藤、県連	2	137
248	ぼ房総ロングハイク	房総	2002	1/26-27	ログハウス	A+	斎藤、県連	4	110
304	ぼ房総ロングハイク	房総	2003	1/25-26	ログハウス	B	高橋英、県連	4	267
360	ぼ房総ロングハイク	房総	2004	1/24-25	ログハウス	3A	斎藤清一、県連	5	164
473	ぼ房総ロングハイク	房総	2006	1/28-29	ログハウス	2A	柴田節子、県連	7	122
517	ぼ房総ロングハイク	房総	2006	12/23-24	山麓泊	1A	柴田節子、県連	8	117
572	ぼ房総ロングハイク	房総	2008	1/26-27	山麓泊	3A	坂口よし江、県連	9	122
664	ぼ房総ロングハイク	房総	2010	1/30-31	山麓泊	2A	小川誠二郎	11	123
421	ぼ棒立山	谷川	2005	1/29～30	テント	4D	川下敬史	6	130
526	ぼ棒立山	谷川	2007	3/31-4/1	テント	3C	外崎蓮	9	5
48	ぼ棒の折山 (新人歓迎)	奥武蔵	1998	4/26	日帰り	A	外崎、村松敏	1	88
147	ぼ棒ノ折山	奥多摩	2000	4/9	日帰り	B	三浦七郎	3	6
433	ぼ笠の岩～蕎麦粒山～棒の折	奥多摩	2007	4/26	日帰り	5B	青山寿子	7	19
521	ぼ高水山～棒の折山	奥多摩	2008	1/22	日帰り	3A	千葉有子	8	129
648	ぼ棒の折山～高水2山	奥多摩	2009	10/10	日帰り	2A	原田和昭	11	85
115	ぼ鳥帽子岳～穂高岳縦走	北ア	1999	8/6-12	山小屋	C+	細野省二	2	68
134	ぼ本仁田山	奥多摩	1999	12/12	日帰り	A	日下芳十	2	125
612	ぼ本仁田山～平石山	奥多摩	2008	12/7	日帰り	2B	武内勇二	10	104
38	ぼ本社ヶ丸	中央沿線	1998	1/25	日帰り	A+	細野省二	1	72
108	ぼ本社ヶ丸～鶴ヶ鳥屋山 (新人研修)	中央沿線	1999	6/13	日帰り	B	細野省二	2	56
534	ぼ本社ヶ丸	中央沿線	2007	5/13	日帰り	3B	原田和昭	9	22
605	ぼ本社ヶ丸北面尾根	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2B	佐藤健一	10	88
566	ぼ愛宕山・ポンポン山	京都	2008	11/20-23	山麓泊	3A	細野清子	9	105
499	ま錫ヶ岳～前白根山	日光	2007	9/9-11	テント	5C	村松敏彦	8	66
61	ま西穂高岳～奥穂高岳～前穂高岳	北ア	2000	7/18-22	山小屋	D	村松敏彦	1	107
390	ま前穂高岳～奥穂高岳	北ア	2004	7/24-26	山小屋	3D	大串秀雄	6	54
9	ま巻機山	越後	1997	4/12-13	テント	C+	坪井三枝子	1	15
210	ま巻機山 (公開登山)	上越	2001	6/9-10	旅館泊	B	加藤秀明	4	22
321	ま大源太山～巻機山	上越	2003	5/23-26	避難小屋	C	青山寿子	5	38
142	ま幕山	湯河原	2000	2/6	日帰り	A	安田みづほ	2	140
623	ま真名井沢北稜	奥多摩	2009	4/5	日帰り	2B	青山寿子	11	9
562	ま丸山	奥武蔵	2007	10/28	日帰り	1A	中村隆泰	9	96
469	ま天城山 (万三郎岳～万二郎岳)	伊豆	2005	11/13-14	山麓泊	3B	大串恵子	7	111
469	ま天城山 (万三郎岳～万二郎岳)	伊豆	2006	11/13-15	山麓泊	4B	大串恵子	7	111
498	ま万太郎谷	谷川	2006	9/2-3	テント	4D	佐藤健一	8	64
273	み御神楽岳	越後	2002	7/12-14	テント	C	細野省二	4	176
313	み稻含山・御荷鉾山	西上州	2003	4/12-13	町営宿舎	A	中村隆泰	5	19
254	み三毳山	北関東	2002	3/17	日帰り	A	斎藤清一	4	126
514	み菰釣山～三国山	丹沢	2007	11/13	避難小屋	3B	坂口よし江	8	109
341	み未丈ヶ岳・荒沢岳	会越	2003	9/20-21	テント	4D	村松敏彦	5	107
192	み御正体山 <富士周辺シリーズ>	道志	2001	2/17	日帰り	B	安田みづほ	7	11
201	み御正体山 <富士周辺シリーズ>	道志	2001	4/22	日帰り	B	安田みづほ	7	13
236	み瑞牆山～金峰山	奥秩父	2001	10/20-21	山小屋	B	細野清子	4	83
376	み瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
381	み水沢山～二ッ岳	上州	2004	5/30	日帰り	2B	高橋潔	6	30
262	み水無川本谷・源次郎沢	丹沢	2002	5/12	夜行日帰り	B/C	堀口昭二	4	140
480	み水無川本谷・源次郎沢	丹沢	2006	4/15-16	テント	3D	佐藤健一	8	11
634	み水根沢谷	奥多摩	2009	7/5	日帰り	2C	柴勇	11	46
137	み水の塔山・黒斑山	上州	2000	1/8-9	ホテル泊	B	村松敏彦	2	130
163	み籠ノ登山・水ノ塔山	上信	2000	7/16	日帰り	A	安田みづほ	3	43
75	み御岳山～日の出山	奥多摩	1998	11/1	日帰り	A	中村隆泰	1	152
420	み石尊山～三石山	房総	2006	1/29-31	宿	3A	斎藤清一	6	127

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ号	ページ
601	み 岩手山～三石山～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10	76
12	み 三ツ峠山	富士周辺	1997	5/4	日帰り	A	村松敏彦	1	20
189	み 三ツ峠山～黒岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	1/20-21	山小屋	B+	中村隆泰	フ	3
386	み 三ツ峠山	富士周辺	2004	7/11	日帰り	2B	中村八重子	6	43
547	み 三ツ峠山	富士周辺	2007	7/8	日帰り	2B	中村八重子	9	57
599	み 三ツ峠山	富士周辺	2008	9/7	日帰り	2A	中村隆泰	10	71
18	み 大山～三峰山	丹沢	1997	6/21	日帰り	A	清家三保子	1	28
295	み 大山～三峰山	丹沢	2002	11/17	日帰り	A	中村隆泰	4	246
377	み 塔ノ岳～丹沢三ツ峰	丹沢	2004	5/16	日帰り	3B	青山寿子	6	22
451	み 仙丈ヶ岳～三峰山～塩見岳	南アルプス	2006	8/5-9	山小屋	5D	大串秀雄	7	66
35	み 三頭山 (忘年山行)	奥多摩	1997	12/7	日帰り	A	清家三保子	1	66
241	み 三頭山	奥多摩	2001	11/11	日帰り	A	細野省二	4	94
243	み 奥多摩三山(大岳山、御前山、三頭山)	奥多摩	2001	11/23-24	避難小屋	B	高橋英雄	4	97
412	み 三頭山	奥多摩	2004	11/13	日帰り	2B	原田和昭	6	111
357	み 三頭山 (登山教室)	奥多摩	2003	9/11	日帰り	1A	柴	6	142
576	み 三頭山～笛尾根	奥多摩	2008	3/8-9	避難小屋	3B	外崎蓮	10	1
632	み 三頭山	奥多摩	2009	6/28	日帰り	2B	小川誠二郎	11	41
157	み 南月山～三本槍ヶ岳	那須	2000	7/28	山小屋	B	三浦七郎	3	26
349	み 白笹山～南月山	那須	2003	10/26	日帰り	2A	武内勇二	5	137
470	み 南高尾山縦走	中央沿線	2005	11/23	日帰り	2B	榎原文子	7	114
403	み 南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北アルプス	2004	9/25-28	山小屋	4C	大串秀雄	6	87
506	み 南八ヶ岳(赤岳) B班 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/14-15	テント	3C	武内勇二	8	87
507	み 南八ヶ岳(赤岳) C班 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/14-15	山小屋	2B	川下敬史	8	90
384	み 南八ヶ岳縦走	八ヶ岳	2004	6/19-20	山小屋	3B	坂口よし江	6	38
149	み 蓼山	奥武蔵	2000	4/22	日帰り	A	安田みづほ	3	9
478	み 宮地山～岩殿山	中央沿線	2006	4/2	日帰り	3B	青山寿子	8	7
407	み 宮之浦岳・開聞岳	九州	2003	10/21-23	山小屋	2C	細野清子	6	97
114	み 妙高山・火打山	頸城	1999	7/31-8/1	テント／小屋	B	柴 勇	2	66
37	み 明神ガ岳～明星ヶ岳	箱根	1997	12/23	日帰り	A	三浦七郎	1	70
592	み 明神ヶ岳～明星ヶ岳	箱根	2008	7/13	日帰り	2A	細野清子	10	53
37	み 明神ガ岳～明星ヶ岳	箱根	1997	12/23	日帰り	A	三浦七郎	1	70
123	み 金時山～明神ヶ岳	箱根	1999	9/26	日帰り	A	斎藤清一	2	93
592	み 明神ヶ岳～明星ヶ岳	箱根	2008	7/13	日帰り	2A	細野清子	10	53
490	み 妙法ヶ岳	奥秩父	2006	6/25	日帰り	1B	高橋英雄	8	40
656	む 武川岳	奥秩父	2009	11/21	日帰り	2A	田村光子	11	104
186	む 六ツ石山	奥多摩	2000	12/17	日帰り	A+	中村隆泰	3	99
319	む 鷹巣山～六ツ石山	奥多摩	2003	5/17	日帰り	B	高橋芳恵	5	33
282	め 飯盛山	八ヶ岳	2002	8/31	日帰り	A	高橋芳恵	4	207
622	も 元清澄山(新人歓迎山行)	房総	2009	3/29	日帰り	2A	武内勇二	11	4
88	も 日和田山～物見山	奥武蔵	1999	2/14	日帰り	A	高橋英雄	2	11
353	も 日和田山～物見山	奥武蔵	2003	11/15	日帰り	1A	日下芳十	5	146
257	も モミソ沢	丹沢	2002	4/14	日帰り	B	堀口昭二	4	132
312	も モミソ沢・源次郎沢	丹沢	2003	4/12-13	テント	C	堀口昭二	5	15
370	も モミソ沢・セドの沢左俣	丹沢	2004	4/24-25	テント	4D	堀口昭二	6	8
431	も モミソ沢・新茅の沢～鳥尾山	丹沢	2005	4/16-17	テント	3B	佐藤健一	7	14
535	も モミソ沢	丹沢	2007	5/13	日帰り	3C	佐藤健一	9	24
133	も 百蔵山(忘年山行)	中央沿線	1999	12/5	日帰り	A	高橋英雄	2	122
315	も 百蔵山	中央沿線	2003	4/20	日帰り	A	清家・外崎	5	25
561	も 百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2007	10/21-22	山麓泊	3B	大串秀雄	9	93
491	も 森吉山・姫神山	東北	2006	6/26-27	山麓泊	2B/1A	細野清子	8	42
161	や 早池峰・薬師岳	北上	2000	7/1-2	民宿泊	B	斎藤清一	3	40
164	や 五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	2000	10/23	山小屋	C	村松敏彦	3	45

山名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

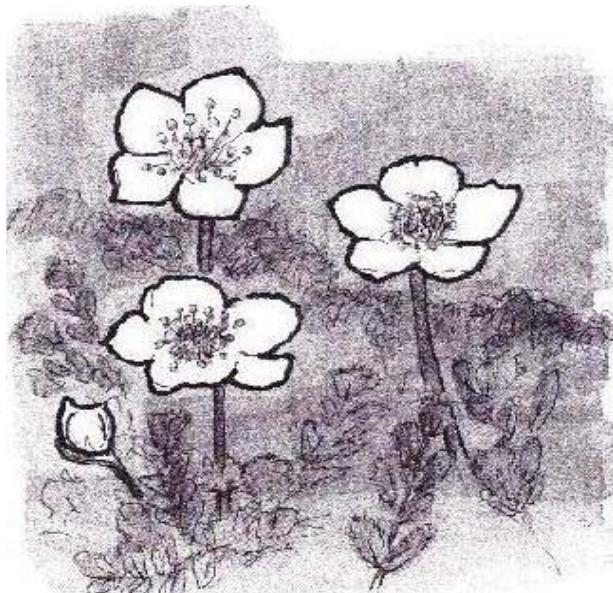
No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ号	ページ
216 や	薬師岳	北ア	2001	7/19-23	山小屋	C	外崎 蓮	4	33
637 や	浄土山～五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	2009	7/24夜-28	山小屋	5C	清家三保子	11	53
411 や	矢倉岳～足柄古道	箱根	2004	11/7	日帰り	2A	高橋芳恵	6	109
474 や	矢倉岳	箱根	2006	2/5	日帰り	1A	高橋英雄	7	125
288 や	焼石岳～経塚山	東北	2002	10/13-14	避難小屋	C	細野省二	4	227
328 や	栗駒山・焼石山	東北	2003	6/28-29	貸しテント	B	大串恵子	5	63
462 や	焼石岳	奥羽	2005	10/9-10	避難小屋	2B	石垣吉朗	7	96
548 や	焼岳～西穂高岳	北ア	2007	7/18-20	山小屋	3B	大串秀雄	9	59
173 や	八幡平・焼山	東北	2000	5-16	旅館	B	川下敬史	3	74
271 や	秋田駒ヶ岳～乳頭山・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋／旅館	B	大串秀雄	4	168
111 や	夜叉神峠～高谷山	南ア	1999	7/4	日帰り	A	大串秀雄	2	62
472 や	矢平山	中央沿線	2006	1/8	日帰り	2A	村松敏彦	7	120
72 や	八ヶ岳 (公開登山) (創立記念山行)	八ヶ岳	1998	10/10-11	テント&山小屋	A	柴 勇	1	137
92 や	八ヶ岳(赤岳)	八ヶ岳	1999	3/20-21	山小屋	C	村松敏彦	2	16
187 や	八ヶ岳 (クリスマス山行)	八ヶ岳	2000	12/23-24	日帰り	B, C	村松敏彦	3	100
277 や	八ヶ岳	八ヶ岳	2002	26夜-28	山小屋	B+	外崎 蓮	4	187
509 や	八ヶ岳本峰縦走 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/13-15	山小屋	4C	村松敏彦	8	96
283 や	谷津川・地獄谷	奥武蔵	2002	9/15-16	テント	C	村松敏彦	4	210
256 や	八溝山 (新人歓迎)	奥久慈	2002	3/24	日帰り	A	松本 豊	4	130
119 や	燕岳～槍ヶ岳	北ア	1999	8/26-29	山小屋	B	大串秀雄	2	80
393 や	白馬～杓子～鎧ヶ岳	北ア	2006	8/12-17	山小屋	5C	高橋英雄	6	64
452 や	唐松岳～鎧ヶ岳～杓子岳	北ア	2006	8/13-16	山小屋	4C	高橋英雄	7	71
11 や	槍ヶ岳	北ア	1997	7/25-28	テント	D	村松敏彦	1	18
168 や	雲ノ平～槍ヶ岳	北ア	2000	8/12-16	山小屋／テント	C	大串秀雄	3	57
403 や	南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2007	9/25-31	山小屋	7C	大串秀雄	6	87
322 ゆ	夕日岳	前日光	2003	5/25	日帰り	A	原田和昭	5	40
563 ゆ	夕日岳	前日光	2007	11/4	日帰り	1A	外崎 蓮	9	98
585 ゆ	夕日岳	日光	2008	6/1	日帰り	1A	箕輪カオル	10	29
659 ゆ	雪入山～浅間山 (忘年山行)	茨城	2009	12/6	日帰り	1A	村松敏彦	11	110
589 ゆ	温泉ヶ岳～根名草山	日光	2008	6/21-22	山小屋	3B	田村光子	10	46
109 ゆ	湯の丸山・四阿山	上州	1999	6/19-20	民宿泊り	B	外崎 蓮	2	58
446 ゆ	烏帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2006	6/26-28	山麓泊	4B	高橋 潔	7	49
630 ゆ	湯の丸山・四阿山 (市民登山)	上信越	2009	6/7-8	山麓泊	2B	佐藤健一	11	29
207 ゆ	湯檜曽川旧道	谷川	2001	5/26	日帰り	A	榎原文子	4	19
266 ゆ	阿蘇山・九重山・由布岳	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4	149
493 よ	樽前山・恵庭岳・羊蹄山	北海道	2008	7/2-9	山麓泊	6B	大串秀雄	8	49
15 よ	養老渓谷 (クリーンハイク)	房総	1997	6/1	日帰り	A	県連	1	25
148 よ	四ッ又山～鹿岳	西上州	2000	4/16	日帰り	B	細野省二	3	7
471 よ	蓬田岳 (忘年山行)	福島	2005	12/11	日帰り	1A	武内勇二	7	116
294 ら	雷電山～三方山	奥多摩	2002	11/10	日帰り	A	日下芳十	4	244
330 ら	阿寒・斜里・羅臼岳	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5	70
214 り	利尻山・大雪山	北海道	2001	7/3-8	山麓・避難小屋	B+	大串秀雄	4	27
106 り	両神山 (公開登山)	奥秩父	1999	6/5-6	山小屋／テント	B	村松敏彦	2	49
591 り	両神山	奥秩父	2008	7/5-6	山小屋	2A	高橋芳恵	10	51
90 わ	難台山～吾国山 (卒業山行)	茨城	1999	3/7	日帰り	A	萩野勝弘	2	13
260 わ	愛宕山～吾国山	茨城	2002	4/28	日帰り	A	中村八重子	4	136
477 わ	難台山～吾国山	茨城	2007	3/27	日帰り	1B/3B	柴 勇	8	3
357 わ	和名倉山	奥秩父	2003	12/20-21	テント	4D	村松敏彦	5	158
487 わ	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2007	6/2-6	山小屋	4B	大串秀雄	8	27
25 わ	蕨山	奥武蔵	1997	9/23	日帰り	A	細野清子	1	44
200 わ	有間山～蕨山	奥武蔵	2001	4/22	日帰り	A	外崎 蓮	4	5
240 わ	蕨山	奥武蔵	2001	11/11	日帰り	A	安田みづほ	4	92
527 わ	有馬山～蕨山	奥武蔵	2008	4/9	日帰り	4B	青山寿子	9	8

山 名
(あいうえお順)

岳人あびこ山行索引

1996年～2010年2月

No.		山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	やまなみ 号	ページ
484	わ	小川谷・悪谷	奥多摩	2007	5/22	日帰り	4B	堀口昭二	8	21



20

編集後記

武内編集長の元、まったく頼りない編集部員でした。けれど、おかげさまで、みなさんの山行記録を読ませていただきながら、実際に山に登るとは別の山の楽しみ方があることに気付きました。山岳文学が成り立つはずです。山の写真もまたしかり。山を登っている人の思いや息遣いがそのまま感じられ、大いに楽しませていただきました。(N S)

身の程知らずなものを引き受けてしまったと、最初ぼうぜんとしてしまった。飼い主のいうことを聞かないペットみたいに指示通りに動かない表や写真。動かしても勝手に元に戻って知らんぷり。どこかに隠れて訳が分からぬでいるうちに、いつの間にかのっそり現れる。悪戦苦闘したが、武内さんは素晴らしい先生だった。基礎から教えてくださり、遅くなつてもやさしく辛抱強く見守ってくださった。

「やまなみ」の編集のほとんどは武内さんがしあげたものです。本当に感謝します。(I N)

今年の5月はいつまでも上空に寒気が流れ込んできて、例年よりも寒い日が続いた。家庭菜園の植物の生育も遅れ気味だったが、6月になり梅雨入りも間近くなつて段々キャッチアップしてきたようである。

平成21年度の会の山行、50山行の紀行文を載せたやまなみ第11号の編集を終えた。前号に引き続き夏山シーズン前には発行したいとの目標も何とかクリア一出来、心置きなく夏山に出かけられそうである。会員各位には原稿の早期提出にご協力いただき感謝申し上げる次第。

今回より新たにN Sさん、I Nさん2名が新たに編集に協力していただくことになった。心強い限りである。

(Y T)

